2007年度

シラバス
全学共通授業科目

獨協大学

全学共通授業科目
シラバス
【総合目次一覧】

【全学共通授業科目　2003年度以降入学生】

◆学則別表

2005年度以降入学生用　　Ⅰ－1～2

2003～2004年度入学生用　　Ⅱ－1～2

◆　授業科目目次　　Ⅲ－1～10

【外国語学部共通科目　2002年度以前入学生】

◆学則別表　　Ⅳ－1

◆　授業科目目次　　Ⅴ－1～6

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。
学生諸君は、シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2003年度以降入学生用の「全学共通授業科目」と、2002年度以前入学生用の「外国語学部共通科目のシラバスです。各自の入学年度に従い、以下の点に注意し、目次を参照してください。

Ⅰ　目次について

1　検索方法

①　【目次一覧】で自分の入学年度・学科に該当する目次ページを確認してください。

②　目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。

2　「履修不可」について

①　目次には「履修不可」学科が記載されています。他学部・他学科の履修をする際に参照してください。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

②　表記方法

外：　外国語学部
独：　ドイツ語学科
英：　英語学科
仏：　フランス語学科
言：　言語文化学科
言（*1）：言語文化学科、スペイン語履修者
言（*2）：言語文化学科、中国語履修者

経：　経済学部
済：　経済学科
営：　経営学科

法：　法学部
律：　法律学科
国：　国際関係法学科

養：　国際教養学部
養（*1）：国際教養学部、スペイン語履修者
養（*2）：国際教養学部、中国語履修者
養（*3）：国際教養学部、韓国語履修者

Ⅱ　シラバスについて

①	②	担当者	③
講義目的、講義概要		授業計画	
④		⑤ 第１週 第２週 第３週 春学期 第８週 第９週 第１０週 第１１週 第１２週	
テキスト、参考文献		評価方法	
⑥		⑦	

①	②	担当者	③
講義目的、講義概要		授業計画	
④		⑤ 第１週 第２週 第３週 秋学期 第８週 第９週 第１０週 第１１週 第１２週	
テキスト、参考文献		評価方法	
⑥		⑦	

★　上段＝春学期科目
★　下段＝秋学期科目

①②　入学年度により科目名が異なります。
05年度以降・・・2005年度～2007年度入学
04年度以前・・・2003年度～2004年度入学
＊科目名は2003年度以降の「全学共通授業科目」を基本に表記してあります。2002年度以前入学生については目次を参照して科目名を確認してください。

③　担当教員氏名

④　授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。

⑤　学期の授業計画についての欄です。
各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

⑥　授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。

⑦　評価方法について記載されています。
成績の通知・・・成績通知表を郵送します。
春学期科目：　9月中旬
秋学期科目：　3月末

【注意】

1. 履修条件
担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。必ずシラバス本文および「授業時間割表」で確認し登録してください。

2. 定員
「全学共通授業科目」および合併される「外国語学部共通科目」は定員を設けています。
詳細は「授業時間割表」を参照してください。

3. 集中講義
集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。
開講学期に注意してください。

4. カテゴリーⅠ「全学総合講座」および1部の科目については記載方法が異なる場合があります。

2005年度以降入学生　学則別表

別表Ⅳ全学共通授業科目

別表Ⅳ−1　全学総合科目

科目群	カテゴリー	部門	科目	単位
講義科目	Ⅰ	全学総合講座		2
	Ⅱ	ことばと思想	哲学a	2
			哲学b	2
			倫理学a	2
			倫理学b	2
			社会思想史a	2
			社会思想史b	2
			心理学a	2
			心理学b	2
			言語学a	2
			言語学b	2
			文学a	2
			文学b	2
		歴史と文化	歴史学a	2
			歴史学b	2
			文化人類学a	2
			文化人類学b	2
			現代文化論a **	2
			現代文化論b **	2
			比較文化論a *	2
			比較文化論b *	2
		現代社会	経済学a **	2
			経済学b **	2
			日本国憲法	2
			国際法a	2
			国際法b	2
			政治学a	2
			政治学b	2
			社会学a	2
			社会学b	2
			地理学a	2
			地理学b	2
			女性学a	2
			女性学b	2
		自然・環境・人間	数学a	2
			数学b	2
			物理学a	2
			物理学b	2
			化学a	2
			化学b	2
			生物学a	2
			生物学b	2
			地球科学a	2
			地球科学b	2
			健康科学a	2
			健康科学b	2
			スポーツ・レクリエーション学a	2
			スポーツ・レクリエーション学b	2
	Ⅲ	ことばと思想	ことばと思想(Ⅲ)	2
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅲ)	2
		現代社会	現代社会(Ⅲ)	2
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅲ)	2
講義・実習科目	Ⅳ	ことばと思想	ことばと思想(Ⅳ)	2
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅳ)	2
		現代社会	現代社会(Ⅳ)	2
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅳ)	2
体育科目	Ⅴ	スポーツ・レクリエーション		1

備考:
(1)全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。
(2) *外国語学部言語文化学科からの学部提供科目。**経済学部からの学部提供科目。
○　本表は、2003年度入学者から適用する。

付記:　教職課程にかかる科目は、学則別表Ⅴによるが、運用にあたっては以下の通りとする。
(1) 学則別表Ⅴ−1「教職に関する科目」の「第二欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅠ」の科目に読みかえることができる。
(2) 学則別表Ⅴ−1「教職に関する科目」の「第三欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
(3) 学則別表Ⅴ−2「各学部共通科目」は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
(4) 学則別表Ⅴ−1「教職に関する科目」の「第四欄」の科目の内、「各教科の指導法」を除く科目は全学総合科目の「カテゴリーⅢ」の科目に読みかえることができる。
(5) 学則別表Ⅴ−1「教職に関する科目」の「第五欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。
(6) 学則別表Ⅴ−3「教科または教職に関する科目」の内、「介護ボランティアの理論と実践」は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。
以上の読みかえは、合計20単位までとする。

2005年度以降入学生　学則別表

別表Ⅳ-2　外国語科目

部門	科目	単位
英語科目	English 110-a Introductory Reading Strategies	1
	English 110-b Introductory Reading Strategies	1
	English 111-a Basic Reading Strategies	1
	English 111-b Basic Reading Strategies	1
	English 112-a Reading Strategies	1
	English 112-b Reading Strategies	1
	English 121-a Basic Composition	1
	English 121-b Basic Composition	1
	English 122-a Composition	1
	English 122-b Composition	1
	English 131-a Basic Communicative English	1
	English 131-b Basic Communicative English	1
	English 132-a Communicative English	1
	English 132-b Communicative English	1
	English 141-a Basic Listening Comprehension	1
	English 141-b Basic Listening Comprehension	1
	English 142-a Speech Communication	1
	English 142-b Speech Communication	1
	English 211-a Basic Reading Strategies	1
	English 211-b Basic Reading Strategies	1
	English 212-a Reading Strategies	1
	English 212-b Reading Strategies	1
	English 221-a Basic Composition	1
	English 221-b Basic Composition	1
	English 222-a Composition	1
	English 222-b Composition	1
	English 231-a Basic Communicative English	1
	English 231-b Basic Communicative English	1
	English 232-a Communicative English	1
	English 232-b Communicative English	1
	English 241-a Basic Listening Comprehension	1
	English 241-b Basic Listening Comprehension	1
	English 242-a Speech Communication	1
	English 242-b Speech Communication	1
	English 311-a Reading English for Specific Purposes	1
	English 311-b Reading English for Specific Purposes	1
	English 321-a Writing English for Specific Purposes	1
	English 321-b Writing English for Specific Purposes	1
	English 331-a Speech Communication	1
	English 331-b Speech Communication	1
	English 351 Computer-Assisted English Learning*	2
英語以外の外国語科目	ドイツ語Ⅰa	1
	ドイツ語Ⅰb	1
	ドイツ語Ⅱa	1
	ドイツ語Ⅱb	1
	ドイツ語Ⅲa	1
	ドイツ語Ⅲb	1
	フランス語Ⅰa	1
	フランス語Ⅰb	1
	フランス語Ⅱa	1
	フランス語Ⅱb	1
	フランス語Ⅲa	1
	フランス語Ⅲb	1
	スペイン語Ⅰa	1
	スペイン語Ⅰb	1
	スペイン語Ⅱa	1
	スペイン語Ⅱb	1
	スペイン語Ⅲa	1
	スペイン語Ⅲb	1
	中国語Ⅰa	1
	中国語Ⅰb	1
	中国語Ⅱa	1
	中国語Ⅱb	1
	中国語Ⅲa	1
	中国語Ⅲb	1

部門	科目	単位
英語以外の外国語科目	イタリア語Ⅰa	1
	イタリア語Ⅰb	1
	イタリア語Ⅱa	1
	イタリア語Ⅱb	1
	ポルトガル語Ⅰa	1
	ポルトガル語Ⅰb	1
	ポルトガル語Ⅱa	1
	ポルトガル語Ⅱb	1
	ロシア語Ⅰa	1
	ロシア語Ⅰb	1
	ロシア語Ⅱa	1
	ロシア語Ⅱb	1
	朝鮮語Ⅰa	1
	朝鮮語Ⅰb	1
	朝鮮語Ⅱa	1
	朝鮮語Ⅱb	1
	タイ語Ⅰa	1
	タイ語Ⅰb	1
	タイ語Ⅱa	1
	タイ語Ⅱb	1
	アラビア語Ⅰa	1
	アラビア語Ⅰb	1
	アラビア語Ⅱa	1
	アラビア語Ⅱb	1
	現代ヘブライ語Ⅰa	1
	現代ヘブライ語Ⅰb	1
	現代ヘブライ語Ⅱa	1
	現代ヘブライ語Ⅱb	1
古典語科目	古典ギリシア語Ⅰa	2
	古典ギリシア語Ⅰb	2
	古典ギリシア語Ⅱa	2
	古典ギリシア語Ⅱb	2
	ラテン語Ⅰa	2
	ラテン語Ⅰb	2
	ラテン語Ⅱa	2
	ラテン語Ⅱb	2

備考:
(1)全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。
(2)*を付した「English351 Computer-Assisted English Learning」は、45分×4コマの正規授業と、
それと同等の自習時間により2単位科目とする。
○　本表は、2005年度入学者から適用する。
ただし、中国語Ⅲa、中国語Ⅲb、およびイタリア語Ⅰa、イタリア語Ⅰb、
ならびにイタリア語Ⅱa、イタリア語Ⅱbは2003年度入学者から適用する。

2003～2004年度入学生　学則別表

別表Ⅳ全学共通授業科目

別表Ⅳ-1　全学総合科目

科目群	カテゴリー	部門	科目	単位
講義科目	Ⅰ	全学総合講座		2
	Ⅱ	ことばと思想	哲学a	2
			哲学b	2
			倫理学a	2
			倫理学b	2
			社会思想史a	2
			社会思想史b	2
			心理学a	2
			心理学b	2
			言語学a	2
			言語学b	2
			文学a	2
			文学b	2
		歴史と文化	歴史学a	2
			歴史学b	2
			文化人類学a	2
			文化人類学b	2
			現代文化論a **	2
			現代文化論b **	2
			比較文化論a *	2
			比較文化論b *	2
		現代社会	経済学a **	2
			経済学b **	2
			日本国憲法	2
			国際法a	2
			国際法b	2
			政治学a	2
			政治学b	2
			社会学a	2
			社会学b	2
			地理学a	2
			地理学b	2
			女性学a	2
			女性学b	2
		自然・環境・人間	数学a	2
			数学b	2
			物理学a	2
			物理学b	2
			化学a	2
			化学b	2
			生物学a	2
			生物学b	2
			地球科学a	2
			地球科学b	2
			健康科学a	2
			健康科学b	2
			スポーツ・レクリエーション学a	2
			スポーツ・レクリエーション学b	2
	Ⅲ	ことばと思想	ことばと思想(Ⅲ)	2
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅲ)	2
		現代社会	現代社会(Ⅲ)	2
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅲ)	2
講義・実習科目	Ⅳ	ことばと思想	ことばと思想(Ⅳ)	2
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅳ)	2
		現代社会	現代社会(Ⅳ)	2
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅳ)	2
体育科目	Ⅴ	スポーツ・レクリエーション		1

備考:
(1)全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。
(2) *外国語学部言語文化学科からの学部提供科目。**経済学部からの学部提供科目。
○　本表は、2003年度入学者から適用する。

付記:　教職課程にかかる科目は、学則別表Ⅴによるが、運用にあたっては以下の通りとする。
(1) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第二欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅠ」の科目に読みかえることができる。
(2) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第三欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
(3) 学則別表Ⅴ-2「各学部共通科目」は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
(4) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第四欄」の科目の内、「各教科の指導法」を除く科目は全学総合科目の「カテゴリーⅢ」の科目に読みかえることができる。
(5) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第五欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。
(6) 学則別表Ⅴ-3「教科または教職に関する科目」の内、「介護ボランティアの理論と実践」は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。
以上の読みかえは、合計20単位までとする。

2003～2004年度入学生　学則別表

別表Ⅳ-2　外国語科目

部門	科目	単位
英語科目	English 110-a Introductory Reading Strategies	1
	English 110-b Introductory Reading Strategies	1
	English 111-a Basic Reading Strategies	1
	English 111-b Basic Reading Strategies	1
	English 112-a Reading Strategies	1
	English 112-b Reading Strategies	1
	English 121-a Basic Composition	1
	English 121-b Basic Composition	1
	English 122-a Composition	1
	English 122-b Composition	1
	English 131-a Basic Communicative English	1
	English 131-b Basic Communicative English	1
	English 132-a Communicative English	1
	English 132-b Communicative English	1
	English 141-a Basic Listening Comprehension	1
	English 141-b Basic Listening Comprehension	1
	English 142-a Speech Communication	1
	English 142-b Speech Communication	1
	English 211-a Basic Reading Strategies	1
	English 211-b Basic Reading Strategies	1
	English 212-a Reading Strategies	1
	English 212-b Reading Strategies	1
	English 221-a Basic Composition	1
	English 221-b Basic Composition	1
	English 222-a Composition	1
	English 222-b Composition	1
	English 231-a Basic Communicative English	1
	English 231-b Basic Communicative English	1
	English 232-a Communicative English	1
	English 232-b Communicative English	1
	English 241-a Basic Listening Comprehension	1
	English 241-b Basic Listening Comprehension	1
	English 242-a Speech Communication	1
	English 242-b Speech Communication	1
	English 311-a Reading English for Specific Purposes	1
	English 311-b Reading English for Specific Purposes	1
	English 321-a Writing English for Specific Purposes	1
	English 321-b Writing English for Specific Purposes	1
	English 331-a Speech Communication	1
	English 331-b Speech Communication	1
	English 351 Computer-Assisted English Learning*	2
英語以外の外国語科目	ドイツ語Ⅰ Aa	1
	ドイツ語Ⅰ Ab	1
	ドイツ語Ⅰ Ba	1
	ドイツ語Ⅰ Bb	1
	ドイツ語Ⅰ Ca	1
	ドイツ語Ⅰ Cb	1
	ドイツ語Ⅱ Aa	1
	ドイツ語Ⅱ Ab	1
	ドイツ語Ⅱ Ba	1
	ドイツ語Ⅱ Bb	1
	ドイツ語Ⅱ Ca	1
	ドイツ語Ⅱ Cb	1
	ドイツ語Ⅲ Aa	1
	ドイツ語Ⅲ Ab	1
	ドイツ語Ⅲ Ba	1
	ドイツ語Ⅲ Bb	1
	フランス語Ⅰ Aa	1
	フランス語Ⅰ Ab	1
	フランス語Ⅰ Ba	1
	フランス語Ⅰ Bb	1
	フランス語Ⅰ Ca	1
	フランス語Ⅰ Cb	1
	フランス語Ⅱ Aa	1
	フランス語Ⅱ Ab	1
	フランス語Ⅱ Ba	1
	フランス語Ⅱ Bb	1
	フランス語Ⅱ Ca	1
	フランス語Ⅱ Cb	1
	フランス語Ⅲ Aa	1
	フランス語Ⅲ Ab	1
	フランス語Ⅲ Ba	1
	フランス語Ⅲ Bb	1

部門	科目	単位
英語以外の外国語科目	スペイン語Ⅰ Aa	1
	スペイン語Ⅰ Ab	1
	スペイン語Ⅰ Ba	1
	スペイン語Ⅰ Bb	1
	スペイン語Ⅰ Ca	1
	スペイン語Ⅰ Cb	1
	スペイン語Ⅱ Aa	1
	スペイン語Ⅱ Ab	1
	スペイン語Ⅱ Ba	1
	スペイン語Ⅱ Bb	1
	スペイン語Ⅱ Ca	1
	スペイン語Ⅱ Cb	1
	スペイン語Ⅲ Aa	1
	スペイン語Ⅲ Ab	1
	スペイン語Ⅲ Ba	1
	スペイン語Ⅲ Bb	1
	中国語Ⅰ Aa	1
	中国語Ⅰ Ab	1
	中国語Ⅰ Ba	1
	中国語Ⅰ Bb	1
	中国語Ⅰ Ca	1
	中国語Ⅰ Cb	1
	中国語Ⅱ Aa	1
	中国語Ⅱ Ab	1
	中国語Ⅱ Ba	1
	中国語Ⅱ Bb	1
	中国語Ⅱ Ca	1
	中国語Ⅱ Cb	1
	ポルトガル語Ⅰa	1
	ポルトガル語Ⅰb	1
	ポルトガル語Ⅱa	1
	ポルトガル語Ⅱb	1
	ロシア語Ⅰ Aa	1
	ロシア語Ⅰ Ab	1
	ロシア語Ⅰ Ba	1
	ロシア語Ⅰ Bb	1
	ロシア語Ⅱ Aa	1
	ロシア語Ⅱ Ab	1
	ロシア語Ⅱ Ba	1
	ロシア語Ⅱ Bb	1
	朝鮮語Ⅰ Aa	1
	朝鮮語Ⅰ Ab	1
	朝鮮語Ⅰ Ba	1
	朝鮮語Ⅰ Bb	1
	朝鮮語Ⅱ Aa	1
	朝鮮語Ⅱ Ab	1
	朝鮮語Ⅱ Ba	1
	朝鮮語Ⅱ Bb	1
	タイ語Ⅰa	1
	タイ語Ⅰb	1
	タイ語Ⅱa	1
	タイ語Ⅱb	1
	アラビア語Ⅰa	1
	アラビア語Ⅰb	1
	アラビア語Ⅱa	1
	アラビア語Ⅱb	1
	現代ヘブライ語Ⅰa	1
	現代ヘブライ語Ⅰb	1
	現代ヘブライ語Ⅱa	1
	現代ヘブライ語Ⅱb	1
古典語科目	古典ギリシア語Ⅰa	2
	古典ギリシア語Ⅰb	2
	古典ギリシア語Ⅱa	2
	古典ギリシア語Ⅱb	2
	ラテン語Ⅰa	2
	ラテン語Ⅰb	2
	ラテン語Ⅱa	2
	ラテン語Ⅱb	2

備考:

(1)全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。

(2)*を付した「English351 Computer-Assisted English Learning」は、45分×4コマの正規授業と、それと同等の自習時間により2単位科目とする。

○　本表は、2003年度入学者から適用する。

全学共通授業科目（2003年度以降入学生用）

目次

〔全学総合科目〕カテゴリーⅠ～Ⅴ

カテゴリーⅠ　全学総合講座

時間割コード	科目名	副題	開講期	曜時	担当教員	開始学年	履修不可	ページ
	全学総合講座				各担当教員			
09076		(現代世界論)	春	月4	佐藤　勘治	1	言・養	1
04728		(キャンパスライフと仕事)	春	木2	伊藤　為一郎	1		2
04729		(キャンパスライフと仕事)	秋	木2	伊藤　為一郎	1		2
05169		(平和と人権−アジア地域の紛争と私たち)	秋	火4	古関　彰一	1		3
04896		(獨協学)	春	水2	新井　孝重	1		4
04407		(多文化社会のビジネスとリスク・マネジメント)	春	木3	岡村　圭子	1		5
04937		(国家と国境を考える：地域・民族・国家)	春	金2	古川　堅治	1		6
05608		(国家と国境を考える：地域・民族・国家)	秋	金2	古川　堅治	1		6
04810		(健康をスポーツを世界を考える)	春	木4	松原　裕	1		7
04811		(健康をスポーツを世界を考える)	秋	木4	松原　裕	1		7
09097		(環境学)	春	火2	湯田　雅夫	1		8
09098		(環境学)	秋	火2	湯田　雅夫	1		9
04745		(童話(メルヒェン)の可能性をめぐって)	秋	金2	矢羽々　崇	1		10
05607		(教えるという仕事)	秋	火5	川村　肇	1		11
05604		(ものづくりの現場から1)	春	火2	上坂　卓郎	1		12
05605		(ものづくりの現場から2)	秋	火2	上坂　卓郎	1		13
06757		(働くための基礎知識−知って得する労働問題)	春	木4	野村　容康	1		14
09093		(心と体の健康)	春	月4	田口　雅徳	1		15
13524		(自由時間設計)	秋	月4	和田　智	1		16
09800		(NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える)	秋	金5	高松　和幸	1		17
11965		(食文化と人間生活「日本を中心とした食文化」)	春	木4	青柳　多恵子	1		18
11966		(食文化と人間生活「気候と風土と食文化」)	秋	木4	青柳　多恵子	1		19
12223		(あなたのキャリアデザインを考える)	春	土2	町田　喜義	1		20
11982		(あなたのキャリアデザインを考える)	秋	土2	町田　喜義	1		20
11983		(地域再生システム論―これからの「まちづくり」のヒントを探る)	春	金5	高松　和幸	1		21

カテゴリーⅡ　概論科目

時間割コード	科目名	副題	開講期	曜時	担当教員	開始学年	履修不可	ページ
04189	哲学a	(哲学の諸問題1)	春	月2	谷口　郁夫	1		22
04190	哲学b	(哲学の諸問題2)	秋	月2	谷口　郁夫	1		22
04413	倫理学a	(倫理の基本について考える)	春	火3	市川　達人	1	養	23
04414	倫理学b	(環境と生命の倫理)	秋	火3	市川　達人	1	養	23
13564	倫理学a	(倫理学と人間性)	春	火2	松丸　壽雄	1	養	24
13565	倫理学b	(現代倫理学の諸問題)	秋	火2	松丸　壽雄	1	養	24
11590	社会思想史a	(東洋古代から近世まで)	春	水2	松丸　壽雄	1	養	25
04559	社会思想史b	(東洋近世から現代まで)	秋	水2	松丸　壽雄	1	養	25
04445	社会思想史a	(市民的社会像の黎明期)	春	火4	市川　達人	1		26
04446	社会思想史b	(市民的社会像の確立期)	秋	火4	市川　達人	1		26
04160	心理学a	(知覚・認知)	春	月1	増田　直衛	1		27
04161	心理学b	(行動・個性)	秋	月1	増田　直衛	1		27
04215	心理学a	(知覚・認知)	春	月2	増田　直衛	1		27
04216	心理学b	(行動・個性)	秋	月2	増田　直衛	1		27
04664	心理学a	(人間の行動・認知・感情の共通法則)	春	木1	杉山　憲司	1		28
04665	心理学b	(人間の個性・多様性理解)	秋	木1	杉山　憲司	1		28
04704	心理学a	(人間の行動・認知・感情の共通法則)	春	木2	杉山　憲司	1		28

04705	心理学b	(人間の個性･多様性理解)	秋	木2	杉山 憲司	1		28
04561	言語学a	(一般言語学)	春	火4	安間 一雄	1	養	29
04562	言語学b	(一般言語学)	秋	火4	安間 一雄	1	養	29
04798	言語学a	(応用言語学)	春	水1	臼井 芳子	1	養	30
04799	言語学b	(第二言語習得)	秋	水1	臼井 芳子	1	養	30
04735	言語学a	(個別言語学－英語)	春	金1	安間 一雄	1	養	31
04736	言語学b	(個別言語学－英語)	秋	金1	安間 一雄	1	養	31
06407	文学a	(恐怖の日本文学)	春	木1	佐藤 毅	1		32
06408	文学b	(癒しの日本文学)	秋	木1	佐藤 毅	1	養	32
04503	文学a	(スペイン文学)	春	水3	野々山 ミチコ	1		33
04504	文学b	(イスラムスペイン文学)	秋	水3	野々山 ミチコ	1		33
04145	文学a	(日本文学－奈良時代の文学を読む)	春	月2	福沢 健	1	養	34
04146	文学b	(日本文学－平安時代の文学を読む)	秋	月2	福沢 健	1		34
04753	歴史学a	(「15年戦争」をどうとらえるか)	春	火4	丸浜 昭	2	言･養	35
04754	歴史学b	(戦後史の中の「15年戦争」)	秋	火4	丸浜 昭	2	言･養	35
04741	歴史学a	(イスラーム世界の成立と拡大)	春	木3	熊谷 哲也	1		36
04742	歴史学b	(イスラーム世界の近代化とその後)	秋	木3	熊谷 哲也	1		36
05617	歴史学a	(中国近代史概説-清朝国家の黄昏)	春	木4	張 士陽	1	養	37
05618	歴史学b	(中国近代史概説-近代国家創成の試み)	秋	木4	張 士陽	1	養	37
10174	歴史学a	(ヨーロッパの歴史-統合と分裂の視点から)	春	金1	古川 堅治	1	養	38
04901	歴史学b	(バルカン情勢の現在-地域･国家･民族の視点から)	秋	金1	古川 堅治	1	養	38
05023	歴史学a	(アメリカのエスニック･ヒストリー)	春	金3	佐藤 唯行	1		39
05024	歴史学b	(アメリカのエスニック･ヒストリー)	秋	金3	佐藤 唯行	1		39
07356	歴史学a	(現代史と映像)	春	火2	増谷 英樹	1		40
07357	歴史学b	(歴史と映像)	秋	火2	増谷 英樹	1		40
04885	歴史学a	(中世の仏教と社会)	春	金2	新井 孝重	1		41
04886	歴史学b	(中世の「悪党」と民衆)	秋	金2	新井 孝重	1		41
04382	文化人類学a	(未開文化の理解へ)	春	火2	井上 兼行	1	養	42
04383	文化人類学b	(未開文化の理解へ)	秋	火2	井上 兼行	1	養	42
04415	文化人類学a	(未開文化の理解へ)	春	火3	井上 兼行	1	養	42
04416	文化人類学b	(未開文化の理解へ)	秋	火3	井上 兼行	1	養	42
04601	現代文化論a	(グローバリゼーションを巡って)	春	水3	柴崎 信三	1	経	43
04602	現代文化論b	(日本の表象と世界)	秋	水3	柴崎 信三	1	経	43
05619	比較文化論a	(東西の文化を結ぶもの)	春	木4	熊谷 哲也	2	言	44
05620	比較文化論b	(東西文化と近代化)	秋	木4	熊谷 哲也	2	言	44
04577	経済学a	(国民所得の概念と決定メカニズム)	春	水2	浜本 光紹	1	経	45
04578	経済学b	(経済政策の基礎理論と課題)	秋	水2	浜本 光紹	1	経	45
04393	経済学a	(ミクロの視点で考える)	春	木1	米山 昌幸	1	経	46
04394	経済学b	(マクロの視点で考える)	秋	木1	米山 昌幸	1	経	46
04437	日本国憲法	(憲法と私たち)	春	火1	加藤 一彦	1	法	47
06516	日本国憲法	(憲法と私たち)	秋	火1	加藤 一彦	1	法	47
04824	日本国憲法	(憲法と私たち)	春	水2	大藤 紀子	1	法	48
04457	国際法a	(国際社会と私たち)	春	火3	一之瀬 高博	1		49
04458	国際法b	(国際紛争を考える)	秋	火3	一之瀬 高博	1		49
04505	政治学a	(政治システムの構成要素)	春	木2	津田 由美子	1		50
04506	政治学b	(現代の民主主義)	秋	木2	津田 由美子	1		50
04714	社会学a	(他者と自己)	春	土1	岡村 圭子	1	養	51
04715	社会学b	(現代社会の諸問題)	秋	土1	岡村 圭子	1	養	51
04380	社会学a	(他者と自己)	春	土2	岡村 圭子	1	養	51
04381	社会学b	(現代社会の諸問題)	秋	土2	岡村 圭子	1	養	51
04557	地理学a	(自然環境と文化)	春	水2	秋本 弘章	1		52
04558	地理学b	(自然環境と文化)	秋	水2	秋本 弘章	1		52
04204	地理学a	(世界の自然環境と文化)	春	木3	北﨑 幸之助	1	言･養･経	53
04205	地理学b	(世界の自然環境と文化)	秋	木3	北﨑 幸之助	1	言･養･経	53
06395	女性学a	(女性学の過去と現在)	春	木3	片山 亜紀	1		54
06396	女性学b	(ジェンダーと表象)	秋	月3	上野 直子	1		54
04243	数学a	(微分学)	春	月1	福井 尚生	1	養	55
04244	数学b	(積分学)	秋	月1	福井 尚生	1	養	55
04345	物理学a	(相対論の世界)	春	金3	東 孝博	1	養	56
04346	物理学b	(量子論の世界)	秋	金3	東 孝博	1	養	56
04447	化学a	(化学と環境の歴史)	春	月3	内田 正夫	1		57

04448	化学b	(化学と健康の歴史)	秋	月3	内田　正夫	1		57
04343	生物学a	(植物の特性と自然の仕組み)	春	火1	加藤　僖重	1	養	58
04344	生物学b	(植物の分布)	秋	火1	加藤　僖重	1	養	58
04526	地球科学a	(恒星天文学)	春	水1	福井　尚生	1	養	59
04527	地球科学b	(銀河天文学)	秋	水1	福井　尚生	1	養	59
05031	スポーツ・レクリエーション学a	(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	春	金3	和田　智	1	養	60
05032	スポーツ・レクリエーション学b	(最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう)	秋	金3	和田　智	1	養	60

カテゴリーⅢ　各論科目

時間割コード	科目名	副題	開講期	曜時	担当教員	開始学年	履修不可	ページ
	ことばと思想(Ⅲ)							
07379		(英語圏の社会と思想a)	春	火2	福井　嘉彦	2	英	61
07380		(英語圏の社会と思想b)	秋	火2	福井　嘉彦	2	英	61
04235		(科学としての心理学とこころの世界)	秋	火2	田口　雅徳	1	養	62
05609		(外国語としての日本語教育)	春	水2	中西　家栄子	1	言・養	63
04379		(通訳・翻訳論)	秋	水1	永田　小絵	2	言・養	64
04241		(生と死の意味の哲学1)	春	月3	谷口　郁夫	1		65
04242		(生と死の意味の哲学2)	秋	月3	谷口　郁夫	1		65
04246		(日本語の談話と日本語教育)	秋	金1	浅山　佳郎	1	言・養	66
04245		(日本語教材における学習項目の扱い)	秋	水2	中西　家栄子	1	言・養	67
	歴史と文化(Ⅲ)							
05610		(教育の歴史a)	春	木3	川村　肇	2	養	68
05611		(日本思想史b)	秋	木3	川村　肇	2	言・養	68
05614		(日本事情とコミュニケーション教育)	春	木2	小山　慎治	1	養	69
04197		(グローバル化とイスラム-公と私)	春	月2	水口　章	1		70
04198		(移民・交易に見る文化変容)	秋	月2	水口　章	1		70
09077		(未開人の認識a)	春	月2	井上　兼行	1	養	71
09078		(未開人の認識b)	秋	月2	井上　兼行	1	養	71
06515		(都市と建築)	秋	火1	鈴木　隆	1		72
09871		(英語圏の小説a)	春	金3	藤田　永祐	2	英・養	73
09872		(英語圏の小説b)	秋	木3	片山　亜紀	2	英・養	73
05612		(能楽論)	春	火2	瀬尾　菊次	2	言	74
05613		(能楽における中世武士の諸像)	秋	火2	瀬尾　菊次	2	言	74
13568		(スペイン研究入門)	春	月5	二宮　哲	1	言・養	75
13569		(ラテンアメリカ研究入門)	秋	月5	佐藤　勘治	1	言・養	75
13576		(日本文化論)	春	火3	飯島　一彦	1	言・養	76
13572		(英語圏の文学文化)	秋	火4	佐藤　勉	1	養	77
13584		(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	秋	火5	山本　英政	1	英・言・養	78
13574		(文化史入門)	春	水2	古川　堅治	1	言・養	79
	現代社会(Ⅲ)							
05602		(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	春	火2	山越　徳	2		80
05603		(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	秋	火2	山越　徳	2		80
04149		(中東政治思想a)	春	火1	藤原　和彦	1		81
04150		(中東政治思想b)	秋	火1	藤原　和彦	1		81
04883		(歴史の中のメディア)	春	木4	柴崎　信三	1		82
04884		(メディアと現代社会)	秋	木4	柴崎　信三	1		82
07734		(広告論a)	春	月2	市川　嘉彦	2	経	83
07735		(広告論b)	秋	月2	市川　嘉彦	2	経	83
04341		(社会科学概論a)	春	火1	堅田　剛	1	法	84
04342		(社会科学概論b)	秋	火1	堅田　剛	1	法	84
07377		(教育法a)	春	金2	市川　須美子	1	法	85
07378		(教育法b)	秋	金2	市川　須美子	1	法	85
04147		(民法a)	春	金2	石井　保雄	1	法	86
04148		(民法b)	秋	金2	石井　保雄	1	法	86
13575		(国際関係論)	春	水1	上村　幸治	1	言・養	87
13578		(情報とメディア)	秋	木3	上村　幸治	1	英・言・養	88
13581		(国際協力論)	春	月1	浦部　浩之	1	英・言・養	89
13582		(南北問題)	秋	月1	浦部　浩之	1	英・言・養	89
13573		(NGO論)	秋	未定	未定	1	言・養	90

07355		(東アジア国際関係の史的展開)	春	土1	阿部　純一	1		91
07354		(東アジア国際関係の現状と展望)	秋	土1	阿部　純一	1		91
04384		(中国研究入門)	春	月5	上村　幸治	1	養	92
04385		(中国社会論)	秋	月5	上村　幸治	1	養	92
13585		(コトバと社会・言語文化概論)	春	火5	下川　浩	1	言	93
13586		(コトバと社会・言語文化概論)	秋	火5	下川　浩	1	言	93
13583		(韓国研究入門)	春	木4	平田　由紀江	1	養	94
13577		(異文化間コミュニケーション)	春	木1	岡村　圭子	1	英・言・養	95
	自然・環境・人間(Ⅲ)							
05157		(地球環境の変化とその要因)	春	火2	鈴木　滋	1		96
05158		(地球環境問題と環境保全)	秋	火2	鈴木　滋	1		96
04935		(宇宙論a)	春	金1	福井　尚生	1	養	97
04936		(宇宙論b)	秋	金1	福井　尚生	1	養	97
04151		(地球外文明論a)	春	月3	福井　尚生	1	養	98
04152		(地球外文明論b)	秋	月3	福井　尚生	1	養	98
13579		(太陽系天文学a)	春	金3	福井　尚生	1	言・養	99
13580		(太陽系天文学b)	秋	金3	福井　尚生	1	言・養	99

カテゴリーⅣ　実習実践科目

時間割コード	科目名	副題	開講期	曜時	担当教員	開始学年	履修不可	ページ
	ことばと思想(Ⅳ)							
04193		(論文を書く)	春	月3	福沢　健	1		100
04194		(口頭発表を行う)	秋	月3	福沢　健	1		100
04737		(論文を書く)	春	月4	福沢　健	1		100
04738		(口頭発表を行う)	秋	月4	福沢　健	1		100
06409		(書き言葉の問題)	春	木2	佐藤　毅	1		101
06410		(話し言葉の問題)	秋	木2	佐藤　毅	1		101
04555		(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	春	土2	梅津　正樹	1		102
04556		(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	秋	土2	梅津　正樹	1		102
11957		(生きたコトバづかい・文章編)	春	金3	下川　浩	1		103
11958		(生きたコトバづかい・文章編)	秋	金3	下川　浩	1		103
11472		(ネーミングの言語学)	春	月4	田中　善英	1		104
11477		(ネーミングの言語学2)	秋	月4	田中　善英	1		104
04596		(生活文化の発見)	春	木1	長野　隆之	1		105
04597		(生活文化の記述)	秋	木1	長野　隆之	1		105
04373		(生活史を読む)	春	木2	長野　隆之	1		106
04374		(生活史を書く)	秋	木2	長野　隆之	1		106
12358		(現代ジャーナリズム考1)	春	金3	細野　徳治	1		107
12359		(現代ジャーナリズム考2)	秋	金3	細野　徳治	1		107
07358		(英語通訳の仕事)	春	土1	福井　星一	1		108
07359		(英語通訳の仕事)	秋	土1	福井　星一	1		108
04236		(心理検査法とこころの健康)	秋	木2	田口　雅徳	1	養	109
12365		(プレゼンテーション実習)	春	月1	清水　絹代	1		110
12366		(プレゼンテーション実習)	秋	月1	清水　絹代	1		110
12375		(プレゼンテーション実習)	春	月2	清水　絹代	1		110
12376		(プレゼンテーション実習)	秋	月2	清水　絹代	1		110
	歴史と文化(Ⅳ)							
11604		(ヨーロッパ地域研究『カルメン』1)	春	木4	伊藤　幸次	1		111
11605		(ヨーロッパ地域研究『カルメン』2)	秋	木4	伊藤　幸次	1		111
04638		(イタリアの音楽史)	春	木3	園田　みどり	1		112
04639		(イタリアの声楽曲)	秋	木3	園田　みどり	1		112
11967		(詩と音楽1)	春	木2	園田　みどり	1		113
11968		(詩と音楽3)	秋	木2	園田　みどり	1		113
07381		(おもしろまじめな芝居のミカタa)	春	月3	児嶋　一男	2	英・養	114
07382		(おもしろまじめな芝居のミカタb)	秋	月3	児嶋　一男	2	英・養	114
07383		(アメリカ詩入門)	春	月4	白鳥　正孝	2	英・養	115
07384		(イギリス詩入門)	秋	月4	白鳥　正孝	2	英・養	115
06398		(西洋美術史a)	春	火3	前川　久美子	1		116
06399		(西洋美術史b)	秋	火3	前川　久美子	1		116

	現代社会(Ⅳ)							
04933		(教育の現場:教師と語るa)	春	水1	川村　肇	1	養	117
04934		(教育の現場:教師と語るb)	秋	水1	川村　肇	1	養	117
10170		(インターンシップ)	春	土1	阿部　正浩	2		118
		(インターンシップ)	春	土2	阿部　正浩	2		118
11963		(ヨーロッパ統合とドイツ)	春	火4	飯嶋　曜子	1		119
11964		(統一後のドイツの地域・都市)	秋	火4	飯嶋　曜子	1		119
12360		(新聞を読む1)	春	金4	細野　徳治	1		120
12361		(新聞を読む2)	秋	金4	細野　徳治	1		120
04191		(経理入門a)	春	火2	杉　麻利子	1		121
04192		(経理入門b)	秋	火2	杉　麻利子	1		121
04143		(英文会計入門a)	春	火3	杉　麻利子	1		122
04144		(英文会計入門b)	秋	火3	杉　麻利子	1		122
		(コンピュータ入門a/b)			各担当教員	1	外・養・経	123
07221		(コンピュータ入門a)	春	金3	黄　海湘	1	外・養・経	
07222		(コンピュータ入門b)	秋	金3	黄　海湘	1	外・養・経	
04401		(コンピュータ入門a)	春	金4	黄　海湘	1	外・養・経	
04402		(コンピュータ入門b)	秋	金4	黄　海湘	1	外・養・経	
04513		(コンピュータ入門a)	春	火4	久東　義典	1	外・養・経	
04514		(コンピュータ入門b)	秋	火4	久東　義典	1	外・養・経	
07680		(コンピュータ入門a)	春	金3	杉村　和枝	1	外・養・経	
07681		(コンピュータ入門b)	秋	金3	杉村　和枝	1	外・養・経	
05600		(コンピュータ入門a)	春	木5	崔　冬梅	1	外・養・経	
05601		(コンピュータ入門b)	秋	木5	崔　冬梅	1	外・養・経	
04718		(コンピュータアドヴァンスa)	春	月2	長　慎也	1	外・養・経	124
04719		(コンピュータアドヴァンスb)	秋	月2	長　慎也	1	外・養・経	124
05596		(ホームページ作成)	春	水5	A. ベロフ	1	養	125
05597		(ホームページ作成)	秋	水5	A. ベロフ	1	養	125
05598		(ホームページ作成)	春	火5	久東　義典	1	養	126
05599		(ホームページ作成)	秋	火5	久東　義典	1	養	126
09741		(模擬国際裁判)	秋	月2	鈴木　淳一	3	法	127
11959		(生きたコトバづかい・話し合い編)	春	金4	下川　浩	1		128
11960		(生きたコトバづかい・話し合い編)	秋	金4	下川　浩	1		128
11602		(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)	春	金2	大井　正博	1		129
11603		(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	秋	金2	大井　正博	1		129
11961		(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	春	金2	矢羽々　崇	1	独	130
11962		(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	秋	水3	金井　満	1	独	130
	自然・環境・人間(Ⅳ)							
09972		(身近な自然観察 春)	春	水2	加藤　僖重	1	養	131
09973		(身近な自然観察 秋)	秋	水2	加藤　僖重	1	養	131
09080		(身近な自然観察 春)	春	木2	加藤　僖重	1	養	131
09081		(身近な自然観察 秋)	秋	木2	加藤　僖重	1	養	131
04748		(身近な自然観察 春)	春	木3	加藤　僖重	1	養	131
04805		(身近な自然観察 秋)	秋	木3	加藤　僖重	1	養	131
04673		(東洋の健康哲学a)	春	月3	青柳　多恵子	1		132
04674		(東洋の健康哲学b)	秋	月3	青柳　多恵子	1		132
11987		(からだの仕組み)	春	月2	依田　珠江	1	養	133
11988		(からだの仕組み)	秋	月2	依田　珠江	1	養	133
04390		(健康をスポーツを理解するa)	春	水1	松原　裕	1	養	134
04391		(健康をスポーツを理解するb)	秋	水1	松原　裕	1	養	134

カテゴリー　Ⅴ　体育科目

時間割コード	科目名	副題	開講期	曜時	担当教員	開始学年	履修不可	ページ
	スポーツ･レクリエーション				各担当教員			
04549		(インラインスケートa)	春	金1	和田　智	1		135
04548		(インラインスケートb)	秋	金1	和田　智	1		135
05179		(インラインスケートb)	秋	土1	和田　智	1		135
04708		(硬式テニスa)	春	金3	依田　珠江	1		136
04709		(硬式テニスb)	秋	金3	依田　珠江	1		136
04605		(硬式テニスa)	春	火3	松原　裕	1		137
04606		(硬式テニスb)	秋	火3	松原　裕	1		137
04682		(硬式テニスa)	春	水2	松原　裕	1		137
04683		(硬式テニスb)	秋	水2	松原　裕	1		137
04592		(硬式テニスa)	春	木1	田中　茂宏	1		138
04593		(硬式テニスb)	秋	木1	田中　茂宏	1		138
04909		(ゴルフa)	春	金1	吉田　卓司	1		139
04910		(ゴルフb)	秋	金1	吉田　卓司	1		139
04948		(ゴルフa)	春	金2	吉田　卓司	1		139
04949		(ゴルフb)	秋	金2	吉田　卓司	1		139
04166		(ゴルフa)	春	月1	山中　邦夫	1		140
04167		(ゴルフb)	秋	月1	山中　邦夫	1		140
04223		(ゴルフa)	春	月2	山中　邦夫	1		140
04224		(ゴルフb)	秋	月2	山中　邦夫	1		140
04430		(サッカーa)	春	火2	松原　裕	1		141
04431		(サッカーb)	秋	火2	松原　裕	1		141
04218		(サッカーa)	春	月2	松本　光弘	1		142
04219		(サッカーb)	秋	月2	松本　光弘	1		142
04256		(サッカーa)	春	月3	松本　光弘	1		142
04257		(サッカーb)	秋	月3	松本　光弘	1		142
13551		(スポーツエクササイズa)	春	火2	齋藤　初恵	1		143
13552		(スポーツエクササイズb)	秋	火2	齋藤　初恵	1		143
13553		(スポーツ型デトックスa)	春	火3	齋藤　初恵	1		144
13554		(スポーツ型デトックスb)	秋	火3	齋藤　初恵	1		144
04351		(ソフトボールa)	春	金2	太田　朝博	1		145
04352		(ソフトボールb)	秋	金2	太田　朝博	1		145
04669		(ソフトボールa)	春	木1	萩野　元祐	1		146
04670		(ソフトボールb)	秋	木1	萩野　元祐	1		146
04710		(ソフトボールa)	春	木2	萩野　元祐	1		146
04711		(ソフトボールb)	秋	木2	萩野　元祐	1		146
04155		(卓球a)	春	月1	依田　珠江	1		147
04156		(卓球b)	秋	月1	依田　珠江	1		147
04743		(卓球a)	春	木2	松原　裕	1		148
04744		(卓球b)	秋	木2	松原　裕	1		148
04208		(卓球a)	春	月3	神宮司　親治	1		149
04209		(卓球b)	秋	月3	神宮司　親治	1		149
04353		(卓球a)	春	火1	池垣　功一	1		150
04354		(卓球b)	秋	火1	池垣　功一	1		150
05132		(卓球a)	春	火2	池垣　功一	1		150
05133		(卓球b)	秋	火2	池垣　功一	1		150
05113		(バスケットボールa)	春	月3	依田　珠江	1		151
05114		(バスケットボールb)	秋	月3	依田　珠江	1		151
04546		(バスケットボールa)	春	水1	依田　珠江	1		151
04547		(バスケットボールb)	秋	水1	依田　珠江	1		151
04399		(バスケットボールa)	春	水2	依田　珠江	1		151
04400		(バスケットボールb)	秋	水2	依田　珠江	1		151
04905		(バスケットボールa)	春	金1	依田　珠江	1		151
04906		(バスケットボールb)	秋	金1	依田　珠江	1		151
04943		(バスケットボールa)	春	金2	依田　珠江	1		151
04944		(バスケットボールb)	秋	金2	依田　珠江	1		151

04994		(バドミントンa)	春	金3	太田　朝博	1	152
04995		(バドミントンb)	秋	金3	太田　朝博	1	152
13538		(バドミントンa)	春	木3	田中　茂宏	1	153
13539		(バドミントンb)	秋	木3	田中　茂宏	1	153
04573		(バドミントンa)	春	火1	萩原　武久	1	154
04574		(バドミントンb)	秋	火1	萩原　武久	1	154
04395		(バドミントンa)	春	火2	萩原　武久	1	154
04396		(バドミントンb)	秋	火2	萩原　武久	1	154
04591		(バドミントンb)	秋	土1	小山　さなえ	1	155
05177		(バドミントンb)	秋	土2	小山　さなえ	1	155
04231		(バレーボールa)	春	月1	小川　又八朗	1	156
04232		(バレーボールb)	秋	月1	小川　又八朗	1	156
04264		(バレーボールa)	春	月2	小川　又八朗	1	156
04265		(バレーボールb)	秋	月2	小川　又八朗	1	156
04624		(フットサルa)	春	木1	松原　裕	1	157
04625		(フットサルb)	秋	木1	松原　裕	1	157
13540		(フットサルa)	春	月1	神宮司　親治	1	158
13541		(フットサルb)	秋	月1	神宮司　親治	1	158
05111		(フットサルa)	春	木2	桧山　康	1	159
05112		(フットサルb)	秋	木2	桧山　康	1	159
13542		(フットサルa)	春	木3	桧山　康	1	159
13543		(フットサルb)	秋	木3	桧山　康	1	159
04734		(フリスビーb)	秋	土2	和田　智	1	160
04428		(ボールルームダンスa)	春	月2	青柳　多恵子	1	161
04429		(ボールルームダンスb)	秋	月2	青柳　多恵子	1	161
04397		(ボールルームダンスa)	春	水1	青柳　多恵子	1	161
04398		(ボールルームダンスb)	秋	水1	青柳　多恵子	1	161
05109		(ボールルームダンスa)	春	木2	青柳　多恵子	1	161
05110		(ボールルームダンスb)	秋	木2	青柳　多恵子	1	161
05163	┌	(アウトドアレクリエーション)	春	水2	和田　智	1	162
	└	(アウトドア山岳)	春	集中	和田　智	1	162
04594	┌	(アウトドアレクリエーション)	春	水1	和田　智	1	163
	└	(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	春	集中	和田　智	1	163
04977	┌	(アウトドアレクリエーション)	春	金2	和田　智	1	163
	└	(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	春	集中	和田　智	1	163
04712	┌	(バランストレーニング)	秋	水3	松原　裕	1	164
	└	(スノースポーツ)	秋	集中	松原　裕	1	164
04411	┌	(スケートトレーニング)	秋	月2	和田　智	1	165
	└	(アイススポーツ)	秋	集中	和田　智	1	165
		(学生交流支援プログラム)	春	土1	小山　さなえ	1 外・経・法	*
		(学生交流支援プログラム)	春	土2	小山　さなえ	1 外・経・法	*
		(学生交流支援プログラム)	春	土1	松原　裕	1 外・経・法	*
		(学生交流支援プログラム)	春	土2	松原　裕	1 外・経・法	*
		(学生交流支援プログラム)	春	土1	和田　智	1 外・経・法	*
		(学生交流支援プログラム)	春	土2	和田　智	1 外・経・法	*

*『国際教養学部シラバス』を参照のこと。

〔外国語科目〕

英語科目

■クラス指定科目

時間割コード	科目名			対象・コース等	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
	English 111	a/b	Basic Reading Strategies		春/秋		各担当教員	—	166
	112	a/b	Reading Strategies		春/秋			—	166
	112	a/b	Reading Strategies	(Super)	春/秋			—	167
	121	a/b	Basic Composition	(国)	春/秋			—	168
	122	a/b	Composition		春/秋			—	168
	141	a/b	Basic Listening Comprehension	(独・仏)	春/秋			—	169
	141	a/b	Basic Listening Comprehension	(経・法)	春/秋			—	169
	142	a/b	Speech Communication		春/秋			—	169
	142	a/b	Speech Communication	(独・仏)	春/秋			—	170
	142	a/b	Speech Communication	(Super)	春/秋			—	171
	211	a/b	Basic Reading Strategies	(独・仏・法)	春/秋			—	172
	212	a/b	Reading Strategies		春/秋			—	172
	212	a/b	Reading Strategies	(Super)	春/秋			—	173
	221	a/b	Basic Composition	(国)	春/秋			—	174
	222	a/b	Composition		春/秋			—	174
	241	a/b	Basic Listening Comprehension	(独・仏・法)	春/秋			—	175
	242	a/b	Speech Communication		春/秋			—	175
	242	a/b	Speech Communication	(Super)	春/秋			—	176
	311	a/b	Reading English for Specific Purposes	(独・仏)	春/秋			—	177

■対象者指定科目

時間割コード	科目名			対象・コース等	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
	English 110	a/b	Introductory Reading Strategies	(既習・外国人学生)	春/秋	水4	菊池　武	—	178
	211	a/b	Basic Reading Strategies		春/秋	火5	髙木　亜希子	—	179

■選択科目

時間割コード	科目名			開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
13510	English 121	a	Basic Composition	春	土1	笠原　誠也	国	180
13511	121	b	Basic Composition	秋	土1	笠原　誠也	国	180
04168	121	a	Basic Composition	春	木4	石月　正伸	国	181
04169	121	b	Basic Composition	秋	木4	石月　正伸	国	181
08907	121	a	Basic Composition	春	木3	福田　哲哉	国	182
08908	121	b	Basic Composition	秋	木3	福田　哲哉	国	182
04095	121	a	Basic Composition	春	木2	堀　いづみ	国	183
04096	121	b	Basic Composition	秋	木2	堀　いづみ	国	183
13493	131	a	Basic Communicative English	春	土1	M. フッド	経・法	184
13494	131	b	Basic Communicative English	秋	土1	M. フッド	経・法	184
08888	131	a	Basic Communicative English	春	月3	B. K. カートル	経・法	185
08889	131	b	Basic Communicative English	秋	月3	B. K. カートル	経・法	185
05517	131	a	Basic Communicative English	春	月1	B. K. カートル	独・仏	185
05518	131	b	Basic Communicative English	秋	月1	B. K. カートル	独・仏	185
11788	131	a	Basic Communicative English	春	木3	C. カーペンター	経・法	186
11789	131	b	Basic Communicative English	秋	木3	C. カーペンター	経・法	186
11790	131	a	Basic Communicative English	春	水3	J. スティベンソン	経・法	187
11791	131	b	Basic Communicative English	秋	水3	J. スティベンソン	経・法	187
04085	131	a	Basic Communicative English	春	木3	J. スティベンソン	独・仏	187
04086	131	b	Basic Communicative English	秋	木3	J. スティベンソン	独・仏	187
05535	211	a	Basic Reading Strategies	春	月3	岡田　圭子	独・仏・法	188
05536	211	b	Basic Reading Strategies	秋	月3	岡田　圭子	独・仏・法	188
04081	221	a	Basic Composition	春	土2	笠原　誠也	国	189
04082	221	b	Basic Composition	秋	土2	笠原　誠也	国	189
08886	231	a	Basic Communicative English	春	土2	M. フッド	-	190
08887	231	b	Basic Communicative English	秋	土2	M. フッド	-	190
11812	241	a	Basic Listening Comprehension	春	水1	長坂　達彦	独・仏・法	191
11813	241	b	Basic Listening Comprehension	秋	水1	長坂　達彦	独・仏・法	191

13490	311	a	Reading English for Specific Purposes	春	火4	J. スティベンソン	独・仏	192
13491	311	b	Reading English for Specific Purposes	秋	火4	J. スティベンソン	独・仏	192
04764	311	a	Reading English for Specific Purposes	春	火2	佐々木　恵理	独・仏	193
04765	311	b	Reading English for Specific Purposes	秋	火2	佐々木　恵理	独・仏	193
10854	311	a	Reading English for Specific Purposes	春	水3	佐藤　保	独・仏	194
10856	311	b	Reading English for Specific Purposes	秋	水3	佐藤　保	独・仏	194
10862	321	a	Writing English for Spesific Purposes	春	水3	菊池　武	－	195
10864	321	b	Writing English for Spesific Purposes	秋	水3	菊池　武	－	195
13488	331	a	Speech Communication	春	月3	M. ミルティアダス	－	196
13489	331	b	Speech Communication	秋	月3	M. ミルティアダス	－	196
05074	351		Computer-Assisted English Learning	春	水3	髙木　亜希子	－	197
05075	351		Computer-Assisted English Learning	秋	水3	髙木　亜希子	－	197

英語以外の外国語科目

時間割コード	科目名			コース	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
	ドイツ語Ⅰ	a/b	（基礎）	（基礎コース）	春		各担当教員	独	198
		a/b	（基礎）	（総合コース）	春				199
		a/b	（会話）		春				200
	ドイツ語Ⅱ	a/b	（基礎）	（基礎コース）	春				201
		a/b	（基礎）	（総合コース）	春				202
		a/b	（会話）		春				203
13557	ドイツ語Ⅲ	a	（基礎）		春	火4	永岡　敦		204
13558	ドイツ語Ⅲ	b	（基礎）		秋	火4	永岡　敦		204
	フランス語Ⅰ	a/b	（基礎）	（基礎コース）	春		各担当教員	仏	205
		a/b	（ 総合J）	（総合コース）	春				206
		a/b	（総合F）		春				207
	フランス語Ⅱ	a/b	（基礎）	（基礎コース）	春				208
		a/b	（総合J）	（総合コース）	春				209
		a/b	（総合F）		春				210
13091	フランス語Ⅲ	a			春	金2	H. ドリエップ		211
13092	フランス語Ⅲ	b			秋	金2	H. ドリエップ		211
13089	フランス語Ⅲ	a			春	木2	松橋　麻利		212
13090	フランス語Ⅲ	b			秋	木2	松橋　麻利		212
	スペイン語Ⅰ	a/b	（文法）	（基礎コース）	春		各担当教員	言（＊1） 養（＊1）	213
		a/b	（文法）	（総合コース）	春				214
		a/b	（会話）		春				215
	スペイン語Ⅱ	a/b	（文法）	（基礎コース）	春				216
		a/b	（文法）	（総合コース）	春				217
		a/b	（会話）		春				218
13560	スペイン語Ⅲ	a	（講読）		春	月3	北岸　団		219
13561	スペイン語Ⅲ	b	（講読）		秋	月3	北岸　団		219
13562	スペイン語Ⅲ	a	（会話）		春	金5	J. フェレーラス		220
13563	スペイン語Ⅲ	b	（会話）		秋	金5	J. フェレーラス		220
	中国語Ⅰ	a/b	（会話）	（基礎コース）	春		各担当教員	言（＊2） 養（＊2）	221
		a/b	（会話）	（総合コース）	春				222
		a/b	（講読・文法）		春				223
	中国語Ⅱ	a/b	（会話）	（基礎コース）	春				224
		a/b	（会話）	（総合コース）	春				225
		a/b	（講読・文法）		春				226
09073	中国語Ⅲ	a	（会話）		春	木4	劉　岸麗		227
09074	中国語Ⅲ	b	（会話）		秋	木4	劉　岸麗		227
08991	中国語Ⅲ	a	（講読・文法）		春	火1	平野　佐和		228
08992	中国語Ⅲ	b	（講読・文法）		秋	火1	平野　佐和		228
10168	イタリア語Ⅰ	a			春	木4	園田　みどり		229
10169		b			秋	木4	園田　みどり		229
12044		a			春	水2	島津　寛		230
12045		b			秋	水2	島津　寛		230
12042	イタリア語Ⅱ	a			春	水1	島津　寛		231
12043		b			秋	水1	島津　寛		231

04996	ポルトガル語Ⅰ	a		春	金3	牧野　真也			232
04997		b		秋	金3	牧野　真也			232
11494	ポルトガル語Ⅱ	a		春	金4	牧野　真也			233
11495		b		秋	金4	牧野　真也			233
10352	ロシア語Ⅰ	a	（総合）	春	水4	齊藤　毅			234
10353		b	（総合）	秋	水4	齊藤　毅			234
10354		a	（会話）	春	月4	佐藤　千登勢			235
10355		b	（会話）	秋	月4	佐藤　千登勢			235
11483	ロシア語Ⅱ	a	（総合）	春	水3	齊藤　毅			236
11484		b	（総合）	秋	水3	齊藤　毅			236
11485		a	（会話）	春	月3	佐藤　千登勢			237
11486		b	（会話）	秋	月3	佐藤　千登勢			237
12030	朝鮮語Ⅰ	a	（総合）	春	月3	金　貞我	養(*3)		238
12031		b	（総合）	秋	月3	金　貞我			238
10356		a	（総合）	春	土1	森　勇俊			239
10357		b	（総合）	秋	土1	森　勇俊			239
12032		a	（講読・会話）	春	月2	金　貞我			240
12033		b	（講読・会話）	秋	月2	金　貞我			240
10358		a	（講読・会話）	春	土2	森　貞美			241
10359		b	（講読・会話）	秋	土2	森　貞美			241
11487	朝鮮語Ⅱ	a	（総合）	春	土1	森　貞美			242
11488		b	（総合）	秋	土1	森　貞美			242
11489		a	（講読・会話）	春	土2	森　勇俊			243
11490		b	（講読・会話）	秋	土2	森　勇俊			243
07821	タイ語Ⅰ	a		春	火3	江藤　双恵			244
07822		b		秋	火3	江藤　双恵			244
04388	タイ語Ⅱ	a		春	火2	江藤　双恵			245
04389		b		秋	火2	江藤　双恵			245
04247	アラビア語Ⅰ	a		春	月3	師岡　カリーマ・エルサムニー			246
04248		b		秋	月3	師岡　カリーマ・エルサムニー			246
04199	アラビア語Ⅱ	a		春	月2	師岡　カリーマ・エルサムニー			247
04200		b		秋	月2	師岡　カリーマ・エルサムニー			247

古典語科目

時間割コード	科目名			開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
04806	古典ギリシア語Ⅰ	a		春	木4	古川　堅治		248
04807		b		秋	木4	古川　堅治		248
04229	ラテン語Ⅰ	a		春	金2	小倉　博行		249
04230		b		秋	金2	小倉　博行		249
11500	ラテン語Ⅱ	a		春	金3	小倉　博行		250
11501		b		秋	金3	小倉　博行		250

学則別表（2002年度以前入学者用）

部門	科目	単位	必修	選択必修		選択
人文科学	哲学	4				
	心理学	4				
	倫理学	4				
	国語学	4		4		
	国語表現	4				
	日本文学	4				
	外国文学	4				
	歴史学	4				
	人文科学特殊講義A	4				
	人文科学特殊講義B	*2				
社会科学	経済学	4				
	経済原論	4				
	政治学	4				
	日本国憲法	4				
	教育法	4				
	民法	4				
	国際法	4		4	8	
	国際関係論	4				
	社会学	4				
	社会思想史	4				
	社会心理学	4				
	文化人類学	4				
	社会科学特殊講義A	4				
	社会科学特殊講義B	*2				
自然科学	数学	4				
	物理学	4				
	地学	4		4		
	生物学	4				
	自然科学概論	4				
	自然科学特殊講義A	4				
	自然科学特殊講義B	*2				
情報科学	コンピュータ入門	*2				
	情報科学概論	4				
	言語学	4				
	情報科学各論	*2				
日本語教育	日本語学概論	4				4
	日本語教育概論	*2				
	日本語学特殊講義A	4				
	日本語学特殊講義B	*2				
第三外国語	基礎ドイツ語Ⅰ	2				
	基礎ドイツ語Ⅱ	2				
	基礎フランス語Ⅰ	2				
	基礎フランス語Ⅱ	2				
	基礎スペイン語Ⅰ	2				
	基礎スペイン語Ⅱ	2				
	基礎ポルトガル語Ⅰ	2				
	基礎ポルトガル語Ⅱ	2				
	基礎ロシア語Ⅰ	2				
	基礎ロシア語Ⅱ	2				
	基礎中国語Ⅰ	2				
	基礎中国語Ⅱ	2				
	基礎朝鮮語Ⅰ	2				
	基礎朝鮮語Ⅱ	2				
	基礎タイ語Ⅰ	2				
	基礎タイ語Ⅱ	2				
	基礎アラビア語Ⅰ	2				
	基礎アラビア語Ⅱ	2				
	現代ヘブライ語Ⅰ	2				
	現代ヘブライ語Ⅱ	2				
	古典ギリシア語Ⅰ	4				
	古典ギリシア語Ⅱ	4				
	ラテン語Ⅰ	4				
	ラテン語Ⅱ	4				
総合	総合講座A	4				
	総合講座B	*2				
保健体育	体育Ⅰ	2	2			
	体育Ⅱ	2		2		
	保健体育講義	*2				
卒業に必要な単位数合計			2	22		4
			28			

備考
(1) *は半期完結科目を表す。
(2) 保健体育部門を除く部門から所定の単位数を超えて修得した
単位は、各学科の定める選択科目の単位数に算入される。
(3) 言語文化学科においては、「コンピュータ入門」を必修とする。

○ 本表は、1999年度入学者から適用する。ただし、基礎ポルトガル語ⅠおよびⅡ、ならびに基礎タイ語ⅠおよびⅡは、1997年度入学者から適用する。

外国語学部共通科目(2002年度以前入学者)

目次

※「外国語学部共通科目」と「全学共通授業科目」は合併しています。
　目次の「外国語学部共通科目名」より履修したい科目を選択し、該当ページに書かれている科目名と「全学共通授業科目名」が同じであるか確認してください。
※ページに『外××』とある科目は、外国語学部各学科シラバスの「外国語学部共通科目(2003年度以降入学生用)」欄を参照してください。
※時間割コードは「2002年度以前入学生用授業時間割表」で確認をしてください。

外国語学部共通科目名(02年度以前)	全学共通授業科目名(03～07年度)	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
「人文科学」部門						
哲学	Ⅱ哲学a(哲学の諸問題1) Ⅱ哲学b(哲学の諸問題2)	通年	月 2	谷口 郁夫	経	22
心理学	Ⅱ心理学a(人間の行動・認知・感情の共通法則) Ⅱ心理学b(人間の個性・多様性理解)	通年	木 1	杉山 憲司	経・法	28
心理学	Ⅱ心理学a(人間の行動・認知・感情の共通法則) Ⅱ心理学b(人間の個性・多様性理解)	通年	木 2	杉山 憲司	経・法	28
心理学	Ⅱ心理学a(知覚・認知) Ⅱ心理学b(行動・個性)	通年	月 1	増田 直衛	経・法	27
心理学	Ⅱ心理学a(知覚・認知) Ⅱ心理学b(行動・個性)	通年	月 2	増田 直衛	経・法	27
心理学	Ⅲことばと思想(科学としての心理学とこころの世界) Ⅳことばと思想(心理検査法とこころの健康)	秋	火 2 木 2	田口 雅徳	経・法	62 109
倫理学	Ⅱ倫理学a(倫理の基本について考える) Ⅱ倫理学b(環境と生命の倫理)	通年	火 3	市川 達人		23
国語学	Ⅱ言語学a(個別言語学－英語) Ⅱ言語学b(個別言語学－英語)	通年	金 1	安間 一雄	法	31
国語学	Ⅱ言語学a(応用言語学) Ⅱ言語学b(第二言語習得)	通年	水 1	臼井 芳子	法	30
国語表現	Ⅳことばと思想(日本語音声表現のトレーニング基礎篇) Ⅳことばと思想(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	通年	土 2	梅津 正樹	経・法	102
国語表現	Ⅳことばと思想(書き言葉の問題) Ⅳことばと思想(話し言葉の問題)	通年	木 2	佐藤 毅	経・法	101
国語表現	Ⅳことばと思想(生活文化の発見) Ⅳことばと思想(生活文化の記述)	通年	木 1	長野 隆之	経・法	105
国語表現	Ⅳことばと思想(生活史を読む) Ⅳことばと思想(生活史を書く)	通年	木 2	長野 隆之	経・法	106
国語表現	Ⅳことばと思想(論文を書く) Ⅳことばと思想(口頭発表を行う)	通年	月 3	福沢 健	経・法	100
国語表現	Ⅳことばと思想(論文を書く) Ⅳことばと思想(口頭発表を行う)	通年	月 4	福沢 健	経・法	100
日本文学	Ⅱ文学a(恐怖の日本文学) Ⅱ文学b(癒しの日本文学)	通年	木 1	佐藤 毅	経	32
日本文学	Ⅱ文学a(日本文学－奈良時代の文学を読む) Ⅱ文学b(日本文学－平安時代の文学を読む)	通年	月 2	福沢 健	経	34
外国文学	Ⅱ文学a(スペイン文学) Ⅱ文学b(イスラムスペイン文学)	通年	水 3	野々山 ミチコ	経	33
歴史学(日本史)	Ⅱ歴史学a(中世の仏教と社会) Ⅱ歴史学b(中世の「悪党」と民衆)	通年	金 2	新井 孝重	経・法	41
歴史学(日本史)	Ⅱ歴史学a(「15年戦争」をどうとらえるか) Ⅱ歴史学b(戦後史の中の「15年戦争」)	通年	火 4	丸浜 昭	言・経・法	35

外国語学部共通科目名(02年度以前)	全学共通授業科目名(03～07年度)	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
歴史学(東洋史)	Ⅱ歴史学a(イスラーム世界の成立と拡大) Ⅱ歴史学b(イスラーム世界の近代化とその後)	通年	木 3	熊谷 哲也	経・法	36
歴史学(東洋史)	Ⅱ歴史学a(中国近代史概説－清朝国家の黄昏) Ⅱ歴史学b(中国近代史概説－近代国家創成の試み)	通年	木 4	張 士陽	経・法	37
歴史学(西洋史)	Ⅱ歴史学a(アメリカのエスニック・ヒストリー) Ⅱ歴史学b(アメリカのエスニック・ヒストリー)	通年	金 3	佐藤 唯行	経・法	39
歴史学(西洋史)	Ⅱ歴史学a(ヨーロッパの歴史－統合と分裂の視点から) Ⅱ歴史学b(バルカン情勢の現在－地域・国家・民族の視点から)	通年	金 1	古川 堅治	経・法	38
歴史学(西洋史)	Ⅱ歴史学a(現代史と映像) Ⅱ歴史学b(歴史と映像)	通年	火 2	増谷 英樹	経・法	40
人文科学特殊講義A						
(現代文化論)	Ⅱ現代文化論a(グローバリゼーションを巡って) Ⅱ現代文化論b(日本の表象と世界)	通年	水 3	柴崎 信三	経	43
(西洋美術史)	Ⅳ歴史と文化(西洋美術史a) Ⅳ歴史と文化(西洋美術史b)	通年	火 3	前川 久美子		116
人文科学特殊講義B						
(西洋哲学史)	Ⅲことばと思想(生と死の意味の哲学1)	春	月 3	谷口 郁夫		65
(哲学思想史)	Ⅲことばと思想(生と死の意味の哲学2)	秋	月 3	谷口 郁夫		65
(通訳文化論)	Ⅲことばと思想(通訳・翻訳論)	秋	水 1	永田 小絵		64
(英語通訳の仕事)	Ⅳことばと思想(英語通訳の仕事)	春	土 1	福井 星一		108
(英語通訳の仕事)	Ⅳことばと思想(英語通訳の仕事)	秋	土 1	福井 星一		108
(イタリアの音楽史)	Ⅳ歴史と文化(イタリアの音楽史)	春	木 3	園田 みどり		112
(イタリアの声楽曲)	Ⅳ歴史と文化(イタリアの声楽曲)	秋	木 3	園田 みどり		112

「社会科学」部門

経済学	Ⅱ経済学a(ミクロの視点で考える) Ⅱ経済学b(マクロの視点で考える)	通年	木 1	米山 昌幸	経・法	46
経済学	Ⅱ経済学a(国民所得の概念と決定メカニズム) Ⅱ経済学b(経済政策の基礎理論と課題)	通年	水 2	浜本 光紹	経・法	45
経済原論		通年	火 1	野村 容康	経・法	外 13
政治学	Ⅱ政治学a(政治システムの構成要素) Ⅱ政治学b(現代の民主主義)	通年	木 2	津田 由美子	経・法	50
教育法	Ⅲ現代社会(教育法a) Ⅲ現代社会(教育法b)	通年	金 2	市川 須美子	法	85
民法	Ⅲ現代社会(民法a) Ⅲ現代社会(民法b)	通年	金 2	石井 保雄	経・法	86
国際法	Ⅱ国際法a(国際社会と私たち) Ⅱ国際法b(国際紛争を考える)	通年	火 3	一之瀬 高博	法	49
国際関係論	Ⅲ現代社会(東アジア国際関係の史的展開) Ⅲ現代社会(東アジア国際関係の現状と展望)	通年	土 1	阿部 純一	法	91
社会学	Ⅱ社会学a(他者と自己) Ⅱ社会学b(現代社会の諸問題)	通年	土 1	岡村 圭子	経・法	51
社会学	Ⅱ社会学a(他者と自己) Ⅱ社会学b(現代社会の諸問題)	通年	土 2	岡村 圭子	経・法	51

外国語学部共通科目名(02年度以前)	全学共通授業科目名(03～07年度)	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
社会思想史	Ⅱ社会思想史a(市民的社会像の黎明期) Ⅱ社会思想史b(市民的社会像の確立期)	通年	火 4	市川 達人	法	26
社会思想史	Ⅱ社会思想史a(東洋古代から近世まで) Ⅱ社会思想史b(東洋近世から現代まで)	通年	水 2	松丸 壽雄	法	25
文化人類学	Ⅱ文化人類学a(未開文化の理解へ) Ⅱ文化人類学b(未開文化の理解へ)	通年	火 2	井上 兼行	経・法	42
文化人類学	Ⅱ文化人類学a(未開文化の理解へ) Ⅱ文化人類学b(未開文化の理解へ)	通年	火 3	井上 兼行	経・法	42
社会科学特殊講義A						
(文化人類学特殊講義)	Ⅲ歴史と文化(未開人の認識a) Ⅲ歴史と文化(未開人の認識b)	通年	月 2	井上 兼行		71
(異文化との触れ合い)	Ⅲ歴史と文化(グローバル化とイスラムー公と私) Ⅲ歴史と文化(移民・交易に見る文化変容)	通年	月 2	水口 章		70
(広告論)	Ⅲ現代社会(広告論a) Ⅲ現代社会(広告論b)	通年	月 2	市川 嘉彦	経	83
(社会科学概論)	Ⅲ現代社会(社会科学概論a) Ⅲ現代社会(社会科学概論b)	通年	火 1	堅田 剛	法	84
(現代中国論)	Ⅲ現代社会(中国研究入門) Ⅲ現代社会(中国社会論)	通年	月 5	上村 幸治		92
(マスコミュニケーション論)	Ⅲ現代社会(歴史の中のメディア) Ⅲ現代社会(メディアと現代社会)	通年	木 4	柴崎 信三		82
(イスラム(原理)主義過激思想)	Ⅲ現代社会(中東政治思想a) Ⅲ現代社会(中東政治思想b)	通年	火 1	藤原 和彦		81
(教育の現場:教師と語る)	Ⅳ現代社会(教育の現場:教師と語るa) Ⅳ現代社会(教育の現場:教師と語るb)	通年	水 1	川村 肇		117
(生活に役立つ経理(A))	Ⅳ現代社会(経理入門a) Ⅳ現代社会(経理入門b)	通年	火 2	杉 麻利子	経	121
(生活に役立つ経理(B))	Ⅳ現代社会(英文会計入門a) Ⅳ現代社会(英文会計入門b)	通年	火 3	杉 麻利子	経	122
社会科学特殊講義B	※過去に「社会科学特殊講義A(女性学)」を修得した学生は、下記「女性学」の履修不可。 ※下記「女性学」は、春・秋で重複履修可能。ただし、今までに単位修得した担当者の科目は履修不可。					
(女性学)	Ⅱ女性学a(女性学の過去と現在)	春	木 3	片山 亜紀		54
(女性学)	Ⅱ女性学b(ジェンダーと表象)	秋	月 3	上野 直子		54
(日本事情とコミュニケーション教育)	Ⅲ歴史と文化(日本事情とコミュニケーション教育)	春	木 2	小山 慎治		69

「自然科学」部門

数学	Ⅱ数学a(微分学) Ⅱ数学b(積分学)	通年	月 1	福井 尚生	経	55
物理学	Ⅱ物理学a(相対論の世界) Ⅱ物理学b(量子論の世界)	通年	金 3	東 孝博		56
地学	Ⅱ地球科学a(恒星天文学) Ⅱ地球科学b(銀河天文学)	通年	水 1	福井 尚生		59
生物学A	Ⅱ生物学a(植物の特性と自然の仕組み) Ⅱ生物学b(植物の分布)	通年	火 1	加藤 僖重	経・法	58
生物学B	Ⅳ自然・環境・人間(身近な自然観察 春) Ⅳ自然・環境・人間(身近な自然観察 秋)	通年	水 2	加藤 僖重	経・法	131
生物学B	Ⅳ自然・環境・人間(身近な自然観察 春) Ⅳ自然・環境・人間(身近な自然観察 秋)	通年	木 2	加藤 僖重	経・法	131
生物学B	Ⅳ自然・環境・人間(身近な自然観察 春) Ⅳ自然・環境・人間(身近な自然観察 秋)	通年	木 3	加藤 僖重	経・法	131
自然科学概論	Ⅲ自然・環境・人間(地球外文明論a) Ⅲ自然・環境・人間(地球外文明論b)	通年	月 3	福井 尚生	法	98

外国語学部共通科目名(02年度以前)	全学共通授業科目名(03～07年度)	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
自然科学特殊講義A						
(自然環境と文化)	Ⅱ地理学a(自然環境と文化) Ⅱ地理学b(自然環境と文化)	通年	水 2	秋本 弘章	経	52
(化学)	Ⅱ化学a(化学と環境の歴史) Ⅱ化学b(化学と健康の歴史)	通年	月 3	内田 正夫		57
(地球環境論)	Ⅲ自然･環境･人間(地球環境の変化とその要因) Ⅲ自然･環境･人間(地球環境問題と環境保全)	通年	火 2	鈴木 滋	経･法	96
(宇宙論)	Ⅲ自然･環境･人間(宇宙論a) Ⅲ自然･環境･人間(宇宙論b)	通年	金 1	福井 尚生		97

「情報科学」部門

コンピュータ入門	**情報科学各論(入門)**			**各担当教員**	**経･法**	外 3
		春	月 4	金子 憲一		
		春	火 1	田中 雅英		
		春	火 2	田中 雅英		
		春	木 4	内田 俊郎		
		春	金 2	松山 恵美子		
		春	金 3	長崎 等		
		秋	木 2	内田 俊郎		
言語学	Ⅱ言語学a(一般言語学) Ⅱ言語学b(一般言語学)	通年	火 4	安間 一雄		29
情報科学各論(初級－表計算入門)	**情報科学各論(初級－表計算入門)**			**各担当教員**	**経･法**	外 4
		春	月 3	金子 憲一		
		春	火 3	田中 雅英		
		春	水 2	二宮 哲		
		春	木 2	内田 俊郎		
		春	金 3	松山 恵美子		
		秋	火 1	田中 雅英		
		秋	木 3	内田 俊郎		
		秋	金 2	松山 恵美子		
		秋	金 3	長崎 等		
情報科学各論(初級－プレゼンテーション)	**情報科学各論(初級－プレゼンテーション)**			**各担当教員**	**経･法**	外 5
		春	月 5	金子 憲一		
		春	火 2	金井 満		
		秋	月 5	金子 憲一		
		秋	火 2	金井 満		
情報科学各論(初級－HTML入門)	**情報科学各論(初級－HTML入門)**			**各担当教員**	**経･法**	外 6
		春	木 3	内田 俊郎		
		秋	月 4	金子 憲一		
		秋	火 2	田中 雅英		
		秋	水 2	二宮 哲		
		秋	木 4	内田 俊郎		
情報科学各論(中級－表計算応用1)	情報科学各論(中級－表計算応用1)	春	金 4	松山 恵美子	経･法	外 7
情報科学各論(中級－表計算応用1)	情報科学各論(中級－表計算応用1)	秋	金 3	松山 恵美子	経･法	外 7
情報科学各論(中級－表計算応用2)	情報科学各論(中級－表計算応用2)	秋	金 4	松山 恵美子	経･法	外 8
情報科学各論(中級－HTML応用1)	情報科学各論(中級－HTML応用1)	秋	月 3	金子 憲一		外 9
情報科学各論(中級－HTML応用1)	情報科学各論(中級－HTML応用1)	秋	火 3	田中 雅英		外 10
情報科学各論(中級－データベース1)	情報科学各論(中級－データベース1)	春	金 4	長崎 等		外 11
情報科学各論(中級－データベース2)	情報科学各論(中級－データベース2)	秋	金 4	長崎 等		外 11
情報科学各論(中級－プログラミング論1)	情報科学各論(中級－プログラミング論1)	春	水 2	呉 浩東	言	外 12
情報科学各論(中級－プログラミング論2)	情報科学各論(中級－プログラミング論2)	秋	水 2	呉 浩東	言	外 12

「日本語教育」部門

日本語学概論	Ⅲことばと思想(日本語教材における学習項目の扱い) Ⅲことばと思想(日本語の談話と日本語教育)	秋	水 2 金 1	中西 家栄子 浅山 佳郎		67 66
日本語教育概論	Ⅲことばと思想(外国語としての日本語教育)	春	水 2	中西 家栄子		63

外国語学部共通科目名(02年度以前)	全学共通授業科目名(03～07年度)	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
「第三外国語」部門						
基礎ドイツ語Ⅰ	**ドイツ語Ⅰa,b(基礎)**	**通年**		**各担当教員**		198
		通年	木 1	飯沼 隆一		
		通年	金 4	木内 基実		
		通年	火 3	櫻井 より子		
		通年	金 5	辻本 勝好		
		通年	金 4	開内 英司		
		通年	木 2	前田 智		
基礎ドイツ語Ⅱ	**ドイツ語Ⅱa,b(基礎)**	**通年**		**各担当教員**		201
		通年	金 3	開内 英司		
		通年	金 4	宮村 重徳		
基礎フランス語Ⅰ	**フランス語Ⅰa,b(基礎)**	**通年**		**各担当教員**		205
		通年	木 1	M. ミズバヤシ		
		通年	月 2	佐藤 領時		
		通年	月 3	佐原 隆雄		
		通年	金 2	富塚 真理子		
基礎フランス語Ⅱ	**フランス語Ⅱa,b(基礎)**	**通年**		**各担当教員**		208
		通年	金 2	平井 康和		
		通年	金 3	山田 秀男		
基礎スペイン語Ⅰ	**スペイン語Ⅰa,b (文法)**	**通年**		**各担当教員**		213
		通年	火 3	児島 峰		
		通年	月 3	高松 朋子		
		通年	金 3	坂野 鉄也		
基礎スペイン語Ⅱ	スペイン語Ⅱa,b (文法)	通年	火 3	二宮 哲		216
基礎ポルトガル語Ⅰ	ポルトガル語Ⅰa,b	通年	金 3	牧野 真也		232
基礎ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅱa,b	通年	金 4	牧野 真也		233
基礎ロシア語Ⅰ	ロシア語Ⅰa,b(総合)	通年	水 4	斎藤 毅		234
基礎ロシア語Ⅰ	ロシア語Ⅰa,b(会話)	通年	月 4	佐藤 千登勢		235
基礎ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅱa,b(総合)	通年	水 3	斎藤 毅		236
基礎ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅱa,b(会話)	通年	月 3	佐藤 千登勢		237
基礎中国語Ⅰ	**中国語Ⅰa,b(会話)**	**通年**		**各担当教員**		221
		通年	火 4	虞 織文		
		通年	木 3	張 亜紅		
		通年	金 4	星野 芳欣		
基礎中国語Ⅱ	中国語Ⅱa,b(会話)	通年	火 3	厳 明		224
基礎朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰa,b (総合)	通年	月 3	金 貞我		238
基礎朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰa,b (総合)	通年	土 1	森 勇俊		239
基礎朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰa,b (講読・会話)	通年	月 2	金 貞我		240
基礎朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰa,b (講読・会話)	通年	土 2	森 貞美		241
基礎朝鮮語Ⅱ	朝鮮語Ⅱa,b (総合)	通年	土 1	森 貞美		242
基礎朝鮮語Ⅱ	朝鮮語Ⅱa,b (講読・会話)	通年	土 2	森 勇俊		243
基礎タイ語Ⅰ	タイ語Ⅰa,b	通年	火 3	江藤 双恵		244
基礎タイ語Ⅱ	タイ語Ⅱa,b	通年	火 2	江藤 双恵		245
基礎アラビア語Ⅰ	アラビア語Ⅰa,b	通年	月 3	師岡 カリーマ エルサムニー		246
基礎アラビア語Ⅱ	アラビア語Ⅱa,b	通年	月 2	師岡 カリーマ エルサムニー		247
古典ギリシア語Ⅰ	古典ギリシア語Ⅰa,b	通年	木 4	古川 堅治		248
ラテン語Ⅰ	ラテン語Ⅰa,b	通年	金 2	小倉 博行		249
ラテン語Ⅱ	ラテン語Ⅱa,b	通年	金 3	小倉 博行		250
「総合」部門						
総合講座B		春	水 3	上野 直子	経・法	外 1
総合講座B		秋	水 3	上野 直子	経・法	外 1
「保健体育」部門						
体育Ⅰ,Ⅱ	**Vスポーツ・レクリエーション**					
(インラインスケート)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	金 1	和田 智		135
(硬式テニス)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	木 1	田中 茂宏		138
(硬式テニス)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	火 3	松原 裕		137

外国語学部共通科目名(02年度以前)	全学共通授業科目名(03～07年度)	開講期	曜時	担当教員	履修不可	ページ
(硬式テニス)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	水 2	松原 裕		137
(硬式テニス)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	金 3	依田 珠江		136
(ゴルフ)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 1	山中 邦夫		140
(ゴルフ)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 2	山中 邦夫		140
(ゴルフ)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	金 1	吉田 卓司		139
(ゴルフ)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	金 2	吉田 卓司		139
(サッカー)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	火 2	松原 裕		141
(サッカー)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 2	松本 光弘		142
(サッカー)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 3	松本 光弘		142
(スポーツエクササイズ)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	火 2	齋藤 初恵		143
(スポーツ型デトックス)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	火 3	齋藤 初恵		144
(ソフトボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	金 2	太田 朝博		145
(ソフトボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	木 1	萩野 元祐		146
(ソフトボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	木 2	萩野 元祐		146
(卓球)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	火 1	池垣 功一		150
(卓球)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	火 2	池垣 功一		150
(卓球)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 3	神宮司 親治		149
(卓球)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	木 2	松原 裕		148
(卓球)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 1	依田 珠江		147
(バスケットボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 3	依田 珠江		151
(バスケットボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	水 1	依田 珠江		151
(バスケットボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	水 2	依田 珠江		151
(バスケットボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	金 1	依田 珠江		151
(バスケットボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	金 2	依田 珠江		151
(バドミントン)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	金 3	太田 朝博		152
(バドミントン)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	木 3	田中 茂宏		153
(バドミントン)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	火 1	萩原 武久		154
(バドミントン)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	火 2	萩原 武久		154
(バレーボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 1	小川 又八朗		156
(バレーボール)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 2	小川 又八朗		156
(フットサル)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 1	神宮司 親治		158
(フットサル)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	木 2	桧山 康		159
(フットサル)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	木 3	桧山 康		159
(フットサル)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	木 1	松原 裕		157
(ボールルームダンス)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	月 2	青柳 多恵子		161
(ボールルームダンス)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	水 1	青柳 多恵子		161
(ボールルームダンス)	Vスポーツ・レクリエーション	通年	木 2	青柳 多恵子		161
体育Ⅰ,Ⅱ 集中授業	**Vスポーツ・レクリエーション**					
(アウトドアレクリエーション)	Vスポーツ・レクリエーション	春	水 2	和田 智		162
(アウトドア山岳)	Vスポーツ・レクリエーション	春	集中	和田 智		162
(アウトドアレクリエーション)	Vスポーツ・レクリエーション	春	水 1	和田 智		163
(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	Vスポーツ・レクリエーション	春	集中	和田 智		163
(アウトドアレクリエーション)	Vスポーツ・レクリエーション	春	金 2	和田 智		163
(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	Vスポーツ・レクリエーション	春	集中	和田 智		163
(スケートトレーニング)	Vスポーツ・レクリエーション	秋	月 2	和田 智		165
(アイススポーツ)	Vスポーツ・レクリエーション	秋	集中	和田 智		165
(バランストレーニング)	Vスポーツ・レクリエーション	秋	水 3	松原 裕		164
(スノースポーツ)	Vスポーツ・レクリエーション	秋	集中	松原 裕		164
保健体育講義	Ⅱスポーツ・レクリエーション学a(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	春	金 3	和田 智	経	60
保健体育講義	Ⅱスポーツ・レクリエーション学a(最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう)	秋	金 3	和田 智	経	60
保健体育講義	Ⅳ自然・環境・人間(東洋の健康哲学a)	春	月 3	青柳 多恵子		132
保健体育講義	Ⅳ自然・環境・人間(東洋の健康哲学b)	秋	月 3	青柳 多恵子		132
保健体育講義	Ⅳ自然・環境・人間(健康をスポーツを理解するa)	春	水 1	松原 裕		134
保健体育講義	Ⅳ自然・環境・人間(健康をスポーツを理解するb)	秋	水 1	松原 裕		134

（春）	全学総合講座 （現代世界論）	担当者	佐藤　勘治

講義目標

この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマについて受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとなることを目的とする。一年目の学生が主な履修対象者である。

現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。

講義概要

主に言語文化学科所属教員にそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。多文化共生に関わる諸問題がひとつの柱となっている。担当教員の専門分野は、哲学、言語学、文学、歴史、社会学、地域研究、政治学、教育学などである。

第３回では、ジャーナリスト工藤律子氏を招いて、途上国の子どもたちをとりまく状況について講演していただく。工藤氏は、メキシコを中心にしてストリートチルドレン支援運動をおこなっている。また、第10回では、自ら「無国籍」の経験をもつ陳天璽氏を招いて、無国籍者の現状やその問題点を講演していただく予定である。

テーマと順番については、変更の可能性がある。

受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。
積極的な発言を期待している。

評価方法

各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。

テキスト、参考文献

陳 天璽『無国籍』（新潮社）2005 年
工藤律子『ストリートチルドレン：メキシコシティの路上に生きる』(岩波ジュニア新書)

授業計画

1　佐藤勘治：
総論　現代とはどのような時代か？（4/9）

2　岡村圭子：
グローバリズムは世界を均一化するか？（4/16）

3　工藤律子（ゲストスピーカー）：ジャーナリスト
真の幸せとは？　フィリピン・メキシコの都市と農村の子どもたちを見つめて（4/23）

4　飯島一彦：
多文化社会としての日本（5/7）

5　上村幸治：
大国中国の台頭が意味するものは？（5/14）

6　山本英政：
アメリカ黒人とブラックミュージック（5/21）

7　安井一郎：
日本の教育改革はどこへ向かおうとしているのか？（5/28）

8　平田由紀江：
BoAは「韓流スター」か？（6/4）

9　二宮哲：
言語の死　言語の消滅はしかたのないことか？（6/11）

10　陳 天璽（ゲストスピーカー）：国立民族学博物館
「無国籍」を生きるとは？（6/18）

11　佐藤勘治：
リラ・ダウンズとフリーダ・カーロ：メキシコにおける先住民族衣装着衣の意味は？（6/25）

12　松丸壽雄：
現代世界と私たち（7/2）

（春）（秋）	全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	担当者	伊藤　爲一郎

講義目標

「生きる力」を強くすることがねらいです。「自分らしい生き方」を発見するにはどうしたらよいか考える時間です。国際競争の激化、情報化の進展、産業構造の変化など日本の経済･社会をとりまく環境の変貌によって、就職･雇用情勢は大きく変わり、大学に求められる人材についても変化がおきています。一方ではせっかく就職したのに、３年以内に離職する若者が３割にも達するという結果が出ています。その主な理由は、学生の職業意識の未熟さにあります。就職という人生でもっとも重要な選択を適切に行うには冷静な「自己分析」が必要です。「キャンパスライフ」の内容が問われるのです。この講義は、皆さんが個性にあった生き方をデザインし充実した学生生活送れるよう支援するものです。

講義概要

生きていくためには何かの仕事に就かなければなりません。どのような生き方をしたいかによって、選択する職業も違ってきます。どのような生き方が考えられるか、具体的な職業を例にとりながら多様な生き方があることを示します。選択のヒントを与えます。目標を達成、するために何が必要かその手順を実践的に考えてみます。目標を持ってキャンパスライフをおくるためのスキルを磨くことができるように工夫されています。

受講生への要望

将来どのように生きていくかイメージしてみましょう。最初はぼんやりとしたものしか浮かばないかもしれません。キャンパスライフの目標を見つけるために、辛抱して講義に出席しているとだんだんはっきりとしてくるでしょう。卒業時のはっきりとした将来像が楽しみです。

評価方法

レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況（１０回以上出席のこと）を総合して評価します。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。講義の中で参考文献を紹介します。

授業計画

第１回　オリエンテーション
講義の目的　、進め方などの説明

第２回　企業で働く（企業が学生に求めるもの）

第３回　公共部門（教員・公務員・ＮＰＯ）で働く

第４回　男女共同参画社会（男女共同参画社会を推進する）

第５回　労働市場と雇用はどのように変化してきたか

第６回　ベンチャー企業を起業する

第７回　正社員とフリーター

第８回　仕事と適性（仕事をどのように選ぶか）

第９回　自己理解・自己表現

第１０回　社会の求める人材とは（グローバルに活躍できる社会人になるために）

第１１回　活躍するＯＢ・ＯＧ

第１２回　キャンパスライフと仕事
パネルデイスカッションを予定

（講義の順番が変わることがあります）

（秋）	全学総合講座(平和と人権ーアジア地域の紛争と私たち)	担当者	古関　彰一

講義目標

アジアを中心に最近の戦争・紛争そして平和構築の現状を講師から報告していただくことによって、私たちが、現状をどうとらえ、何をしなければならないのかを考えることを目標にします。

講義概要

毎回、アジアを中心に戦争、紛争そして平和構築の現状を調査し、取材し、あるいは平和構築に参加されてきた方々を講師に招き、講義して形式で授業を進めます。

受講生への要望

講師に方々は、忙しい中を、ときには遠路をお越しいただきますので、雑談、居眠りなどは堅く禁じます。約束を守れない受講生は教室から出ていただきます。

評価方法

出席と秋学期の終わりに課すレポートで評価します。

テキスト、参考文献

その時々に指示します。

授業計画

ビルマ（ミャンマー)、アフガニスタン、東チモール、カンボジア、イラク、スリランカ、日本（中国残留孤児、難民認定）などの現状を新聞記者、ＮＧＯ、弁護士、研究者に報告して頂きます。

（現時点で、おいでいただく講師の方々と日程を確定することは困難ですので、最初の授業で担当者が、日程の入った授業計画を配布します）

（春）	全学総合講座(獨協学)	担当者	新井　孝重

講義目標

獨協学は、獨協学園の歴史を学ぶ講座である。学園と獨協大学は、時代の変遷のなかで、幾多の試練に耐えて 120 年余の歴史を重ねてきたが、総じて教育の大道を歩んだ。

この講座を通して、自己が学ぶ学園の歴史を知り、獨協大学ぶことの意味と、未来への自己の可能性を展望する契機となることを目指している。

講義概要

1883 年(明治 16)に創立された獨逸学協会学校は、ドイツ学の普及を意図していた政府から補助金受けて、初期の専修科(法律学校)からは、司法官・行政官を輩出した。

帝国大学の官僚養成体制が確立すると、政府の援助は停止され、専修科は廃止され、中等教育機関としての普通科が残った。

やがて、経営的に行きづまり、明治 30 年代、および第一次世界大戦後には、東京府への移管が考えられるほどの困窮をみせた。第二次大戦中、ヒトラーユーゲント来校など国際情勢もあって、勢いを盛り返したが、戦争によって学園は荒廃した。

戦後、獨逸学協会学校中学の先輩天野貞祐が校長に就任、人間の尊重を掲げて学校再建をはかり、1964 年(昭和 39)、「大学は学問を通じての人間形成の場である」との理念のもと、獨協大学が建学された。

受講生への要望

毎講義後の積極的な質問、発言を期待する。

評価方法

課題に対するレポート(１回)を評価する。課題は講座進行の後半に指示する。

テキスト、参考文献

『目でみる獨協百年』(獨協学園)。
『獨協学園史 1881-2000』(獨協学園)。
堅田剛『獨逸学協会と明治法制』(木鐸社)。
(上記３冊は獨協大学図書館所蔵)。
講義のために、毎回配布するレジメ。

授業計画

１　①「獨協学」についてのガイダンス
担当：新井孝重(経済学部経済学科教授)
②学園史の時代区分
担当：新宮譲治(元非常勤講師)

２　法律学校としての獨逸学協会学校
担当：堅田　剛(法学部教授)

３　西周と加藤弘之
――明六社(明治啓蒙思想家の組織)に参加していた二人の校長
担当：新宮譲治

４　専修科廃止後の獨逸学協会学校
担当：新宮譲治

５　校長大村仁太郎の先駆的教育論
担当：新井孝重

６　第二次世界大戦と獨協
――ヒトラーユーゲント来校の頃
担当：新宮譲治

７　天野貞祐の校長就任から獨協大学創設の頃
担当：新宮譲治

８　獨協大学の教育理念――教養主義について
担当：新井孝重

９　特別講義
「獨協学園と自由学園――天野教育の二つの現場」
担当：雪山伸一(元朝日新聞ボン支局長・成蹊大学講師)

１０　獨協大学創立期の回顧
担当：下川　浩(外国語学部ドイツ語学科教授)

１１　特別講義
「日本近現代の私学――獨協を中心に」
担当：寺崎昌男(東京大学名誉教授)

１２　ミニ・シンポジウム
「獨協大学のあり方を考える」
司会：新井孝重
パネリスト：堅田　剛
湯田雅夫
新宮譲治
雪山伸一

（春）	全学総合講座(多文化社会のビジネスとリスク・マネジメント)	担当者	岡村　圭子

講義目標

本講義では、文化が異なる社会間において展開される経済活動において生じるビジネスリスクを、海外駐在経験のある講師による講義をとおして考えます。

経済活動のグローバル化は、どのようなリスクを生み、それはどう処理されている／いないのか、またどのようなリスクがそこから新たに生まれるのか、こういった問題関心をふまえて受講するとよりよく理解できるでしょう。

さらに、今後わたしたちの経済活動はどうなっていくのか、どこに向かうのか、そこにはどのような「リスク」が待ち受けているのか、各講師の話から予想してみるのもおもしろいかもしれません。本講義をとおして、わたしたちが日々あたりまえのように行っている経済活動も、複雑なリスク・マネジメントの上に成り立っていることを感じてください。

講義概要

NPO 法人国際貢献センターから派遣される１０人の講師が各週ごと、海外駐在の経験をもとに各地域・国をテーマにして講義します。それぞれの立場から現地駐在をとおして学んだことや経験した仕事、現地での生活の様子などを紹介するので、受講者にはそこから現地の文化や民族性、商売のやり方が、日本社会のそれと具体的にどう違うのか／類似しているのか、といったことを学び、日本と諸外国との関係の将来について考えてほしい。

受講生への要望

積極的に質問をし、講師の話を自分なりに展開できる学生を希望します。

評価方法

毎回、次週の担当講師から出された宿題をやることが前提。そのうえで出席とレポートを評価。

テキスト、参考文献

『世界史年表』『世界史地図帳』（山川出版社）『最新世界史図説タペストリー』（帝国書院）のいずれかを毎回持参すること

授業計画

１．異文化接触と経済活動：はじめに
岡村圭子（4／12）

２．多民族国家群『東南アジア』で仕事をする
恩田英治（4／19）

３．台湾華人と日本人の考え方の違い及びそこから出てくるビジネスリスク　矢野清一（4／26）

４．大発展する中国、物流から見た世界的激動～海外で働くということ～照れずに使おう外国語～
白土茂雄　（5／10）

５．タイと華人社会――繰り返されるクーデターの背景・王様と華人――　養安昭彦（5／17）

６．近くて遠い国「韓国」と、ちょっとだけケニヤ・タイとの３国比較　森岳三（5／24）

７．日本は IT 大国インドと相互補完的関係に発展することができるか　翠 政之（5／31）

８．世界に広がるアラビア語を、楽しく学ぼう
鈴木紘司（6／7）

９．中東産油国での投資と問題点――リスク・マネージメント――について　牧村恢臣（6／14）

１０．中央アジアのビジネスにおける様々なリスクについて考えてみよう　川西勇夫（6／21）

１１．ロシア：主としてプーチン政権と今後について
西垣 護（6／28）

１２．ブラジル：アグリージャパニーズ
南 正紀　（7／5）

（春）（秋）	全学総合講座(国家と国境を考える：地域･民族・国家)	担当者	古川　堅治

講義目標

本講座では、これまで自明のことと考えられてきた「国民国家の集合体としての現代世界」の構造が揺らぎはじめ、経済のグローバル化と社会の多文化主義の進展に伴い国家に対する見方自体もまた変化をみせていることを、さまざまな地域と視点から具体的に考えることを目的としています。

現在日本では、隣接諸国と国境問題をはじめとするさまざまな問題を抱えていると同時に、国内的にはそれまでの定住外国人に加えて、他の多くの国家と同じように、さまざまな地域から、労働者として、留学生として、あるいは国際結婚のパートナーなどとして多くの外国人が訪れ、隣人として暮らしています。その結果、今日本でも多文化共生社会の建設の必要性が求められています。その意味でここに掲げるテーマは極めて今日的であると考えられます。それゆえに受講生の皆さんは自らの問題として、この国家と国境をめぐる諸問題を考えてもらいたいと思います。

講義概要

各担当者には右に掲げるテーマで二回ずつ講義をお願いしています。初回はコーディネーターにより問題提起がなされ、二回目以降は各地域からの報告がなされます。カナダは多文化社会を標榜する国家ですが、そこでは民族共生のためのさまざまな取り組みがなされ、新たな国家像が提示されつつあります。また、国家についての考え方が自明でなくなり、グローバル化が進行すると国境線の意味を失わせることになりがちですがが、そのことは「国家」とは何かを強く意識させると同時に、国境線の役割をもまた必ずしも弱めることにはなりません。特に米国とメキシコとの関係（春学期）では、経済統合とともに人の移動を妨げる壁として国境線の役割が逆に強化されています。

さらに国家が問題になるのは、政治や経済という分野だけではありません。文学にみられる言葉の越境性について考えることは新たな視点を与えてくれるでしょう。また、中国の国内の民族諸問題などからは独自の国家像を、韓国から民族と国境を考えること（秋学期）で朝鮮半島情勢を見据え、さらに沖縄から日本の抱える国家と国境の問題を考えて身近な問題として本テーマを再認識しましょう。

受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにします。受講生の積極的な発言を期待しています。

評価方法

各回ごとに感想を含む小レポートが出されます。また、最終回には全体に関わるテストを行ないます。評価はそれらと出席点を含めて総合的に判断して出します。

テキスト、参考文献

各担当者がその都度指示します。

授業計画

（春学期）

１．古川堅治：問題提起（講座の目的と概要）

２．佐藤勘治：プエルトリコ

３．佐藤勘治：アメリカ・メキシコ国境の今

４．櫻井悠美：多文化共生社会カナダ　1

５．櫻井悠美：多文化共生社会カナダ　2

６．上野直子：国境を越える言葉　1

７．上野直子：国境を越える言葉　2

８．上村幸治：中国における民族と国境　1

９．上村幸治：中国における民族と国境　2

１０．戸邊秀明：沖縄人の南洋体験

１１．戸邊秀明：戦後沖縄の境界

１２．古川堅治：まとめ（総括とテスト）

（秋学期）

１．古川堅治：問題提起（講座の目的と概要）

２．小島優生：韓国から見た民族と国境　1

３．小島優生：韓国から見た民族と国境　2

４．櫻井悠美：多文化共生社会カナダ　1

５．櫻井悠美：多文化共生社会カナダ　2

６．上野直子：国境を越える言葉　1

７．上野直子：国境を越える言葉　2

８．上村幸治：中国における民族と国境　1

９．上村幸治：中国における民族と国境　2

１０．戸邊秀明：沖縄人の南洋体験

１１．戸邊秀明：戦後沖縄の境界

１２．古川堅治：まとめ（総括とテスト）

（春）（秋）	全学総合講座（健康をスポーツを世界を考える）	担当者	松原　裕

講義目標

大学入学以前には、いろいろと大学生活を想像していたことでしょう。それは正確に捉えていたかもしれないし、捉えていなかったかもしれません。

この講義における目標は知的刺激を与えることです。正しいかどうか、という結論は少なく、今後の皆さんの生き方の決定に参考になる事柄があれば十分です。

健康に関すること、スポーツに関すること、世界を考えることの３つがテーマです。各々が大きな事柄ですから、とてもとても講義の時間だけで全てに触れることは無理でしょうが、各ゲストの方の人間性を垣間見てもらえれば十分です。

講義概要

講義は、健康、スポーツ、世界、の３つのテーマについてゲストをお願いして行います。

健康に関しては、腰痛など体調について、応急処置について、健康生活について、理論と実技を行います。実技には、三角巾が必要です。

スポーツに関しては、クラブの在り方、スポーツビジネス、イベントなど、社会的なところで活躍中のゲストを迎えて、講義をお願いします。

世界に関しては、平和と戦争を中心として、ジャーナリストの方を迎え、アメリカ取材、パレスチナ取材の経験から伝えてもらいます。

受講生への要望

すでに生き方の決まっている人が聞いても面白くないでしょう。

集中できるように体調を整えて参加してください。

評価方法

毎時間提出のコメント、授業終了後のレポート提出、コーディネーター・ゲストとのコミュニケーション、以上を総合して評価します。

テキスト、参考文献

資料は、必要に応じて配布します。参考文献は、第１週にまとめて紹介し、必要に応じてさらに紹介します。

授業計画

Ⅰ．健康（松原・音海・河野）

第１週　オリエンテーション（松原）
　　講義予定の紹介
　　骨盤調整法・サッカーの紹介
第２週　受講票（写真添付４×３㎝）の作成
　　応急処置理論Ⅰ（音海）
第３週　応急処置・骨盤調整実技（音海・松原）
第４週　管理栄養士から（河野）

Ⅱ．スポーツ（松原・田口・中塚）

第１週　スポーツとは（松原）
第２週　スポーツと社会の関わり（田口）
第３週　総合型クラブの可能性（中塚）

Ⅲ．世界（吉田・今）

第１週　平和を考えるーヒッピー文化ー（吉田）
第２週　戦争を考えるⅠーパレスチナー（今）
第３週　戦争を考えるⅡーパレスチナー（今）
第４週　平和と戦争を考える（吉田）

Ⅳ．大座談会
　松原ほかゲストで座談会

以上、全 12 回の講義の予定です。この原稿を作成しているのが１月末のため、ゲストの都合により順番が入れ替わったり、ゲストが変わる可能性があります。

この授業では、お互いに顔の見えるコミュニケーションを図るために写真添付の受講票を提出してもらいます。

（春）	全学総合講座(環境学)	担当者	湯田　雅夫

講義目標

「環境学」は、自然科学、人文科学、社会科学すべてにわたる学際的学問です。この授業は、「環境」領域に関わっている本学の諸先生に担当していただくとともに、各界で活躍されておられる方々をお招きして、「環境」領域についての多様な考え方、アプローチ方法を学習します。
「環境学」は、単に知識を身に付ける場ではありません。入手した新たな知識を学生諸君の生活の場に活かしていくことも大切です。授業に参加するだけではなく、各回の授業テーマについて各自問題意識を持ち、自分の考えを纏めるよう努めてください。

講義概要

講義のコーディネーターは湯田（経済学部）が担当します。今年度も数多くの環境諸課題を取り上げました。１回目は、「環境学」のオリエンテーションとして環境問題全般に触れます。４回目の人文科学の領域を除き、２回目から６回目までは、主として自然科学の領域に関するものです。８回目から１２回目までは、主として社会科学の領域に関するものです。

受講生への要望

今回の授業で取り上げたテーマは、それぞれ１回の授業で完結していますが、十分な時間ではありません。この授業をきっかけに環境問題を深く学習する機会を是非持ってください。

評価方法

定期試験の成績に出席状況を加味した総合評価です。なお、定期試験は、各授業ごとに選択肢から適切なもの（言葉、数字など）を選ぶ穴埋問題です。受講生は、全問解答しなければなりません。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。参考文献もできるだけ示すように努めます。

授業計画

１　オリエンテーション
担当：湯田雅夫　経済学部教授

２　環境問題を考える前に知っておくべきこと
担当：加藤僖重　外国語学部教授

３　環境資源について
担当：秋本弘章　経済学部助教授

４　江戸に学ぶ　リサイクル社会
担当：新宮譲治　元本学非常勤講師

５　都市と環境
担当：鈴木　隆　外国語学部教授

６　環境リスク
担当：大内　功（株）損保ジャパン･リスクマネジメント
主任コンサルタント

７　環境問題と法
担当：一之瀬高博　法学部教授

８　環境と管理会計
担当：香取　徹　　経済学部教授

９　地方自治と環境
担当：伊藤為一郎　経済学部教授

１０　環境経済
担当：浜本光紹　　経済学部助教授

１１　環境政策
担当：塩田尚樹　　経済学部助教授

１２　先進企業のケーススタディ
担当：川端利保　（株）リコー 販売事業本部 MA 事業部
MQ 推進グループ 副参与

（秋）	全学総合講座(環境学)	担当者	湯田　雅夫

講義目標

「環境学」は、自然科学、人文科学、社会科学すべてにわたる学際的学問です。この授業は、「環境」領域に関わっている本学の諸先生に担当していただくとともに、各界で活躍されておられる方々をお招きして、「環境」領域についての多様な考え方、アプローチ方法を学習します。
「環境学」は、単に知識を身に付ける場ではありません。入手した新たな知識を学生諸君の生活の場に活かしていくことも大切です。授業に参加するだけではなく、各回の授業テーマについて各自問題意識を持ち、自分の考えを纏めるよう努めてください。

講義概要

講義のコーディネーターは湯田（経済学部）が担当します。今年度も数多くの環境諸課題を取り上げました。１回目は、「環境学」のオリエンテーションとして環境問題全般に触れます。４回目の人文科学の領域を除き、２回目から６回目までは、主として自然科学の領域に関するものです。８回目から１２回目までは、主として社会科学の領域に関するものです。

受講生への要望

今回の授業で取り上げたテーマは、それぞれ１回の授業で完結していますが、十分な時間ではありません。この授業をきっかけに環境問題を深く学習する機会を是非持ってください。

評価方法

定期試験の成績に出席状況を加味した総合評価です。なお、定期試験は、各授業ごとに選択肢から適切なもの（言葉、数字など）を選ぶ穴埋問題です。受講生は、全問解答しなければなりません。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。参考文献もできるだけ示すように努めます。

授業計画

１　オリエンテーション
担当：湯田雅夫　経済学部教授

２　環境問題を考える前に知っておくべきこと
担当：加藤僖重　外国語学部教授

３　環境資源について
担当：秋本弘章　経済学部助教授

４　江戸に学ぶ　リサイクル社会
担当：新宮譲治　元本学非常勤講師

５　都市と環境
担当：鈴木　隆　外国語学部教授

６　環境リスク
担当：大内　功（株）損保ジャパン･リスクマネジメント
主任コンサルタント

７　環境問題と法
担当：一之瀬高博　法学部教授

８　環境と管理会計
担当：香取　徹　　経済学部教授

９　地方自治と環境
担当：伊藤為一郎　経済学部教授

１０　環境経済
担当：浜本光紹　　経済学部助教授

１１　（未定）
担当：未定

１２　先進企業のケーススタディ
担当：川端利保　（株）リコー 販売事業本部 MA 事業部
MQ 推進グループ 副参与

（秋）	全学総合講座(童話(メルヒェン)の可能性をめぐって)	担当者	矢羽々　崇

講義目標

皆さんにとって，昔話・メルヒェンとはどういうものでしょうか？　子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものでしょうか？　これらの物語の形式は，その単純さのせいで軽視されたりもしますが，実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく，テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に，私たちの生活をも（私たちは意識していなくても）規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり，男性であれば自分の中の「おおかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。

講義概要

この講座が目標とするのは，皆さんに自分たちの中の昔話やメルヒェン，そして文学を意識し，できれば時代を「読む」可能性を見いだしてもらうことです。昔話・メルヒェンの中にある人間の原型的なもの。グリム童話ならその成立期である 19 世紀という時代の考え方。グリムが盛んに書き換えられた 20 世紀の様相。さらに今の私たちが生きる 21 世紀の価値観。こうしたさまざまなベクトルを対比しながら，21 世紀初頭に日本で生きている自分たちを相対化できる視点を持ってもらえれば，この講座はその役割を果たすことになります。講座は基本的に約 1 時間の講師による講義，残りの時間を講師とコーディネーターとの対話・参加者との質疑応答にあてます。「対話」は学問の土台です。ぜひ積極的に質疑に参加してください。

受講生への要望

積極的に参加してくれることを期待します。
私語や遅刻など，他の学生にも，（とりわけ外部からの）講師の方々にも迷惑をかける行為は厳に慎むように。

評価方法

出席(10ー20%)および学期末に行う試験(90ー80%)によって決定します。欠席が 4 回以上は評価の対象としません。

テキスト、参考文献

第 1 回授業で指示します。また，それぞれの授業でも適宜紹介します。

授業計画

詳しい内容については，第 1 回の授業で紹介します。

1．オリエンテーション（矢羽々崇：本学ドイツ語学科）
2．メルヒェン・昔話の基礎（矢羽々）
3．グリム・メルヒェンの舞台（沖島博美先生：ジャーナリスト，グリム協会理事，本学 OG）
4．昔話の語り口（小澤俊夫先生：むかしばなし研究所，筑波大学名誉教授）
5．昔話のメッセージ（小澤俊夫先生）
6．グリム・メルヒェンの成立（矢羽々）
7．昔話の国際比較（間宮史子先生：白百合女子大学助教授）
8．メルヒェンの展開 1（渡部重美先生：本学ドイツ語学科教授）
9．メルヒェンの展開 2（渡部重美先生：本学ドイツ語学科教授）
１０．メルヒェンの映像化（宮谷尚実先生：立教大学講師）
１１．現代日本におけるメルヒェンの受容（矢羽々）
１２．パネル・ディスカッション（学生＋渡部・矢羽々）

(秋)	全学総合講座(教えるという仕事)	担当者	川村　肇

講義目標

教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。

講義概要

教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。

お招きするのは、埼玉県の小中学校の現役の先生方および、さいたま教育研究所の先生を予定しています。総勢 9 名の先生方を予定しています。

それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください)。

みなさんの考える素材を提供する科目にしたいと考えています。

受講生への要望

教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎しますし、この授業はそういう諸君にも役立つと思います。

積極的、意欲的に参加してください。

評価方法

毎回の授業レポート（学んだこと、10 行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4 判用紙で 2～4 枚）と併せて評価します。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。代わりに毎回、資料を配付します。

参考文献は授業中に適宜紹介します。

授業計画

第１回　導入／『星空の中学生とともに』鑑賞（川村）
第２回　中学校という職場
第３回　現代の中学生
第４回　小学校という職場
第５回　現代の小学生
第６回　ことばを教える１
第７回　ことばを教える２
第８回　社会科を教える１
第９回　社会科を教える２
第 10 回　教えるという仕事１
第 11 回　教えるという仕事２
第 12 回　まとめ（川村）

（春）	全学総合講座(ものづくりの現場から１)	担当者	上坂　卓郎

講義目標

この講座は、企業のトップマネジメント経験者による生きた企業経営の現場をやさしく講義するものである。「ものづくりの現場」というテーマにしているが、製造業だけではなく、広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。
この講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考えたり、本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に、大学を出て働くことを通じて社会に貢献することとは何かをつかんでもらうことも意図している。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれると思われる。受講者には経営の基本知識を前提としたいが、１年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業経営に関する知識を独習し理解を深めることを期待する。
毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。
講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。

受講生への要望

- ある程度の企業や経済的な知識が前提になるので出来れば２年次以降の受講が望ましい
- 15 分以上の遅刻は認めない
- ノートを必ずとること。試験に不可欠である
- 受講については真摯な態度で臨むこと。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する

評価方法

出席状況と試験を総合して行う。後者のウェイトが高い。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。またテキストは特に定めないが、企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める（初回ガイダンスの際に紹介する)。

授業計画

第１回　科目ガイダンス

第２回　会社のしくみ

第３回 トヨタの強みーカンバン方式とは

第４回　農場から食卓までー食の安全を求めて

第５回　医療産業の難しさ・面白さー日本製薬企業のビジョンと課題

第６回　ファッションビジネスとはーアパレル産業の周辺

第７回　花王の成長戦略ーアジエンス成功の秘密

第８回　三菱レイヨンの脱繊維戦略

第９回　売れる商品づくりー自動車のマーケティング

第１０回　IT 産業の現状

第１１回　アサヒビールの海外事業戦略

第１２回　リース業と不動産ビジネスの概要

（秋）	全学総合講座(ものづくりの現場から２)	担当者	上坂　卓郎

講義目標

この講座は、企業のトップマネジメント経験者による生きた企業経営の現場をやさしく講義するものである。「ものづくりの現場」というテーマにしているが、製造業だけではなく、広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。
この講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考えたり、本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に、大学を出て働くことを通じて社会に貢献することとは何かをつかんでもらうことも意図している。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれると思われる。
受講者には経営の基本知識を前提としたいが、１年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業経営に関する知識を独習し理解を深めることを期待する。
毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。
講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。

受講生への要望

- ある程度の企業や経済的な知識が前提になるので出来れば２年次以降の受講が望ましい
- 15 分以上の遅刻は認めない
- ノートを必ずとること。試験に不可欠である
- 受講については真摯な態度で臨むこと。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する

評価方法

出席状況と試験を総合して行う。後者のウェイトが高い。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。またテキストは特に定めないが、企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める（初回ガイダンスの際に紹介する)。

授業計画

第１回　科目ガイダンス、会社の見方－財務諸表を読む

第２回　外食産業の動向－レストランビジネスの現状と課題

第３回　鉄鋼業界－原料確保の世界戦略

第４回　ブリジストン強さの秘密

第５回　ヤマト運輸躍進の背景

第６回　実践的旅行産業論－航空業界の立場から

第７回　ベンチャービジネスの現状と課題

第８回　総合商社からみた日米経営比較

第９回　出版業界の最近の動向－売れる本の作り方

第１０回　総合スーパーの勝ち組－イトーヨーカ堂の強さ

第１１回　IT 社会におけるリスクマネジメント

第１２回　非鉄金属のリサイクルビジネス－アルミ缶リサイクル

（春）	全学総合講座(働くための基礎知識－知って得する労働問題)	担当者	野村　容康

講義目標

景気回復にともない雇用情勢も好転してきている。そして、大学生の就職状況も数年前とは違ってきている。しかし若年層においては正社員の労働強化と離職率の上昇、フリーターの増加、さらには働こうとしない、教育・訓練を受けているわけでもないニートの急増も話題となっている。かつて平等社会といわれた日本においても所得格差が顕著となっているかどうかについては大きな論争点となっている。本講義においては労働をめぐる種々の問題について多用な切り口から接近し、私たちの暮らしと労働がどのように関わっているかについて考えていくこととする。

講義概要

講義は授業計画のとおり毎回ゲストスピーカーを招き行うこととする。労働組合関係者だけではなく、経営者団体代表・国際労働機関（ILO）代表・労働法学者と多彩な一流の講師から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。

受講生への要望

労働問題に関する新聞記事を読んだりテレビニュースを見て、現在何が問題となっているかを自分なりに把握しておくこと。真摯な態度で受講することを希望する。

評価方法

レポートによる。

テキスト、参考文献

各回の講義において指示する。

授業計画

1．ガイダンス　　野村容康

2．働くことの意味－労働観の変遷
　全労災協会 理事長　鷲尾悦也

3．労働法の基礎知識（1）－労働基準法他
　上智大学 名誉教授　花見忠

4．労働関係とは（1）－労働組合からみて
　連合 会長　高木剛

5．労働関係とは（2）－経営からみて
　日本経団連 専務理事　紀陸孝

6．賃金・労働時間制度
　全労災協会 理事長　鷲尾悦也

7．国際労働基準とＩＬＯ
　ＩＬＯ労働側理事(連合･国際代表) 中島滋

8．多様化する雇用制度
　全労済協会 理事長　鷲尾悦也

9．労働法の基礎知識（2）－労働基準法他
　上智大学 名誉教授　花見忠

10. 労働安全衛生－メンタルヘルスを含む
　中央労働災害防止協会 理事長　澤田陽太郎

11. 社会保障のあり方
　連合 生活福祉局長　小島茂

12. 労働組合の役割
　全労災協会 理事長　鷲尾悦也

講義の順番は変更になることがある。

（春）	全学総合講座(心と体の健康)	担当者	田口　雅徳

講義目標

今日，科学の進歩はめざましいものがあります。それらは，理学や工学などの自然科学に限定されるものではありません。人文科学や社会科学などあらゆる分野において，日々，あらたな知識が生み出されています。そして，そうした研究成果は，わたしたちの生活に還元され，直接・間接にわたしたちのくらしに影響を与えています。本講義では，日常生活のなかの身近な問題を取り上げて,それがいかに研究され，どのような研究成果があげられているのかを紹介していきたいとおもいます。そうした講義を通して，身近なものごとを深く考え，探求することのおもしろさを知ってほしいとおもいます。本講義では，とくに,「心と体の健康」というテーマを取り上げます。本講義を通して，大学生活をよりよく過ごすための基礎知識も身につけてください。

講義概要

上述しましたように,「心と体の健康」というテーマに沿って，さまざまなゲストをお招きし，講義をしてもらう予定です。ゲスト・スピーカーは家政学，建築学，宗教学，心理学などの分野でご活躍されている方々であり，それぞれのゲスト・スピーカーにご自身の研究内容，あるいは，実践活動をお話していただき，それらの講義をもとにして「こころと体の健康」についてみなさんと議論し，一緒に考えていきたいとおもいます。

受講生への要望

遅刻，および，授業での私語は厳禁です。授業における意見発表や質問は大いに歓迎します。授業に積極的に参加してくれることを期待します。

評価方法

毎回出席を確認します。また，必要に応じてレポートの提出を求めます。それらを総合的に評価して最終評価を出します。不真面目なレポートは大幅に減点します。

テキスト、参考文献

テキストはとくに使用しません。必要な資料などは配付する予定です。参考文献は適宜紹介していきます

授業計画

今期の授業計画は以下のとおりです。

1．授業ガイダンス（大学生のこころとからだ）
　担当：田口雅徳

2．進路選択と心の健康
　担当：永作稔先生（筑波大学）

3．大学生活とこころの揺らぎ
　担当：大塚秀高先生（星槎大学）

4．運動・スポーツと健康の科学
　担当：大場ゆかり（早稲田大学）

5．食と健康の科学
　担当：赤松利恵先生（お茶の水女子大学）

6．青少年のメディア・ライフ
　担当：木村文香先生（江戸川大学）

7．家づくり・町づくりから健康を考える
　担当：松井郁夫（㈱松井郁夫建築設計事務所）

8．音のある生活
　担当：夏目かおる（一音会ミュージックスクール）

9．色彩と健康
　担当：信岡万友美（ビリーブカラーオフィス）

10．香りと健康の科学
　担当：未定

11．未定
　担当：未定

12．まとめ（こころとからだの健康を考える）
　担当：田口雅徳

※ 講義順序やゲスト・スピーカーは都合により変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（自由時間設計）	担当者	和田　智

講義目標

― レジャーとは何か ―

「レジャーとは何か」について考える機会を持ってもらうことがこの授業の目的である。
「レジャー」は学生時代だけでなく、これから先、生涯を通じて考え、実践していく価値を持っている。このことに早く気づいてほしい。
実践としてのレジャーを知り、学問としてのレジャーを学ぶことによって、自分の現在、将来へ向けてのレジャーライフをデザインし、クオリティライフを実践していくことが可能となるだろう。
レジャーの真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目標にしている。

講義概要

「レジャーの現場から」では、レジャーをサポートする仕事についている方々のうち、特に私たちの目に触れにくい分野から講師を招き、講師の方々の情熱、またその実践がどのように現場で行われているのかを紹介していただく。
「私のレジャー実践」では、本学卒業生で自分の夢を達成するために努力を続け、現在発展途上にある方々の実践と、そこに至るまでの経緯を本学在学中のことから語っていただく。
「レジャーとは何か」では、学問としてのレジャーを学ぶ中で、これまで見てきた実践がどのような意味を持つのかについて考えてもらい整理するための時間となるだろう。
以上の授業を経て、まとめとして個々の学生が自分の現在から将来へ向けての自由時間をデザインしていただきたい。

受講生への要望

講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。授業への参加意識を向上させるために携帯電話を利用する。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

1 オリエンテーション
自由時間の現状
和田　智　　獨協大学准教授
2 レジャーの現場から　レジャーをサポートする
高齢者のためのレジャー
山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役
3 レジャーの現場から　レジャーをサポートする
高齢者のためのレジャー
山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役
4 レジャーの現場から　レジャーをサポートする
身障者のための義手・義足を作る
濱田美穂　NHK サービスセンター
5 レジャーの現場から　レジャーをサポートする
身障者のための義手・義足を作る
濱田美穂　NHK サービスセンター
6 レジャーの現場から　レジャーをサポートする
バリアフリースクーバダイビングを推進する
椎名克巳　株式会社東京ダイバーズ代表取締役
7 レジャーの現場から　レジャーをサポートする
バリアフリースクーバダイビングを推進する
椎名克巳　株式会社東京ダイバーズ代表取締役
8 私のレジャー実践　先輩から後輩へパワーを伝える
田中勝之・千恵　ネイチャーライター（本学卒業生）
9 私のレジャー実践　先輩から後輩へパワーを伝える
多胡光純　エアーフォトグラファー（本学卒業生）
10 レジャーとは何か
松田義幸　実践女子大学教授
11 レジャーとは何か
松田義幸　実践女子大学教授
12 まとめ　あなたの自由時間設計
和田　智　獨協大学准教授

（秋）	全学総合講座（NPO 論―人を変える・地域を変える・世界を変える）	担当者	高松　和幸

講義目標

本講義では、企業の社会貢献活動とＮＰＯの協働に関して、以下の解題を中心に、実際のさまざまな取り組みについて、臨場感あふれる様子を紹介することに主眼をおいた。

解題:「どのような条件下で企業とNPOのパートナーシップが崩れてしまうのか、逆にどのようにすれば不均衡な関係を脱することができるのか」

企業は、自社のCSR活動がもっぱら戦略的な行為としてなされるべきではなく、公共的な空間に根ざしたものとして追求されるべきで、公共的な空間を想定する必要がある。

講義概要

ドラッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとしてＮＰＯは経営学的にも注目される対象であるとして、ＮＰＯの運営において、ミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といった企業並みのマネジメントの必要性を主張した。

その背景には、もはや旧来の慈善寄付に頼っては財政的に成り立たないという、米国をはじめとする先進国のＮＰＯが直面する危機があったが、ＮＰＯが生き残りをかけて事業展開に力を入れるにつれ、あらたなパートナーとして企業に働きかけ、企業と共に地域の問題解決に向けて進む動きが見られるようになった。

企業にとってもＣＳＲを果たすべきことが求められ、その流れの中で、ＮＰＯと共にコミュニティ支援活動に乗り出す事例が増えてきた。

もとよりＮＰＯはその組織使命の遂行のために企業と協力するのであるが、ＮＰＯにとって不足しがちな経営資源（資金・人材など）を企業によって補えることから、企業への依存関係が発生するというリスクを抱えている。

企業への依存が強まると、資本拡大をめざす企業にとって好都合のように利用される可能性が増すことになるが、これもとりもなおさず公共的な使命をもつＮＰＯにとっての倫理的基盤が損なわれ得ることを意味する。

以上の結果、本講義では、講義目的の解題に挑む方向性を持ってプログラムを開発した。講師としては、企業側とＮＰＯ側の両者を交える形式を意識した。受講生には、積極的な参加を切に望みたい。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　７０％
レポート　３０％

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

第１回(9/28)　ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ　経済学部経営学科教授　高松和幸

第２回(10/5) ﾌｪｱﾄﾚｰﾄﾞと企業の CSR の連携
その可能性と問題点
ﾌｪｱﾄﾚｰﾄﾞｶﾝﾊﾟﾆｰ㈱　常務取締役　胤森なお子

第３回(10/12) 未定（打診中）

第４回(10/19) 紙製飲料容器「ｶｰﾄｶﾝ」が、地球温暖化防止に貢献
「ｶｰﾄｶﾝ」の利用は、たったひとりでも手軽に参加できる環境活動です。
森を育む紙製飲料容器普及協議会　専務理事　久保庭章夫

第５回(10/26)　未定（打診中）

第６回(11/9) 企業と NPO の“本当”のﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟとは？その１
企業から実施までのﾌﾟﾛｾｽを通じた協働のあり方
ＮＰＯ法人ﾌﾟﾗｽ・ｱｰﾂ　理事長　永田宏和
東京ガス㈱広報部社会文化ｾﾝﾀｰ　所長　後藤麻里

第７回(11/16) 企業と NPO の“本当”のﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟとは？その２
企業から実施までのﾌﾟﾛｾｽを通じた協働のあり方
ＮＰＯ法人ﾌﾟﾗｽ・ｱｰﾂ　理事長　永田宏和
東京ガス㈱広報部社会文化ｾﾝﾀｰ　所長　後藤麻里

第８回(11/23) 未定（打診中）

第９回(11/30)　企業人も地域社会との関わりを求めている
小中高校生世代向ｷｬﾘｱ教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを通しての実践例から
ＮＰＯ法人　ｷｰﾊﾟｰｿﾝ 21　代表理事　朝山あつこ

第 10 回(12/7) ﾃｰﾏは未定。
㈱アルバイトタイムス　社長　鈴木秀和

第 11 回(12/14)　未定（打診中）

第 12 回(12/21)　未定（打診中）

上記授業計画は講師の都合により変更することもあります。

（春）	全学総合講座（食文化と人間生活「日本を中心とした食文化」）	担当者	青柳　多恵子

講義目標

「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学を生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験することは意義のある事といえる。

受講生への要望

我が家の味・おふくろの味を調査（写真・レシピ）を提出

評価方法

毎回調査アンケート。
出席重視

テキスト、参考文献

プリント適宜配布

授業計画

① 4/12　青柳多恵子「ガイダンス」

② 4/19　青柳多恵子「現代日本の食育について」
給食の影響（栄養とマナー）

③ 4/26　講師未定「日本の伝統的食文化」
茶道と懐石料理

④ 5/10　青柳多恵子「現代日本の食育について」
味覚の育成と家庭料理

⑤ 5/17　講師未定「アジアの食文化」
インドと料理

⑥ 5/24　磯淵　猛「食べるお茶から飲むお茶への進化」

⑦ 5/31　朝倉敏夫「食の文化変容」
日本の焼肉と韓国の刺身

⑧ 6/7　辻　康吾「文化交流の成果」
日本のラーメン

⑨ 6/14　和田　智「キャンプと食事」
野外での楽しみ方

⑩ 6/21　柳原一成「日本料理の膳組と作法」
日本料理の色彩（いろどり）

⑪ 6/28　講師未定「日本の伝統的食文化」
普茶料理と修行

⑫ 7/5　青柳多恵子「現代食事情の問題点」
食事のマナー・栄養と疾病
食材の自給率

＊講義の順番やゲストスピーカーは都合により変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	担当者	青柳　多恵子

講義目標

「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験することは意義のある事といえる。

受講生への要望

我が家の味・おふくろの味を調査（写真・レシピ）を提出

評価方法

毎回調査アンケート。
出席

テキスト、参考文献

プリント適宜配布

授業計画

1	9/27	青柳	「食文化と人間」 動物の餌と人間の食事の違い
2	10/4	未定	「食事（暮らし）の歴史学」 食事作法の背景にあるもの
3	10/11	未定	「世界の食文化」 香辛料の歴史と食文化
4	10/18	未定	「世界の食文化」 お茶・コーヒー
5	10/25	未定	「世界の食文化」 極寒の地の食と健康
6	11/8	未定	「世界の食文化」事情」 グローバリズムな食の功罪
7	11/15	未定	「世界の食文化」」 肉食文化と魚食文化
8	11/22	未定	「日本の食文化」 日本の東西の食文化
9	11/29	未定	「日本の食文化」 故郷の家庭料理と時代変容
10	12/6	未定	「日本の食文化」寿司 祭りと行事のおもてなし料理
11	12/13	未定	「日本の食文化」 食とからだのエコロジー
12	12/20	青柳	「日本の食文化」 食卓とくらしの時代変容

（春）（秋）	全学総合講座(あなたのキャリアデザインを考える)	担当者	町田　喜義

講義目標

本講座は、昨年度から開講された本学卒業生による毎回完結の連続講義です。例えば、

① 自分自身の内面を探索する：自己発見

② 異なった環境で如何に生きるか：適応力

③ 近未来を考える：職業選択

④ 人間関係を構築する：個と集団の均衡を図る

⑤ 自己の物差しの構築：理論と実践

⑥ 大学生活をどの様に過ごすか：今、此処で

⑦ 外国語学習にどう立ち向かうか：継続は力

⑧ その他、皆さんの今後の学生生活に役立つ話題満載

講義概要

実業界、学会、法曹界、教育界、官界、芸能界、政界など各分野・社会・地域で活躍している卒業生が、後輩諸君へ語る熱きメッセージに傾聴し、同じキャンパスで過ごした学生生活を共有しながら、先輩達との絆を感じ取ってください。皆さんの今後のキャリア・デザインに役立つ講義が満載です。

このシラバスでは昨年度の講義題目を掲載しておきますので（本稿執筆時では未決定部分が多いので）参考にしてください。

なお、講師陣は昨年度は異なった顔ぶれが交代で教壇に立ちます。

受講生への要望

- 全て出席する覚悟で登録すること。
- 遅刻：開始後２０分以降は入場お断り。

評価方法

- 各講師から指示された課題レポート３編選択し提出。
- レポートの提出条件は、８／１２の出席を要する。

テキスト、参考文献

・各担当者の指示による。

授業計画

（春学期）

１．「プロローグ」
２．「異文化を越えて」＜“よいセンス”を磨くために－私ならこうする－＞
３．「ドイツ事情：企業は人なり」＜学生生活の中でのこだわり＞
４．「楽しく生きるために」
５．「中国と私」＜日中関係の現状を考える＞
６．「×社員のすすめ」＜あなたのキャリア・デザインを考える＞
７．「未知であり・新しい世界への挑戦」
８．「外資系企業の内側」
９．「社会と法律」
１０．「自分らしい生き方をみつける：～自分を知る～　～ビジネスを知る～　～社会を知る～ 」
１１．「人間と映画―ドラマは何故、発見されたか　序章―」」
１２．「今・知っておいて欲しいこと」

（秋学期）

１．「プロローグ」
２．「思いやり・気くばり・笑顔」
３．「マチ弁の仕事」
４．「獨協で過ごした４０年」
５．「新聞社を覗いてみて」
６．「会社も人間形成の場」
７．「航空業界の内側」
８．「あなたにとって天職とは？」
９．「歴史を生かしたまちづくり・次は君の出番だ」
１０．「目標設定とメリハリ」
１１．「外国語を生かした仕事」
１２．「私の歩んだ道」

（春）	全学総合講座（地域再生システム論―これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松　和幸

講義目標

「地域再生」と「まちづくり」をキーワードに、地域の活性化と地域再生を制度面から考えた授業である。我が国の地域活性化の制度としては、地域再生制度のほかに構造改革（特区）がある。特区は規制改革であり、地域再生は規制改革以外で地域を活性化させること目的に考えられた制度である。

いずれの制度も地域の創意工夫にあふれた取り組みを応援するという意味では共通しており、これらの枠組みを車の両輪として組み合わせ、地域の再生・活性化のために活用することが各地で期待されている。

本講義では、こうした取り組みについて、最先端で活躍されている講師を招いて開催する。初の試みでもあり、今後の「まちづくり」などのヒントが得られるようにしたい。

講義概要

この授業は、本学と内閣府、そして草加市のコラボレーションの結果生み出された講義である。最先端で活躍されている講師から、具体的な施策や事例などを通して講義する。

各講義の個別テーマは授業計画のとおりであるが、いま地域で問題となっている話題を中心に、テーマを選んだ。

この結果、日本の各地で起きている様々な問題を通して、地域の実情が理解できると共に、地域の課題についての新たな認識が生まれ、自分が住んでいる地域や将来住むかも知れない地域の可能性に関して、示唆にとんだ内容の講義を受けることができるばかりか、地域で求められる支援や人材に関する具体的な問題意識を得ることができる。

受講生には、積極的な質問などを歓迎したい。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　７０％
レポート　　３０％

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

1.　ガイダンス　経済学部経営学科教授　高松和幸

2.　起業家支援策
後藤芳一氏　中小企業基盤整備機構　理事

3.　日本における地域再生と特区の方向性
木村俊昭氏　内閣府地域再生事業推進室企画官

4.　中心市街地の活性化
坂井和也氏　都市再生本部企画官

5.　地域防犯の取り組み（防犯対策）
調整中　　草加市 市民生活部 市民安全課
※　埼玉県 県民防犯推進室にも講師派遣を打診中

6.　河川浄化の取り組み
調整中　　草加市 市民生活部 環境課

7.　ニート・フリーターの対策
調整中　　草加市 市民生活部 消費労政課
※　独立行政法人 雇用・能力開発機構 埼玉センターにも講師派遣を打診中

8.　高齢者に優しいまちづくり
桑田俊一氏　厚生労働省老健局介護保険課長

9.　介護保険の現状と課題
調整中　　草加市 健康福祉部 介護保険課

10.　税金と行政改革
調整中　　草加市 総務部 自治推進課

11.　男女雇用参画
未定（打診中）

12.　総括　（まとめ）

上記授業計画は講師の都合により変更することもあります。

	哲学 a(哲学の諸問題 1)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
「哲学」と聞くと、難解な学問だと思われるかも知れませんが、実は非常に身近な学問です。というのも、私たちが問うのは、「人を愛するというのはどういうことなのか」、「なぜ人を愛するのか」、「自己自身であるとはどういうことなのか」、「自由とは何か」などという問題だからです。今学期は特にこれらの問題について考えたいと思います。著名であり、なおかつ比較的易しい哲学文献を読みながら、ともに考えるという講義形式をとりますので、受講する場合には自分自身の問題として考える姿勢で臨んでください。	1. プラトンの『饗宴』における《エロース》の概念について 2. 引き続き、エロースについて 3. 引き続き、エロースについて 4. 「愛」に関するイエス＝キリストの教え 5. フォイエルバッハの『キリスト教の本質』を取り上げます 6. 前回の続き 7. ワルター・トロビッシュ『自分自身を愛する』を取り上げます 8. 前回の続き 9. サルトルの『実存主義とは何か』を取り上げ、「主体的であること」「自由であること」などについて考えます 10. 上の問題を時代とのかかわりに重点を置いて考える予定です 11. 前回の続き 12. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
インターネットから資料をダウンロードできるようにします	学期末に試験を行ないます

	哲学 b(哲学の諸問題 2)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
この学期は「歴史」に注目して、「今を生きる」とはどういうことかを考えます。ヨーロッパの思想を取り上げますので、ユダヤ・キリスト教的歴史観から説き起こし、近代の啓蒙思想、ヘーゲルの歴史哲学、マルクスの唯物史観、ニーチェのニヒリズムの克服について紹介していきます。ただし、全体を通じて問われているのは、私たちはどう考えているのか、ということです。 《注》春学期と継続的に受講する必要はありません	1. ユダヤ・キリスト教的歴史観について 2. ホッブスの社会契約論 3. ロックの社会契約論 4. ルソーの社会契約論 5. ヘーゲルの歴史哲学[1] 6. ヘーゲルの歴史哲学[2] 7. マルクスの唯物史観[1] 8. マルクスの唯物史観[2] 9. ニーチェの生涯 10. ニーチェの思想──神の死 11. ニーチェの思想──ニヒリズムの問題 12. ニーチェの思想──永遠回帰と超人
テキスト、参考文献	**評価方法**
インターネットから資料をダウンロードできるようにします	学期末に試験を行ないます

	倫理学 a (倫理の基本について考える)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識が出てきたりしたとき、この「なぜ」がでてくる。倫理に対する学問的問いかけが生まれるのである。近代という時代はこの倫理的問いかけを、啓(軽)して遠ざけてきた。しかし、倫理への問いは最近再び脚光を浴びてきている。良識が揺らいでいるのである。 講義では、倫理における「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。その上で、倫理思想の歴史を簡単にたどり、現代倫理を代表する自由主義と功利主語をとりあげる。	1)哲学と倫理学 2)非倫理の時代か倫理の時代か 3)倫理とは(1)……「倫理」という言葉から考える 4)倫理とは(2)規範として……習俗と倫理 5)倫理とは(2)規範として……法と倫理 6)倫理とは(3)価値として……事実と価値の問題 7)倫理とは(3)価値として……欲求から倫理的価値へ 8)倫理とは(4)行為への問い……動機主義と結果主義 9)倫理とは(5)……まとめ 10)倫理思想史をふりかえる 11)現代の倫理(1)……功利主義 12)現代に倫理(2)……自由主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

	倫理学 b (環境と生命の倫理)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方では人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいは殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。この両者を見据えながら、伝統的な人間観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境論理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。	1)「倫理問題」とは？……応用倫理について 2)生命をめぐる状況……「医療化社会」批判 3)生命倫理の前線(1)　医療倫理から生命倫理へ 4)生命倫理の前線(2)　中絶、生殖医療の問題 5)生命倫理の前線(3)　安楽死問題 6)生命倫理の前線(4)　臓器移植の問題 7)環境倫理の世界(1)　環境保護とはどういうことか 8)環境倫理の世界(2)　生態系価値を中心にする思想 9)環境倫理の世界(3)　自然物の権利を中心とする思想 10)環境倫理の世界(4)　地球的公正の倫理 11)環境倫理の世界(5)　世代間の倫理 12)まとめ……環境への倫理的視点を取り戻す道
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

	倫理学 a(倫理学と人間性)	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から近世に至る倫理学の学説を広く概観する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。 倫理学概説Ｉでは、東洋では古代の中国、西洋では古代ギリシャの夫々に思想家における倫理思想を扱うことから始める。中世の倫理思想および仏教、キリスト教、およびイスラム等の世界三大宗教の倫理思想、およびカント・ヘーゲル等の近世までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。そして、その自分の立場および見解を論理的に表現することのできるようにできる練習も同時にする。	１．古代中国の倫理思想（老子、荘子、孔子、孟子） ２．古代中国の倫理思想（告子、墨子、荀子、韓非子） ３．古代ギリシャの倫理思想（ソクラテス、プラトン、アリストテレス） ４．古代ギリシャ、ローマの倫理思想（エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス） ５．中世の倫理思想（アウグスチヌス、アベラール、トマス・アクィナス、オッカム、ドンス・スコトゥス） ６．ディスカッション（人間とは何か） ７．宗教と倫理（仏教倫理と儒教倫理） ８．宗教と倫理（キリスト教倫理とイスラム倫理） ９．近世の倫理思想（デカルト、ホッブス、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン） １０．近世の倫理思想（ヒュームとカント） １１．近世の倫理思想（カントとヘーゲルとキェルケゴール） １２．ディスカッション（人間として何をすべきか、幸福と自然）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	授業への貢献度と学期末の試験

	倫理学 b(現代倫理学の諸問題)	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、近世から現代に至る倫理学の学説を広く概観する。同時に現代の自然科学の発展と医学の進展がもらした、現代に特有の自然科学者の倫理問題、技術開発に伴う倫理、医療およびその基礎そにある生命倫理につての考察も習得する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。 東洋では日本の近現代の倫理思想および近代生活への浸透に伴う進化論の影響とそれに基づく倫理思想、および現代にまで続くニヒリズム思想までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。	１．日本の倫理思想（儒学と明治思想と和辻哲郎） ２．進化論と倫理思想（ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス） ３．ニーチェとニヒリズム ４．私と汝（ブーバーと西田幾多郎） ５．社会主義倫理と資本主義倫理 ６．ディスカッション（ひとは何故ひとを殺してはいけないのか） ７．自然科学と倫理 ８．技術と倫理 ９．医療と倫理 １０．環境と倫理 １１．自然とは、地球とは １２．ディスカッション（いのち）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	授業への貢献度と学期末の試験

	社会思想史ａ（東洋古代から近世まで）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史ａでは、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。	１．（インド）アーリア人とヴェーダの宗教 ２．（インド）バラモン教とウパニシャッド哲学の思想 ３．（インド）ジャイナ教とウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 ４．（インド）仏教とヒンドゥー教の思想 ５．（中国）孔子と論語の思想と墨子の兼愛 ６．（中国）老荘思想と荀子、韓非子 ７．（中国）儒教の革新–宋学の勃興 ８．（中国）宋学の大成–朱子とその周辺 ９．（日本）古事記、日本書紀と神道 １０．（日本）仏教の伝来と鎌倉仏教思想 １１．（日本）道元と親鸞 １２．（日本）宣長と仁斉と徂徠
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	授業への貢献度とレポートによる評価

	社会思想史ｂ（東洋近世から現代まで）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史ｂでは、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。	１．（インド）回教の侵入と伝統的インド思想の変化、とシーク教 ２．（インド）近代西洋とインド文化 ３．（インド）ガンジーとタゴール ４．（中国）明学と清学 ５．（中国）資本主義と共産主義 ６．（中国）現代と儒教思想、 ７．（日本）江戸期の思想 ８．（日本）明治維新期の思想 ９．（日本）福沢諭吉、西周、中江兆民 １０．（日本）京都学派の哲学 １１．（日本）現代の思想状況と西欧との関係 １２．東洋思想史の現代における意味
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	授業への貢献度とレポートによる評価

	社会思想史 a (市民的社会像の黎明期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期（a）では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗、またそれの変革のなかで社会認識の新しい軸が形成される時期である。 後期の講義にまでつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「社会というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。	1)「社会」とは何だろうか 2)「市民社会」の原型と近代的再生 3)ルネッサンスと都市 4)マキャベリと『君主論』 5)ユートピアという思想 6)トマス・モアと『ユートピア』 7)中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 8)ルターの改革運動と神学 9)ルターの経済思想。 10)カルヴィニズムの宗教思想 11)カルヴィニズムと近代的エートス 12)まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『社会思想の歴史』渋谷一郎　八千代出版 参考書　講義で指示	期末の試験による。

	社会思想史 b (市民的社会像の確立期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業が思想家達によってはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりにして社会契約という考え方が生まれ、社会は個人の自然権を守るための装置として認識されることとなる。同時に、その自然な人間の活動が経済のレベルでとらえられ、国家とは区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。	1）西欧自然法思想の流れ 2）社会をめぐる自然と作為(1)……ホッブズの利己心 3）社会をめぐる自然と作為(2)……ホッブズの国家観 4）個人を守ること(1)……ロックの所有的個人主義 5）個人を守ること(2)……ロックの政治的自由主義 6）個人と社会の一体化(1)……フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ） 7）個人と社会の一体化(2)……ルソーの歴史認識とデモクラシー 8）社会は自然に発生する(1)……ヒュームの道徳感情論と自然法批判 9）社会は自然に発生する(2)……スミスの市場的社会思想 10）社会的に生きる(1)……社会主義の思想 11）社会的に生きる(2)……マルクスの思想 12）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『社会思想の歴史』渋谷一郎　八千代出版 参考書　講義で指示	期末の試験による。

	心理学 a(知覚・認知)	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚・認知を中心に講義をします。 心理学 a（知覚・認知）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学 b（行動・個性）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス　心理学では心をどのように理解しようとしたか 2. 個体と環境　心理学のもののとらえ方 3. 物理的世界と心理学的環境 4. 感覚の世界 5. 主観のものさし 6. まとまりのある知覚世界(1) 7. まとまりのある知覚世界(2) 8. 認知的判断 9. 判断と意志決定 10. 態度形成とダイナミクス 11. 社会的現実の構築 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 手軽な入門書として以下の２冊を紹介します。 大山　正ほか（著）『心理学のあゆみ（新版）』有斐閣新書	定期テストと随時行う出席調査を兼ねる小レポートなどによります。

	心理学 b(行動・個性)	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動するか、動物も含めて行動変容のダイナミズムを講義します。また、個性はどのように理解され、それはどのように測定されてきたかを考えます。 心理学 b（行動・個性）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学 a（知覚・認知）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス　行動を理解するために 2. 環境への適応様式 3. 生得的行動・獲得的行動 4. 遺伝的に規定された行動 5. 行動の変容（１）レスポンデント行動 6. 行動の変容（２）オペラント行動 7. 行動分析学とその応用 8. 個性をどのように理解するか 9. パーソナリティをいかに測定するか 10. パーソナリティのダイナミクス 11. 個性はどのように形成されるのか 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 手軽な入門書として以下の２冊を紹介します。 大山　正ほか（著）『心理学のあゆみ（新版）』有斐閣新書	定期テストと随時行う出席調査を兼ねる小レポートなどによります。

	心理学 a(人間の行動･認知･感情の共通法則)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介します。 心理学の視点から大学生を見ていると、１）自分の価値や個性を認め、自尊心を高めること。２）友人関係を大切にし、コミュニケートするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を身につける必要があると、先ず言いたいと思います。また、心理学は自分を知ることが研究目的の１つであり、且つ、その自分が研究対象でもあるという、学問として特異な特色があります。 この授業では、１）自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、２）心理学の視点から、自分の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直すこと、３）心理学から考えた、将来の職業（仕事）と自分の関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。 前期の「心理学ａ」では、教科書の前半に当たる、感覚・知覚・認知の心理、行動・学習の心理、モティベーション（動機づけ）や感情の心理学の３側面に焦点を当てて学ぶ予定です。	１．ヒューマン・サイエンスとしての心理学：歴史、研究対象と方法、動向などの心理学への導入。 ２．感じる／考える（感覚と知覚・認知）：人間の感覚受容器や脳、感覚と知覚の仕組みや特徴について。 ３．感じる／考える（つづき）：顔や原因の認知（原因帰属)、認知や記憶の情報処理モデルなど。 ４．感じる／考える（つづき）：環境心理学、工業デザインなどについて。 ５．動く／変わる（行動と行動獲得・変容）：学習の基礎、条件づけ、強化の随伴性、モデルを媒介とした観察学習など。 ６．動く／変わる（つづき）：進化と人間行動、利他行動や協力、殺人と自殺等について。 ７．動く／変わる（つづき）：教わることと学ぶことの違い。自律・協同学習と学習環境デザインなどについて。 ８．もえる／動かす（モティベーション）：動機づけの基礎概念、生理的ホメオスタシス、学習動機などについて。 ９．もえる／動かす（つづき）：達成動機と対人社会性動機。対人行動／責任行動などについて。 １０．もえる／動かす（つづき）：欲求不満、葛藤、ストレス。無気力（学習性無力感）などについて。 １１．もえる／動かす（つづき）：内発的動機づけと意欲を高める自己原因性、有能感などについて。 １２．まとめと残された問題。
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	試験で評価する。授業への出席は前提です。しかし、出席は義務ではなく、学生の権利と考えています。従って、出欠を取るかどうかは、最初の授業時に決めます。

	心理学 b(人間の個性･多様性理解)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介します。 心理学の視点から大学生を見ていると、１）自分の価値や個性を認め、自尊心を高めること。２）友人関係を大切にし、コミュニケートするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を身につける必要があると、先ず言いたいと思います。また、心理学は自分を知ることが研究目的の１つであり、且つ、その自分が研究対象でもあるという、学問として特異な特色があります。 この授業では、１）自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、２）心理学の視点から、自分の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直すこと、３）心理学から考えた、将来の職業（仕事）と自分の関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。 後期の「心理学ｂ」では、教科書の後半に当たる、パーソナリティ（性格・知能・創造性)、生涯発達心理学、社会心理学に焦点を当てて学ぶ予定です。 以上、一年間を通じて、ヒューマン･サイエンス（Human Sciences）の中核として、心理学の科学的人間研究の一端を学んでほしいと考えています。	１．後半の導入：前期のまとめと導入。後期の視点についてなど。 ２．きわだつ／できる（パーソナリティ）：性格検査から何が言えるのか。何故そう言えるのか。 ３．きわだつ／できる（つづき）：パーソナリティ理論は多様な人間性のモデルである。 ４．きわだつ／できる（つづき）：知能とは。知能と創造性の違い。対人関係の社会的・スキルとは。 ５．育つ／育てる（発達）：ビッグネームの多様な発達理論。生涯発達視点など ６．育つ／育てる（つづき）：生育初期の重要性。アタッチメントとは。 ７．育つ／育てる（つづき）：青年期のアイデンティティ。発達支援、世代間伝達などについて。 ８．育つ／育てる（つづき）：高齢化社会。生き甲斐と有能感。well-beingとは何か。 ９．かかわる／競う（社会）：社会心理学的自己の視点とは。自己開示／自己提示とは。 １０．かかわる／競う（つづき）：集団と個人、変革期のリーダーシップとは何か。 １１．かかわる／競う（つづき）：態度と態度変化。説得的コミュニケーションなどについて。 １２．まとめ：各人の違いを認めたうえで、健康で、幸福なサクセスライフを生きるために、心理学から何が言えるか。どんな課題が残されているか。
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	試験で評価する。授業への出席は前提です。しかし、出席は義務ではなく、学生の権利と考えています。従って、出欠を取るかどうかは、最初の授業時に決めます。

	言語学 a(一般言語学)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する．ここでは言語学の応用的領域を取り上げ，社会における言語の機能を理解すると共に，その背景にある基本的な考え方を学ぶ．主として英語を対象言語とするが，必要に応じて他の言語も扱う．また，言語学の周辺領域（考古学・医学・物理学・電子工学・数学）における言語研究にも言及する． 参考資料の事前読了および授業用 WWW サイトの参照を前提とする．	1.　話し言葉と書き言葉 ―言葉は約束事　ー言語学の研究対象，言語を記録する体系，ローマ字表記 2.　動物の言語と人間の言語 ―チンパンジーも言葉が話せる？ ーWashoe，Sarah，Ai，Kanji に見る動物のコミュニケーション 3.　言語と脳 ―失われた言葉を取り戻す　ー心理言語学と大脳生理学 4.　子供の言葉の発達 ―どのようにして言語を習得するか？ ー第 1 言語の発達過程 5.　外国語の上達 ―どのようにしたらうまく話せるようになるか？　ー第 2 言語の習得理論 6.　音と音声 ―カテゴリーができるまで　ー調音音声学と音韻論，音響音声学 7.　統語論 ―「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述　ー構造主義文法，生成文法，その他の文法 8.　形と意味 ―発話に意味を込める　ー意味論，語用論 9.　会話の原則 ―言葉の適切な使い方　ー談話分析 10.　言語と社会 ―言葉の多様性と普遍性　ー社会言語学 11.　世界の言語とその系統 ―言語の進化と分類　ー言語の系統（印欧・非印欧），言語と人類の発達 12.　コンピューターと言語 ―近未来の言語研究　ー人工知能，機械翻訳，コーパス言語学
テキスト、参考文献	**評価方法**
G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館，1987；ISBN: 4-469-21145-1) 参考文献は授業開始時に指示する．	定期試験及び授業中の課題．

	言語学 b（一般言語学）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある．メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり，文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである．この授業では言語の基本的な構造を取り上げ，理論的枠組みを理解すると共に，ハンズオン的学習を通して言語資料の分析練習を行う．対象言語は英語を初め各国語にわたる．	1.　形態論（1）（分綴法） 2.　形態論（1）（接辞，屈折・活用） 3.　音声学・音韻論（1）（発音記号） 4.　音声学・音韻論（2）（音素・異音，発音の変異） 5.　音声学・音韻論（3）（強勢・イントネーション） 6.　音声学・音韻論（4）（生成音韻論） 7.　統語論（1）（IC 分析，句構造規則） 8.　統語論（2）（構造形成，語順，格） 9.　意味論（1）（上位概念・下位概念，同意語・反意語） 10.　意味論（2）（メタファー，指示） 11.　語用論（限定，言語行為，話題化） 12.　談話（談話構造，スクリプト，スキーマ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Paul R. Frommer & Edward Finegan, *Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 2nd ed.* (Harcourt Brace College Publishers, 1999; ISBN: 0-15-507826-7) 参考文献は授業開始時に指示する．	定期試験及び授業中の課題．

	言語学 a(応用言語学)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である。本講義では応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語と認知、言語と社会、言語の習得、維持、喪失、そして言語学習の 4 領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 課題（主にリーディングとそのジャーナル）をしてきたことを前提とした講義である。	第１週：概論 第２～３週：言語と認知― 動機 ― 学習ストラテジー ― 個別性 ― 脳 第４～５週：言語と社会― 社会言語学 ― バイリンガリズム 第６～７週：言語の習得、維持、喪失 第８～11 週：言語と教育― 教室第二言語習得 ― スキル（リーディング、スピーキング、リスニング、ライティング） ― 評価 第 12 週：総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
第二言語習得研修の現在―これからの外国語教育への視点（小池生夫編集主幹、大修館書店） An Introduction to Applied Linguistics (Nobert Schmitt ed., Hodder Arnold) The Handbook of Applied Linguistics (A. Davies & C. Elder, Blackwell Publishing) 外国語教育大辞典　Encyclopedic Dictionary of Applied Linguistics（岡秀夫監訳、大修館書店）	リーディングジャーナル（３０％）、レポート（２０％）、小テスト（１０％）、期末テスト（４０％）

	言語学 b(第二言語習得)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、第二言語習得を説明する主要な理論について理解を高めることを目的とする。そして、この分野における専門用語を日英両方で認識する。また、これらの理論をどのように語学教育に応用していくかを考える。 学習者言語、習得メカニズム、学習者にかかわる要因、及び指導方法と指導環境の４領域を中心に進めていく。 言語学 a（応用言語学）を履修していることが望ましい。7 課題（主にリーディングとそのジャーナル）をしてきたことを前提とした講義である。	第１週：概論 第２～３週：学習者言語― 中間言語（interlanguage） ― 誤答分析（error analysis） 第 4～6 週：習得メカニズム― 発達パターン（developmental patterns） ― インプット仮説（input hypothesis） ― インタラクション仮説（interaction hypothesis） ― アウトプット仮説（output hypothesis） ― 注意（attention） ― 転移（transfer） 第７～８週：学習者にかかわる要因― 臨界期説（critical period hypothesis） ― しきい説（threshold hypothesis） ― 化石化（fossilization） ― 動機づけ（motivation） ― 学習者の自律（autonomous learner） 第９～11 週：指導方法と指導環境― タスクに基づく指導法（task-based language teaching; TBLT） ― CALL (computer assisted language learning) ― 早期教育（early education） ― イマージョン（immersion） 第 12 週：総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
第二言語習得序説―学習者言語の研究 The Study of Second Language Acquisition（ロッド・エリス著　金子朝子訳、研究社）及び教師作成リーディングパケット他 ことばを学ぶ一人ひとりを理解する第二言語学習と個別性（津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ編、春風社） The Study of Second Language Acquisition (Rod Ellis, Oxford University Press) 文献からみる第二言語習得研究（JACET SLA 研究会編著、開拓社） 第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法（村野井仁、大修館書店）	リーディングジャーナル（３０％）、自己分析（１０％）、レポート（１０％）、小テスト（１０％）、期末テスト（４０％）

	言語学 a(個別言語学－英語)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする．また，これと並行して英語の実践的運用能力を高めることにも関連づける．それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後，実際に当該項目が習得されるよう訓練を行う．講義支援システムを利用して集中的学習を行う予定．扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論などがある．随時，日本語との対照学習を取り入れ，外国語としての英語学習が容易になるよう試みる． 授業外における練習課題の遂行と学習記録の継続が強く求められる．	1. スタディースキル（辞書利用法・ノートの取り方等） 2. 発音記号・スピーチクリニック・フォニックス・韻律（1） 3. 発音記号・スピーチクリニック・フォニックス・韻律（2） 4. 音声学・音韻論（1） 5. 音声学・音韻論（2） 6. 形態論・語形成（1） 7. 形態論・語形成（2） 8. 統語論（1） 9. 統語論（2） 10. 意味論・語用論（1） 11. 意味論・語用論（2） 12. コーパス研究
テキスト、参考文献	**評価方法**
石黒昭博他，『現代英語学要説』（南雲堂，1987；ISBN: 4-523-30047-X） 参考文献は授業開始時に指示する．	定期試験及び授業中の課題．

	言語学 b(個別言語学－英語)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
前半は英語の歴史の概観を通して，英語世界がいかに成立し，どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ．視聴覚資料を補助的に用い，学習を支援する．また，英語史に関連する観光スポットを随時紹介する． 後半は英語を特徴づけ，他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ，現代社会における英語の位置づけを学ぶ．受講者による調査とプレゼンテーションの機会を多く設け，主体的な問題意識の掘り起こしを行う． 参考資料の事前読了および授業用 WWW サイトの参照を前提とする．	1. 英語以前 ―ゲルマン語族の成立 2. 伝説時代の英語 ―古英語とその社会 3. 英語の夜明け ―中世とは？そしてその英語 4. 英語の充実 ―初期近代英語とイギリス社会の発展 5. 英語の黄金期 ―近代英語とヴィクトリア朝文化 6. 英語の多様性 ―イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異） 7. 語彙・語源 ―本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング 8. 英語の文法の特徴 ―語順・修飾・統御 9. 英語の発音と綴り ―大母音推移・発音・文字・正書法 10. 英語の談話構造 ―パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 11. 社会的変異 ―社会階層・レジスター・ジャンル 12. 英語使用の現状 ―公用語・第 2 言語・英語学習・辞書
テキスト、参考文献	**評価方法**
R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, *The Story of English: Special Complete Edition*（マクミランランゲージハウス，1989；ISBN: 4895850242） 参考文献は授業開始時に指示する．	定期試験及び授業中の課題．

	文学 a(恐怖の日本文学)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 〔講義概要〕 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 〔受講生への要望〕 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	恐怖の現代文学 ①　恐怖の現代文学のアウトライン ②③④ 伝統的手法による恐怖の造形 荒俣宏。京極夏彦。坂東眞砂子。ほか ⑤　⑥ 超自然的事象の題材からの造形 梅原克文。鈴木光司。瀬名秀明。ほか。 ⑦　⑧ 心理学的な題材からの造形 貴志祐介。桐野夏生。ほか。 ⑨　⑩ 社会派ミステリー 宮部みゆき。東野圭吾。ほか。 ⑪　⑫ スプラッター。パズラー。ほか。 ⑬以降　総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート。定期試験。

	文学 b(癒しの日本文学)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 〔講義概要〕 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 〔受講生への要望〕 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	癒しの現代文学 ②　癒しの現代文学のアウトライン ③　③　④　⑤ 人間関係による癒しの造形 【家族編・友人編・恋人編】 重松清。恩田陸。浅田次郎。市川拓司。村上龍。 村上春樹。ほか。 ⑥　⑦ 日常のリセットによる癒しの造形 庄司薫。宮本輝。山田詠美。ほか。 ⑧　⑨ 笑いによる癒しの造形 奥田英朗。佐藤多佳子。ほか。 ⑩　⑪ タイムスリップによる癒しの造形 北村薫。浅田次郎。佐藤正午。宮部みゆき。ほか。 ⑫ 美しい生き方による癒しの造形 藤沢周平。浅田次郎。ほか。 ⑬以降　総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート。

	文学ａ（スペイン文学）	担当者	野々山　ミチコ

講義目的、講義概要	授業計画
1988 年にノーベル賞を受賞したスペインの作家カミーロ・ホセ・セーラによる紀行文「アンダルシア紀行」を読む。アンダルシアはスペインの中の異国、イスラム文化を誇る特異な地方である。 じっくりと文章を味わいつつこの地方の文化の理解を深めたい。そのためビデオも使用する。	1. 第一章 2. 第二章 3. 第三章 4. 第四章 5. 第五章 6. 第六章 7. 第七章 8. 総括 章の長さにより進度は多少違う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
カミロ・ホセ・セラ 『アンダルシア紀行』　彩流社　1999 年	各章について感想文のレポートを提出。よいものは皆で味わう。各学科ごとに宿題を求める（一学期 3～4 回）一度小テストで全編を読んだかどうかを確認。

	文学ｂ（イスラムスペイン文学）	担当者	野々山　ミチコ

講義目的、講義概要	授業計画
現代スペインのベストセラー作家アントニオ・ガラによるスペイン最後のスルタン、ボアブデイル王の伝記を読む。レコンキスタ（国土再征服）はスペイン史における栄光ある一幕だが、作家は敗者イスラムの王の視点から国土再征服とは何だったかを問い直す。イスラム圏とキリスト教圏の戦いは現代的問題でもあり考えさせる作品である。	部分部分にわけて感想文を提出してもらう。問題意識のあるものを皆で読んで討議したい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
アントニオ・ガラ 『さらば、アルハンブラ』　彩流社　2007 年	レポートによる。ただし 1・2 度授業内テストも行う。

	文学 a(日本文学一奈良時代の文学を読む)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)`中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テクストについて講義する。  講義概要 奈良時代の文学テクストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話`伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話-風土記の水江の浦島子の伝説を題材として、上代と現代の人々の考え方(特に自然観)の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代のファンタジーの作品として、宮崎駿の「もののけ姫」についても扱うことを予定している。なお、文学 a(日本文学一上代から中古前期)とは内容が重なるものなので、受講できない。	1 はじめに 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 6 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 7 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 8 ギルガメシュ叙事詩を読む 9 水江の浦島子伝説を読む① 10 水江の浦島子伝説を読む② 11 水江の浦島子伝説を読む③ 12 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

	文学 b(日本文学一平安時代の文学を読む)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 平安時代の文学テクストの代表的なものは、古今和歌集・伊勢物語。枕草子・源氏物語である。この中で、古今和歌集・枕草子は時間の関係上取り扱わない。取り扱う作品は、伊勢物語における業平の二つの罪、源氏物語における光源氏の罪である。また、鎌倉時代のテクストとなる平家物語における平清盛の罪について、関連事項として取り上げたい。この三つの物語を通して、中古と現代の人々の考え方(特に罪についての考え方〕の違いについて話をしていきたい。 なお、「文学 b(日本文学一中古後期から現代)」とは内容が重なるものなので、受講できない。	1 はじめに 2 伊勢物語を読む① 3 伊勢物語を読む② 4 伊勢物語を読む③ 5 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 源氏物語を読む③ 8 源氏物語を読む④ 9 平家物語を読む① 10 平家物語を読む② 11 平家物語を読む③ 12 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

	歴史学ａ（「15 年戦争」をどうとらえるか）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこの国にまけたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えを見ると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、首相の靖国神社参拝問題にもみられるように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。 そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。	1　8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2　真珠湾からか、コタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　加害の問題①―731 部隊とは何か 6　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 7　加害の問題③―強制連行と従軍慰安婦 8　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 10　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 11　兵士と民衆③―荷担と抵抗をめぐって 12　まとめとして―戦争の全体像を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定

	歴史学ｂ（戦後史の中の「15 年戦争」）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
「15 年戦争」は、戦後 60 年を越えた今日でも、日本と中国、韓国の間で問題になっているように、日本の社会に大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということが絡んでいる。たとえば、戦後の日米関係が、賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。 秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。	1　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2　本土決戦と日本の戦争の終わり方 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　サンフランシスコ講和のもった問題 5　内外での補償・賠償をめぐって 6　日本とドイツの戦後補償 4　東京裁判をめぐって 7　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8　日中国交回復への道のり 9　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 10　アジアの民衆からの戦後補償要求 11　戦後 50 年の国会決議をめぐって 12　過去の戦争と現代の戦争
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定

	歴史学 a(イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 （講義概要） 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。	1　イスラームの基本を説明する。 2　イスラーム誕生以前の西アジア世界について考える。 3　預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、時代背景について考える。 4　最初の４人のカリフ（正統カリフ）の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5　ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6　アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7　聖典であるコーラン。預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。 8　アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9　アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10　マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11　ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 12　同　その２
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。

	歴史学 b(イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 （講義概要） 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても，理解が深められるようにしたい。	1　オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2　欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3　西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4　さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5　エジプトの近代化とその過程について。考える。 6　トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7　近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8　知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9　近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10　今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティーの問題もとりあげる。 11　現在のアラブ諸国のかかえる問題，東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12　まとめをおこなう
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。

	歴史学 a(中国近代史概説－清朝国家の黄昏)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代の東アジア世界をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半，中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間，王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して，当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1　清朝体制の光と影 2　アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 3　太平天国 4　体制の反撃 5　洋務運動 6　中体西用の諸相 7　開港場の社会と経済 8　農村社会の変容 9　周辺地域宗主権の喪失 10　日清戦争 11　変法改革と戊戌の政変 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
菊池秀明『中国の歴史 10　ラストエンペラーと近代中国　清末　中華民国』講談社，2005 年。	期末試験による。

	歴史学 b(中国近代史概説－近代国家創成の試み)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代の東アジア世界をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々，さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し，また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら，中華民国期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1　義和団の蜂起 2　革命派の台頭 3　地方自治の試み 4　王朝体制の崩壊 5　民国の混迷 6　五四運動 7　第一次国共合作 8　北伐と南京国民政府の成立 9　国民政府の近代化政策 10　民国期の農村社会 11　民国期の非漢族社会の動向 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
菊池秀明『中国の歴史 10　ラストエンペラーと近代中国　清末　中華民国』講談社，2005 年。	期末試験による。

	歴史学 a(ヨーロッパの歴史－統合と分裂の視点から)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ２１世紀の人間社会は一体どのような道を歩もうとしているのか？また、その中で国家という枠組みはどうなっていくのか？本講座は、そのような問題意識のもとに、副題として「ヨーロッパの歴史」と銘打ち、分裂と統合の視点からその歴史を通観し、今日のヨーロッパ連合（ＥＵ）がどのような思想的系譜から生み出され、かつまた、いかなる発展の可能性を秘めているのかを考えることを主目的としています。 ＜講義概要＞ 講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマをビデオや映画、ＤＶＤなどもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと思います。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出ることが期待されています。なお、春学期に少なくとも１回の討論会を催す予定にしています。	１．はじめに（歴史を学ぶ意味、今なぜヨーロッパか？） ２．ヨーロッパとは何か？（「ヨーロッパ」の概念規定） ３．古代地中海世界とヨーロッパ（その１：古典文明とヨーロッパ人の意識） ４．古代地中海世界とヨーロッパ（その２：民主主義理念の系譜） ５．古代地中海世界とヨーロッパ（その３：ヨーロッパにおける古代ローマの遺産） ６．統一ヨーロッパ構想の起点（「ヨーロッパ合衆国」の原型とフランク王国） ７．最初のヨーロッパ統合（中世ヨーロッパをとらえる視点） ８．討論会（テーマや開催の仕方は授業中に指示する） ９．第二のヨーロッパ統合（その１：近代以前のヨーロッパ統合の思想的系譜） １０．第二のヨーロッパ統合（その２：近代以後のヨーロッパ統合の思想的系譜） １１．ヨーロッパ統合の歴史的意義（共存の新しい枠組？） １２．まとめ（ヨーロッパ統合と日本）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布します。なお、参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する予定です。	期末のレポート、数回の小レポート、討論会への参加度、出席点を加味して総合的に評価します。

	歴史学 b(バルカン情勢の現在－地域・国家・民族の視点から)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ２１世紀の人間社会はどのような道を歩もうとしているのか？その中で国家という枠組みはどうなっていくのか？本講座はそのような問題関心から、副題として「バルカン情勢の現在」と銘打ち、ヨーロッパの不安定要因の一つであったバルカン地域をとりあげ、その地域における諸国家、諸民族、諸地域の協力のあり方を考えることによって、新しい共存の可能性をさぐることを目的としています。 ＜講義概要＞ 講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマのビデオや映画、ＤＶＤなどの映像史料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと思います。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとにに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出ることが期待されています。なお、秋学期に少なくとも１回の討論会を催す予定にしています。	１．はじめに（地域研究の意義と方法） ２．オスマン帝国の支配と民族問題（その１：バルカン前史とオスマン帝国の進出） ３．オスマン帝国の支配と民族問題（その２：フランス革命とバルカン地域の民族意識の形成） ４．バルカン地域における民族運動の展開（その１：民族的統合の諸契機） ５．バルカン地域における民族運動の展開（その２：バルカン諸民族の独立と対立） ６．バルカン地域の民族問題の諸類型（国内民族対立、分割の再統合、少数民族） ７．討論会（テーマや開催の方法は授業中に指示する） ８．バルカン地域の諸問題の現状（その１：マケドニア共和国をめぐる問題） ９．バルカン地域の諸問題の現状（その２：コソボ問題） １０．バルカン地域の諸問題の現状（その３：キプロスの再統合とトルコのＥＵ加盟問題） １１．バルカン地域の将来（連邦構想と地域協力の動き） １２．まとめ（現代世界の課題：地域協力と地域統合）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布します。なお、参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する予定です。	期末のレポート、数回の小レポート、討論会への参加度、出席点を加味して総合的に評価します。

	歴史学ａ（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。	1. アメリカ経済のユダヤ・パワー；同族人脈ネットワークと資金力 2. ユダヤ人大富豪が集中する最新の稼ぎ場；情報・通信とメディア産業 3. 貧しいユダヤ移民の資産形成の花道；不動産、小売業 4. 業界シェアの過半を占める伝統的ユダヤ・ビジネス；玩具、化粧品、カジノ、観光業 5. ウォール街の顔役たち；金融ビジネスのユダヤ人 6. なぜ彼等は成功したのか、ユダヤ人大富豪の人使い 7. ユダヤ教とユダヤ人の歴史的体験は彼等の企業家的成功とどの様なかかわりがあるのか 8. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 9. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書 680 円） 『アメリカ経済のユダヤパワー』佐藤唯行（2001 年　ダイヤモンド社 1700 円）	評価は筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。

	歴史学ｂ（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
多民族社会米英を舞台にユダヤ系を中心に、黒人その他の集団との関係史を学ぶ。 下記二冊のテキストにそって英米の人種関係史をユダヤ系を主軸にして考察する。	1. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥。 2. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史。 3. 黒人の反ユダヤ主義。 4. 中世英国のユダヤ人金融。 5. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る。 ―1290 年のイングランド― 6. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 年。 7. 千年王国思想とユダヤ人再入国。 8. 17～18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人。 9. 英国人地主貴族社会への同化現象。 10. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム。 11. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ。 12. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年　講談社選書　1600 円）	前期と同じ。

	歴史学 a（現代史と映像）	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
現代史を扱った映画ないしテレビ・フィルムを見ながら、特定のテーマに関して認識を深めていく。	テーマは授業の最初に紹介するが、さしあたり以下のような問題を考えている。 「移民・難民・外国人労働者」 「戦争の記憶と歴史化」 「歴史の中の女性たち」 「子供たちの歴史」 「壁の崩壊と庶民生活」 その他
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介	レポート等

	歴史学 b（歴史と映像）	担当者	増谷　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
現代史に限らない歴史を扱った映画ないしテレビ・フィルムを見ながら、特定のテーマに関して認識を深めていく。	テーマは授業の最初に紹介するが、さしあたり以下のような問題を考えている。 「移民・難民・外国人労働者」 「戦争の記憶と歴史化」 「歴史の中の女性たち」 「子供たちの歴史」 「壁の崩壊と庶民生活」 その他
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介	レポート等

	歴史学 a(中世の仏教と社会)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した観進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 （1）　東大寺を再建した男 （2）　重源の時代	（1）・炎上する東大寺 ・誰の力に頼るか ・重源の業績 ・木材をどこから運ぶか ・出現した大群衆 （2）・雨を突いて伊勢へ ・重源の記憶 ・法然と重源 ・合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ・天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫癘（えきれい） ・源平合戦の余燼
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス)	出席状態 試験成績

	歴史学 b(中世の「悪党」と民衆)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は一揆の時代であるともいわれている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域の自治とは何か、という問題を通して民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 （1）　戦乱の中の伊賀 （2）　自立する村 （3）　戦国のコンミューン	（1）・伊賀国の南北朝内乱 ・錯綜する地侍の行動 （2）・大規模な合戦は続けられない ・国人領主の出現 ・自立する村 （3）・南都への志向 ・悪党たち、起請文を提出 ・タテの力とヨコの力 ・惣国のコンミューン ・内部の規律と「平和」 ・織田信長軍、伊賀へ侵攻 ・崩れ去る惣国・中世の黄昏
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス)	出席状態 試験成績

	文化人類学 a(未開文化の理解へ)	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学は、現在消えつつある「未開」社会と呼ばれる社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。a においては、この学問の形成の歴史、対象、方法などを学ぶ。	1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学前史(1) 4 同上　(2) 5 同上　(3) 6 文化人類学の誕生へ 7 対象としての「文化」の概念(1) 8 同上　(2) 9 初期の視点――歴史的視点 10 視点の転換――現在的視点へ 11 方法としての実地調査(1) 12 同上　(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

	文化人類学 b(未開文化の理解へ)	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
a で学んだことを基礎に、「未開」文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを学び、またそれを通してわれわれの文化について意識化し、検討を加えうることを学ぶ。	事例としては、「経済」「婚姻・家族・親族」「宗教・儀礼」などを考えているが、話のつながり具合によって決める。ビデオを見てもらう機会もある。テーマとおおよその順序については第 1 回の講義で述べる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

	現代文化論 a(グローバリゼーションを巡って)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
一般に civilization の訳語として「文明」があてられるのに対して、「文化」は culture の訳語とされる。この言葉の語源がもともと「農耕」という意味と深くかかわっていることは現代の文化を考える上でも重要である。 文明がキリスト教を中心とした世界との対比で語られるのに対し、文化は言語、宗教はもとより生活習慣や社会制度や価値観など国家や地域が持つ内面的なアイデンティティーとのかかわりで現代社会のさまざまな局面にたちあらわれる。こうしたグローバルな観点に立って、春学期の授業では冷戦の終焉から 9/11 テロ、そしてイラク戦争という時代の転換のなかの米国の文化とその影響力の変容を、歴史に溯りながら考える。 ２０世紀のグローバリゼーションを導いた米国は世界経済や国際秩序ばかりでなく、民主主義という統治の仕組みやビジネスモデルの構築、消費文化をはじめとする人々のライフスタイルにいたるまで、大きな文化的統合力を世界にもたらした。しかし、9/11 後の多極化する世界はその陰りと新しい世界秩序への道をのぞかせる。 歴史的な比喩として新たな「帝国」とも呼ばれる米国の覇権と文化的影響力の行方を考えたい。	1　はじめに 2　「帝国」と覇権 3　フランクリン型人間像 4　ビジネスと信仰 5　WASP と移民の国家 6　大量生産と大量消費 7　「冷戦」と豊かな時代 8　「信頼」と社会 9　「小さな政府」と市場原理 10　米国標準とソフトパワー 11　ハリウッドシステム 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』（ちくま新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績にくわえて、平時の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

	現代文化論 b(日本の表象と世界)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の授業では「日本」というモデルをグローバリズムの流れに置いて、その文化の構造と特質を考える。 歴史的、地理的には中国大陸という大きな文明に接して、その大きな影響を受けてきた日本は、地政学的な位置と言語や民族文化の特殊性のもとでアジアの先頭を切って近代国家に生まれ変わった。欧米列強を追い上げて経済大国として歩むこの国の現代の文化を、その普遍性と特殊性という観点からさまざまな角度で掘り下げる。 近年海外から論評される日本の文化としては、例えばトヨタの生産方式や終身雇用制度などビジネスのシステムやアニメーションなど表現の分野があげられる。これらはいずれも日本の文化の特性を土壌にして生み出され、それが世界的な標準として評価されるに至った。 明治以降の近代化の過程で日本が目指したものは「脱亜入欧」の言葉に象徴される。民主主義や市場経済といった欧米のシステムや文化への統合を通して、社会を普遍的な仕組みに組み替えることが目標とされたが、グローバリゼーションを動かす支配的な価値が、それぞれの固有の文化に根ざしたソフトパワーの力によって生み出されるという逆説をこの授業で学びたい。	1　はじめに 2　脱亜入欧とジャポニスム 3　日本型システムの源流 4　集団主義・天皇制 5　アメリカニズムと日本型経営 6　護送船団と戦後システム 7　MADE　IN　JAPAN 8　高度成長と総中流社会 9　ブランドと国際化 10　Japanese　cool 11　「日本」という表象 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。夏目漱石『三四郎』（岩波文庫）荒井一博『文化の経済学』（文春新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績に平常授業で行うリポートの実績を勘案して評価する。

	比較文化論 a(東西の文化を結ぶもの)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジア地域，とくにイスラーム勃興以降の時代について，歴史と社会を考察しながら，「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は，「西洋」の主観が生み出した産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　A；キリスト教の広がりとアジア世界。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　C；十字軍・レコンキスタとその時代。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　D；２つの旅行記（マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ）と当時の世界。その１ 11　同　その２ 12　同　その３
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

	比較文化論 b(東西文化と近代化)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と，それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　E；大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　F；アジアにおけるさまざまな近代化。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　G；帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　H；旧ソ連諸国や旧ユーゴースラビア諸国における民族・宗教意識。その１ 11　同　その２ 12　同　その３
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する	レポートによる

	経済学ａ(国民所得の概念と決定メカニズム)	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，日本経済の仕組みを理解し，様々な経済現象に関して理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学の基礎を習得し，経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。 経済学ａでは，まず経済学という学問が考察対象とする課題について解説しつつ，基本的概念の説明を行なう。そのうえで，国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。講義においては，昨今の日本経済を取り巻く様々な出来事を取り上げることで，受講生にとって理論と現実の対応関係が理解しやすいように配慮したい。	1　経済学という学問について 2　マクロ経済学の課題について 3　家計の消費行動 4　家計の貯蓄とその動機 5　企業の投資行動 6　企業の資金調達と家計の資産選択 7　直接金融　－株式市場の理論と実際－ 8　間接金融　－銀行の役割－ 9　貨幣の需要と供給 10　中央銀行の役割と貨幣市場モデル 11　ケインズ経済学　－有効需要の原理－ 12　財市場モデルと乗数効果
テキスト、参考文献	**評価方法**
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

	経済学ｂ(経済政策の基礎理念と課題)	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
経済学ｂでは，経済学ａの講義内容を踏まえて，財政政策・金融政策の理論と現実について検討し，マクロ経済政策の効果に関する理解を深める。また，開放マクロ経済の基礎知識を習得し，グローバル化が進展する中で国際的な経済現象が日本にもたらす影響について考える能力を養う。 続いて，ミクロ経済学の基礎理論を取り上げ，需要と供給，および余剰分析について解説する。さらに，ミクロ経済学の分析枠組を用いて，規制緩和や環境政策といった経済政策・公共政策の意義について検討しながら，政府の役割と市場の役割のあり方に関する展望を試みる。 受講を希望する学生は，経済学ａを既習であることが望ましい。	1　IS-LM モデル 2　財政政策・金融政策の効果 3　労働市場モデルと失業 4　開放マクロ経済　－為替レートと経常収支－ 5　ミクロ経済学の課題について 6　需要曲線と供給曲線の意味 7　社会的余剰の考え方 8　競争市場と独占 9　ゲーム理論を用いた経済分析１ －寡占市場－ 10　ゲーム理論を用いた経済分析２ －公共財の供給問題－ 11　ゲーム理論を用いた経済分析３ －コモンズの悲劇－ 12　地球温暖化対策と京都議定書の経済学
テキスト、参考文献	**評価方法**
経済学ａで用いたものを引き続き使用するほか，ミクロ経済学についてはプリントを配布する予定である。	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

	経済学 a(ミクロの視点で考える)	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この２つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、家計・企業・政府といった個々の経済主体の決定について考察しその相互作用を研究する、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。ビジネスの事例もできるだけ取り上げたいと思います。	1. 経済学とは何か 2. 完全競争 3. 市場メカニズム 4. 需給の変化 5. 消費者余剰 6. 生産者余剰 7. 競争市場均衡 8. 弾力性 9. 市場介入の効果 10. 生産者行動の理論 11. 消費者行動の理論 12. 不完全競争
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは未定ですが、事前に教科書を読んで講義に臨むことがきわめて有益ですので、指定します。	出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第１回目の授業で説明します。

	経済学 b(マクロの視点で考える)	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この２つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 秋学期は、GDP、物価指数、失業率といった経済全体を捉える変数の決定を考察し、労働市場・生産物市場・資本市場の相互作用について研究する、マクロ経済学の分野を中心に講義します。景気指標、金融・財政政策、財政赤字、経済成長などのニュース・トピックもできるだけ取り上げたいと思います。	1. マクロ経済学とは何か 2. GDP、所得循環、景気循環 3. 物価指数、インフレーション 4. 経済成長 5. 金融システム 6. 資本市場 7. 労働市場と失業 8. 生産物市場 9. 短期の経済分析 10. 所得・支出分析 11. 財政赤字 12. 開放マクロ経済学
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは未定ですが、事前に教科書を読んで講義に臨むことがきわめて有益ですので、指定します。	出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第１回目の授業で説明します。

	日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、初めて日本国憲法を勉強する学生を対象にした入門的憲法講義である。毎回、事件（判例）をベースに人権論を学んでいく。人権の意味を再確認し、社会と自己との関わり合いを憲法の視点で通じて論じてみたい。	１．ガイダンス ２．憲法概念 ３．法の下の平等 ４．精神的自由権／信教の自由 ５．精神的自由権／学問の自由 ６．精神的自由／プライバシー権 ７．精神的自由権／報道の自由 ８．経済的自由 ９．人身の自由 １０．社会権と生存権 １１．社会権と教育権
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤・植村編著『新２版　現代憲法入門講義』（北樹出版）	定期試験による。

	日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、初めて日本国憲法を勉強する学生を対象にした入門的憲法講義である。毎回、事件（判例）をベースに人権論を学んでいく。人権の意味を再確認し、社会と自己との関わり合いを憲法の視点で通じて論じてみたい。	１．ガイダンス ２．憲法概念 ３．法の下の平等 ４．精神的自由権／信教の自由 ５．精神的自由権／学問の自由 ６．精神的自由／プライバシー権 ７．精神的自由権／報道の自由 ８．経済的自由 ９．人身の自由 １０．社会権と生存権 １１．社会権と教育権
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤・植村編著『新２版　現代憲法入門講義』（北樹出版）	定期試験による。

	日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	大藤　紀子

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 　半期の授業なので、扱える内容は限られているが、教科書を使いながら、日本国憲法の概要を講義することを目標とする。 [講義概要] 　人権と統治機構の問題をそれぞれ教科書から拾う形で話したい。 　また、憲法改正の動きを踏まえ、国民投票につき検討する。 [受講生への要望] 　教科書をよく読み、予習・復習を通じて、ノートをよく整理すること。	1．憲法の基本原理 2．憲法改正と国民投票・人権総論概説 3．幸福追求権 4．法の下の平等 5．思想・良心の自由 6．信教の自由 7．政教分離原則 8．学問の自由 9．表現の自由 10．人身の自由と刑事手続上の人権 11．経済的自由 12．社会権 （多少の変更がありうる）
テキスト、参考文献	**評価方法**
①大津浩他『憲法四重奏』(有信堂高文社)、②井口他『いまなぜ憲法改正国民投票法なのか』(蒼天社) ③山内敏弘篇『新現代憲法入門』(法律文化社)	試験期間中の論述試験の結果による評価。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	国際法ａ(国際社会と私たち)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国家を中心とした国際法上の行為主体の観点から学ぶ。また、個人が国際法とどのように関わっているのかについても検討する。	1 国際法の歴史 2 国際法の存在形式 3 国際法と国内法 4 国家の成立 5 国家の基本権 6 外交使節 7 条約のしくみ 8 国際機構 9 個人の地位 10 人権の国際的保護 11 国際犯罪 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

	国際法ｂ(国際紛争を考える)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会を地的管轄権という観点から検討し、それぞれの領域に適用される国際法のしくみを学ぶとともに、国際的な紛争の解決が、どのように図られるのかを考察する。	1 国家領域 2 日本の領域 3 国際化地域(極地・国際河川) 4 海洋の国際法制度 5 海洋の資源 6 空域・宇宙 7 国際環境保全(1) 8 国際環境保全(2) 9 国家責任 10 国際紛争の平和的解決(国際裁判等) 11 国際安全保障制度 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

	政治学 a(政治システムの構成要素)	担当者	津田　由美子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、多様で複雑な今日の政治社会を分析するための道具としての、政治的概念や理論、方法を習得することを目的とする。私達をとりまく世界の問題を、政治的現象として認識・理解するために、これまでの政治学研究の蓄積のなかから、有効と思われるものを紹介・説明する。受講者各自においては、それらの道具を応用して、自分をとりまく環境（身近な地域から地球規模の現象にいたるまで）を分析する能力を身につけることが望まれる。 前期では、国内政治の政策決定過程を中心に講義する。	若干の変更がありうるが、詳細については初回の授業で説明する。 1. はじめに 2. 議会 3. 執行府 4. 官僚制 5. 選挙 6. 投票行動 7. 政党 8. 利益団体 9. 中央地方関係 10. 政治の心理 11. マスメディアと世論 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として、久米郁男　他（著）『政治学』（有斐閣）など授業時に指示する。	定期試験を中心に評価する。授業中に小テストを行う場合もある。

	政治学 b(現代の民主主義)	担当者	津田　由美子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、多様で複雑な今日の政治社会を分析するための道具としての、政治的概念や理論、方法を習得することを目的とする。私達をとりまく世界の問題を、政治的現象として認識・理解するために、これまでの政治学研究の蓄積のなかから、有効と思われるものを紹介・説明する。受講者各自においては、それらを応用して、自分をとりまく環境（身近な地域から地球規模の現象にいたるまで）を分析する能力を身につけることが望まれる。 後期では、政治思想・政治体制と国際関係を中心に講義する。	若干の変更がありうるが、詳細については初回の授業で説明する。 1. 政治のイデオロギー 2. 福祉国家（1） 3. 福祉国家（2） 4. 民主主義体制と非民主主義体制 5. 民主主義体制の諸類型 6. ナショナリズム 7. 多文化主義 8. 国際関係と国内政治 9. 国際政治経済学 10. 国際関係における安全保障 11. 国際社会の組織化 12. 現代の民主主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として、久米郁男　他（著）『政治学』（有斐閣）など授業時に指示する。	定期試験を中心に評価する。授業中に小テストを行う場合もある。

	社会学 a(他者と自己)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。 本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会学的視点、社会学的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。	１．イントロダクション――社会学的な視座とは ２．社会学の歴史（１）――A.コント、H.スペンサー ３．社会学の歴史（２）――E.デュルケム ４．社会学の歴史（３）――M.ウェーバー ５．社会の類型（１）――コミュニティとアソシエーション ６．社会の類型（２）―ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ７．社会の類型（３）――第一次集団 ８．Identity形成と社会（１）――鏡に映った自己 ９．Identity形成と社会（２）――重要な他者 １０．Identity形成と社会（３）――マージナル・マン １１．補完的アイデンティティについて １２．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会)』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣	出席とレポート

	社会学 b(現代社会の諸問題)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。 本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会学的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。	１．イントロダクション ２．社会的性格と「自由からの逃走」――E.フロム ３．同調様式の３類型――D.リースマン ４．都市化と移民――W.I.トマスと F.W.ズナニエツキ ５．同心円地帯説――E.バージェス ６．シカゴ学派と都市問題――R.パーク ７．社会問題と社会学社会問題化するということ ８．現代社会の諸問題――移民と日本社会（１） ９．現代社会の諸問題――移民と日本社会（２） １０．社会学の現在――メディアと地域文化（１） １１．社会学の現在――メディアと地域文化（２） １２．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 W.I.トーマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房	出席とレポート

	地理学 a(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　オリエンテーション 2　自然と人間とのかかわり 3　環境の諸要素（1） 4　環境の諸要素（2） 5　環境の諸要素（3） 6　熱帯地域（1）―自然的特質と伝統的農業 7　熱帯地域（2）―アジアの稲作 8　熱帯地域（3）―熱帯の開発と問題（1） 9　熱帯地域（4）―熱帯の開発と問題（2） 10　砂漠地域（1）―自然的特質とイスラム 11　砂漠地域（2）―石油資源と近代化 12　前期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

	地理学 b(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　温帯地域（1）自然的特質 2　温帯地域（2）地中海森林地域 3　温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4　温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5　温帯地域（5）新大陸 6　冷帯地域 7　冷帯地域・寒帯地域 8　山地地域 9　世界の環境問題（1）人口 10　世界の環境問題（2）食料 11　世界の環境問題（3）温暖化と砂漠化 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

	地理学ａ（世界の自然環境と文化）	担当者	北﨑 幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。 まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。	１．オリエンテーション―地理学とは ２．環境の諸要素（１）気候環境 ３．環境の諸要素（２）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 ４．環境の諸要素（３）地形・植生 ５．熱帯地域（１）熱帯林と伝統的生活様式 ６．熱帯地域（２）熱帯林の開発と環境問題 ７．熱帯地域（３）熱帯林の保全 ８．沙漠地域（１）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 ９．沙漠地域（２）石油資源と近代化、沙漠の開発 10．地中海森林地域の特性 11．地中海地域の生活様式―西欧文化の原点 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004）『自然環境と文化―世界の地理的展望　改訂版』原書房	定期試験等

	地理学ｂ（世界の自然環境と文化）	担当者	北﨑 幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。 秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共存方法について理解を深める。	１．環境の諸要素―地形環境 ２．温帯草原地域の自然特性 ３．温帯草原地域の開発と環境問題 ４．温帯混合林地域（１）高密度都市化地域の特性 ５．温帯混合林地域（２）産業革命と都市域の拡大 ６．亜寒帯森林地域（１）タイガの中の生活 ７．亜寒帯森林地域（２）タイガの開発と保全 ８．山地地域（１）山地の自然環境と高度帯の利用 ９．山地地域（２）山地資源の開発と観光化 10．世界の環境問題（１）生態系と人間活動 11．世界の環境問題（２）自然環境の破壊 12．まとめ　自然環境の保全と保護
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004）『自然環境と文化―世界の地理的展望　改訂版』原書房	定期試験等

	女性学 a(女性学の過去と現在)	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
女性学とは 1960 年代後半に始まった、比較的新しい学問分野の名前です。従来のさまざまな学問分野は客観的と言いながら実はそうではなく、男性たちの関心の高い領域ばかり取り上げがちだったという反省から、多くの女性にとって重要な体験、たとえば家事労働や母性や性暴力などに注目するようになったのが、女性学の始まりでした。 以来、学問の世界はかなり変化してきました。女性学の挑戦を受けて、従来の各学問分野は真の意味でより客観的であろうと努めてきました。1980 年代には男性学も始まり、男性固有の問題が考えられるようになりました。女性学や男性学の問題提起をより包括的に扱う、ジェンダー論も登場しました。また対応する現実世界も変化しました。学問での成果は法制度の改正などに生かされ、女であること、男であることの意味も違ってきています。 本講義では、女性学の初期の関心事に立ち返って、なぜそれが注目を集めたのか、どのような研究成果が生まれたのかを概観します。そのうえで、現在ではどのようなことが課題なのか、その課題についてはどのように考えられるのかを、女性学だけでなくジェンダー論や男性学の知見も踏まえながら整理してみたいと思います。	以下の４つのトピックについて扱います。それぞれのトピックを３回の授業で扱い、なぜ注目されたのか、どんな研究成果が生まれたのか、現代の課題とは何か、という順番で話を進めます。１トピック終了毎に小レポートを課します。 １ー３．イントロ／女性学は文学研究で始まった ４ー６．家事労働は労働である ７ー９．母性は本能なのか？ 10ー12．性暴力は暴力とどう違うのか？
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として、加藤秀一、石田仁、海老原暁子『図解雑学ジェンダー』（ナツメ社）など。	４つの小レポートと定期試験

	女性学 b(ジェンダーと表象)	担当者	上野　直子

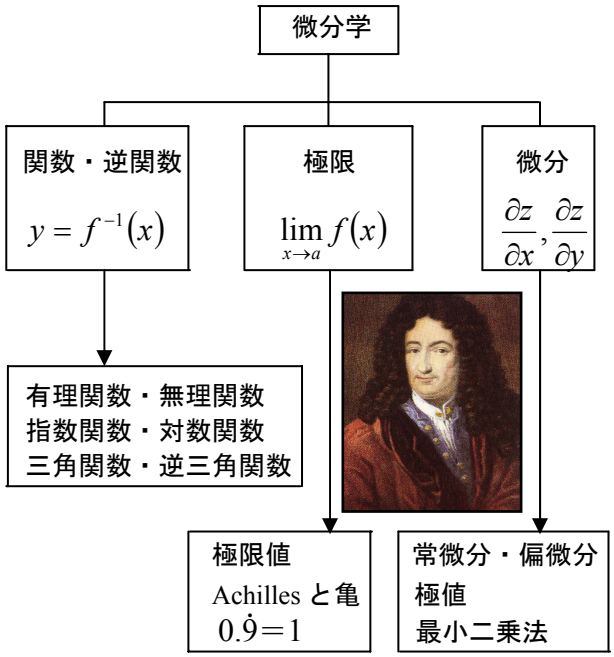
講義目的、講義概要	授業計画
本講義では女性学 a で学んだ具体的な事象を踏まえ、ジェンダーの表象を読み解く力を身につけてほしい。なぜ、今、そのような力が必要とされるのか。文化と社会のジェンダー規範は、ジェンダー表象を通じて社会の構成メンバーの意識にうえつけられる。現在、わたしたちを縛っているジェンダー規範が、社会と個人の可能性を狭めるようなもので、それを変えたいと思うのなら、まずその規範がいかに個々人の意識のなかに内面化されるのかを知らねばならない。 ジェンダー表象の読解力がついたところで、働くこと、家族をつくること、子どもを産み育てること、さらにはセクシュアリティーなど、受講生のみなさんの人生に関係してくる問題について、新たな視点から検討してみたい。 （注） 「表象」という言葉については講義のなかで詳しく説明しますが、とりあえずは、言葉その他によって表現されたものと理解していてください。	1. 導入：ジェンダーとは、表象とは 2. 日常のステレオタイプ（コマーシャル分析） 3. 男の子の国、女の子の国――社会化の道具としてのアニメと伝記(1) 4. 男の子の国、女の子の国――社会化の道具としてのアニメと伝記(2) 5. 身体とセクシュアリティー(1) 6. 身体とセクシュアリティー(2) 7. 身体・セクシュアリティーの物象化と暴力 8. 労働・家族・再生産(1) 9. 労働・家族・再生産(2) 10. 労働・家族・再生産(3) 11. ジェンダー表象の変化(1) 12. ジェンダー表象の変化(2) 講義内容に変更がある場合は、登録に先立ち講義支援システムに掲示します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で使う資料はプリントを用意する。なお主な参考文献は開講時に指示するとともに、授業支援システムに掲示し、本は図書館の指定図書コーナーに置く。	出席（コメントペーパー）とテストによる。（登録人数によって変わる場合もある。登録人数が決定し次第、お知らせします。）

	数学 a(微分学)	担当者	福井　尚生

講義目的

- ∂ 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分も勉強します。
- ∂ 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。
- ∂ 講義・演習を通して、微分学の知識を**実際の現象解析に使える**ようになればと思います。
- ∂ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。

講義概要



テキスト、参考文献

∂ (テキスト/ 配布するプリント)・(参考文献/『数学読本』松坂 和夫 著・岩波書店)

評価方法

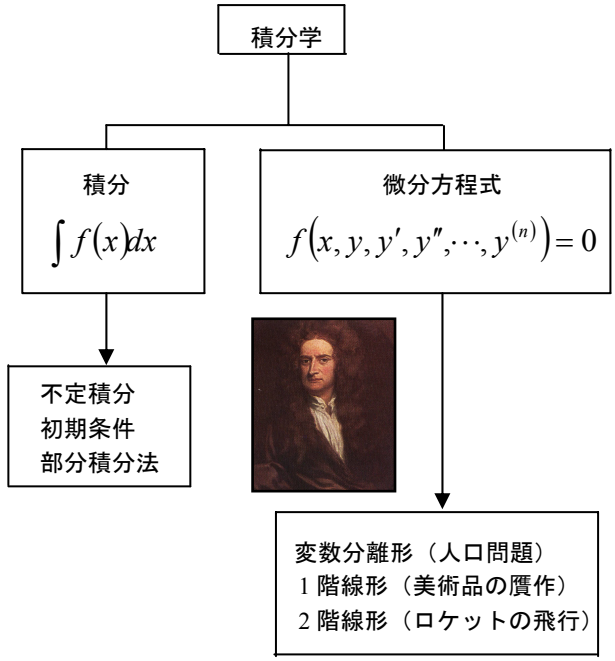
∂ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

	数学 b(積分学)	担当者	福井　尚生

講義目的

- ∮ 『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに威力を発揮する「積分学（**積分・微分方程式**）」を学びます。
- ∮ 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦労です。
- ∮ 講義・演習を通して、積分学（積分・微分方程式）の知識を**実際の現象解析に使える**ようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。
- ∮ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、積分学（積分・微分方程式）を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。

講義概要



テキスト、参考文献

∮ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田 高夫、大町 比佐栄 訳・日本評論社)

評価方法

∮ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

	物理学 a(相対論の世界)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
１７世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、２０世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「物理学 a」では相対論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の時間･空間概念および宇宙像が如何に成立してきたかをみていく。	1. はじめに 2. 近代以前の時間空間概念 3. 近代における時間空間概念の成立Ⅰ－ニュートン力学 4. 近代における時間空間概念の成立Ⅱ－天体の運動 5. 近代における時間空間概念の成立Ⅲ－ニュートン的宇宙観 6. 現代における時間空間概念の成立Ⅰ－光速度 7. 現代における時間空間概念の成立Ⅱ－時間概念の相対性 8. 現代における時間空間概念の成立Ⅲ－空間概念の相対性 9. 現代における時間空間概念の成立Ⅳ－重力の幾何学化 10.現代における時間空間概念の成立Ⅴ－一般相対論的宇宙論 11.現代における時間空間概念の成立Ⅵ－一般相対論における時間 12.最新の時間空間概念
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

	物理学ｂ(量子論の世界)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
１７世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、２０世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「物理学 b」では量子論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の物質の究極像が如何に成立してきたかをみていく。	1. はじめに 2. 近代以前の物質観 3. 近代における物質観の成立Ⅰ－近代的原子論 4. 近代における物質観の成立Ⅱ－光の粒子説・波動説 5. 近代における物質観の成立Ⅲ－電磁気学の成立 6. 現代における物質観の成立Ⅰ－前期量子論 7. 現代における物質観の成立Ⅱ－不確定性関係 8. 現代における物質観の成立Ⅲ－素粒子の世界 9. 現代における物質観の成立Ⅳ－基本相互作用 10.現代における物質観の成立Ⅴ－統一理論 11.現代における物質観の成立Ⅵ－宇宙の進化 12.最新の物質観
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

	化学 a(化学と環境の歴史)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 サイエンスはどのように発展してきたか。現在、人間の生活を豊かにすることにどのように貢献しているか。そして現代社会において人間活動が自然の過程とどのように調和しうるか。これらの問いを化学とその歴史の面から探求する。 【講義概要】 ある意味で自然の存在物はすべて、天然物も人間自身もそれが創り出した物も、化学物質である。これらの物質が千変万化しつつ循環することによって世界はつくられ、動いている。人間活動もその中の一部であるが、人間は他の天然物と違って、自然のこの物質循環を大きく変える力を持った。このような観点から、現代の自然と人間の関係を化学の目で考察していく。 化学式や数式は最小限に抑えつつ、化学の発展や問題の推移の歴史的な経過をたどることによって、化学の目で見るとはどういうことかを説明していくつもりである。	１．　イントロダクション：講義の概要説明　化学と生活 ２．　化学の基礎（化学変化とはどういうものか） ３．　化学の歴史(1)　近代以前の化学 ４．　化学の歴史(2)　近代化学の発展 ５．　現代化学と日常生活 ６．　自然界の物質循環 ７．　DDT と『沈黙の春』 ８．　水俣病の歴史 ９．　さまざまな水汚染、大気汚染 １０．プラスチックとその廃棄物 １１．オゾン層破壊と地球温暖化 １２．まとめ　エコロジカルな生活とは？
テキスト、参考文献	**評価方法**
・テキスト　講義時にプリントを配布する ・参考書　渡辺 啓『日常の化学』サイエンス社； 青木康展『環境中の化学物質と健康』裳華房	授業への参加態度（出席と数回の小文の提出を含む）と，定期試験によって成績評価する

	化学 b(化学と健康の歴史)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 サイエンスは生命の過程をどのようにして理解してきたか。その成果は人の健康にどのように役立てられているか。他方それは人の健康にどのような問題を投げかけているか。これらの問いを考察するために必要な基礎知識を身につけ、みずから判断する力を養う。 【講義概要】 この百年あまりの間に科学と技術の力によって人類は複雑不可思議な生命の過程をかなり解明してきた。そしてその知識をもとに、人間みずからの健康を増進することにかなり成功してきたといえるだろう。しかし他方で思わぬ副作用も受けてきた。これら生命と健康に関わるさまざまな物質とその影響を化学の目で見ていく。 化学式は最小限に抑えて、それぞれの問題において化学物質がどのように関わっているかを平易に解説するつもりである。	１．　イントロダクション：講義の概要説明　化学と生物 ２．　生物内の化学変化 ３．　生化学の歴史(1) 呼吸、代謝 ４．　生化学の歴史(2) 遺伝、発生 ５．　栄養と健康 ６．　毒と薬 ７．　食品添加物 ８．　ダイオキシン、アスベストの毒性 ９．　環境ホルモン、POP s １０．生命操作と GM 農産物 １１．リスク評価、リスク管理 １２．まとめ　専門家と素人の責任と権利
テキスト、参考文献	**評価方法**
・テキスト　講義時にプリントを配布する ・参考書　渡辺 啓『日常の化学』サイエンス社； 青木康展『環境中の化学物質と健康』裳華房	授業への参加態度（出席と数回の小文の提出を含む）と，定期試験によって成績評価する

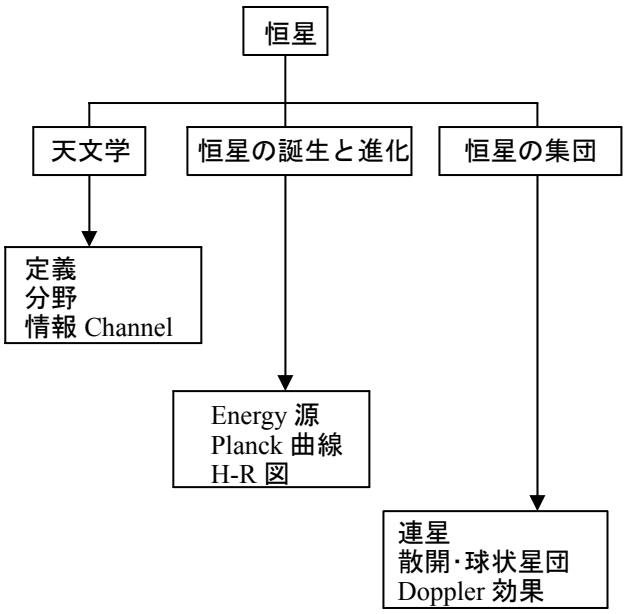
	生物学 a(植物の特性と自然の仕組み)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ・ 生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ることを目標とする。 **履修資格** ・ 植物名に関心があること。 ・ 普通の植物取りあえず 100 種を認識できること（最初の講義で試験を行なう)。	以下の内容をそれぞれ数回にわたって講義する。 1　種々の植物観察 2　学名と地方名の暗記（基礎ラテン語の理解) 3　標本の役割と作成 4　Taxon(Taxa)の概念 出席重視、遅刻厳禁である。第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配布する。	随時提出してもらう標本、数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

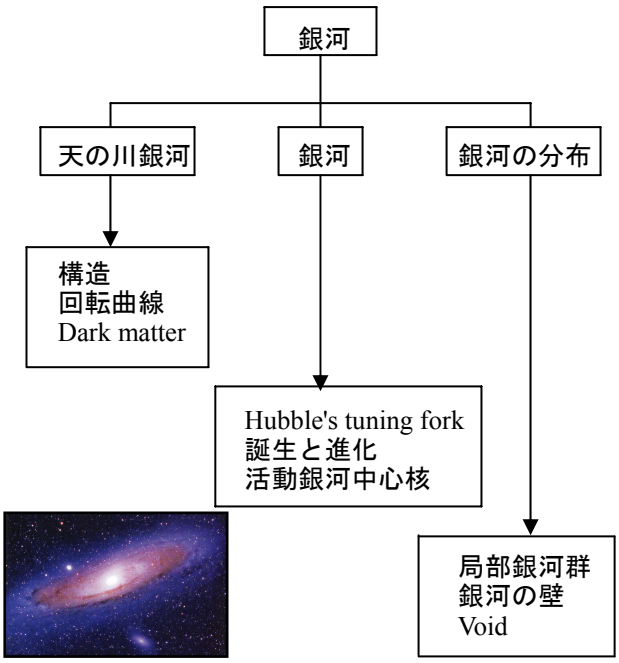
	生物学 b(植物の分布)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 ・日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ることを目標とする。 **講義の目的** ・ 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ることを目標とする。 **履修資格** ・ 植物に興味があり、地理が好きであること。 ・ 普通の植物、取りあえず 100 種を認識できること（最初の講義で試験を行なう)。	以下の内容をそれぞれ数回にわたって講義する。 1　種々の植物観察 2　産業革命と資源調査 3　植物の分布 4　生態学的大国「日本」 出席重視、遅刻厳禁である。第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配布する。	随時提出してもらう標本、数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

	地球科学 a(恒星天文学)	担当者	福井　尚生

講義目的	講義概要
☀ 地球を広大な宇宙に浮かぶ天体の一つと捉えて、『地球科学』では、**天文学**を学びます。「天文」とは「天」から届く「文」のこと、天文学は宇宙から届くこの手紙を解読する学問です。 ☀『地球科学 a』は「恒星」についての天文学です。天文屋は地球上での自然法則が、太陽を始めとする恒星の世界をも司っていること、逆に宇宙を支配する自然法則が地球にも及んでいること地球が宇宙の一員であることを知りました。 ☀ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに自らの頭で先を考え、地球が宇宙に浮かぶ天体の一つ、**自然の一員**であることを実感して下さい。 ☀ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☀ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
☀（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『天文学への招待』岡村 定矩 編・朝倉書店）	☀ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	地球科学 b(銀河天文学)	担当者	福井　尚生

講義目的	講義概要
★『地球科学 b』では、上記『地球科学 a』の知識を前提に、10 億もの恒星が重力的に集まるより大きな集団「銀河」についての天文学を学びます。 ★ 天文屋は恒星までを対象に発見した自然法則を用いて**天の川銀河**・**銀河**にまで考察を広げ、自然法則を更に大きな自然に適うよう統一し、普遍化する大きな夢の実現に努めています。 ★ 現在までに得られた知識をもとに自らの頭で未知の世界を探り、自然の一員であることの自覚の上に、独自の世界を未来に向かって開いて下さい。「天」からの「文」には経験したことの無い**大きな夢**が認められているかもしれません。 ★ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ★ 簡単な数学も必要に応じて使います。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
★　（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『銀河の育ち方』谷口 義明 著・地人書館）	★ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	スポーツ・レクリエーション学ａ（自由時間とクオリティオブライフを考えよう）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけてほしいと思います。そのための健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学びます。 春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。 秋学期は、春学期で学んだ考え方を実践に移してもらうため、健康つくりやトレーニングについて科学的視点から実践的ノウハウを学んでもらいます。 ぜひ、春学期と秋学期を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。授業で質問の受付、アンケートへの回答等に携帯電話を利用します。	1　オリエンテーション 2　自由時間とは 3　生活時間の構成と自由時間の現状 4　自由時間をすごす能力「森と老人」 5　現代における自由時間の意味 6　古典的解釈から知るレジャー 7　クオリティオブライフ 8　多様な価値観について 9　生き方の例　その１ 10　生き方の例　その２ 11　あなたのライフデザイン 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
中野孝次、「清貧の思想」、草思社 ミヒャエル・エンデ、「モモ」、岩波書店	出席状況（４０％）、学期末試験の結果（４０％）、クイズ・レポート（２０％）

	スポーツ・レクリエーション学ｂ（最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけてほしいと思います。そのための健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学びます。 春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。 秋学期は、春学期で学んだ考え方を実践に移してもらうため、健康つくりやトレーニングについて科学的視点から実践的ノウハウを学んでもらいます。 ぜひ、春学期と秋学期を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。 授業で質問の受付、アンケートへの回答等に携帯電話を利用します。	1　オリエンテーション 2　自分の体について正しく知ろう 身長・体重・体脂肪率 3　身体計測の結果から 4　肥満とダイエット 5　運動しない現代生活 6　運動と栄養　ダイエット・サプリメント 7　運動と栄養　いろいろな健康法 8　トレーニングの基本 9　エアロビクストレーニングについて　その１ 10　筋力トレーニング 11　このままでよいのか、私たちの生活 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
特になし	出席状況（４０％）、学期末試験の結果（４０％）、クイズ・レポート（２０％）

	ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 a)	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。	１．ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム ２．ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 ３．ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 ４．イングランドのキリスト教化 ５．デーン人とアルフレッド大王 ６．カロリング王朝とイングランドのキリスト教 ７．グレゴリウス７世の教会改革 ８．イングランドの教会改革 ９．中世の異端 １０．地獄堕ちへの恐怖 １１．黒死病と農民一揆 １２．教皇権の栄光と下降 １３．中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。	出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。

	ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 b)	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	１．ルター：我ここに立つ ２．ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 ３．イングランドの宗教改革：ヘンリー８世 ４．エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 ５．エリザベス１世の宗教改革 ６．ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 ７．スチュワート王朝の国教会 ８．国王の処刑とピューリタニズム ９．ピルグリム＝ファーザーズ １０．王政復古から名誉革命以降 １１．啓蒙主義時代から現代まで 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期に準じる。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，まず，現代心理学の成立過程を概観することで，心理学の基本的な知見について説明していく。その後，性格の形成，ストレス，生きがいと健康などのテーマについて，さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して，心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また，心理学の基本的知識を身につけ，社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を養ってほしい。	以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 1．心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 2．心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 3．心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 4．心理学のあゆみ④：精神分析理論 5．性格とは？：自己の性格理解 6．性格理論 7．性格の形成 8．ストレス①：ストレスと性格 9．ストレス②：ストレス・コーピング 10．ストレス③：ストレスの生理心理学 11．現代社会とこころの病 12．生きがいと精神的健康
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は使用しない。資料を配付して，講義をおこなう。	授業への出席状況と，授業での小レポート，学期末試験により総合的に評価する。

	ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
将来、日本語教師を目指す人への授業と限定するのではなく、外国語としての日本語・日本語教育の環境と現状、語学教育全般、等にわたって広く興味を持っている学生のためのものである。日本語教師養成課程を履修する人にとっては、教授法Ⅰとある程度の重なりがあるが、具体的な教育・指導について学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでほしい。 １．日本語教育と国語教育の違いを知る。 ２．世界の中における日本語教育の現状を知る。 ３．日本語を外国語として概観する。 ４．日本語の基本的な仕組みを知る。 ５．日本語を外国人に教える、とはどういうことかを知る。 授業では様々な授業形態のビデオを見ることによって、実際に日本語教育のイメージをつかんでいく。	1）オリエンテーション　ー　日本語教育の現場を見る　（ビデオ） 2）日本語教育とは？　日本語教育と国語教育の違について 3）　世界における日本語教育 4）　日本語教育の歴史と現状 5）　第一言語習得　対　第二言語習得 6）　外国語教授法－直接法 オーディオリンガル コミュニカティブ･アプローチ 7）コースデザインとシラバス 8）シラバス 9）日本語能力の認定　ー　日本語能力をどのように捉えるのか 10）日本語のしくみとその指導のポイント 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味 11）日本語教育の実際　ー　教室活動 上記のクラス数配分は、その時点での進捗状況に合わせる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：　①プリント 参考文献：　②『ここからはじまる日本語教育』姫野昌子他、ひつじ書房	期末定期試験

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	ことばと思想(Ⅲ)(通訳・翻訳論)	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
・　通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。	1. ガイダンス・翻訳通訳は何のためにあるのか 2. 翻訳と通訳の歴史 3. 翻訳の規範 4. 現代の翻訳論とその課題 5. 翻訳と通訳・共通点と相違点 6. 通訳の歴史、蘭学事始と黒船来港 7. 通訳のプロセス 8. 通訳の仕事・会議、一般、放送など 9. 通訳の仕事・司法通訳、医療通訳 10. 通訳訓練法紹介 11. 通訳の実例研究 12. 通訳者の仕事と生活
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料はインターネット上からダウンロードできるようにしておきます。URL は第一回の授業でご案内します。	毎回、ミニ・レポートを書いていただき、それを平常点とします。平常点 50%、期末試験 50%で評価します。

	ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学１)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
生と死の問題は、臓器移植や臓器売買、さらに、癌に冒された自分自身を治療法が開発されるまで冷凍保存するなどということが実際に行なわれている現代においては、いっそう複雑な問題になろうとしています。それでもなお、われわれは死の運命を逃れることはできません。 また、いわゆる先進国に住む多くの現代人は、病院で生まれ、病院で死を迎えます。とりわけ、死は弧絶された状況の中で迎えることが多くなってしまっています。今学期は、死から生を見るという方法で、生について考えます。著名かつ平易な文献を取り上げ、それについて考える講義スタイルですから、傍観者として講義に出席するのではなく、自らの問題として考える姿勢で臨んでもらいたいと思います。	1. モンテーニュの『エセー』を取り上げます 2. ジャンケレヴィッチ『死』 3. キューブラー・ロスの『死ぬ瞬間』を取り上げます 4. エリアス『死に逝く者の孤独について』 ここまでのテーマは「死の準備」の可能性です 5. パスカル『パンセ』 6. 前回の続き 7. 引き続き『パンセ』 8. ランツバーク『死の経験』 9. ここまでのテーマは「運命」です 10. パウル・ティリッヒ『生きる勇気』 11. 前回の続き 12. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
インターネットから資料をダウンロードできるようにします	学期末に試験を行ないます

	ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学 2)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは意味の世界に生きています。したがって、われわれに与えられた課題は、まずわれわれ自身の世界を広げることです。知識がない物に対して意味を見出すことはできませんから、受講生の皆さんにはいわゆる雑学的な知識をたくさん持っていただきたいと考えています。さまざまな宗教・文化・時代についての知識を豊かにすることで、さまざまな価値観が見えてくるからです。 その上で、いくつかの視点から、生と死の意味を考えることがこの講義のテーマです。 《注》春学期と継続的に受講する必要はありません	1. 講義テーマに関連した映画をごらんいただく予定です 2. フランクル『夜と霧』──これは名著です 3. 前回の続き 4. フランクル『死と愛』 5. 前回の続き 6. アドラー『人生の意味の心理学』 ここまでのテーマは《意味》です 7. ベッカー『死の拒絶』 8. アルベール・カミュ『シーシュポスの神話』 9. フロム『自由からの逃走』を使いながら、《時代・使命・自己》などの問題について考えます。 10. 前回の続き 11. フロム『正気の社会』を取り上げます ここまでのテーマは《自己実現》です 12. 秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
インターネットから資料をダウンロードできるようにします	学期末に試験を行ないます

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	ことばと思想(Ⅲ)(日本語の談話と日本語教育)	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 日本語教育のための談話論をあつかう。初級の日本語学習が，いわゆる「文」を作り出すことのできる規則を，文型として獲得することを目標とするとすれば，中級の日本語学習は，複数の文からなる談話を構成することのできる能力の獲得を目標とすると考えることができる。この授業では，日本語の談話に，一定の構造を考えることによって，学習対象としての談話能力にある程度明確な輪郭を与えることを目標とする。 なお，日本語学ａとは内容的に連続するものではなく，その履修を前提としない。 〔講義概要〕 あつかう対象は，指示・省略・主題・連結・引用などであり，右欄の計画にそって進行する。受講者は，毎回の授業前に，該当する資料をよんでくることが要求される。授業は，受講者からの質問とそれに対する回答の形式ですすめる。なお，ここで要求している「質問」は，むずかしいものではない。資料中の理解できない箇所について，より詳細な説明をもとめるものでよい。積極的な参加を期待する。	第１回　談話とはなにか，中上級教育と談話論 第２回　指示と「こそあど」指示詞 第３回　省略と代名詞 第４回　「ハ」主題（１） 第５回　「ハ」主題（２） 第６回　連結・接続と接続詞，副詞 第７回　引用 第８回　語用論的意味 第９回　言語行為的意味 第１０回　ターンテイキングその他談話構成行為 第１１回　談話の構造 第１２回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。	期末試験をおこなう。また，出席をきびしく要求する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	ことばと思想(Ⅲ)(日本語教材における学習項目の扱い)	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、第二言語としての日本語の(文法)習得研究とそのための日本語教材の分析を中心に進める。学習者の言語習得過程あるいは習得の難易度を論文等の文献に基づき検討し、一定の法則があるのか、あるとすれば、その構成概念を探り、まとめていく。その上で、教材開発を行う場合、どのような順序・方法で学習項目を提示し、指導すれば日本語でのコミュニケーション能力を促進することが可能になるかを検討していきたい。 最終的には、明らかになった構成概念に基づいて特定の文法項目を一つ選択し、教材を作成することが課題となる。 具体的な授業活動としては教師による論述だけではなく、学習者間のディスカッション(検討)が重視されるため、指定された教科書のページをきちんと読んでくることが求められる。	1．コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図 2．機能シラバス 3．コミュニケーションに役立つ日本語教育文法 4．日本語学的文法から独立した日本語教育文法 5．学習者の習得を考慮した日本語教育文法 6．学習者の母語を考慮した日本語教育文法 7．コミュニケーション能力を高める日本語教育文法 8．聞くための日本語教育文法 9．話すための日本語教育文法 11. 読むための日本語教育文法 12. 書くための日本語教育文法

テキスト、参考文献	評価方法
①テキスト 「コミュニケーションのための日本語教育文法」 野田尚史編　くろしお出版 ②参考文献 「日本語学習者の文法習得」野田尚史、他　大修館書店 「みんなの日本語」スリーエーネットワーク ③その他：論文のプリント（クラスで配布）	①　課題の提出 ②　出席率　(クラス活動への参加) ③　テスト（論述式）

	歴史と文化(Ⅲ)(教育の歴史 a)	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを目的とします。 本講義では日本の前近代の教育史を担当しますが（２では近代以降になります)、具体的には江戸時代とそれを前後する時期の、教育の実際の姿（教育諸機関、子育て習俗等）および教育思想を扱います。 江戸時代には、現代とは全く異なった知的枠組みで思想的営為が行なわれていたため、初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義するつもりです。	1　開講の辞／前近代における「教育」という営み 2　子育ての習俗 3　江戸時代の二つの知 4　江戸時代の教育諸機関とその研究（1） 5　江戸時代の教育諸機関とその研究（2） 6　日本文化と日本の思想の特質 7　キリスト教伝来と日本人の対応 8　朱子学と日本の儒学 9　江戸時代の思想の流れ 10　貝原益軒の儒学と教育思想 11　民衆の儒学と民衆の教育 12　「学制」による知の統合
テキスト、参考文献	**評価方法**
配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。	最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文などを勘案します。

	歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史ｂ)	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
【目標】 下記の諸点を目標とする。 1．思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。 2．近世の思想についての概略を理解する。 3．現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。 4．「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。 【概要】 1．東洋思想史の一部を含め、一般的かつ包括的に日本の歴史を扱う。古代から近世に至る長大な期間について、どのように思想を発展させてきたのかを、日本史の中に大きく位置づけながら、講義する。 2．理解が難しい儒学（朱子学等）については、特に時間をとって詳しく講義し、学生の間でも資料に基づきながら討論してもらう。 3．その上で、ほぼ時系列に沿った形で、日本の思想の歴史について、社会構造との関連に注意しながら講義する。	1　「日本」の「思想」について 2　儒学について 3　性善説・性悪説等について（討論） 4　朱子学について１ 5　朱子学について２ 6　近世思想史概観／見取り図作成 7　近世の思想（貝原益軒『大疑録』を読む） ／気の思想についてレポート 8　近世の思想（武士道について１） 9　近世の思想（武士道について２） 10　幕末維新期の思想（民衆の思想） 11　近世から近代へ 12　近代思想史概観
テキスト、参考文献	**評価方法**
配付するプリント類による。	最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文などを勘案する。

	歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)	担当者	小山　慎治

講義目的、講義概要	授業計画
日本文化や時事問題について調べ発表する活動を通し、日本社会における諸問題に関する常識的な知識を獲得することが主たる目的である。授業を通して、幅広く問題意識を持ち、積極的に知識を獲得しようとする態度を身に付けることが期待される。特に、日本語教育に興味を持つ学生の受講を歓迎する。 　授業ではまずコミュニケーション論の枠組みおよび効果的なプレゼンテーションの手法を提示した上で、日本社会に関するテーマの発表を課す。受講者による発表と発表内容に関する質疑応答、発表方法に関するコメントを軸に授業を進める。日本社会に関する問題意識を持つことと同時に、知識を他者と共有するプロセスへの関心も高められるよう配慮していきたい。 　なお、受講者が多数の場合は、発表の形式や回数等変更することもある。	1　ガイダンス・発表者および発表テーマ調整 2　コミュニケーションの概念と構成要素 3　情報提供を目的とするプレゼンテーションの手法 4　発表（1） 5　発表（2） 6　発表（3） 7　発表（4） 8　発表（5） 9　発表（6） 10　発表（7） 11　発表（8） 12　まとめ 発表のテーマはガイダンスにて調整する予定だが、参考までに昨年度扱ったテーマを以下に示す： ・少子高齢化 ・ニート・フリーター ・首相の靖国神社参拝 ・日本の領土問題 ・ゆとり教育 ・敬語の乱れ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 文藝春秋（編）『日本の論点 2007』文藝春秋 2006 年 水谷修他（編）『日本事情ハンドブック』大修館 1995 年	出席、クラスへの貢献、クラスでの課題、および定期試験による総合評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化とイスラム-公と私)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：イスラム社会を一例として学ぶことにより異文化理解を深め、「公共性」という概念を視野に入れて国際的問題を理解し、行動できるようにする。 講義概要：本講義では、グローバル化が進む国際社会にあって、１３億の人口を有するイスラム世界と欧米社会がどのような関係にあるのかを歴史的過程を通して考える。そのことを踏まえ、日本社会とイスラム社会との比較にまで視野を広げて、伝統文化と国際秩序、「公」と「私」について考えていきたい。	１　異文化接触と文化変容 ２　イスラム社会の誕生 ３　イスラム社会の発展とギリシア思想 ４　キリスト教とイスラム ５　ムスリムの西欧についての知識 ６　西洋の衝撃と中東 ７　イスラムと近代国家 ８　イスラムと経済 ９　イスラムと民主主義 １０　イスラムと女性社会 １１　イスラムと公共性 １２　日本社会とイスラム社会
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：『イスラム世界はなぜ没落したか？』（日本評論社）、『イスラム世界の経済史』（NTT 出版）、『公と私の思想史』（東京大学出版会）	出席とレポートを 4：6 の割合で評価する。

	歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：「交易離散共同体」や「核家族」「地域コミュニティー」について学ぶことを通し、自己のアイデンティティー形成と文化・社会の関係について考察を深める機会を持ってほしい。 講義概要：本講義では、交易や民族移動、移民などの人や物、情報の移動を通し、生じる文化変容を都市という空間で考察し、それが現代的問題に関わっているのかを考えたい。	１　移動と文化変容 ２　移民過程とエスニック・マイノリティ ３　歴史の中の都市(1)中東 ４　歴史の中の都市(2)アジア ５　歴史の中の都市(3)ヨーロッパ ６　商業ネットワークと都市 ７　EU と移民 ８　フランスのアルジェリア移民 ９　イギリスのパキスタン移民 １０　ドイツのトルコ移民 １１　米国の移民の歴史的概観 １２　多文化主義の論争点
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：『国際移民の時代』（名古屋大学出版会）、『都市的体験』（未来社）、『多文化世界』（有斐閣）、『ヨーロッパとイスラム』（有信堂）	出席とレポートを 4：6 の割合で評価する。

	歴史と文化(Ⅲ)(未開人の認識 a)	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
未開人（現在はどんどん消えつつあるが）は、世界について、あるいは事物について、われわれとは全く異なった認識の仕方をもつ。こうした異文化の完全な理解などありえないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、異文化に迫ることは可能である。ここで私の専門である文化人類学からその一端を明らかにする。 注――文化人類学の単位を取ったか、興味をもっている人が取ってください。でないと、どうしてそんなばかなことを、と感じ、嫌になってしまいかねません。	文化人類学における未開社会研究の成果を基礎に、いくつかのテーマを取り上げ、いずれも数回ずつ使って、「異なった」文化をもつ人々の認識の仕方について考察し、われわれのそれとの違いを理解できるように話をしていきたい。テーマについては、第 1 回の講義においてその大枠を述べる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	試験およびレポートを考えているが、受講者の数によって考慮する。

	歴史と文化(Ⅲ)(未開人の認識 b)	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
上に同じ。	上に同じ。ただし春学期に行う「はじめに」に当たるものはやらないので、できる限り「春」「秋」続けて取ってもらいたい。テーマについては、第 1 回の講義においてその大枠を述べる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	試験およびレポートを考えているが、受講者の数によって考慮する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築)	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 木の文化に対して石の文化とも言われるように、ヨーロッパでは我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は建築の歴史と通してヨーロッパの文化の一面を知ることを目的とする。 〔講義概要〕 ヨーロッパの建築の歴史は、過去の過去の文化として記録の中に記されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して、直接見ることもできる。本講義では、古代および中世のヨーロッパの建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。 〔受講生への要望〕 スクリーンに画像資料を提示しながら授業を進める必要から、受講生の定員を 150 名とします。	1　古代ギリシャの建築 2　古代ギリシャの建築 3　古代ギリシャの建築 4　古代ローマの建築 5　古代ローマの建築 6　古代ローマの建築 7　小括 8　中世ロマネスクの建築 9　中世ロマネスクの建築 10　中世ロマネスクの建築 11　中世ゴシックの建築 12　中世ゴシックの建築 以上の計画には多少の変更がありうる。

テキスト、参考文献	評価方法
特定のテキストは用いない。毎回の授業に関する資料を配布する。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介する。	中間および学期末の試験によって評価する。

	歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説 a)	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
ジェーン・オースティンは 19 世紀初期のイギリスの小説家です。代表作『自負と偏見』の映画化されたものが近年上映され評判を呼んだことからも分かるように、欧米で広く親しまれている作家です。彼女の作品は風俗小説と呼ばれていますが、風俗小説は 19 世紀 20 世紀のイギリス小説の主流であって、その中心的位置を占めているのがオースティンといってよいでしょう。日本では広く愛読されているとはいえませんが、アメリカとイギリスでは高く評価され、数多く映画化されてきました。 講義で扱う作品は『高慢と偏見』『マンスフィールド・パーク』を予定しています。人間とか人間性に興味がある人、語学力向上に熱意を傾ける人を望みます。 今年はテキストに『小説の勃興』を使います。この本の原本はほぼ 50 年前に出版されましたが、イギリス近代の文化と文学を学際的に考察しつつ小説の勃興を論じて右に出るものはありません。内容は文学に限らず心理学・哲学・美術・経済に及びます。魅力的な古典的教養書の見本のような書物ですが、決して易しくはありません。読書する能力、思考力を磨く訓練に最適の本といってよいでしょう。	最初の授業で、テキストの説明を含めてこの講義の全体的な解説と説明をします。世界各地で昔から使われてきたとはいえ、テキストは易しくはないので工夫を凝らして授業を進めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『小説の勃興』および手作りのプリント 参考文献は授業中に指定する。	感想文、レポートなど

	歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説 b)	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
20 世紀前半のヨーロッパやアメリカでは、第一次世界大戦によって、それまでの近代文明への信頼が徹底的に打ち砕かれました。そのような中で、文学者たちは新しい価値を創造しようと試みました。その文学は「モダニズム文学」と呼ばれ、今日なお読み継がれる作品が数多く残されています。 本講義では、そんなモダニズム文学者の一人、ヴァージニア・ウルフを取り上げます。ウルフはイギリス人の小説家で、病気がちであったために、イギリスから出ることはほとんどありませんでした。それでも彼女はそれまでの文学伝統に学び、同時代の他のモダニズム作家から影響も受けながら、まったく独自の世界を切り開いたと言われています。 モダニズム文学が具体的にどのようなもので、ウルフのどこがどのように独特なのか。その背景にあった 20 世紀前半という時代とは、そしてウルフを生んだイギリス社会とは、どのようなものだったのか。本講義ではウルフの小説や評論の抜粋を手がかりに、このような問いについて考えます。	ウルフの小説や評論の抜粋をあらかじめ読んで来てもらいます。毎回の授業では抜粋を出発点として、ウルフの読みどころを解説し、同時代の文学や社会背景について話を進める予定です。 第一回目の授業で、抜粋の読み方と、毎回のスケジュールと、評価方法について説明します。受講を希望する学生はかならず出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布	3 回の小レポートと定期試験

	歴史と文化(Ⅲ)(能楽論)	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。 この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点からビデオ鑑賞・仮設舞台での実演などを交えて、平易に解明していきます。 能楽の実際を知るため能楽堂での鑑賞を実地します。	①　古典芸能としての能楽 ②　能楽の概説 ③　能楽のながれ ④　能楽を演じる各役 ⑤　能舞台について ⑥　能の演技について（実演） ⑦　能の演目について Ⅰ ⑧　能の演目について Ⅱ（実演） ⑨　伊勢物語と能（夢幻能と現在能） ⑩　現在能「角田川」の解釈と鑑賞 ⑪　夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 ⑫　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

	歴史と文化(Ⅲ)(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾　菊次

講義目的、講義概要	授業計画
古典芸能「能」は、日本歴史の出来事を題材として、いろいろな曲目が作られており、中世の武士（もののふ）の様々な生き方が投影されています。 今回は、日本三大仇討の一つとされている曽我兄弟の富士の裾野での仇討を描いた「曽我物語」からドラマ化された曲を選び、事件の経過を追うとともに、どのように能として作品化されているか解釈していきます。 能楽についての知識・鑑賞法なども併せて解説していきます。 「能楽」への理解度を深めるために、春期から続いての受講も可能です。 能楽の実際を知るため、能楽堂での鑑賞を実施します。	①　能楽の紹介 ②　「曽我物語」について ③　東映映画「富士の夜襲」鑑賞 ④　能「調伏曽我」の解釈と鑑賞 Ⅰ ⑤　能「調伏曽我」の解釈と鑑賞 Ⅱ ⑥　能「小袖曽我」の解釈と鑑賞 Ⅰ ⑦　能「小袖曽我」の解釈と鑑賞 Ⅱ ⑧　能「夜討曽我」の解釈と鑑賞 Ⅰ ⑨　能「夜討曽我」の解釈と鑑賞 Ⅱ ⑩　歌舞伎と「曽我物語」 ⑪　能の実技の実際（実演） ⑫　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

	歴史と文化(Ⅲ)(スペイン研究入門)	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン研究入門は、前半から８回の授業分、主にスペインに関する地域研究入門の授業を二宮が行い、後の４回を浦部が担当し、主にラテンアメリカ（特にラテンアメリカとスペインの関係）に関する地域研究入門の授業を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、各自の専門分野にそって、該当地域の歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「ラテンアメリカ研究入門」と関連性・連続性が強いため、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。	<u>スペイン</u> 1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1. 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. フラメンコと闘牛というスペイン像 8. 内戦と現代スペイン <u>スペインとラテンアメリカ</u> 1. 中南米の地域区分と地理･言語状況 2. 宗教と価値規範（カトリック教、避妊論争） 3. 家族と人間関係（コンパドラスゴと家父長制） 4. 政治と社会変動（南欧･中南米の権威主義と民主化）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント等随時配布。	学期末の試験による。

	歴史と文化(Ⅲ)(ラテンアメリカ研究入門)	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「スペイン研究入門」の続きであり、主にラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。春学期に引き続いて、スペイン語履修者であれば知らなければならない基礎的知識を修得し、ラテンアメリカの魅力と抱えている問題の理解を目的としている。前半４回は、浦部が担当し環境と経済問題を中心に、後半８回は佐藤が歴史と文化を中心に論じる。 高校での地理、世界史など授業においてラテンアメリカ関係の項目は限定されているが、それでもいくつかは教えられている。ここでは、それらの基礎知識を確認するだけでなく、ラテンアメリカの人びととその社会の現状を知るために不可欠な幅広い知見を獲得してもらいたい。 春学期授業とセットで履修することを希望する。 スペイン・ラテンアメリカ研究を研究課題にしたいと考えている人は必須の授業である。	<u>ラテンアメリカの環境と社会　（担当：浦部）</u> 1. アンデスの自然環境と伝統的生業 2. アマゾンの自然環境と伝統的生業 3. 貧困・開発と環境問題（森林破壊） 4. 貧困・開発と環境問題（農村と都市） <u>ラテンアメリカの歴史と文化　（担当：佐藤）</u> 1. 歴史のおもみ：ラテンアメリカの「人種」・エスニック集団の分布と特徴 2. 征服期：先コロンブス期のアメリカ、コロンブス、アステカとインカの征服 3. 植民地時代、独立と国家形成期 4. 20 世紀ラテンアメリカ史１： 5. 20 世紀ラテンアメリカ史２：キューバ革命、チリ革命、ニカラグア革命、中米紛争、冷戦後 6. 米国ラティーノの歴史と文化 7. 現代のラテンアメリカ文化と社会１ 8. 現代のラテンアメリカ文化と社会２
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジメを用意する。 参考文献：増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』中公新書	積極的な授業参加 期末テスト、簡単な課題を課す場合がある。

	歴史と文化(Ⅲ)(日本文化論)	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
「日本文化」と言うときの「日本」とは何か？「文化」とは何か？そのようなラディカルな問いかけをしなければ、現在の我々が直面する多文化・多言語環境を迎えた「日本」と向き合うことは出来ない。日本は世間一般がぼんやりと信じている単一民族国家でもないし単一言語国家でもないのである。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてまた、それは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 種々の相を複雑に展開する「日本文化」について、その歴史的複合重層性への理解を基本に様々な問題を概括的に考えていく。	1　オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2　日本文化の歴史的複合重層性 外からの刺激と内的発展 3　日本は閉鎖的な国か？ 海の道、人と人との行き来 4　「日本」という国号 もともと日本に「日本」はなかった 5　「日本」という地域 どこまでが「日本」か？ 6　文字の輸入の意味 漢字・片仮名・平仮名 7　ものの行き来、人の行き来 海外の日本、日本の海外 8　奈良東大寺正倉院とシルクロード 仏教・音楽・工芸 etc 9　律令の輸入 大君・天皇・国王・将軍・国家 10　「鎖国」とは何か 開かれていた国「日本」 11　明治維新の文化的意味付け 「和魂洋才」の意義 12　まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）	学期末試験（論述式）の成績による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	評価方法

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の文学文化）	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 今は、宇宙から地球を眺め、その地球をだんだんズームインして、日本へ、そして自分の住んでいる地域の番地をパソコンに打ち込むと見事に自分の家までピンポイントの正確さでヒットすることができるようになりました。「英語圏の文学」という題目は私にとってこの地球に相当するほどの巨大かつ膨大なものです。私のやってきたことはその針の先端になります。それでも、時々その針の先端を少し動かして他の場所をクローズアップしてみるのは楽しいことです。その針の先端を少しずつ動かして何が見えるかを案内してみること、そしてその中にもっと深く入り込んで見てみたいという興味を引き起こすことがこの授業の目標と考えています。 講義の概要 文学は言葉によって表現される代表的な表象です。書かれたもの、すなわち文学の作品はその言葉が紡ぎ出す見事な織物です。この授業では、その言葉の色彩や織り方、できあがった織物がどんなものになるかをみていくことです。織物は織り上げる人の心が込められ、またすぐれた技によって織られていますから、その心と技を理解することがないと織物の本質や良さが分かりません。しかも織られた作品一つ一つは生きています。それは作品全体が一つの生き物ですから、小さな部分にも血が通っています。どんな血が流れているのかはその作品が生まれた時代的、文化的背景によって違いますが、一つだけ共通しているのはどの作品にも私たちと同じ人間性の不思議さと驚異が流れていることです。	授業計画 授業ではハンドアウトのテキストを中心に重要な箇所を読んだり、説明したりしますので、以下に掲げる１時限ごとのシラバスは大体の順序と内容と考えてください。授業によっては以下に示された通りには進まない時があるかも知れませんので、この点を承知しておいてください。 半期完結授業 １．　Introduction：読書の楽しみ。私の英米文学への興味の始まり （1）文学と言葉について（2）言葉の意味とその文学的広がり、あるいは変化 （3）Simplicity、Freshness、Precision、Vigor（4）文体について ２．　多様な作品を例に読んでみます。 （1）The Kitchen at Harmonie（2）Life in America（3）The Unicorn in the Garden （4）A Very Short Story（5）The Helmsman　6）Others ３．英語圏の文学と社会について ４．前の授業の続き ５．前の授業の続き ６．英語圏の文学とキリスト教 ７．前に授業の続き ８．前の授業の続き ９．文学のジャンルについて （1）Verse と（2）Prose について １０．その構造について （1）プロットとストリーの重要性について （2）登場人物の設定　（3）プロットの構成と展開 １１．その内容について：言葉と修辞（レトリック）の重要性について （1）Metaphor、Metonymy、Repetition、Paradox、synecdoche、Imagery などの効果について、など （2）その他のレトリックについて １２．　講義のまとめとレヴュー

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：作品のハンドアウト一週間前に手渡しますので、それを予習してくると一層話の内容がよく理解できるようになると思います。 参考文献：Laurence D. Lerner. *English Literature: An Interpretation for Students Abroad* . OUP-London and The Eihosha Ltd. Tokyo. 上記のテキストは非常に良く、分かりやすくできています。 見て、書かれた言葉がどんな風に演じ、話されるかを確かめることも効果的な素材となります。	３分の２以上の出席を求めます。短い感想文（レポート）の提出があり、それを評価しますが、学期末の定期試験が成績評価の基本です。 受講生に対する要望等 大切なことはしっかりとノートテーキングすること。 また文学・文化、また、ものの見方、考え方に興味を持つこと。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	歴史と文化(Ⅲ)(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間のコミュニケーションとは、言い換えれば、「他者理解」のことである。本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間で生じる摩擦により、ときに多大な犠牲が払われてきた。 前半では、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、はたして人種間の対話は進展を見せたのだろうか。アメリカ白人たちのジレンマに目を向け、「他者」受容の困難さに理解を及ぼす。 後半は、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を中心に解説する。	1　モザイク国家アメリカ 2　民族混合のジレンマ 3　奴隷制下の人種共存 4　黒人の地位向上運動 5　共存のパラダイム転換 6　公民権運動の共生理念 7　急進派ブラック・パワーによるコミュニケーションの断絶 8　ロス暴動に見る共存の現実 9　多民族混合社会ハワイ 10　ハワイの経験－多民族の取り込み－ 11　日系、アジア系の同化体験 12　異人種間共生の手がかり

テキスト、参考文献	評価方法
『アメリカ黒人の歴史』本田創造　岩波新書 『キング牧師とマルコムX』上坂昇　講談社現代新書 『ハワイの日本人移民』山本英政　明石書店	学期末試験

	歴史と文化(Ⅲ)(文化史入門)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 　本講義では、古代地中海世界で体現された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。	１　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２　技術文化：（その１）動力とエネルギー源 　奴隷労働は生産的であったか？ ３　技術文化：（その２）水の供給・処理と農業・牧畜 　水道橋にかけるローマ人の執念 ４　運送手段：（その１）船と海上輸送 　古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 ５　運送手段：（その２）陸上輸送 　古代の「一般道」と「高速道路」 ６　造形芸術：建築と彫刻 　アルカイック・スマイルの謎 ７　文学の世界：叙事詩と演劇 　ギリシア人は「神話」を信じていたか？ ８　宗教と祭祀：神々と人間 ９　性愛の諸相（男と女） 　同性愛と異性愛 １０　競技的（アゴン）人間類型 　理想的人間とは？ １１　クリエンテーラ・パトロネジ関係 　「シンポジウム」と親分・子分関係 １２　まとめ（総括と展望）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。	学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

（春）（秋）	現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	担当者	山越　徳

講義目標

１年間の学生生活を踏まえて、人間形成においてどのような成長を遂げたか、何を学んだか、チャレンジして達成できたことは何であるか等再確認させる。２年次の目標と将来のライフスタイル、自分の夢を実現するためのキャリアデザインを明確に意識させることにより、生き生きとした学生生活を送れるようにする。

講義概要

選択するのは「入りたい企業」ではなくて「自分がやりたい仕事」である。「就社」ではなくて「就職」であることを意識させる。自分の選択した生き方によって職業選択も変わることが理解できるようにする。そのため多様な職業の実態を知る機会を提供し必要な知識、技能を理解させる。本講義ではさまざまな業種の現役で活躍中の社会人を迎えて「ありのままの仕事の様子」を語ってもらう。仕事をする中での努力、工夫、苦労、喜び、を語ってもらう。毎回質問の時間を確保し、学生の疑問に答えられるようにする。

受講生への要望

とにかく出席すること。
講座内容のさらなる充実を図るためと講師への還元のため、毎回の感想をレポートすること

評価方法

出席、レポート（期末）

テキスト、参考文献

必要な資料は授業で配布

授業計画

（春）

1. さまざまな仕事（進路）を考える　オリエンテーション
2. 産業の構造変化と労働市場の変貌
3. 経済社会の変化と人事制度
4. 職場から見た航空業界の仕事
5. 職場から見た公務員の仕事
6. 社会が求める人材とは（学生時代にやっておくこと）
7. 職場から見た旅行業の仕事
8. 職場から見た総合商社の仕事
9. 職場から見たマスコミの仕事
10. 職場から見た金融・保険業の仕事
11. 職場から見た運輸業の仕事
12. キャンパスライフと仕事（内定者の体験談）

（秋）

1. さまざまな仕事（進路）を考える　オリエンテーション
2. 現場から見た百貨店の仕事
3. 経済社会の変化と人事制度
4. 産業の構造変化と労働市場の変貌
5. 職場から見たアパレル業の仕事
6. 職場から見た福祉・医療機関の仕事
7. 職場から見た情報産業の仕事
8. ナイスハートなプロフェッショナルになるためのキャリア・マネジメント
9. 職場から見たホテル業の仕事
10. 社会が求める人材とは（学生時代にやっておくこと）
11. 職場から見た食品関連企業の仕事
12. キャンパスライフと仕事（内定者の体験談）

上記授業計画は講師の都合により変更することもある。

	現代社会(Ⅲ)(中東政治思想 a)	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム（原理）主義やサラフィズムと呼ばれる過激なイスラム政治運動が世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のウサマ・ビンラーディン率いるアルカーイダは1990 年代半ば「十字軍」と指弾する米国に対しジハードを宣言。2001 年９・１１テロを引き起こし、ブッシュ米政権による史上初の「対テロ戦争」を招くこととなった。米国が 2003 年イラク戦争に踏み切ると、アルカーイダもイラクをジハード（聖戦）の主戦場と定めてテロ闘争を激化。その結果同国が内戦状態に陥ると、アルカーイダは 2006 年 10 月「イラク・イスラム国」の樹立を宣言した。 講義ではジャーヒリーヤ論に代表されるイスラム主義思想・戦時運動の理解を目指す。 また、毎時限の講義は, (1)　授業計画に基づいたイスラム主義思想・政治運動の解説 (2)　イスラム主義政治運動を中心に中東政治情勢ビデオの視聴 の 2 部構成とする。	1　（イントロダクション）セム族唯一神教の系譜 2　イスラム教多数派スンニ派とシーア派の起源 3　イスラム教の戒律シャリーア（イスラム法）と五行（メッカ大巡礼など） 4　エジプトの過激イスラム主義組織「イスラム集団」と「ジハード団」 5　イスラムの伝統的世界論「イスラムの家」と「戦争の家」 6　ウンマ（イスラム共同体）内部のジハード論と「近い敵・遠い敵」論、 7　サイイド・クトゥブの革命理論、ジャーヒリーヤ論 8　過激イスラム主義組織の原型、タクフィール・ワ・ヒジュラ（断罪と逃亡）団 9　過激イスラム主義勢力によるサダト前エジプト大統領暗殺（1981 年） 10　イスラム集団とジハード団の反政府ジハード再蜂起 11　イスラム集団による外国人観光客殺戮、ルクソール事件（1997 年）
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原和彦著『イスラム過激原理主義――なぜテロに走るのか』（中公新書、2001 年）	出席率と試験による

	現代社会(Ⅲ)(中東政治思想 b)	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム（原理）主義やサラフィズムと呼ばれる過激なイスラム政治運動が世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のウサマ・ビンラーディン率いるアルカーイダは1990 年代半ば「十字軍」と指弾する米国に対しジハードを宣言。2001 年９・１１テロを引き起こし、ブッシュ米政権による史上初の「対テロ戦争」を招くこととなった。米国が 2003 年イラク戦争に踏み切ると、アルカーイダもイラクをジハード（聖戦）の主戦場と定めてテロ闘争を激化。その結果同国が内戦状態に陥ると、アルカーイダは 2006 年 10 月「イラク・イスラム国」の樹立を宣言した。 講義ではジャーヒリーヤ論に代表されるイスラム主義思想・戦時運動の理解を目指す。 また、毎時限の講義は, (3)　授業計画に基づいたイスラム主義思想・政治運動の解説 (4)　イスラム主義政治運動を中心に中東政治情勢ビデオの視聴 の 2 部構成とする。	1　旧ソ連のアフガニスタン侵攻（1979 年） 2　アフガニスタン戦争のイスラム義勇兵、アラブ・アフガンズの誕生 3　アラブ・アフガンズの初期の指導者、パレスチナ人アブダッラー・アッザム 4　ウサマ・ビンラーディンによる国際的イスラム・テロ組織アルカーイダ（基地）の結成 5　ビンラーディンによる対米「ジハード宣言」と「世界イスラム戦線」の結成 6　９・１１テロと首謀者ハリド・ムハンマド 7　イラク戦争とアルカーイダ第 2 世代指導者ザルカウィの登場 8　ロンドン同時テロとユーロイスラム 9　アルカーイダ No.2 ザワヒリのイラク・ジハードの 4 段階戦略 10　アルカーイダ・イラク支部の「イラク・イスラム国」樹立宣言 11　イスラム主義運動全般の反ユダヤ主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原和彦著『イスラム過激原理主義――なぜテロに走るのか』（中公新書、2001 年）	出席率と試験による

	現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
新聞・雑誌などの活字媒体からテレビ・ラジオなどの電波媒体、そしてインターネットとわれわれを取り巻くメディアは日常的な生活のツール（道具）であるが、春学期の授業では具体的なメディア素材に触れながらその成り立ちと発展をたどり、民主主義や市場経済システムなどを支える社会的な機能の展開を考える。 広く人間のコミュニケーションの歴史を考えるとき、人と社会の関係を画期的に転換させた技術革新はグーテンベルクの活字印刷術の発明である。大量の印刷物の流通がそれまでの「声」のコミュニケーションを「視覚」に振り向け、宗教を核にした欧州の情報の流れを変えた。 メディアの歴史が示すのは、個人がメディアを介して権力や市場にかかわることで世界の秩序を動かし、時代が転換して行くという大きな流れである。 そこでは、権力の監視や情報のゲートキーパー（門番）としてのジャーナリズムの役割が同時に問われてきた。写真や通信技術、電波と映像の時代を経てインターネットが世界をつなぐ時代を迎えて、巨大なメガメディアと個人の情報が自在に行き交ういま、メディアが果たしてきた公共的な機能はどこへ向かうのかを、あわせて考えたい。	1　はじめに 2　グーテンベルクの革命 3　ピュリツァーと新聞戦争 4　大英帝国とロイターの軌跡 5　視覚の２０世紀 6　プロパガンダとメディア 7　戦争・国益・メディア 8　情報とグローバリズム 9　メディア複合体 10　ネットとテレビ 11　Contents is　King 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする。	定時試験の成績に平常の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

	現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
マスメディアの現在を考える上で、「公共圏」と呼ばれる社会的役割を担ってきたジャーナリズムという機能が今後どのように展開するかが大きな論点である。 「第４の権力」とも呼ばれるマスメディアは、個人と政府や企業などとの間で情報を媒介するかたわら、「世論」の形成や権力の監視という形で民主主義と市場社会の公共的な価値を実現する機能を担ってきた。 グローバリゼーションの進展に伴ってメディアが国境を越えた巨大複合体となり、娯楽コンテンツを中心にした収益事業体の性格を強める一方、インターネットという個人が自在に情報をやりとりできる環境が広がり、政府の規制や既得権益に守られてきた旧来のメディアの在り方にさまざまな壁が立ちはだかっている。 秋学期の授業ではこうした観点に立って、現代のメディアが直面する問題を情報統治のありかたや法的基盤、報道倫理、経営などの観点から問い直したい。 個人の「知る権利」を代行するという、民主主義社会におけるメディアの公共的な足場が揺らぐなかで、国家や社会と個人をつなぐジャーナリズムの社会的機能がどこへ向かうのかを考えてみたい。	1　はじめに 2　ジャーナリズムの誕生 3　調査報道とキャンペーン 4　揺らぐ「表現の自由」 5　誤報と虚報の構造 6　政府・世論・メディア 7　メディアの情報操作 8　公正報道とメディア倫理 9　放送と通信の融合 10　市場化するメディア 11　情報摩擦とメディア 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。ピート・ハミル『新聞ジャーナリズム』（日経 BP 社）、原寿雄『ジャーナリズムの思想』（岩波新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績に加えて、平時の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

	現代社会(Ⅲ)(広告論 a)	担当者	市川　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 現代社会における広告の機能を明らかにします。 また、企業の広告について、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略の視点から解説し、実際の広告計画の立案の過程を明らかにします。 【講義の概要】 1　現代広告の潮流について考えます。 2　広告の機能について考えます。 3　広告主、メディア、広告業界の仕組みと、その動向について取り上げます。 4　マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略のプランニングのプロセスを明らかにします。 5　CM を通じて、企業やマーケティング戦略の背景を明らかにします。	1　現代広告の潮流と課題 2　広告の定義と機能 3　広告の目的と広告の種類 4　マーケティング戦略と広告 5　ブランド戦略と広告 6　広告のターゲットと広告の種類 7　広告ビジネスの全体像 8　広告主の役割 9　広告会社の機能 10　広告メディアの動向（マスメディア） 11　広告メディアの動向（Web、SP） 12　事例研究①
テキスト、参考文献	**評価方法**
■　梶山皓『広告入門＜新版＞』日経文庫、2002 年 11 月 ■　足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房、2005 年 10 月	出席、試験による。

	現代社会(Ⅲ)(広告論 b)	担当者	市川　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 現代社会における広告の機能を明らかにします。 また、企業の広告について、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略の視点から解説し、実際の広告計画の立案の過程を明らかにします。 【講義の概要】 1　現代広告の潮流について考えます。 2　広告の機能について考えます。 3　広告主、メディア、広告業界の仕組みと、その動向について取り上げます。 4　マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略のプランニングのプロセスを明らかにします。 5　CM を通じて、企業やマーケティング戦略の背景を明らかにします。	1　広告計画の全体フロー 2　広告目標の設定 3　マーケティング戦略の立案①（ターゲット・インサイト） 4　マーケティング戦略の立案②（ポジショニング戦略） 5　アカウント・プラニング 6　ブランド戦略の立案 7　クリエーティブ戦略の立案 8　広告制作 9　メディア戦略の立案 10　広告効果の測定 11　事例研究② 12　事例研究③
テキスト、参考文献	**評価方法**
■　梶山皓『広告入門＜新版＞』日経文庫、2002 年 11 月 ■　足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房、2005 年 10 月	出席、試験による。

	現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 a)	担当者	堅田　剛

講義目的、講義概要	授業計画
社会科学は法学・政治学・経済学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 春学期は、テキストとして浅羽通明氏の『右翼と左翼』を用います。同氏は、「みえない大学本舗」の主宰者として知られています。本書では、社会科学で多用される「右翼」と「左翼」の概念をめぐって、その歴史的意味と今日的意義が問われています。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。「覚える」のではなく「考える」授業です。	1　「右」と「左」とは何か――辞書を引いてみる 2　「右」と「左」とは何か――辞書を引いてみる（続） 3　フランス革命に始まる――「右」と「左」の発生 4　フランス革命に始まる――「右」と「左」の発生（続） 5　「自由」か？　「平等」か？――19 世紀西洋史の「右」と「左」 6　「ナショナル」か？　「インターナショナル」か？――19～20 世紀世界史の「右」と「左」 7　戦前日本の「右」と「左」――「国権と民権」・「顕教と密教」 8　戦前日本の「右」と「左」――「国権と民権」・「顕教と密教」（続） 9　戦後日本の「右」と「左」―憲法第９条と安保体制 10　戦後日本の「右」と「左」―憲法第９条と安保体制（続） 11　現代日本の「右」と「左」――理念の大空位時代 12　現代日本の「右」と「左」――理念の大空位時代（続） ※　以上は、だいたいの目安です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
浅羽通明『右翼と左翼』幻冬舎新書、2006 年 ※参考文献は、授業の中で紹介します。	中間レポートと学期末試験の成績を基本とし、自由提出レポートと出席状況を加味して、総合的に評価します。

	現代社会(Ⅲ)(社会科学概論 b)	担当者	堅田　剛

講義目的、講義概要	授業計画
社会科学は法学・政治学・経済学・社会学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 秋学期は、テキストとして長谷部恭男氏の『憲法とは何か』を用います。同氏は、現代憲法学の第一人者です。本書では、法制度としての憲法と政治制度としての立憲主義の関係がわかりやすく説かれています。憲法改正問題についても、逃げることなく正面から論じています。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。「覚える」のではなく「考える」授業です。	1　立憲主義の成立（ドン・キホーテとハムレット、立憲主義の成立、日本の伝統と公私の区分） 2　立憲主義の成立（続）（本性への回帰願望？、憲法改正論議を考える、「国を守る責務」について） 3　冷戦の終結とリベラル・デモクラシーの勝利（国家の構成原理としての憲法、三種の国民国家、等） 4　冷戦の終結とリベラル・デモクラシーの勝利（続）（原爆の投下と核の均衡、立憲主義と冷戦後の世界、等） 5　立憲主義と民主主義（立憲主義とは何か） 6　立憲主義と民主主義（続）（民主主義とは何か、民主主義になぜ憲法が必要か） 7　新しい権力分立？（ブルース・アッカーマン教授の来訪、首相公選論について） 8　新しい権力分立？（続）（日本はどこまで「制約された議院内閣制」といえるか、二元的民主政） 9　憲法典の変化と憲法の変化（「憲法改正は必要か」という質問、国民の意識と憲法改正） 10　憲法典の変化と憲法の変化（続）（実務慣行としての憲法、憲法とそれ以外の法） 11　憲法改正の手続（改憲の発議要件の緩和） 12　憲法改正の手続（続）（憲法改正国民投票法について）
テキスト、参考文献	**評価方法**
長谷部恭男『憲法とは何か』岩波新書、2006 年 ※参考文献は、授業の中で紹介します。	中間レポートと学期末試験の成績を基本とし、自由提出レポートと出席状況を加味して、総合的に評価します。

	現代社会(Ⅲ)(教育法 a)	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法は、教育の場で生じるさまざまな問題を、法的視点から、つまり、権利義務関係の視点から整理して、教育問題の分析･解決を提起してゆく法分野です。現在、学校でも、家庭でも、子どもに対する人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、統計的には減少しているとされるいじめも、むしろ、学校では常態化しており、いじめ裁判はむしろ増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害を具体的な裁判事例をとして法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を入門的に解説します。	1　学校における子どもの人権侵害――問題化の経緯と分類 2　体罰裁判とその特徴――体罰裁判の判例動向 3　体罰裁判の新しい展開――障害児体罰･スポーツ体罰 4　いじめと裁判――中野富士見中事件図いわき小川中事件 5　いじめ自殺と予見可能性――津久井町立中野中いじめ自殺事件 6　いじめ調査・報告義務訴訟 7　丸刈り校則裁判 8　修徳高校パーマ校則裁判 9　都立高校原級留置き訴訟 10　信教の自由と学校教育――エホバの証人退学事件 11　内申書･指導要録開示訴訟 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。	試験

	現代社会(Ⅲ)(教育法 b)	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法の現代的問題状況の把握(教育法ａ)を前提に、教育法のより体系的な理解のために、教育法の基礎概念である教育人権の問題状況と、教育と国家との関係の原理的なあり方と現実の緊張関係を分析します。	1　戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2　教育と国家――学テ裁判 3　教科書裁判（1） 4　教科書裁判（2） 5　障害児の学習権――特殊学級入級処分取消訴訟 6　子どもの市民的自由――内申書裁判 7　親の教育権――日曜日訴訟 8　親の教育権――七尾養護学校事件 9　教師の教育の自由――伝習館高校事件 10　教師の教育の自由と日の丸･君が代 11　教師の良心の自由 12　教育基本法改正問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください	試験

	現代社会(Ⅲ)(民法 a)	担当者	石井　保雄

講義目的、講義概要	授業計画
最近では、「法律相談」を題材にしたテレビのヴァラエティー番組もいくつかあり、法ないしは法律について、以前よりも、自分にとって身近なものに思える人も増えているかと思う。この講義では、法律学のなかでの「基本のキ」（少し古いか！）ともいえる民法の概略を説明したい。 民法は、私たちの日常生活のなかで、もっとも身近な法律である。しかし民法は全体で千条を超える条文数のある大きな法律で、関連法規も含めれば膨大なものとなる。またつい最近までカタカナ混じりの文語体の漢字が多用され、分かりにくい法律であった。ただしこれについては、昨年からひらがな口語体になり、随分改善された。 この講義では、民法について、その基本的な考え方を説明しようと考えている。具体的には、民法の別名でもある「商品交換法」「財産取引法」という側面を中心にして、その基本的な枠組み・処理の発想がどのようなものとなっているのかを説明し、また私たちが生きる現代社会では、どのようなことが具体的に問題となっているのか扱う。受講にあたっては、小型のものでいいから、「六法全書」を持参してもらいたい。	《契約の成り立ちとその役割――財産取引社会における法の役割と機能について考える――》 １　私たちの生活と民法、その仕組み ２　市民社会＝財産取引社会と民法 ３　法における「人間」とは何か？ ４　当事者の意思に問題があって契約が有効にならないとき―意思の欠缺（ケンケツ）と瑕疵（カシ）ある意思表示 ５　当事者の「意思」に問題があり、契約が有効でない場合の後始末――無効と取消―― ６　本人の活動を拡大するためのシステム―代理制度 ７　法律関係を時間的に調整する制度―時効、除斥期間 ８　時効と除斥期間（続き） ９　契約関係の重複と物の引渡し―債権と物権の意味 １０　契約が成立するとどうなる？―不動産取得と第三者への権利主張 １１　契約内容が不十分にしか実現されないとき―債務不履行 １２　契約の目的物のキズがあった場合の売り主の責任―瑕疵担保責任
テキスト、参考文献	**評価方法**
山野目章夫〔編〕『ブリッジブック先端民法入門〔新版〕』（信山社・２００６）	基本的には、定期試験の結果如何により評価する。ただしレポートの提出を求め、そのことも考慮するつもりである。

	現代社会(Ⅲ)(民法 b)	担当者	石井　保雄

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、春学期に続いて、法律学における基本科目であり、私たちの日常生活においてもっとも身近な法律である民法について、その基本的な考え方について説明し、また私たちが生きる現代社会のなかの日常、いったいどのような問題が提起され、民法がそれらをいかに解決ししているのかを検討してみたいと思う。 具体的には、まず最初に、財産取引法としての民法が人びとの、自由な商品交換について、いわば、その裏から支えている側面、すなわち不法行為法について触れる。そのあとは、民法のもつ、もう一つの側面である、「家族法」、つまり家庭内における夫婦や親子関係をめぐって提起される問題への法的対処についてとりあげる。なお、このような分野も、それが決して商品交換法としての民法と無関係でないことも、あわせて明らかにしたい。 できれば春学期に続いて受講することが望ましい。ただし秋学期のみの受講者にとっても、興味・関心のもてるものになるように努めたいとは思う。なお受講に際しては、「六法全書」必携であることは、春学期と同じである。	《契約だけで解決できない問題》 １　契約によらず生じた富は、一体だれの手に？（１）事務管理 ２　契約によらず生じた富は、一体だれの手に？（２）不当利得 ３　他人の権利・利益を侵す行為の責任―不法行為 ４　同上 《契約から家族へ》 ５　夫婦関係の形成―婚姻 ６　夫婦関係の解消―離婚 ７　先端医療時代の家族―親子関係 ８　家族のなかの「弱者」―子供を育てる ９　保護の必要な大人―高齢者と民法 １０　家族関係と財産関係の交錯―相続 １１　同上 １２　家族から社会へ―「個」と共生
テキスト、参考文献	**評価方法**
山野目章夫〔編〕『ブリッジブック先端民法入門』（信山社・２００４）	基本的には、定期試験の結果如何により評価する。ただしレポートの提出を求め、そのことも考慮するつもりである。

	現代社会(Ⅲ)(国際関係論)	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
現代の国際政治について、日本や中国、台湾、朝鮮半島、米国、国連を中心に考察する。 中国など新たな大国の台頭により、国際秩序が大きく変化している。国際政治におけるパワーシフトといった現象が起き、東アジア共同体構想など新秩序形成に向けた取り組みも始まっている。 そうした変化の実態、背景、歴史的経緯、それが生み出すものについて検討する。 同時に、現在の日中関係、米中関係、日米中関係や、朝鮮半島の核問題、台湾独立問題などについても考察していく。 冷戦の崩壊、米国同時多発テロとその後に起きたイラク戦争、テロとの戦い、国連の果たす役割やその現状についても考察する。	１　国際関係論の考え方、授業計画の説明 ２　国際政治におけるパワーシフト ３　日中関係（日中国交正常化とその後の推移） ４　米中関係の特性（ステークホルダー論） ５　日米安保とアジア ６　新しいパワー（ソフトパワー論など） ７　朝鮮半島問題 ８　台湾問題 ９　ポスト冷戦 １０米国同時多発テロとイスラム世界 １１国連と人道介入 １２まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
上村幸治著『中国のいまがわかる本』(岩波ジュニア新書)	出席、レポート、試験など

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	現代社会(Ⅲ)(情報とメディア)	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
現代の情報とメディアについて多角的に考える。取り上げる対象は、新聞、テレビ、出版（書籍)、インターネット、広告媒体など。 新聞社でジャーナリストとして働き、米国や中国で１４年間にわたって海外特派員として暮らした経験を踏まえ、実践的な情報論、メディア論を紹介したい。 社会的な事件、社会現象を取り上げながら、現代社会におけるメディアの役割とその問題点について考える。 ９・１１テロ、イラク戦争、選挙報道などといったトピック、グリコ・森永事件やベトナム戦争、ケネディ大統領暗殺、天安門事件などといった歴史的な事件にも言及する。 テレビ番組、ドラマや書籍を通してさまざまな社会現象が起きている。ドラマや映画、アニメといったソフトが海外に紹介され、国際交流に影響を与えている。 そうした現象が起きる背景や、ソフトパワーをめぐる問題、メディアの果たす新しい役割についても考える。 そのためにハリウッド映画や宮崎駿のアニメ、手塚治虫の作品、日本や韓国のテレビドラマなども材料として使う。	1　情報とメディアの関係 2　報道の自由と人権 3　事件報道の実態 4　戦争報道の歴史 5　スポーツとメディア 6　パブリシティ（報道と宣伝の関係） 7　映画などのソフトと社会の関係 8　テレビ番組と社会現象 9　アニメと国際社会 10　ソフトパワー論 11　インターネット時代 12　メディアリテラシー　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
とくになし	出席、レポート、試験など

	現代社会(Ⅲ)(国際協力論)	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
「国際協力」を中心テーマとして講義を進めていきたい。 世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はＰＫＯ（平和維持活動）やＯＤＡ（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この２つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。 本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	Ⅰ．地域紛争と平和協力 1.　国連憲章と平和維持活動（ＰＫＯ） 2.　地域紛争の事例研究ａ：モザンビーク 3.　地域紛争の事例研究ｂ：エルサルバドル 4.　日本の国際平和協力法 Ⅱ．南北問題と開発協力 5.　開発戦略の変遷ａ：援助と貿易 6.　開発戦略の変遷ｂ：構造調整とガバナンス 7.　貧困と「人間開発」概念 8.　日本の政府開発援助（ＯＤＡ） Ⅲ．平和協力と開発協力の融合 9.　紛争終結後の社会荒廃 10.　人間の安全保障 11.　平和構築と復興支援の模索 12.　予防外交と予防開発
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

	現代社会(Ⅲ)(南北問題)	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
「南北問題」を中心テーマとして講義を進めていきたい。 地球上にいる人間の約 8 割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約 5 分の 1（約 12 億人）は 1 日 1 ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。 本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	Ⅰ．地球環境政治 1.　地球環境問題と南北対立 2.　貧困と環境破壊 3.　地球温暖化（気候変動枠組み条約） 4.　資源・エネルギーの枯渇 Ⅱ．南北問題の展開 5.　第三世界の独立と冷戦 6.　西側先進国の開発援助戦略 7.　石油危機と第三世界の結束 8.　第三世界内の格差拡大 Ⅲ．グローバル経済と開発援助 9.　経済（貿易・金融）のグローバル化 10.　経済の自由化と貧困の拡大 11.　開発援助の理念と枠組み 12.　ミレニアム開発目標
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業で随時紹介する。	期末試験（これに出席状況を加味する）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	現代社会(Ⅲ)(NGO 論)	担当者	未　定

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期授業開始時までに掲示にて告知する。	秋学期授業開始時までに掲示にて告知する。
テキスト、参考文献	**評価方法**

	現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の史的展開)	担当者	阿部　純一

講義目的、講義概要	授業計画
現代東アジア国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。 講義では、第2 次大戦後の東アジア国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説する。今日われわれが直面する朝鮮半島や台湾海峡における緊張の歴史的背景、発展と変貌著しい中国の試行錯誤過程などを時系列的にフォローし、過去と現在との継続性を確認することによって、現代東アジア国際関係が抱える問題点を明らかにする。	1 東アジア国際関係の特質 2 冷戦の起源と東アジア 3 中国革命、朝鮮戦争：アジアに拡大する冷戦 4 中ソ対立とベトナム戦争 5 米中和解の衝撃 6 米ソ・デタント：進展する核軍備管理 7 新冷戦：日米中戦略提携の時代 8 民主化の潮流とソ連体制の崩壊 9 ポスト冷戦の世界 10 東アジア地域の台頭 11 アメリカ単独覇権の時代 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくに指定しない	筆記試験（論述）

	現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の現状と展望)	担当者	阿部　純一

講義目的、講義概要	授業計画
冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中ロという大国の利害が交錯し、かつASEAN という地域協力体やAPEC という多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。	1 21 世紀の超大国・中国：建国50 年の紆余曲折 2 21 世紀の超大国・中国：外交戦略の変遷 3 21 世紀の超大国・中国：将来への模索 4 台湾：蒋介石・蒋経国の権威主義時代 5 台湾：李登輝の民主化路線 6 台湾：陳水扁と米中台関係 7 北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展 8 韓国：強権政治から民主体制への転換 9 北朝鮮の核問題と朝鮮半島を取り巻く国際関係 10 東南アジア世界の統合：東アジア共同体の模索 11 総括：現代東アジア国際関係の課題 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくに指定しない	筆記試験（論述）

	現代社会(Ⅲ)(中国研究入門)	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
現代中国を考える上での基礎知識を身に付けるとともに、将来研究する人にとってはその手がかりを得られるよう、中国社会の基本的な成り立ちについて調べていく。 できるだけ、現在起きている事象、具体的な事件を取り上げ、抽象論ではなく、実証的に現実の中国にアプローチする。 まず歴史的な視点から中国の成り立ちについて考える。その上で、中国を構成する民族、宗教、言語、習慣などについても考察する。国際社会との関わりについても調べていく。 中国の文化（文学や映画など）とからめながら、政治制度、経済制度、社会システムについて取り上げ、日本などと比較していくことにする。そのために、日本の作家、夏目漱石や芥川龍之介らの中国観にも触れていく。	1　中国を知るために 2　現代中国と歴史の複雑な関係 3　西遊記と少数民族の不思議な世界 4　三国志と現代政治 5　中国映画の変遷 6　文学、文藝作品（漱石、芥川と魯迅） 7　社会事情（人口、環境問題など） 8　経済社会体制の変化 9　社会風俗 １０都市の表情、農村の課題 １１地域の特色 １２まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
上村幸治著『中国のいまがわかる本』岩波ジュニア新書 上村幸治著『中国路地裏物語』岩波新書	出席、レポート、試験など

	現代社会(Ⅲ)(中国社会論)	担当者	上村　幸治

講義目的、講義概要	授業計画
中国社会の現状、特質について実証的に調べていく。できるだけ具体的な社会事象や事件を取り上げながら、中国社会の様相を考えたい。 具体的には中国の最近の文学作品やニュースなどを紹介しながら、その背景をさぐっていく。 そのためにメディア（新聞、雑誌、テレビ）やソフト（映画、アニメ、マンガ）などを使う。 中国のベストセラー作品から中国社会の変動を考えたり、マフィアの実態を通して中国社会の裏側を考察したりもする。 マスコミ、インターネット、犯罪、人口、環境、少数民族問題、社会保障、女性問題など幅広いテーマを通して、中国社会についての考察を深めていきたい。	1　中国社会について 2　映画の中の中国社会 3　香港サブカルチャー 4　政治システムと黒社会、秘密結社 5　テレビ番組 6　マスコミと宣伝機関 7　インターネットの力 8　犯罪と社会背景 9　女性問題 １０出版事情 １１台湾社会 １２まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
上村幸治著『中国のいまがわかる本』岩波ジュニア新書 上村幸治著『中国路地裏物語』岩波新書	出席、レポート、試験など

	現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ３．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ４．世界にはどのような言語があるのか？ ５．民族の形成 ６．文化の形成・変化 ７．民族と宗教 ８．民族と国家 ９．少数民族問題と民族・地域紛争 １０．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １１．ウソとコトバの魔術 １２．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめWEB上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。 また、この授業は０６年度以前の言語文化学科入学者用の学期完結の「言語文化概論」に相当し、重複履修はできません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」（作品社） 下川　浩『どうしてそんなにダマされる？』『生きたコトバづかい』（国際語学社）ほか	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを提出し、それを自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

	現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ３．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ４．世界にはどのような言語があるのか？ ５．民族の形成 ６．文化の形成・変化 ７．民族と宗教 ８．民族と国家 ９．少数民族問題と民族・地域紛争 １０．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １１．ウソとコトバの魔術 １２．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめWEB上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。 また、この授業は０６年度以前の言語文化学科入学者用の学期完結の「言語文化概論」に相当し、重複履修はできません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」（作品社） 下川　浩『どうしてそんなにダマされる？』『生きたコトバづかい』（国際語学社）ほか	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを提出し、それを自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

	現代社会(Ⅲ)(韓国研究入門)	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
現代韓国への旅 本講座は、韓国研究のための最初の一歩である。「韓国を旅する」という設定で、現代韓国に関する基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする。同時に、日本から韓国へ、そして再び日本へという旅のルートを通じて、現代韓国を「まなざす」とはどういうことかについても触れていく。 履修者には、課題の提出と積極的な授業への参加が期待される。	1 朝鮮半島を知ろう－旅の準備 2 韓国の若者と出会う 3 韓国のインターネット事情 4 韓国大衆文化事情－Kpop の世界へ 5 グローバルシティ・ソウル 6 政治から文化へ 7 ソウル・オリンピック 8 朝鮮半島とアメリカ 9 独裁政権と民主化の記憶 10 朝鮮戦争と南北分断へのまなざし 11「朝鮮近代史と日本」について考える 12 まとめ－再び日本へ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する予定。	出席、小レポート提出（5 回）および期末レポート。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	現代社会(Ⅲ)(異文化間コミュニケーション)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
あなたにとってなにが異文化／自文化か？そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への／からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をとおして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。	１．オリエンテーション ２．異-文化と自-文化 ——あなたにとって「異文化」とは？ ３．異文化間コミュニケーション研究の歴史 ４．コミュニケーションの構造 ——コンテクストとステレオタイプ ５．異文化へのまなざし（1）「日本」の表象 ６．異文化へのまなざし（2）自文化中心主義 ７．内なる異文化（1） ８．内なる異文化（2） ９．マルチカルチュラリズムと異文化共生（1） ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ １０．マルチカルチュラリズムと異文化共生（2） ——多文化教育の視点 １１．相互行為分析と異文化研究 ——異-文化と自-文化のあいだ １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社	出席とレポート

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然的および人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。	1　オリエンテーション：授業概要等の説明 2　地球環境とは何か？　今、何が起っているのか？ 3　地球環境の歴史 4　地球環境の構造等：地球という惑星について 5　地球環境と地球システム 6　地球環境と資源（I）：資源の特性 7　地球環境と資源（II）：エネルギー 8　地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは 9　地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ １０　環境：地球環境と広域・地域環境との比較 １１　地球環境問題概論 １２　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	担当者	鈴木　滋

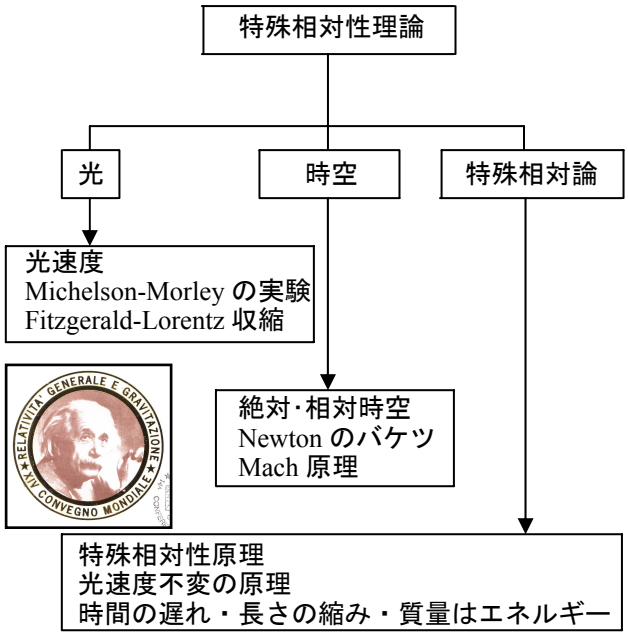
講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものの見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。	1　オリエンテーション：授業概要等の説明 2　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(a) 3　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(b) 4　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(a) 5　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(b) 6　地球環境問題各論（II）：酸性雨 7　地球環境問題各論（II）：海洋汚染 8　地球環境問題各論（II）：有害廃棄物の越境移動 9　地球環境問題各論（III）：砂漠化、森林減少 １０　地球環境問題各論（III）：野生生物（種）の減少、開発途上国等の環境（公害）問題など １１　地球環境の保全：環境と開発、文化・経済・社会等の今後のあり方など １２　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

	自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論 a)	担当者	福井　尚生

講義目的

- ✡『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。
- ✡ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた**光**の伝播に関する問題に強い関心を持ちました。また Einstein が、**時**間・**空**間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。
- ✡ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った**発想の転換**、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。
- ✡ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ✡ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



テキスト、参考文献

- ✡（テキスト/ 配布プリント）･（参考文献/『なっとくする相対性理論』松田 卓也、二間瀬 敏史 著・講談社）

評価方法

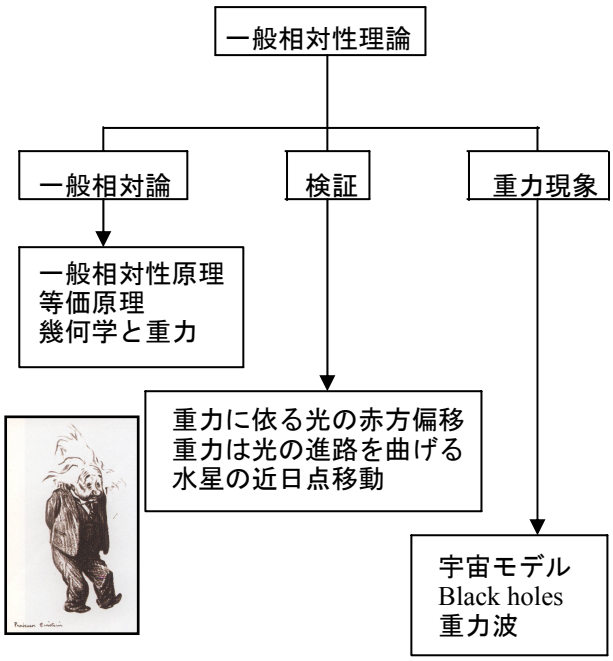
- ✡ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論 b)	担当者	福井　尚生

講義目的

- ☯『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。
- ☯“一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で**検証**され、**重力**をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題（Dark energy など）も交えながら学びます。
- ☯ 発想を転換して得られた独自の考えは、**用心深く実践**する必要があります。（相対性）理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に必死になって取り組んだ挙句実践する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。
- ☯ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ☯ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



テキスト、参考文献

- ☯（テキスト/ 配布プリント）･（参考文献/『なっとくする宇宙論』二間瀬 敏史 著・講談社）

評価方法

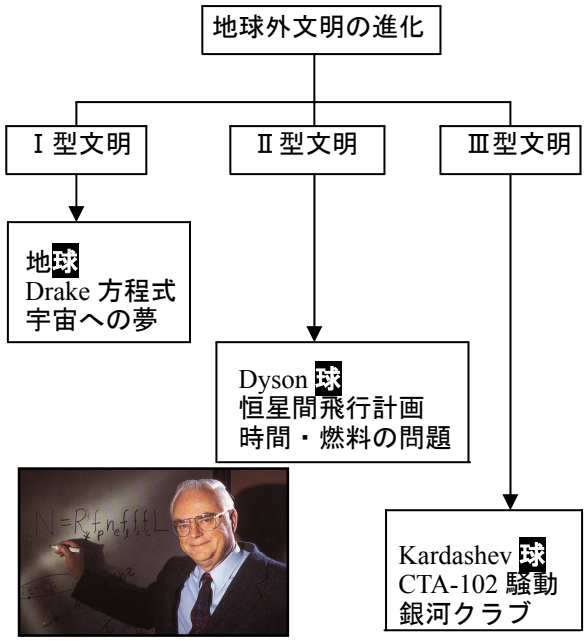
- ☯ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論 a)	担当者	福井　尚生

講義目的

- 『地球外文明論 a』では、現在の地球文明を基点に「地球外文明の進化」を学びます。
- 我々人類は、宇宙進化を司る“宇宙方程式”の現 時間・空間に対する一つの解として存在します。この解の時間・空間発展を辿れば、**文明**の進化を考察出来る筈です。ただ、宇宙方程式の完成には、自然の探求方法を「自然科学」から「自然学」へと複雑化する必要があります。
- 人類が今行う進化への営為が、この**時間・空間発展に沿ったものか**を、主体的に必死に勉強して得た知識をもとに模索し、「進化への自由で大きな夢」を各自が抱くきっかけにして下さい。
- 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



テキスト、参考文献

- (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『地球外文明の思想史』横尾 広光　著・恒星社厚生閣)

評価方法

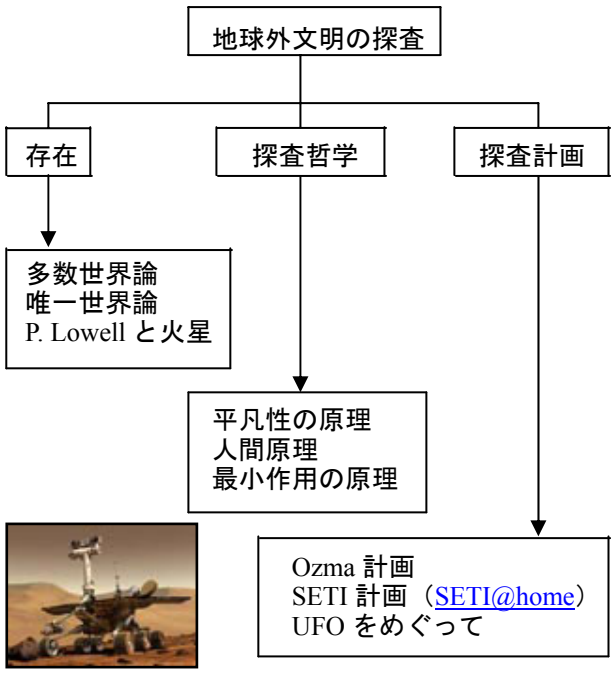
- 主に、**試験**(授業・配布プリント・宿題から出題)と毎時間提出の**評価用紙**(宿題・発言)です。

	自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論 b)	担当者	福井　尚生

講義目的

- ♂『地球外文明論 b』は、『地球外文明論 a』の知識を前提に「地球外文明の探査」を学びます。
- ♂ 多数世界論の立場から地球外文明の**存在**を信じ、我々を探査に駆り立てる原理を通して、地球外文明の**探査哲学**を確立し、また**探査計画**を立てるに当たって共通する自然の本質を考えます。
- ♂ 地球外文明の探査・発見(への努力)は、我々**人類の存在意義・進化の方向に指針**を与えてくれると思います。主体的に必死に勉強して得た知識をもとに自然学への更なる広がりを模索し、「ETI への夢」を自由に大きく膨らませながら、“Are we alone?”の問い掛けを続けて下さい。
- ♂ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。
- ♂ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



テキスト、参考文献

- ♂(テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『広い宇宙に地球人しか見当たらない 50 の理由』Stephen Webb 著・青土社)

評価方法

- ♂ 主に、**試験**(授業・配布プリント・宿題から出題)と毎時間提出の**評価用紙**(宿題・発言)です。

	自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学 a)	担当者	福井　尚生

講義目的

✿ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生（？）・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の**起源**を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。

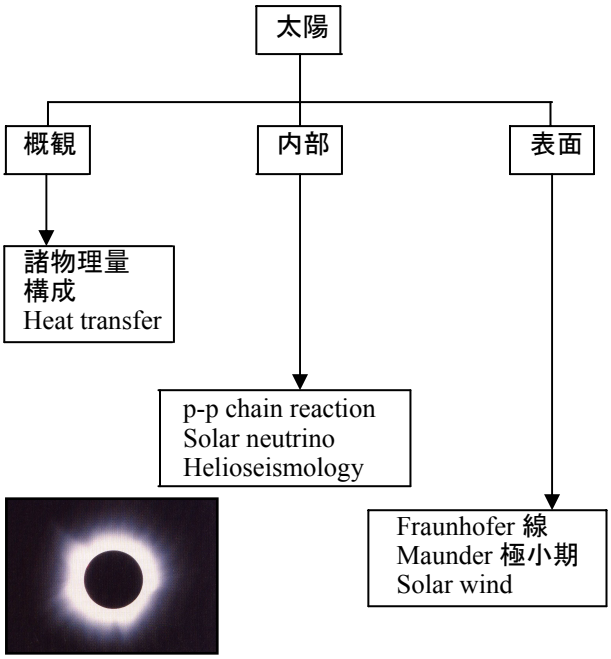
✿『地球環境論 a』（太陽系）では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 **The Sun** を天文学の立場から学びます。What is the Sun?

✿ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行**して下さい。

✿ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。

✿ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



テキスト、参考文献

✿（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善）

評価方法

✿ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	自然・環境・人間(Ⅲ)(太陽系天文学 b)	担当者	福井　尚生

講義目的

✷ 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう？地球が The Goldilocks planet　と呼ばれる理由がここにあります。

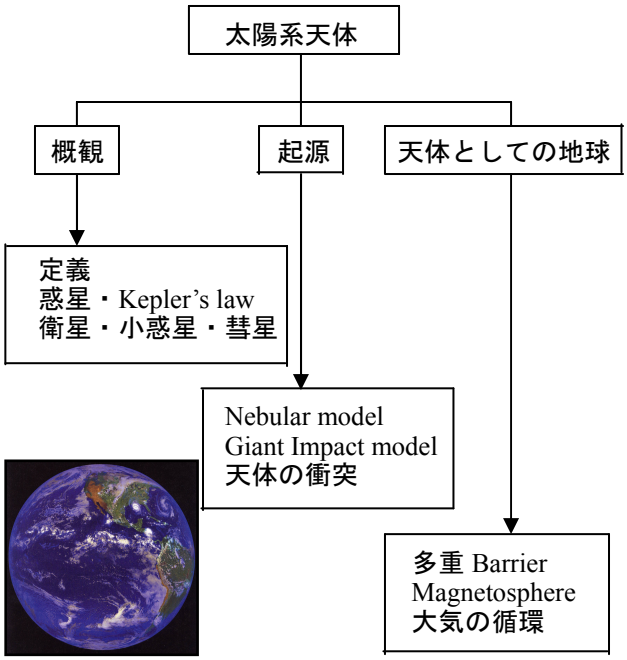
✷『地球環境論 b』（太陽系）では、『地球環境論 a』の知識を前提に **The Solar system**（除・太陽）を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。The Solar system = The Sun's family

✷ 主体的に必死に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行**して下さい。

✷ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。

✷ 簡単な数学も必要に応じて使います。

講義概要



テキスト、参考文献

✷（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『太陽系の果てを探る』渡部 潤一、布施 哲治 著・東京大学出版

評価方法

✷ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題から出題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

	ことばと思想(IV)(論文を書く)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 言語の 4 技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「書く」技能の向上を目指す。 講義概要 「書く」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に大学生活において必須となる論文の書き方について練習する。この練習を通して、客観的に事物を説明し、根拠を示して自らの考えを述べることができる能力の育成を行う。 具体的には、まず、日本語検定 3 級程度の問題演習を行いながら基本的な文章能力を向上させる。その後に、その成果をふまえつつ、基本的な形式を備えた短い論文を作成し、論文の形式について理解させる。	1 はじめに 2 表現の方法①(5W!H) 3 表現の方法②(文を短く切る) 4 意見文を書く①(文が持つ役割) 5 意見文を書く②(事実の報告、意見) 6 意見文を書く③(事実の報告、意見、意見の正しさの論証) 7 意見文を書く④(事実の報告、問題提起、提起された問題の解答) 8 論文を書く①(序論) 9 論文を書く②(本論①) 10 論文を書く③(本論②、結論) 11 レポート提出 12 まとめ てください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席

	ことばと思想(IV)(口頭発表を行う)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 言語の 4 技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「話す」技能の向上を目指す。 講義概要 「話す」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に人前で自分の意見を述べるプレゼンテーションについて練習する。この練習を通して、人前に出て自らの意見をわかりやすく述べることができる能力の育成を行う。 具体的には、まず、発声練習として朗読を行う。次に、プレゼンテーションの技術について、ビデオを見ながら学習する。さして、その成果を踏まえたかたちで発表を行う。	1 はじめに 2 発声練習 3 朗読① 4 朗読② 5 朗読③ 6 プレゼンテーションの理論① 7 プレゼンテーションの理論② 8 プレゼンテーションの理論③ 9 発表① 10 発表② 11 発表③ 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席

	ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙、メールの本質に迫る。 〔講義概要〕 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。 〔受講生への要望〕 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①　②　③ 手紙文の約束。 拝啓―時候の挨拶―本文―敬具―（追伸）まで。 ④　⑤ 時候の挨拶と季節感 ⑥　⑦ 著名人の手紙鑑賞、解説。 ⑧　⑨ 手紙を題材にした小説の鑑賞 ⑩　⑪　⑫ メール作成の問題点 ⑬以降　　添削指導
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	出席。レポート。

	ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。 〔講義概要〕 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 〔受講生への要望〕 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①　②　③　④ 流行語の変遷（流行語大賞の分析） ⑤　⑥ 若者言葉の問題（世代語についての考察） ⑦ 放送コードの問題 ⑧ 共通語の理想と現実 【実践編】 ⑨ 心を開かせる挨拶のしかた ⑩　⑪　⑫ ３分間スピーチの実践 ⑬以後　　総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席。レポート。

	ことばと思想（Ⅳ） （日本語音声表現のトレーニング　基礎編）	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を獲得する為の基礎を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（はなしことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、その基礎となる発音・発声・アクセント・イントネーション・更に敬語等のことばと表現について学ぶ。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	1. オリエンテーション 「ことばと人間」 2. 自然な発音・発声 「母音」トレーニング 3. 自然な発音・発声 「子音」トレーニング 4. 自然な発音・発声 「鼻濁音・拗音・促音・長音・無声化」 5. 自然な発音・発声 「総合トレーニング」 6. アクセントの型と種類 「名詞・形容詞・動詞のアクセント」 7. 自然なイントネーション 8. 敬語 「用法と実践」 9. 話して伝える基本 「話を組みたてる」 10. 話して伝える基本 「説明する」実践 11. 話して伝える基本 「スピーチ」実践 12. 気をつけたい表現
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布	毎回の出席、課題の提出・実践

	ことばと思想（Ⅳ） （日本語音声表現のトレーニング　表現編）	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（はなしことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、話して伝える能力・対話する能力・読んで伝える能力を習得する。 従って、春学期を受講した上での参加が望ましい。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	1. スピーチの実践 「即座にまとまった話をする」 2. リポートの実践 「内容把握と伝達」 3. 聴く力 「インタビュー」 4. 話すと読む 「読んで伝えること」 5. 文に則したイントネーション 6. 文意と「間」「速さ」「呼吸」 7. 意味のつながりと「卓立」「抑揚」「強弱」 8. 短文を読む 「告知文」 9. 朗読Ⅰ 「随筆」「小説」 10. 朗読Ⅱ 「随筆」「小説」 11. スピーチの実践と気をつけたい表現 12. 話して伝える・読んで伝える 「まとめ」
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布	毎回の出席、課題の提出・実践

	ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長代行・運営委員長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．「正しく」とは？ ３．「わかりやすく」とは？ ４．「切れ味よく」とは？ ５．シッカリした文のくみたて ６．ものごとをズバリとあらわすピッタリした語句選び ７．タトエとコトバの魔術 ８．スッキリした文章とは？ ９．テーマ展開と省略 １０．前提と焦点 １１．視点 １２．生き生きとした文章 以上はテーマをムリに分けたものですから、必ずしもこの順に話しが進むわけではないことをあらかじめ承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『生きたコトバづかい』(同)	「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

	ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長代行・運営委員長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．「正しく」とは？ ３．「わかりやすく」とは？ ４．「切れ味よく」とは？ ５．シッカリした文のくみたて ６．ものごとをズバリとあらわすピッタリした語句選び ７．タトエとコトバの魔術 ８．スッキリした文章とは？ ９．テーマ展開と省略 １０．前提と焦点 １１．視点 １２．生き生きとした文章 以上はテーマをムリに分けたものですから、必ずしもこの順に話しが進むわけではないことをあらかじめ承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『生きたコトバづかい』(同)	「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

	ことばと思想(Ⅳ)(ネーミングの言語学)	担当者	田中　善英

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・内容：人間同士がコミュニケーションを行う際に言語は必要不可欠なツールであるが、その言語を使用する際には、「ネーミング」という行為が必要不可欠である。例えば何かについて語ろうとする場合、その「何か」には、何らかの名前が付いていなければ説明できない。この講義では、この「ネーミング」という行為について考え、芸名、地名、企業名、商品名、ブランド名、サービス名あるいはキャッチコピーなどの実例を言語学（発音、意味、構文等）の立場から分析していき、受講生にも実際に分析・ネーミングをしてもらう。「広告」「広報」といった話も出るであろうが、あくまでもこの授業は「言語学」であり「広告論」の授業ではない。なお、分析対象言語は、日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語等とする。 その他：授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。また、この講義はカテゴリーⅣ（実習科目）のため定員があり、受講希望者数が定員を超えた場合には抽選を行う。	第１回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明など。「ネーミング」とは何か。なぜ、「ネーミング」という行為が必要不可欠なのか。この講義における「言語」の定義。 第２回以降は原則として２回で１セットの講義形態となる：［１回目］実例の分析、言語学的解説→授業終了後翌週までに簡単なレポート提出、［２回目］提出されたレポートに対するコメント、補足説明（もちろんそのレポートが誰のものであるかは発表しない）。レポートの提出は主に講義支援システムあるいはホームページ経由とする予定。従って、ホームページの閲覧や文字入力等、パソコンに関する最低限のスキルが要求される。なお、各学期とも最低６回程度のレポート課題があり、これを規定回数以上提出していなければ、試験を受けてもＦとする。追試験等は行わない。 その他、授業の進め方や評価方法の詳細は http://www.birdcompany.ch/ 参照。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	主にレポート及び試験により評価する。

	ことばと思想(Ⅳ)(ネーミングの言語学２)	担当者	田中　善英

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	授業の進め方等は春学期に同じ。 秋学期は、主に、地名、キャッチコピーなどを扱う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

	ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の発見)	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
ことばは、ことばだけであるものではない。会話をしようとするとき、文章を書こうとするとき、まず、その前に何を話すのか、何を書くのか、その材料となるべきものがなくてはならない。ここでは、我々の身のまわりにある「何でもない事柄」が、どのように記録の対象となり記述されていったのかを検討することによって、自らが話し、書く前提を考えていきたい。	1　ガイダンス 2　生活文化の枠組み 3　情報の蒐集と共有化 4　創作としての読解 5～9　民俗誌を読む 10　民俗調査の方法－観察 11　民俗調査の方法－サーヴェイ・聞き書き 12　民俗調査の方法－記録・カード化
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

	ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の記述)	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
ことばは、発せられてこそ役割を果たす。せっかく調査し、理解したものも、表現されなければ意味を持たない。ここでは、身のまわりで発見した普段見過ごしがちな「何でもない事柄」を主題化し、その理解、記述することによって、ことばの理解と表現を体感したい。	1　記述の意義 2　情報の整理・分析 3　記述の方法 4　主題と構成 5～9　民俗誌を書く 10　批評 11　推敲と校正 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

	ことばと思想(Ⅳ)(生活史を読む)	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
生活史とは、集団や社会を把握することを目的として、ひとりの個人の全生涯、もしくは半生を記録したものである。 ことばは、コミュニケーションにおいて、もっとも有効に活用される手段である。それは、他者の理解と自己の表現の仲立ちとして、ことばが使われているということでもある。ここでは、コミュニケーションにおけるもっとも基礎となる他者の理解を、生活史をテキストとして考えてみたい。	1　ガイダンス 2　読解と想像 3　読解と創造 4　生活史とは何か 5　生活史を読む－日記 6　生活史を読む－個人史 7　生活史を読む－民俗誌(1) 8　生活史を読む－民俗誌(2) 9　生活史を読む－個人史と社会史 １０　観察の方法 １１　聞き書きの方法(1) １２　聞き書きの方法(2)
テキスト、参考文献	評価方法
授業時に指示。	出欠とレポート

	ことばと思想(Ⅳ)(生活史を書く)	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
会話であれ、作文であれ、人がことばを発するとき、通常は、情報の蒐集→理解・分析→構成・表現の順でおこなわれる。ここではそれをふまえて、特定の個人を選び、インタビューによって情報を蒐集し、その個人の社会背景を文献資料等によって理解をし、そして、それを文章として表現する、すなわち、個人の生活史を編むことによって、ことばの理解と表現を体感したい。	1　表現とは何か 2　表現の方法 3　用字法 4　表現の工夫 5　文章の種類 6　文章の書き方 7　生活史を書く－情報の蒐集 8　生活史を書く－情報の整理・分析 9　生活史を書く－主題と構成 １０　批評 １１　推敲と校正 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

	ことばと思想(Ⅳ)(現代ジャーナリズム考１)	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
ジャーナリスト志望者に役立つ授業を目標とするが、ジャーナリストを養成する目的のためだけの講座ではない。ジャーナリズムに興味を抱いているすべての受講生を対象とする。 授業では、現代ジャーナリズムが抱える問題点を深く掘り下げるとともに、現代ジャーナリズムに関する基礎的知識についても学習する。	現代ジャーナリズムが抱える問題点に加え、その時々に浮上した現代ジャーナリズムをめぐる諸問題についても教材として取り上げる。 2006 年春学期には、米 3 大テレビネットワークの看板ニュース番組に初の女性単独アンカーが誕生、ピュリッツアー賞、新聞の「特殊指定」問題、将棋名人戦の主催をめぐる毎日・朝日両紙の争奪戦、不祥事を起こした有名未成年タレントの実名・匿名報道、犯罪被害者の実名・匿名報道、秋田県の男児殺害事件における集団的過熱取材（メディアスクラム)、山口県光市の母子殺害事件などのテーマを教材として取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テストなどに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

	ことばと思想(Ⅳ)(現代ジャーナリズム考２)	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
ジャーナリスト志望者に役立つ授業を目標とするが、ジャーナリストを養成する目的のためだけの講座ではない。ジャーナリズムに興味を抱いているすべての受講生を対象とする。 授業では、現代ジャーナリズムが抱える問題点を深く掘り下げるとともに、現代ジャーナリズムに関する基礎的知識についても学習する。	現代ジャーナリズムが抱える問題点に加え、その時々に浮上した現代ジャーナリズムをめぐる諸問題についても教材として取り上げる。 2006 年秋学期には、マスコミ倫理懇談会、加藤紘一元自民党幹事長の実家放火事件などの言論テロ、NHK に出された放送命令、「国境なき記者団」による世界の報道の自由度ランキング、記者クラブ問題、市民参加ネット新聞などのテーマを教材として取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テストなどに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

	ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	担当者	福井　星一

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を勉強する目標または将来就きたい仕事として通訳ということを考えている、通訳に関心の深いみなさんのために、仕事の現状と訓練方法を知らせる授業です。 まず、通訳者が何に苦労してどんな仕事をしているかを紹介します。複雑な社会で、いろいろな問題を扱わなければならない通訳は大変な仕事です。通訳に何が求められているかを考えながら、ハイテクの導入とスピードアップが進められる中での問題点や、近い将来についての展望も、いろいろな分野の最新の情報を得ながら探ります。また、英語が世界中で広く使われることの意味を問い直す手がかりも紹介し、文化や言語そのものの根本的な問題と絡めて「英語通訳」のあり方を考えます。 どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な厳しい訓練はできませんが、最初の数回で通訳学校で行われているような基本的な訓練方法を紹介し（授業計画の[　　]内参照)、その後の授業でも適度に練習を続けます。自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけ支援します。期末レポートは、内容、テーマ、形式を幅広く認めますので、自由に取り組んでください。 初回（4 月 14 日）には必ず出席すること。	1　通訳って何だろう　どんな通訳があるか [練習材料の入手方法と listening 入門] 2　コミュニケーション入門・言語表現の機能と限界 [shadowing 入門] 3　脳を刺激する生きた英語の勉強方法と教材の研究 [sight-translation 入門] 4　どんな声を出すべきか、および日本語の「くせ」 [日本語アナウンス入門] 5　同時通訳の理想と現実と問題点 [省略のしかた、わかりやすい日本語研究] 6　求められる通訳とは、どう期待にこたえるか 7　頼れる情報源紹介、常識と先入観の区別 8　ハイテク導入と将来像･通訳はどう進歩するのか [Q&A 練習の応用とインタビュアー入門] 9　やりにくい通訳の研究･訴訟や刑罰などの後腐れ予防 10　世界共通語の功罪、言葉が通じる便利さと支配の関係 11　幅広い話題に対応するために文化と社会を捉え直す 12　予備（たとえば、英語による講演と通訳実演）
テキスト、参考文献	**評価方法**
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。	英語の到達点が成績に直結しないよう工夫するが、30 分程度でできる宿題をほぼ毎回課し採点の上で成績に加える。出席数も評価に加える。期末レポート必須。期末試験なし。

	ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	担当者	福井　星一

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を勉強する目標または将来就きたい仕事として通訳ということを考えている、通訳に関心の深いみなさんのために、仕事の現状と訓練方法を知らせる授業です。 まず、通訳者が何に苦労してどんな仕事をしているかを紹介します。複雑な社会で、いろいろな問題を扱わなければならない通訳は大変な仕事です。通訳に何が求められているかを考えながら、ハイテクの導入とスピードアップが進められる中での問題点や、近い将来についての展望も、いろいろな分野の最新の情報を得ながら探ります。また、英語が世界中で広く使われることの意味を問い直す手がかりも紹介し、文化や言語そのものの根本的な問題と絡めて「英語通訳」のあり方を考えます。 どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な厳しい訓練はできませんが、最初の数回で通訳学校で行われているような基本的な訓練方法を紹介し（授業計画の[　　]内参照)、その後の授業でも適度に練習を続けます。自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけ支援します。期末レポートは、内容、テーマ、形式を幅広く認めますので、自由に取り組んでください。 初回（9 月 29 日）には必ず出席すること。	1　通訳って何だろう　どんな通訳があるか [練習材料の入手方法と listening 入門] 2　コミュニケーション入門・言語表現の機能と限界 [shadowing 入門] 3　脳を刺激する生きた英語の勉強方法と教材の研究 [sight-translation 入門] 4　どんな声を出すべきか、および日本語の「くせ」 [日本語アナウンス入門] 5　同時通訳の理想と現実と問題点 [省略のしかた、わかりやすい日本語研究] 6　求められる通訳とは、どう期待にこたえるか 7　頼れる情報源紹介、常識と先入観の区別 8　ハイテク導入と将来像･通訳はどう進歩するのか [Q&A 練習の応用とインタビュアー入門] 9　やりにくい通訳の研究･訴訟や刑罰などの後腐れ予防 10　世界共通語の功罪、言葉が通じる便利さと支配の関係 11　幅広い話題に対応するために文化と社会を捉え直す 12　予備（たとえば、英語による講演と通訳実演）
テキスト、参考文献	**評価方法**
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。	英語の到達点が成績に直結しないよう工夫するが、30 分程度でできる宿題をほぼ毎回課し採点の上で成績に加える。出席数も評価に加える。期末レポート必須。期末試験なし。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

	ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらのことを通して自己についての理解を深めてもらうことが、本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果などをレポートにまとめてもらう。また、関連するビデオなどを見てもらい、レポートを書いてもらうこともある。	授業計画は以下のとおりである。 1．　オリエンテーション 2．　質問紙による性格検査① 3．　質問紙による性格検査② 4．　職業への興味 5．　将来の夢 6．　こころの IQ 7．　知能検査 8．　絵からみる家族像 9．　ストレス・コーピング 10.　グループ・ワークによる自己理解① 11.　グループ・ワークによる自己理解② 12.　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。	出席状況と授業でのレポートにより総合的に評価する。

	ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。 またチームのメンバーそれぞれが持つ才能を生かす方法も学びます。	第1回目：イントロダクション 第2回目～4回目：発表テーマ「大学で勉強する目的」 第5回目～7回目：発表テーマ「幸せ」の定義 第8回目～11回目：発表テーマ「感性と理性」 第12回目：総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時にお知らせします。	出欠席、参加態度、提出物、テストなど

	ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	歴史と文化(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『カルメン』１)	担当者	伊藤　幸次

講義目的、講義概要	授業計画
世界でもっとも上演回数の多いオペラ『カルメン』の原作者メリメは、長く文化財保護技監としてフランスの文化政策の基礎を築きました。そんな才人の彼が書いた小説の中ではスペインの地方色が鋭く観察されています。ビゼーは劇場の方針で原作の棘を抜かざるを得ませんでした。 『カルメン』にもっとも興味があるのは、舞台となったスペインの人たちでしょう。それを受けて原作に比較的忠実な映画化や、もっぱらフラメンコで演じられる舞台など多数の試みがあります。しかし残念なことに、小説の真の主人公であるドン・ホセの人間性の追及が今ひとつであるようです。 この授業では小説、オペラ、映画、舞台映像などいくつかの資料を比較しながら、このフランス人が創造したスペイン国民文学を検討してゆきたいと思います。 フランス語・スペイン語ともに既修であることは要求しませんが、外国語を聞いて楽しめる積極性が欲しいです。資料は講義支援システムで配布します。原則として毎週アンケートを取って平常点をつけます。	以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 １　授業方法・評価方法の説明 ２　メリメの人と作品 ３　マノン・レスコー ４　多文化の発見 ５　ビゼーの人と作品 ６　ロマの故郷アンダルシア ７　コンポステラへの巡礼路バスク ８　セビリアの泣いているマリア ９　アルカラの龍騎兵 １０　ハバナ １１　三大テノール １２　オーレ！
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
テキスト：講義支援システムで配布 DVD 各種を授業中に紹介	評価方法：選択式の試験と平常点

	歴史と文化(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『カルメン』２)	担当者	伊藤　幸次

講義目的、講義概要	授業計画
同上	前期リストを参照
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
同上	同上

	歴史と文化(Ⅳ)(イタリア音楽史)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの音楽史を概観する。随時、授業中に鑑賞した作品について感想を書いてもらい、平常点に加える。なお、オペラについては後期でまとめて扱うので、原則として除外する。	1　ガイダンスと導入 2　古代ギリシャの音楽と西洋音楽 3　グレゴリオ聖歌とイタリア 4　「イタリア音楽」の誕生 5　16 世紀の声楽曲とペトラルキズモ 6　ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 7　ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲：《四季》を中心に 8　ヴィヴァルディとヴェネツィア 9　パガニーニと超絶技巧 10　ヴェルディとイタリア国家統一運動 11　プッチーニとオリエンタリスム 12　プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』（中公新書 1045）	平常点とテスト（持ち込み不可、ヒアリング試験も行う予定）による。

	歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの声楽曲)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの声楽曲の歴史をオペラを中心に概観する。	1　オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2　オペラ誕生：初期の試み 3　バロック・オペラの台本 4　バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 5　バロック・オペラと劇場 6　オペラ・セリアとオペラ・ブッファ 7　ロッシーニの世界 8　ベッリーニとドニゼッティ 9　ヴェルディ（1） 10　ヴェルディ（2） 11　ヴェリズモ・オペラ 12　プッチーニ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に選定しない。参考文献については、授業中に指示する。	平常点とテスト（持ち込み不可）による。

	歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 1)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
16 世紀のイタリアでは、作曲家は競ってペトラルカ（風）の歌詞を無伴奏重唱アンサンブルのための多声音楽に作曲した。今日「マドリガーレ」と呼ばれるこれら一群の作品においては、当時の最先端の作曲技法が用いられているのみならず、西洋音楽史全体を見渡しても他に類がないほど歌詞と音楽の結びつきが重視されている。本講義では、16 世紀のイタリアを代表する作曲家のマドリガーレを歌詞と音楽の両面から詳細に検討し、演奏を十分に鑑賞することによって、当時のイタリアにおける歌詞と音楽のあり方をより深く理解することを目的とする。なお、授業では楽譜を用いるので、日本の小中学校の音楽の授業についてゆける程度の基礎的な読譜力が必要となる。	1　ガイダンスと導入 2　「ルネサンス」とは何か 3　音楽史の上でのルネサンス 4　ルネサンス音楽の発展 5　マドリガーレについて 6　マドリガーレの歌詞について 7　作曲家紹介：ヴェルドロ、アルカデルト 8　作曲家紹介：ローレ 9　作曲家紹介：ヴェルト 10　作曲家紹介：マレンツィオ 11　作曲家紹介：ジェズアルド 12　マドリガーレのその後
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。参考文献については授業中に指示するほか、プリントを随時配布する。	平常点とテストによる。

	歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 3)	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
17 世紀前半のイタリアを代表する作曲家、クラウディオ・モンテヴェルディの創作活動を概観する。モンテヴェルディの作品には、ルネサンス的な要素とバロック的な要素が混在しているので、実際に作品を鑑賞しながら体感することを目指す。「詩と音楽 1」をすでに履修していることが望ましいが、していなくてもよい。 **なお、本講義は「詩と音楽3」であるので、昨年度に「詩と音楽2」の単位を修得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　「ルネサンス」と「バロック」 3　音楽史の上でのルネサンスとバロック 4　モンテヴェルディの創作活動 5　マントヴァ時代の作品（1） 6　マントヴァ時代の作品（2） 7　《聖母マリアのための晩課》（1） 8　《聖母マリアのための晩課》（2） 9　ヴェネツィア時代の作品（1） 10　ヴェネツィア時代の作品（2） 11　ヴェネツィア時代の作品（3） 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。参考文献については授業中に指示するほか、プリントを随時配布する。	平常点とテストによる。

	歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタ a)	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人３回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の３分の１以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読む戯曲(抜粋)は、実際の上演舞台が観られる作品を選んでいますから、上演のスケジュールに合わせて講義を進めていきます。 レポートに関する詳細は、履修登録が済んだ頃に説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800 字）２編で 70%。授業で 30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。

	歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタ b)	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人３回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の３分の１以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読む戯曲(抜粋)は、実際の上演舞台が観られる作品を選んでいますから、上演のスケジュールに合わせて講義を進めていきます。 レポートに関する詳細は、履修登録が済んだ頃に説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800 字）２編で 70%。授業で 30%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません

	歴史と文化(Ⅳ)(アメリカ詩入門)	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
ポップスの歌詞などを導入にして、英語の詩への入門をした後、年代を追ってアメリカ詩の素描をしていく。選ばれている詩人は、それぞれの時代をある程度代表する詩人であるよう心がけた。17 世紀の植民地時代からポー（E.A.Poe）の頃までは、ヨーロッパのエピゴーネン（亜流）といった面は拭えないが、ホイットマン（W.Whitman）に到ってアメリカここにありという独自性が顕れる。一言でいえば自由詩であり、散文詩へ向かう流れであった。それはサンドバーグ（C.Sandburg）らへ受け継がれたが、またディッキンソン（E.Dickinson）やフロスト（R.Frost）のような個性的な詩人たちも一方にはいた。更にはパウンド、エリオット（E.Pound, T.S.Eliot）に到って、ヨーロッパへの回帰、ひいてはモダニズムの盛期へと向かう。それに逆らうアメリカ土着の詩人ウィリアムズ（C.Williams)。そして最後は、20 世紀の女流を代表して、特異な詩人プラス（S.Plath）を扱う。	１．詩形について ２．ポップスー詩と曲とー ３．Ann Bradstreet（1612-72）ーアメリカ詩の原点ー ４．Edgar Allan Poe(1809-49) ５．Walt Whitman(1819-92) ６．Emily Dickinson(1830-86) ７．Robert Frost(1874-1963) ８．Carl Sandburg(1878-1967) ９．William Carlos Williams(1883-1963) １０．Ezra Pound(1885-1972) １１．T.S.Eliot(1888-1965) １２．Sylvia Plath(1932-63)
テキスト、参考文献	**評価方法**
１．テキスト：プリント ２．参考文献：亀井俊介他編　『アメリカ名詩選』岩波書店、１９９３年	期末テストと平常点による。

	歴史と文化(Ⅳ)(イギリス詩入門)	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ワーズワース（W.Wordsworth 1770-1850）の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。 参考文献 新井明著　『英詩鑑賞入門』　研究社　１９８７	１．詩形について ２．＜マザーグース＞　I ３．＜マザーグース＞　II　(video 鑑賞) ４．＜現代英詩アラカルト＞ T.Hughes(1992-1985),Seamus Heaney(1939-)など ５．＜ロマン派の曙＞　W.Blake(1757-1827), video 鑑賞（字幕なし、以下同じ） ６．＜ロマン派の詩＞　I　ワーズワース、video 鑑賞 ７．＜ロマン派の詩＞　II　S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824) ８．＜ロマン派の詩＞　III　P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) ９．＜ロマン派の詩＞　総括　解説と video 鑑賞 １０．　Thomas Gray(1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を読む。　Video 鑑賞 １１．　John Milton(1608-74) *Paradise Lost*(1667)のさわり、ソネット２３．Video 鑑賞 １２．　William Shakespeare(1564-1616), 解説と video 鑑賞
テキスト	**評価方法**
薬師川虹一他　編注『マザーグスと美しい英詩』 北星堂　１９８７	テストを課す。数回の video は、字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。

	歴史と文化(Ⅳ)(西洋美術史 a)	担当者	前川　久美子

講義目的、講義概要	授業計画
ルーヴル美術館に所蔵される絵画作品の中から、時代、ジャンルを代表する名作を取り上げ、絵画の見方を学びながら、中世から 19 世紀までの西洋絵画史を概観します。 授業中に OHP で投影する重要事項のメモを参照し、スライドで映す作品と関係づけて講義の内容を理解し、きちんとノートに書き留めていってください。 第一回の授業時間(イントロダクション)に講義の進めかたや、勉強のしかたなどをお話しますので、受講希望者は必ず出席してください。	1　イントロダクション 2　ルーヴルの歴史と現在 3　ジョット『聖痕を受ける聖フランチェスコ』 4　ヴァン・エイク『ロランの聖母』 5　ダ・ヴィンチ『モナリザ』 6　プッサン『四季図』 7　ルーベンス『メディチ・サイクル』 8　ボージャン『チェス盤のある静物』 9　ワトー『シテール島への船出』 10　アングル『ホメロス礼賛』 11　ドラクロワ『民衆を率いる自由』 12　(予備)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に指示します。	テストによる。授業中にとるアンケートを出席点として加味することもあります。

	歴史と文化(Ⅳ)(西洋美術史 b)	担当者	前川　久美子

講義目的、講義概要	授業計画
15 世紀のイタリアとフランドルの美術作品について学びながら、美術史上のさまざまな問題について考えます。 授業中に OHP で投影する重要事項のメモを参照し、スライドで映す作品と関係づけて講義の内容を理解、きちんとノートに書き留めていってください。 第一回の授業時間(イントロダクション)に講義の進めかたや、勉強のしかたなどをお話しますので、受講希望者は必ず出席してください。	1　イントロダクション 2　15 世紀の美術 3　15 世紀のフィレンツェ美術 4　マザッチョ作サンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂ブランカッチ礼拝堂壁画 5　遠近法 6　パトロンと芸術家 7　パラッツォ・メディチ・リッカルディ礼拝堂の装飾 8　15 世紀のフランドル美術 9　ヴァン・エイク作ヘントの祭壇画 10　偽装のシンボリズム 11　絵画に包含された鑑賞者 12　(予備)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に指示します。	テストによる。授業中にとるアンケートを出席点として加味することもあります。

	現代社会(Ⅳ)(教育の現場：教師と語るａ)	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
１．目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 ２．概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿への参加とで構成します。そのため、右記の合宿に必ず参加して下さい（参加費は１万円程度)。 ３．合宿で６コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 6 回とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、**初回の授業には必ず参加して下さい**。 ４．教職課程に登録している必要はありません。 ５．履修登録の上限を 30 名とします。 ６．春または秋学期だけを履修してもいいですが、できるだけ春と秋の両方を受講して下さい。	１　講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 ２　生活指導とは何か（その１／テキスト使用） ３　生活指導とは何か（その２／テキスト使用） ４　実践記録を読む（その１） ５　実践記録を読む（その２） ６　合宿参加のまとめ 合宿は、６月はじめから中ごろの土日で、場所は春日部の予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高橋陽一他編『生活指導論』(武蔵野美術大学出版局、1900 円)	出席と最終レポートによります。合宿に参加しない場合には、不可とします。

	現代社会(Ⅳ)(教育の現場：教師と語るｂ)	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じですが、合宿での学習内容が変わります。	春学期に同じですが、合宿は 12 月はじめころ、場所は埼玉県内で未定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

（春）	現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
講座目的 　この講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、「働く」とはどういうことなのか、「働く」ためにどのようなスキルが必要なのかについて、受講生に受講してもらうことを目的としている。 　働くことは、人生の一部である。生きる上で働くこと以外にも重要なことはたくさんある。これから社会に出て生きていく諸君が、どのような人生を設計していくのか、そしてどのようなキャリアを形成していくのか、をこの講座を通してよく考えてもらいたいとおもう。 講座概要 　この講座は、１２回の講義と夏休みに実施するインターンシップ実習から成る。 　講義では、まず受講生に自分と向き合い、これからの人生をどう生きていくかを真剣に考えてもらう。その上で、自己目標を設定し、目標達成に必要なスキルを身につけてもらう。この講座で重視するスキルは、「心の知能指数」と呼ばれる EQ（Emotional Quotient）である。ゲーム等を通して EQ を開発し、リーダーシップ能力やコミュニケーション能力を高め、受講生の今後のキャリア形成に役立てる。 　インターンシップ実習は、受講生自身がインターンシップ先を見つけることから始まる。そして、２週間にわたるインターンシップ実習では様々な体験をすることになるだろう。これは今後の生き方や職業選択を考える上で、貴重な体験になるだろう。なお、インターンシップ先を選択する上で参考になる職業適性テストも講義中に行う。 ・4 月 6 日（金）10:30 からのインターンシップ総合説明会（4-407）に必ず出席すること ・EQ アセスメントおよび R－CAP 実施費用として 4000 円程度の費用が必要になる。履修決定者は自動発行機にて申請書を購入し、第 1 回目の授業に持参すること。	第１回 オリエンテーション この講座の目的、講座の進め方、グループの決定、EQ アセスメントの実施 第２回 インターンシップの実際 実習先の探し方や実習先で何をするのかなど、インターンシップを経験した先輩やキャリアセンターの人から話を聞く 第３回 働くこととは？ 働くこととは何か、自分の適職は何かを考える 第４回 自分と向き合おう 自分の将来を考え、これからの目標を考える 第５回 EQ とはなにか EQ アセスメントの解説 第６、７回 リーダーシップ リーダーシップとは何かを理解し、リーダーシップ能力を養成する。 第８、９回 コミュニケーション 上手にコミュニケーションをとるためには、どうすればよいのか。コミュニケーション能力を養成する。 第１０回 インターンシップ実習に向けて 実習先での成功談や失敗談など、先輩から話を聞く。また、企業の人事担当者からインターンシップのねらいなどについて話を聞く。 第１１回 実習先でのマナー 実習で必要とされるマナーを身につける 第１２回 報告会（１０月初旬開催予定） インターンシップ実習について報告書を書き、報告する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高山直『EQ こころの鍛え方』、東洋経済新報社（価格 1680 円） 高山直『EQ こころの距離の近づけ方』、東洋経済新報社（価格 1680 円）	授業中やインターンシップ先での発言や行動、および実習報告書と報告会での報告、により総合的に評価する。

	現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ統合とドイツ)	担当者	飯嶋　曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，統合が進展するヨーロッパの諸相を把握し，そのなかでドイツがどのように位置づけられるのかを明らかにすることを目的とする．まず，ヨーロッパ地誌やＥＵに関する基礎的な知識を習得したうえで，統合がヨーロッパの地域に与える影響や，ＥＵとドイツの関係について考察していく．なお，本講義では，白地図や統計資料等を活用した作業を含む小課題の提出が求められる．	1. ヨーロッパ統合とドイツ：導入 2. ヨーロッパ地誌：自然 3. ヨーロッパ地誌：言語，宗教，民族 4. ヨーロッパ地誌：人口 5. ヨーロッパ地誌：産業 6. ＥＵの歴史 7. ＥＵの制度 8. ＥＵの政策 9. ヨーロッパ統合と地域構造の変化 10. ＥＵの東方拡大 11. ＥＵとドイツ（1） 12. ＥＵとドイツ（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること． テキストは指定しない． 授業中に資料を配布する．	小課題，試験の結果から総合的に評価する．

	現代社会(Ⅳ)(統一後のドイツの地域・都市)	担当者	飯嶋　曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，統一後のドイツの地域構造の変化を把握することを目的とし，特に，旧東ドイツ地域の変化と諸問題に着目する．まず，第２次世界大戦後の冷戦下のヨーロッパの社会・経済・政治的特性を概観し，東欧革命に至るまでの現代史の流れを把握する．そのうえで，冷戦時代には東西陣営の前線であり，統一後はドイツの新しい首都となったベルリンを事例として，その変化を明らかにしていく．なお，本講義では，白地図や統計資料等を活用した作業を含む小課題の提出が求められる．	1. ドイツ統一とヨーロッパ：導入 2. 冷戦下のヨーロッパ 3. 西ドイツと東ドイツ 4. 東欧革命（1） 5. 東欧革命（2） 6. ベルリンの都市構造（1）西ベルリン 7. ベルリンの都市構造（2）東ベルリン 8. 統一後のベルリンの都市構造 9. 旧東独地域の地域構造の変化（1） 10. 旧東独地域の地域構造の変化（2） 11. 統一ドイツの地域間格差 12. 冷戦後のヨーロッパ
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること． テキストは指定しない． 授業中に資料を配布する．	小課題，試験の結果から総合的に評価する．

	現代社会(Ⅳ)(新聞を読む１)	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。 受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数と言わざるを得ない。 「新聞に関する基礎的知識」についても随時、解説する。 2006 年春学期には、フランスが新雇用制度を撤回、米中首脳会談、在日米軍再編問題、米国の不法移民、イラク正式政府が発足、自殺が８年連続３万人を超える、サッカーW 杯、自衛隊のイラク撤退、東京･渋谷の女子大生誘拐事件などのニュースを教材として取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

	現代社会(Ⅳ)(新聞を読む２)	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。 受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数と言わざるを得ない。 「新聞に関する基礎的知識」についても随時、解説する。 2006 年秋学期には、安倍新首相の所信表明演説、日中首脳会談、国連安保理の北朝鮮制裁決議、祖母が「孫」を代理出産、米中間選挙、核論議の是非を問う、日本の核武装、安倍首相とメディアなどを教材として取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

	現代社会(Ⅳ)(経理入門 a)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定３級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。 簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。 したがって、ビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。	①講義ガイダンス　～　簿記の意味・目的・種類 ②簿記の基礎概念 ③取引と仕訳 ④勘定 ⑤帳簿の記入（その１） ⑥帳簿の記入（その２） ⑦決算と財務諸表Ⅰ（その１） ⑧決算と財務諸表Ⅰ（その２） ⑨決算と財務諸表Ⅰ（その３） ⑩現金預金取引（その１） ⑪現金預金取引（その２） ⑫まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

	現代社会(Ⅳ)(経理入門 b)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定３級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。 春学期に学んだ「現代社会(Ⅳ)(経理入門)a」を基に、一つ一つの勘定科目について深く学ぶ。そして、最後に、財務諸表を作成し、経営組織の財政状態および経営成績を明らかにすることを目的とする。	①商品売買（その１） ②商品売買（その２） ③売掛金と買掛金 ④その他の債権債務 ⑤手形取引 ⑥有価証券 ⑦固定資産 ⑧資本金と引出金、税金 ⑨収益と費用（その１） ⑩収益と費用（その２）、帳簿と伝票 ⑪決算と財務諸表Ⅱ（その１） ⑫決算と財務諸表Ⅱ（その２）、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

	現代社会(Ⅳ)(英文会計入門 a)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきている。 本講座では、日本商工会議所主催のＢＡＴＩＣ（国際会計検定）での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。 また本講座では、日商簿記３級程度の学習を終えている方を受講対象としている。（但し、その合否は問わない。）	春学期では、英文会計について初めて学習する学生を対象に、基礎的な内容を中心に講義を行う。 ①講義ガイダンス　～　英文会計とは ②資産・負債・資本 ③借方と貸方：複式簿記 ④仕訳と転記 ⑤財務諸表 ⑥修正仕訳と決算仕訳 ⑦売上と仕入取引 ⑧現金仕訳帳 ⑨精算表（その１） ⑩精算表（その２） ⑪その他 ⑫まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

	現代社会(Ⅳ)(英文会計入門 b)	担当者	杉　麻利子

講義目的、講義概要	授業計画
我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきている。 本講座では、日本商工会議所主催のＢＡＴＩＣ（国際会計検定）での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。 また本講座では、日商簿記３級程度の学習を終えている方を受講対象としている。（但し、その合否は問わない。） なお、授業計画については、あくまで予定であり、スケジュール等、多少内容に変更が生じる場合もあることに留意する必要がある。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。	秋学期では、春学期に比べ、少し応用的な内容について取り扱う予定である。また、問題演習についても、春学期と比較して意識的に増やすつもりでいる。 したがって、基礎的な内容についてはある程度、事前に学習しておく必要があるため、全学共通授業科目として本講義を登録する予定の学生は、春学期にａクラスを履修しておくことが望ましい。 ①講義ガイダンス　～　基礎の確認（その１） ②基礎の確認（その２） ③財務諸表 ④その他（その１） ⑤その他（その２） ⑥国際会計理論（その１） ⑦国際会計理論（その２） ⑧国際会計理論（その３） ⑨国際会計理論（その４） ⑩問題演習 ⑪問題演習 ⑫まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。	期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。

	現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門 a)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，大学でのレポート作成やゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となるワードプロセッサ，表計算ソフト，プレゼンテーションソフト，データベース作成ソフトの基本的な使い方を，Microsoft Office を使用した実習により身につけることを目的とします. 注) この講義は複数の教員により行われるため，各テーマが取り扱われる順序や時間配分については，担当教員によって異なることがあります.	1. ワードプロセッサ 1－文章の作成，書式の設定 2. ワードプロセッサ 2－図形描画，表の作成，数式の入力 3. 表計算ソフト 1－表の入力，グラフの作成 4. 表計算ソフト 2－表の装飾 5. 表計算ソフト 3－数式，関数を用いた計算 6. プレゼンテーションソフト 1－スライドの作成，プレゼンテーション方法 7. プレゼンテーションソフト 2－アニメーションの設定 8. データベース作成 1－データの入力 9. データベース作成 2－データの抽出 10. データベース作成 3－リレーションシップの設定
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が授業時間内に指定するテキスト，参考文献を使用してください.	各担当教員の指定する評価方法に従ってください.

	現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門 b)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを用いて作業を行う際には，市販のソフトを使用するだけではなく，コンピュータプログラムを作成し，既存のソフトでは出来ないことを実行させることも可能です．プログラムを作成するには，プログラム言語の文法を覚えることに加えて，「アルゴリズム」と呼ばれる，コンピュータに問題を解決させる手順について考えることが必要になります. この講義では，Java，C 言語，Visual Basic などのコンピュータ言語のうち，担当教員の指定する言語を使用して，実習を通じてプログラム作成の基礎を学びます．基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指します.	1. コンピュータ言語 1－プログラムの作成方法 2. コンピュータ言語 2－変数，配列，演算式 3. コンピュータ言語 3－条件分岐，繰り返し 4. コンピュータ言語 4－関数，ファイル処理 5. 文法理解のためのプログラム作成 6. アルゴリズムーソート，数値計算法，乱数を用いた計算など 7. 基礎的な問題解決のためのプログラム作成 （各担当教員が指定した問題を，数回の講義に分けて作成します）
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が授業時間内に指定するテキスト，参考文献を使用してください.	各担当教員の指定する評価方法に従ってください.

	現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンス a)	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 GUI 部品を使ったアプリケーションや、リアルタイムに画面が変化するアニメーション・ゲームなど、身近なアプリケーションを題材とし、普段利用しているコンピュータの動作原理を学ぶ。 プログラムによる作品制作課題を 2 回行う。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。	1. プログラミングとは 2. GUI 部品の活用(1) 3. GUI 部品の活用(2) 4. グラフィックス 5. アニメーション 6. 中間作品製作 7. 中間作品相互評価 8. 入出力（マウス、キーボードなど） 9. 入出力（ファイルなど） 10. 最終作品製作（企画） 11. 最終作品製作（実装） 12. 最終作品相互評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし（毎回、資料を配布する）	出席、レポート、作品による

	現代社会(Ⅳ)(コンピュータアドヴァンス b)	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 データベースを利用した Web アプリケーションを題材とし、普段利用しているコンピュータやネットワークの動作原理を学ぶ。 プログラムによる作品制作課題を設ける。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。	1. Web アプリケーションとは 2. HTML 3. プログラムによる HTML の生成 4. データベースとは 5. データベースの操作 6. プログラムを用いたデータベースの操作 7. プログラム，データベース，HTML の統合 8. セキュリティ 9. 作品製作（企画） 10. 作品製作(実装１) 11. 作品製作(実装２) 12. 相互評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし（毎回、資料を配布する）	出席、レポート、作品プログラムによる

	現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	A.　ベロフ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、経済学部「コンピュータ入門ａ」・法学部「情報処理概論ａ」の既習者を対象としている。外国語学部は、既にコンピュータの基礎知識を習得していることを条件に、履修することができる。また、高等学校で既にコンピュータの基礎知識を習得したものは履修できる。ホームページを作成することによって次のようなことができるようにすることを目的とする。 1）情報や資料のやり取りをする。 2）有用な情報を自ら発信する。 3）マルチメディアを活用する。 4）各自の発表をパソコンで行う。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。	1　コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2　ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバー 3　ページ構成、編集方法 4　画像、背景、GIF アニメーション 5　文書整形、フォント、リスト、 6　リンク、イベント処理 7　フレーム、BODY、Window、Document コンポネントへのアクセス 8　テーブル 9　マップ 10　ダイナミック HTML、スクリプト 11　フォーム、オブジェクト 12　アップロード、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ、他著『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店；川名和子著『初めて作るホームページ』技術評論社；http://www.abacuss.com/HTML_help/	出席、レポートによる

	現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	A.　ベロフ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、経済学部「コンピュータ入門ａ」・法学部「情報処理概論ａ」の既習者を対象としている。外国語学部は、既にコンピュータの基礎知識を習得していることを条件に、履修することができる。また、高等学校で既にコンピュータの基礎知識を習得したものは履修できる。ホームページを作成することによって次のようなことができるようにすることを目的とする。 1）情報や資料のやり取りをする。 2）用な情報を自ら発信する。 3）マルチメディアを活用する。 4）各自の発表をパソコンで行う。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。	1　コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2　ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバー 3　ページ構成、編集方法 4　画像、背景、GIF アニメーション 5　文書整形、フォント、リスト、 6　リンク、イベント処理 7　フレーム、BODY、Window、Document コンポネントへのアクセス 8　テーブル 9　マップ 10　ダイナミック HTML、スクリプト 11　フォーム、オブジェクト 12　アップロード、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ、他著『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店；川名和子著『初めて作るホームページ』技術評論社；http://www.abacuss.com/HTML_help/	出席、レポートによる

	現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
近年、ブロードバンド環境等の普及によりインターネットの利用がより身近なものになった。これからは、「インターネットを利用する」というよりも「インターネットに参加する」ことに目が向けられている。 その参加の足がかりとして、自分のホームページを作成し、PC 入門で学んだ知識をさらに深めながら、社会に自分が持っている情報を公開する活動について深く考えられることが特に重要になる。 この授業の目的は、このような情報公開に関する知識やスキルを学ぶことである。 実際にホームページ作成を行いながら、情報公開の背景にあるインターネットの脅威、ネチケット、個人情報、技術革新等の現代社会の重要なキーワードについて体系的に理解を深める視点をもって講義は行う。 授業内で各自が作成したホームページは世界中の人たちが閲覧するので、この講義の成果として獨協大学の学生としてふさわしい内容を公開することを期待する。 さらに、講義、実習と盛りたくさんの内容のため、欠席しないようにお願いしたい。	1　ホームページの仕組み 2　ホームページの作成環境 3　ホームページの作成 4　HTML ファイルの公開 5　スタイルシート 6　画像表示 7　表とレイアウト 8　ホームページの構成 9　ファイルシステム上の構成 10　インターネット上の諸問題 11　ホームページ上の特殊効果追加 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介	出席、レポート、小テストによる総合評価

	現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
近年、ブロードバンド環境等の普及によりインターネットの利用がより身近なものになった。これからは、「インターネットを利用する」というよりも「インターネットに参加する」ことに目が向けられている。 その参加の足がかりとして、自分のホームページを作成し、PC 入門で学んだ知識をさらに深めながら、社会に自分が持っている情報を公開する活動について深く考えられることが特に重要になる。 この授業の目的は、このような情報公開に関する知識やスキルを学ぶことである。 実際にホームページ作成を行いながら、情報公開の背景にあるインターネットの脅威、ネチケット、個人情報、技術革新等の現代社会の重要なキーワードについて体系的に理解を深める視点をもって講義は行う。 授業内で各自が作成したホームページは世界中の人たちが閲覧するので、この講義の成果として獨協大学の学生としてふさわしい内容を公開することを期待する。 さらに、講義、実習と盛りたくさんの内容のため、欠席しないようにお願いしたい。	1　ホームページの仕組み 2　ホームページの作成環境 3　ホームページの作成 4　HTML ファイルの公開 5　スタイルシート 6　画像表示 7　表とレイアウト 8　ホームページの構成 9　ファイルシステム上の構成 10　インターネット上の諸問題 11　ホームページ上の特殊効果追加 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介	出席、レポート、小テストによる総合評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	現代社会(Ⅳ)(模擬国際裁判)	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
模擬国際裁判とは、ある架空の国際事件を想定して、学生が原告・被告・裁判官の三グループに分かれ、自主的に調査・研究を行い、現実の国際裁判さながらに法的主張を競い合う法学教育です。本講義では、書面手続と口頭手続を経ることで、国際法の基礎的視点を体得することができます。また、グループ作業が中心となるので、共同で勉強することが苦痛でない人に適した講義です。 受講希望者が３０名を超える場合、第１回目の講義で、国際法のテストにより選抜します（法学部生を優先します)。	1　コースガイダンス――模擬国際裁判とは何か？ 2　課題文と訴状の発表 3　準備段階 4　申述書提出（原告側） 5　答弁書提出（被告側） 6　国際法上の論点を学ぶ 7　口頭弁論 8　判決 9　自己評価と反省 本講義で過去に扱った事例としては、核兵器使用の合法性に関する事件、ミロシェビッチ事件（旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所)、拡散安全保障イニシアチブ（ＰＳＩ）構想、イスラエルの分離壁、宇宙空間への兵器配備、竹島問題などがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『国際条約集　2007 年版』有斐閣 その他、適宜、参考文献を紹介します。	書面及び発表や模擬裁判への参加態度に基づいて評価します（試験は行いません)。

	現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長代行・運営委員長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．言い合いと話し合いの違い ３．ウソとコトバの魔術 ４．主張と根拠づけ ５．じょうずな聞きかた ６．メモのとりかた ７．反論のしかた ８．まとめかた ９．現代日本の諸問題 １０．現代世界の諸問題 １１．望ましい世界像 １２．話し合いによる紛争の解決 以上はテーマをムリに順番にならべたものですから、順序や範囲が違ってくることのあることをあらかじめ承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『生きたコトバづかい』(同)	時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

	現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長代行・運営委員長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．言い合いと話し合いの違い ３．ウソとコトバの魔術 ４．主張と根拠づけ ５．じょうずな聞きかた ６．メモのとりかた ７．反論のしかた ８．まとめかた ９．現代日本の諸問題 １０．現代世界の諸問題 １１．望ましい世界像 １２．話し合いによる紛争の解決 以上はテーマをムリに順番にならべたものですから、順序や範囲が違ってくることのあることをあらかじめ承知しておいてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『生きたコトバづかい』(近刊)	時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

	現代社会(IV)(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』1)	担当者	大井　正博

講義目的、講義概要	授業計画
EU は現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実の EU の姿が見えてこない。そこで EU の細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならび EU のリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面から EU の理解につとめようと思う。	1　EU の歴史　EC 創設への道 2　EU の歴史　EC15 カ国の実現 3　拡大する EU 4　拡大にともなう各種問題 5　フランス農業と共通農業政策 6　共通農業政策の仕組み 7　共通農業政策の問題点 8　共通農業政策の改革とフランス 9　欧州通貨制度とフランス 10　単一通貨ユーロ導入までの動き 11　安定成長協定とはなにか 12　EU 予算の抱える問題
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
日経文庫 1079　藤井良広著「EU の知識」第 14 版	受講条件：なし 評価方法：期末定期試験

	現代社会(IV)(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』2)	担当者	大井　正博

講義目的、講義概要	授業計画
EU は現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実の EU の姿が見えてこない。そこで EU の細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならび EU のリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面から EU の理解につとめようと思う。	1　フランスの政治と EU(欧州議会) 2　フランスの政治と EU(主権擁護派) 3　フランスの政治と EU(リーダーシップ) 4　フランス経済と EU(門戸開放と統合市場) 5　フランス経済と EU(世界経済への一体化) 6　フランス経済と EU(移民労働者) 7　フランス経済と EU(国内産業の保護) 8　フランス経済と EU(産業の空洞化) 9　フランスの ODA 政策と EU 10　市民社会の台頭とフランス 11　欧州憲法条約への道 12　憲法条約とフランス
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
日経文庫 1079　藤井良広著「EU の知識」第 14 版	受講条件：なし 評価方法：期末定期試験

	現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	矢羽々　崇

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんが今学んでいる「獨協」は，明治時代にできた「獨逸学協会」が母胎となっています。当時の人々は，ドイツやドイツ語圏であるオーストリア（当時は大国）やスイスから何を学ぼうとしたのでしょうか。 この授業では，日本とドイツ語圏（ドイツ，オーストリア，スイス）の交流の歴史を辿ってみます。交流は，政治経済のみならず，学問や文化，スポーツなど多岐に渡っています。 その多面的な様相の一部を紹介しながら，異文化との接触が何をもたらすのかを批判的に検討していきます。 学生の皆さんにも調査研究して発表してもらいます。グループ分けの必要がありますので，第1回授業には必ず参加してください。	詳しくは，第1回授業で紹介します。 ・最初の3回は，矢羽々による導入や概論講義を行います。 ・4回目からは，グループごとの発表（20分程度，5ー10分の質疑応答），矢羽々による補足講義の2部構成となります。 昨年度扱ったトピックとしては，次のようなものがあります。 ＊江戸時代，出島に来たドイツ人（ケンペル，シーボルト） ＊ドイツ語を学び始めた人々（獨協のはじまり） ＊スポーツでの交流（登山，スキーやサッカーの交流など） ＊俘虜収容所でのベートーヴェン『第九』初演 ＊メルヒェンの伝来　など
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてコピーを配布します。	授業への出席（4回以上の欠席はFとなります）および学期末試験もしくはレポートの結果に基づいて評価します(参加人数による)。

	現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、日本人にはあまりなじみのないヨーロッパ、特にドイツ語圏の国々やその国の文化を簡単に紹介し、受講者それぞれの興味・関心で調査し、発表することを目的とする。 講義は、受講者をグループに分け、ドイツ語圏を中心とする旅行プランを企画し、それをプレゼンテーションするという方法で行いたい。これにより、良い魅力的な商品としての旅行を企画するためにはどのような調査を行い、どのように組み立て、プレゼンテーションするかとグループワークにどのように関わる必要があるのかという体験と、同時にドイツ語圏の国々や文化に関する知識を得られればと思う。	１．イントロダクション ２．ドイツ語圏の国々 ３．同上 ４．同上 ５．グループ分けとテーマ決め ６．企画と組み立て ７．効果的なプレゼンテーション ８．企画プレゼンテーション ９．同上 １０．　同上 １１．　同上 １２．　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適時指摘する。	レポートと授業への参加度。特にグループワークへの関わりとプレゼンテーション。

	自然・環境・人間(IV)(身近な自然観察　春)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・　講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 ・一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。*詳細は掲示する。* **講義の目的** ・　身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** ・　植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。	1　はじめに　簡単なテストの後、席順の確認、講義内容の説明 2　実験室内における心得・実験器具の説明 3　キャンパスウオッチング 1　種の識別 4　身近な植物の観察 1　花の構造 5　顕微鏡使用法 1　顕微鏡の構造 6　顕微鏡使用法 2　ミクロメーターの使用 7　顕微鏡使用法 3　細胞の大きさと数 8　キャンパスウオッチング 2　五感を働かす 9　身近な植物の観察 2　　果実の構造 10 身近な植物の観察 3　葉の構造 11 自然保護運動 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、説明する。	出席重視、遅刻厳禁である。毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

	自然・環境・人間(IV)(身近な自然観察　秋)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・　講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 ・一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。*詳細は掲示する。* **講義の目的** ・　身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** 植物に興味があり､身近な植物 100 種以上認識できること。	1　はじめに：講義の内容を説明。 2　身近な植物の観察 1：Abelia の花の構造 3　キャンパスウオッチング 1：種の同定 4　蛋白質の分析 5　生産構造図の作成 6　種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7　身近な植物の観察 2：落葉と落枝 8　光合成の色素の分析：クロマトグラフィー利用 9　身近な植物の観察 3：真果と偽果の構造 10 キャンパスウオッチング：五感を働かす 11 形質と分類 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度説明する。	出席重視、遅刻厳禁である。毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

	自然・環境・人間(Ⅳ)(東洋の健康哲学 a)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間 利便性に富んだ科学的生活と人間生活 医学的進歩と疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることの意味を理解し、人間もその一員としての意識と共に地球単位での将来を考える事が健康になる最も大事な近道といえる。そのために個々人が如何なる考えと、意識を持ち、実行できるかを理解し学ぶことが必要である。	1・ガイダンス・健康問題の現状 2・時代の変遷と健康問題の推移 3・食事情と疾病との関連 4・西洋の科学と東洋の健康哲学 5・健康意識と現代科学の進歩 6・歴史的健康哲学の検証 7・世界の健康理論 8・東洋の身体観 9・ヨーガ・気功・エアロビクス・丹田呼吸法理論の意味する事とは。 10・健康の意義 11・情報と健康欲望 12・健康を阻害するものとは？
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	出席状況・レポート

	自然・環境・人間(Ⅳ)(東洋の健康哲学 b)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間 利便性に富んだ科学的生活と人間生活 医学的進歩と疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることとは 半世紀の社会状況・生活文化度と健康問題を検証人間生活の経済・個人の欲・近代化の副産物としての様々な現象を基に「健康とは？」を考える。	1・ガイダンス・健康問題の現状 2・時代の変遷と健康問題の推移 3・世界の人口・食事情と自給率 4・医科学の発達と経済の健康に及ぼす影響 5・健康意識と現代科学の進歩との関連 6・歴史的健康哲学の検証 7・世界の健康理論 8・東洋の身体観 9・ヨーガ・気功・エアロビクス・丹田呼吸法理論の意味する事とは。 10・健康の意義 11・情報と健康欲望 12・健康を阻害するものとは？
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布	出席状況・レポート

	自然・環境・人間(Ⅳ)(からだの仕組み)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 普段何気なく生活していますが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示しています。たとえば、暑いと汗をかいたり、運動中に心臓がどきどきしたりといった反応があげられます。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が提供されていますが、まずはもっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考えるきっかけを提供することが本講義の目的です。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、場合によっては実際に試してみたりします。また、健康やそれにかかわる環境などについてのテレビ、映画、新聞などの情報を各自が興味をもった「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。毎回授業のテーマに沿ったレポートの提出により理解の定着を図ります。	1．オリエンテーション－生きている仕組みを考える 2．体温調節－汗は最強 3．摂食調節－お腹が空く、脳が空く 4．体液調節－のどの渇きは脳のサイン 5．睡眠－眠くなるのはなぜ？ 6．生物時計－体の中に時計がある？ 7．呼吸と循環－息して生きてる 8．感覚－第6感？ 9．神経－「運動神経がない」人はいない！ １０－１２．からだの情報交換会！
テキスト、参考文献	**評価方法**
『生理学はじめの一歩』　彼末一之　メディカ出版	出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。

	自然・環境・人間(Ⅳ)(からだの仕組み)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 普段何気なく生活していますが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示しています。たとえば、暑いと汗をかいたり、運動中に心臓がどきどきしたりといった反応があげられます。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が提供されていますが、まずはもっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考えるきっかけを提供することが本講義の目的です。 〔講義概要〕 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、場合によっては実際に試してみたりします。また、健康やそれにかかわる環境などについてのテレビ、映画、新聞などの情報を各自が興味をもった「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。毎回授業のテーマに沿ったレポートの提出により理解の定着を図ります。	1．オリエンテーション－生きている仕組みを考える 2．体温調節－汗は最強 3．摂食調節－お腹が空く、脳が空く 4．体液調節－のどの渇きは脳のサイン 5．睡眠－眠くなるのはなぜ？ 6．生物時計－体の中に時計がある？ 7．呼吸と循環－息して生きてる 8．感覚－第6感？ 9．神経－「運動神経がない」人はいない！ １０－１２．からだの情報交換会！
テキスト、参考文献	**評価方法**
『生理学はじめの一歩』　彼末一之　メディカ出版	出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。

	自然・環境・人間(Ⅳ)(健康をスポーツを理解する a)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　この講義における目標は知的刺激を与えることです。正しいかどうか、という理解は、色々なことを経験し、挑戦してみて、各自が感じて貰えれば十分です。 　健康に関することでは、体調をコントロールするにはどのようにしたら良いのか、スポーツに関することでは、指導の実際や自分で行う、見る、話す、支えるといったことを中心に総合型スポーツクラブを考えていきます。 [講義概要] 　参加型の授業として、受講学生との会話を通して授業を進めるが、担当者が準備するのは、骨盤調整の理論と実技、サッカーの見方、テニスのプレーの仕方、山歩きの４つである。 **[受講者への要望]** 　全出席！！　積極的な参加！！　柔軟な思考 　自己への投資！！	1 オリエンテーション（教室） 　受講票の作成（要写真４×３cm） 　授業実施上の諸注意 　トレーニングルームの講習と登録 2 骨盤調整の理論と実際Ⅰ（理論） 3 骨盤調整の理論と実際Ⅱ（実技） 4 健康に関する資料収集とレポート発表 5 サッカーの映像を見るⅠ 6 サッカーの映像を見るⅡ 7 サッカーに関する資料収集とレポート発表 8 テニスをプレーするⅠ 9 テニスをプレーするⅡ 10 テニスに関する資料収集とレポート発表 11 秋田県乳頭山・駒ケ岳近辺の山歩き研究Ⅰ 12 山歩き計画作成 ＊８月第４週の金土日を目安に秋田県乳頭山の縦走を計画します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、レポートなどを総合して評価する。

	自然・環境・人間(Ⅳ)(健康をスポーツを理解する b)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　この講義における目標は知的刺激を与えることです。正しいかどうか、という理解は、色々なことを経験し、挑戦してみて、各自が感じて貰えれば十分です。 　健康に関することでは、体調をコントロールするにはどのようにしたら良いのか、スポーツに関することでは、指導の実際や自分で行う、見る、話す、支えるといったことを中心に総合型スポーツクラブを考えていきます。 [講義概要] 　参加型の授業として、受講学生との会話を通して授業を進めるが、担当者が準備するのは、骨盤調整の理論と実技、スノースポーツの指導法について、スキー場のイベントについて、雪像つくりの４つである。 [受講者への要望] 　全出席！！　積極的な参加！！　柔軟な思考 　自己への投資！！	1 オリエンテーション（教室） 　受講票の作成（要写真４×３cm） 　授業実施上の諸注意 　トレーニングルームの講習と登録 2 骨盤調整の理論と実際Ⅰ（理論） 3 骨盤調整の理論と実際Ⅱ（実技） 4 体力測定（実技） 5 健康に関する資料収集とレポート発表 6 オーストリアのスキー指導法 7 日本のスキー指導法 8 スキーに関する映画の研究 9 スノースポーツに関する資料収集とレポート発表 10 秋田県たざわ湖スキー場のイベント 11 日本のスキー場のイベントを考える 12 スキー場行きの計画作成 ＊２月第４週の木金土日を目安に秋田県たざわ湖スキー場で雪像つくりを計画します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。 [講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。	1 オリエンテーション　インラインスケートとは 2 用具合わせ　立ち方・歩き方・とまり方 3 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 4 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 5 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 6 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 7 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 8 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 9 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 10 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 11 後ろ向きになれよう： バックストローク（後方滑走）とバリエーション 12 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度（実技テスト）

	スポーツ・レクリエーション(インラインスケートb)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 春学期から継続して受講する学生のためのクラスです。 インラインスケートの技術のバリエーションを習得することを目標とします。 [講義概要] インラインスケートの技術のバリエーションであるステップ、ストップ、ジャンプ等を取り入れて授業を進めます。また、インラインホッケーも積極的に行います。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。 秋学期から受講する学生も受け入れます。	1 インラインホッケーの楽しみ方 2 自由な動き作り：パイロンテクニックその１ 3 自由な動き作り：パイロンテクニックその２ 4 自由な動き作り：カーブとトランジションその１ 5 自由な動き作り：カーブとトランジションその２ 6 自由な動き作り：クロッシングその１ 7 自由な動き作り：クロッシングその２ 8 自由な動き作り：その他のバリエーションその１ 9 自由な動き作り：その他のバリエーションその２ 10 インラインホッケー 11 インラインホッケー 12 インラインホッケー・まとめ インラインホッケーは、毎回練習途中で適宜取り入れます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 　生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、テニスの魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 　テニスの基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標であるテニスのゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。ゲームはダブルスをメインとして行う。 〔受講生への要望〕 　各自、テニスシューズを必ず用意してください。テニスにふさわしい服装で参加してください。 ★雨天時には教室で講義を行うか、場所を変えて実技を行います。	１．オリエンテーション ２．ラケットとボールに慣れよう ３．ラケットとボールに慣れよう ４．ストローク（フォア･バック） ５．ストローク（フォア･バック） ６．ボレーの形 ７．サーブとレシーブ ８．ルールを知って、ゲームを始めてみよう ９．ダブルスゲームの中で動きの確認 １０．　ゲーム １１．　ゲーム １２．　ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、テニスの魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 　テニスの基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標であるテニスのゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。ゲームはダブルスをメインとして行う。リーグ戦はチーム団体戦とする。チーム分けは適宜行う予定。 〔受講生への要望〕 　各自、テニスシューズを必ず用意してください。テニスにふさわしい服装で参加してください。 ★雨天時には教室で講義を行うか、場所を変えて実技を行います。	1.　基本技術の確認 2.　基本技術の確認 3.　基本技術の確認 4.　ゲームの中で動きの確認 5.　リーグ戦 6.　リーグ戦 7.　リーグ戦 8.　リーグ戦 9.　リーグ戦 10.　リーグ戦 11.　リーグ戦 12.　リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 **[講義概要]** 硬式テニスを教材とする。硬式テニスには、シングルスとダブルスの２つの代表的な試合形式があるが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。 ダブルスの試合のルールを充分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合が出来るまでをビルドアップしていく。 **[受講者への要望]** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。	1 オリエンテーション（教室） 受講票（写真添付４×３㎝）の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 テニスコートにて実技開始 受講決定の確認と受講票の完成（写真提出） 3 基本トレーニング　　ラケットコントロール 4 基本トレーニング　　ラケットコントロール 5 基本戦術　　サーブ・レシーブ・ストローク 6 基本戦術　　サーブ・レシーブ・ボレー 7 試合に必要な準備　　競技場の設営 審判の仕方　　試合の進め方 8 ミックスダブルスによる試合 9 ミックスダブルスによる試合 10 男子ダブルス・女子ダブルス 11 男子ダブルス・女子ダブルス 12 テスト　ルール・技術・審判法 ＊コートが使用できない場合には、アリーナにて実技を行うので、アリーナ用のシューズを準備すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニスｂ)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 **[講義概要]** 硬式テニスを教材とするが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。 ダブルスの試合のルールを充分に理解し、レベルに応じて試合の楽しみ方を考える。プレーヤー、審判、コーディネーターと関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。 **[受講者への要望]** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。	1 オリエンテーション（教室） 受講票（写真添付４×３㎝）の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 テニスコートにて実技開始 受講決定の確認と受講票の完成（写真提出） 3 基本戦術 プレーの組み合わせ　ゲームプラン 4 班分けして班別練習　オーダーの検討 5 リーグ戦（一巡目） 6 リーグ戦（一巡目） 7 リーグ戦（一巡目） 8 リーグ戦（二順目） 9 リーグ戦（二順目） 10 リーグ戦（二順目） 11 トーナメント 12 トーナメント ＊コートが使用できない場合には、アリーナにて実技を行うので、アリーナ用のシューズを準備すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルスのゲームを通じて，ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、３棟１階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。	1 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。 3 基本技術の練習。 4　〃 5　〃 6　〃 7　〃 8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。

	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルスのゲームを通じて，ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、３棟１階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。	1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。 2 基本技術の練習。 3　〃 4　〃 5　〃 6　〃 7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 8　〃 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)	担当者	吉田　卓司

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。 [講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第 7 週までは、学内でプラスティック・ボールを使用して、打球する。第 8 週からゴルフ練習場にて、実習する。 [受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）	1 オリエンーション 2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて 3 基本的技術のビデオ学習 4 ショートアイアン（8、9、PW、SW）のスウィング（グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する） 5 学内でプラスティック・ボールを使用して実習 6 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法） 7 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法） 8 ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球） 9（反復練習） 10（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック 11（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック） 12（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b)	担当者	吉田　卓司

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。 [講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第 7 週までは、学内でプラスティック・ボールを使用して、打球する。第 8 週からゴルフ練習場にて、実習する。 [受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）	1 ゴルフ練習場にて実習 2 アイアンショット（3、5、7、9、PW、SW）（個別指導とフォームのチェック） 3 １番ウッド（ドライバー）３番ウッド（スプーン）の打法と練習 4 ロングアイアン（3、4）ショット練習 5 ロングアイアン（3、4）ショット練習 6 個人個人のスウィングをチェック指導 7 個人個人のスウィングをチェック指導 8 個人個人のスウィングをチェック指導 9 個人個人のスウィングをチェック指導 10 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習 11 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習 12 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)	担当者	山中　邦夫

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。 [講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTR を用いた分析等を用いた授業となる。 [受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。 靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	1 オリエンテーション 2 ゴルフ競技の概要（VTR と講義） 3 スイング、グリップ、スタンスについて （学内グランドで実習） 4 スイング、グリップ、スタンスについて （学内グランドで実習） 5 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 6 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 7 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 8（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に 9 番アイアン） 9（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 10（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 11（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に 7 番アイアン） 12（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b)	担当者	山中　邦夫

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。 [講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTR を用いた分析等を用いた授業となる。 [受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。 靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	1（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に 5 番アイアン） 2（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 3（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主にドライバー、スプーン） 4（学外の練習場で）VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 5（学外の練習場で）VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 6（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（主に 9、7、5 番アイアン） 7（学外の練習場で）VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 8（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。（　〃　） 9 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格） 10 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格） 11 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格） 12 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] サッカーを教材とする。サッカーの攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。サッカーの試合のルールを充分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でサッカーにふさわしいシューズと服装を用意すること。	1 オリエンテーション（教室） 受講票（写真添付４×３㎝）の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 グラウンドにて実技開始 受講決定の確認と受講票の完成（写真提出） ボールコントロール・サッカー経験の確認 3 １/４ピッチでの簡易のゲーム 4 １/２ピッチでの簡易のゲーム 5 正規のピッチでのゲーム 6 競技規則、審判法の理解 7 正規のゲーム 8 〃 9 ポジションの理解 10 正規のゲーム 11 〃 12 〃 ＊人口芝ピッチなので雨天等でも実技を行います。天候に応じた準備をして参加してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーｂ)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] サッカーを教材とする。チームとしての攻守の切替の中で自然に個人の瞬間的な判断と行動を繰り返し行い身に付ける。レベルに応じてサッカーの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。	1 オリエンテーション（教室） 受講票（写真添付４×３㎝）の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 グラウンドにて実技開始 受講決定の確認と受講票の完成（写真提出） ボールコントロール・サッカー経験の確認 3 １/４ピッチでの簡易のゲーム 4 班分け・班別練習 5 リーグ戦① 6 リーグ戦② 7 リーグ戦③ 8 リーグ戦④ 9 リーグ戦⑤ 10 リーグ戦⑥ 11 リーグ戦⑦ 12 リーグ戦⑧ ＊人口芝ピッチなので雨天等でも実技を行います。天候に応じた準備をして参加してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	松本　光弘

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。 [講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には場所を変えて実技を行うか、教室にて VTR を利用した講義を行う。 [受講者への要望] 人工芝用のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。	1 オリエンテーション 2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム 3 技術練習とハーフゲーム 4 〃 5 〃 6 ルールの解説（雨天時に割り当てる） 7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 8 〃 9 〃 10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 11 〃 12 サッカーの歴史（雨天時に割り当てる

テキスト、参考文献	評価方法
[テキスト]「サッカースキル （技術と戦術）」松本光弘著　学習研究社「サッカーのテクニック」 スピンドラー著　松本光弘訳　ベースボールマガジン社[参考文献] 『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著　浅見俊雄訳ベースボールマガジン社	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。

	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	松本　光弘

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。 [講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には場所を変えて実技を行うか、教室にて VTR を利用した講義を行う。 [受講者への要望] 人工芝用のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。	1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 2 〃 3 〃 4 特殊戦術とフルゲーム 5 〃 6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム 7 〃 8 〃 9 〃 10 〃 11 〃 12 フルゲーム、評価

テキスト、参考文献	評価方法
[テキスト]「サッカースキル （技術と戦術）」松本光弘著　学習研究社「サッカーのテクニック」 スピンドラー著　松本光弘訳　ベースボールマガジン社[参考文献] 『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著　浅見俊雄訳ベースボールマガジン社	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツエクササイズ a）	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
生涯にわたって心身ともに健康に過ごすためには、積極的な身体運動が必要な時代を迎えている。この講義では、日常生活の中に身体活動を取り入れる態度を養うとともに、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。 健康であるための要素である運動、食事、環境を考慮しながら、個人に適正な運動量を設定して、それを実行できるようにすることを目的とする。自己の体力の現状を把握し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的にトレーニングを実行しつつ、全体的な体力について考える。	1　オリエンテーション　年間授業計画の説明　実施上の諸注意 2　トレーニングルームの使い方　体力測定について 3　トレーニングの理論と実践　筋力について(1) 4　トレーニングの理論と実践　筋力について(2) 5　トレーニングの理論と実践　筋力について(3) 6　トレーニングの理論と実践　最大酸素摂取量について(1) 7　トレーニングの理論と実践　最大酸素摂取量について(2) 8　トレーニングの理論と実践　最大酸素摂取量について(3) 9　トレーニングの理論と実践　筋持久性について(1) 10　トレーニングの理論と実践　筋持久性について(2) 11　トレーニングの理論と実践　筋持久性について(3) 12　トレーニングの理論と実践　体力測定および評価、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業への参加態度、トレーニングの達成度等により評価する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツエクササイズ b）	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
生涯にわたって心身ともに健康に過ごすためには、積極的な身体運動が必要な時代を迎えている。この講義では、日常生活の中に身体活動を取り入れる態度を養うとともに、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。 健康であるための要素である運動、食事、環境を考慮しながら、個人に適正な運動量を設定して、それを実行できるようにすることを目的とする。自己の体力の現状を把握し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的にトレーニングを実行しつつ、全体的な体力について考える。	1　トレーニングの理論と実践　体力測定および評価 2　トレーニングの理論と実践　食事について(1) 3　トレーニングの理論と実践　食事について(2) 4　トレーニングの理論と実践　食事について(3) 5　トレーニングの理論と実践　心拍数について(1) 6　トレーニングの理論と実践　心拍数について(2) 7　トレーニングの理論と実践　心拍数について(3) 8　トレーニングの理論と実践　ウォーキングについて(1) 9　トレーニングの理論と実践　ウォーキングについて(2) 10　トレーニングの理論と実践　ジョギングについて(1) 11　トレーニングの理論と実践　ジョギングについて(2) 12　トレーニングの理論と実践　体力測定および評価、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業への参加態度、トレーニングの達成度等により評価する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス a）	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
デトックスとは身体の中の毒素を抜く（体内浄化）を意味している。健康ブームに置かれている現代の私たちは、体に良いものを取り入れようと、栄養の摂取にばかり目を向けていた。しかし、効率よく栄養を吸収させるためには、まず体内にたまっている老廃物を出すこと（＝デトックス）が先決であることが分かってきた。 この講義では、エクササイズを行うことにより身体の代謝機能を高め、身体の中の余分な老廃物をスムーズに排泄できるからだづくりを目指す。また、様々なエクササイズを経験しながら、それらを積極的に生活の中に取り入れる態度を養うことを目的とする。	1　オリエンテーション　年間授業計画の説明　実施上の諸注意 2　スポーツ型デトックスについて　体力・形態測定について 3　ヨーガ(1)　呼吸法と基本のポーズについて 4　ヨーガ(2)　フィットネスヨーガについて 5　ヨーガ(3)　エナジーヨーガについて 6　ダンベルエクササイズ(1)　効果とプログラムについて 7　ダンベルエクササイズ(2)　基本の姿勢と動きについて 8　ダンベルエクササイズ(3)　音楽に合わせた動きについて 9　エアロビクス(1)　基本のステップについて 10　エアロビクス(2)　筋肉を意識した動きについて 11　エアロビクス(3)　ローインパクトからハイインパクトへ 12　体力・形態測定および評価、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業への参加態度、トレーニングの達成度等により評価する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス b）	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
デトックスとは身体の中の毒素を抜く（体内浄化）を意味している。健康ブームに置かれている現代の私たちは、体に良いものを取り入れようと、栄養の摂取にばかり目を向けていた。しかし、効率よく栄養を吸収させるためには、まず体内にたまっている老廃物を出すこと（＝デトックス）が先決であることが分かってきた。 この講義では、エクササイズを行うことにより身体の代謝機能を高め、身体の中の余分な老廃物をスムーズに排泄できるからだづくりを目指す。また、様々なエクササイズを経験しながら、それらを積極的に生活の中に取り入れる態度を養うことを目的とする。	1　体力・形態測定および評価 2　ピラティス(1)　基本のピラティス 3　ピラティス(2)　仰向け・座りのピラティス 4　ピラティス(3)　うつ伏せ、横向きのピラティス 5　ウェイトバーエクササイズ(1)　基本の姿勢と動き 6　ウェイトバーエクササイズ(2)　音楽に合わせた動き 7　ステップエクササイズ(1)　基本のステップ 8　ステップエクササイズ(2)　ローインパクトからハイインパクトへ 9　デトックスの理論と実践(1)　食事について 10　デトックスの理論と実践(2)　水分補給について 11　デトックスの理論と実践(3)　エクササイズのプログラムについて 12　体力・形態測定および評価、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業への参加態度、トレーニングの達成度等により評価する。

	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール a)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。 [講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。	1 オリエンテーション 2 個人的技能　基本技能　キャッチング 3 スローイング　1対1での正確な技能の修得 バッティング　ノックとトスバッティング 4 フリーバッティング正確なキャッチングと スローイング、バッティングをしっかり身につける 5 ピッチング 6 集団的技能　連携プレー攻撃＝バント及び ヒットエンドラン 7 タッチアッププレー守備＝フォースプレー 8 ダブルプレーバントの処理と各野手の動き 9 カバーリング　あらゆるプレーに対する フォーメーション 10 ルールの解説とスコアーのつけ方 (ワンプレーに対する判定法) 11 簡易ゲーム　簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。 12 簡易ゲーム　簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能（捕球、送球、遠投）・ゲーム結果（集団、個人技能）欠席時数４回以上の者は、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール b)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。 [講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。	1 個人技能　　ゲーム　・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくならないようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。集団技能の反復練習 2 キャッチボールトス、フリーバッティングピッチング・簡単なスコアーをつけ個々の成績（打率、盗塁、打点など）を集計し成績を出し、技能を競い合う 3　〃 4　〃 5　〃 6　〃 7　〃 8　〃 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能（捕球、送球、遠投）・ゲーム結果（集団、個人技能）欠席時数４回以上の者は、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa)	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3 前回の復習 ゲームの実施 4 バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5 前回の復習。リーグ戦 6 リーグ戦 7 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8 前回の復習 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(ソフトボールｂ)	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 基本練習。 リーグ戦 2 基本練習。 リーグ戦 3 集団技能（守備）、リレープレーを練習。 リーグ戦 4 前回の復習。 リーグ戦 5 リーグ戦 6 リーグ戦 7 リーグ戦 8 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 卓球は生涯にわたって楽しむことのできるスポーツである。その卓球の魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 卓球の基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標である卓球のゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。シングルス、ダブルスゲームを行う。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。運動にふさわしい服装で参加してください。	1. オリエンテーション 2. 道具の準備、後片付けの仕方、卓球入門（基礎知識） 3. ラケットとボールに慣れよう 4. スイングの基礎（フォア･バック） 5. スイングの基礎（フォア･バック） 6. サービスとレシーブ 7. サービスとレシーブ 8. ルールを知って、ゲームを始めてみよう 9. シングルスゲームゲーム 10. ダブルスゲームの進め方 11. ダブルスゲーム 12. ダブルスゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 卓球は生涯にわたって楽しむことのできるスポーツである。その卓球の魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 卓球の基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標である卓球のゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。シングルス、ダブルスゲームを行う。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。運動にふさわしい服装で参加してください。	1. 基本技術の確認 2. 基本技術の確認 3. 基本技術の確認 4. シングルスリーグ戦 5. シングルスリーグ戦 6. シングルスリーグ戦 7. ダブルスゲームの進め方のおさらい 8. ダブルスリーグ戦 9. ダブルスリーグ戦 10. ダブルスリーグ戦 11. ダブルスリーグ戦 12. ダブルスリーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起をして　コンディションを整えて出席するように、欠席.遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1 オリエンテーション（教室） 受講票（写真添付４×３㎝）の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 アリーナにて実技開始 受講決定の確認と受講票の完成（写真提出） 用具の準備、片付けの仕方 基本知識、動作などについて 3 能力別グループ編成と、初心者は、構え、スイング フットワークなどの基本練習 4 サーブ・レシーブ　簡易ゲーム 5 フォアーハンドロング・バックハンドショート 簡易ゲーム 6 バックハンドロング・ショートカット 能力別シングルスゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い 9 ダブルスゲーム　パートナーと動きを考える 10 ダブルスゲーム 11 シングルス・トーナメント戦 12 シングルス・トーナメント戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ. 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	出席点、平常点、技能点、の３つで行う。（出席点は、無欠席は特A，欠席１回A、欠席２回B、欠席３回C、欠席４回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う）

	スポーツ・レクリエーション(卓球ｂ)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起をして　コンディションを整えて出席するように、欠席.遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1 オリエンテーション（教室） 受講票（写真添付４×３㎝）の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 アリーナにて実技開始 受講決定の確認と受講票の完成（写真提出） 用具の準備、片付けの仕方 基本知識、動作などについて　チーム編成 3 チーム対抗戦１ 4 チーム対抗戦２ 5 チーム対抗戦３ 6 チーム対抗戦４ 7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8 シングルス・予選リーグ戦 9 決勝リーグ戦 10 決勝リーグ戦 11 シングルス・トーナメント戦 12 技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ. 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	出席点、平常点、技能点、の３つで行う。（出席点は無欠席特A，欠席１回A、欠席２回B、欠席３回C、欠席４回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う）

	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類・持ち方、基本姿勢） 3．ボールの打ち方・スイングの基本 4．フォアハンド・バックハンドの練習　簡易ゲーム 5．サービス・レシーブの練習　簡易ゲーム 6．フォアハンドロング・バックハンドショート シングルスゲームの審判法と進め方 7．カット・スマッシュ　シングルスゲーム 8．シングルスゲーム 9．ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 10．ダブルスゲーム　パートナーの動きを考える 11．ダブルスゲーム 12．まとめ（シングルスゲーム・ダブルスゲーム）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1．復習　基本練習　シングルスゲーム 2．決定打までの組み立て チーム編成とシングルスゲーム・チーム内リーグ戦 3．シングルスゲーム・チーム内リーグ戦 4．シングルスゲーム・チーム対抗戦 5．上に同じ 6．ダブルスゲーム・チーム内リーグ戦 7．上に同じ 8．ダブルスゲーム・チーム対抗戦 9．上に同じ 10．シングルス・トーナメント戦 11．ダブルス・トーナメント戦 12．総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起をしてコンディションを整えて出席するように、欠席・遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1. 授業内容の説明と個人資料カード作成 （写真を必ず用意すること） 2. 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、動作などについて 3. 能力別グループ編成と、初心者は、構え、スイングフットワークなどの基本練習 4. サーブ・レシーブ　簡易ゲーム 5. フォアーハンドロング・バックハンドショート 簡易ゲーム 6. バックハンドロング・ショートカット 能力別シングルスゲーム 7. カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8. ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 9. ダブルスゲーム　パートナーと動きを考える 10. ダブルスゲーム 11. シングルス・トーナメント戦 12. シングルス・トーナメント戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ． 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用してルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起をしてコンディションを整えて出席するように、欠席・遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1. チーム編成とチーム内シングルスリーグ戦 2. キャップ・マネージャーなどの選出と シングルスリーグ戦。 3. チーム対抗戦 1 4. チーム対抗戦 2 5. チーム対抗戦 3 6. チーム対抗戦 4 7. 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8. シングルス・予選リーグ戦 9. 決勝リーグ戦 10. 決勝リーグ戦 11. シングルス・トーナメント戦 12. 技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ． 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。	1. オリエンテーション 2. ファンダメンタルを身につけよう ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 3. ファンダメンタルを身につけよう 様々なシュート、ストップ・ターンの使い方 4. ファンダメンタルを身につけよう ディフェンスの基本、パスのもらい方、動きの中でのシュート 5. 1 対 1：ハーフコート・オールコート 6. 2 対 2：スクリーンプレー 7. 速攻：ワンマン・ツーメン・スリーメン 8. 速攻：2 対 1・3 対 2 9. ゲームの進め方（審判・オフィシャル） 10. ゲーム 11. ゲーム 12. ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。	1. ファンダメンタルの確認 2. チーム編成のためのゲーム 3. チームごとの練習およびゲームプラン 4. リーグ戦 5. リーグ戦 6. リーグ戦（チーム編成） 7. リーグ戦 8. リーグ戦 9. リーグ戦（チーム編成） 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年令を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。 [講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける [受講者への要望] 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。	1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認。 2 バドミントンの全般的な説明を行なう。 コート、ラケット、シャトル等についての説明。基本的なグリップと素振りを行ない、ストロークの基本を学ぶ 3 基本的技術ストローク・オーバーヘット（バック、フォア）・サイドアーム（フォア、バック） アンダーハンド（フォア、バック） 4 基本的技術○フットワーク前後、左右フライトの理解 ラケットワークとフライト（クリアー･ドライブ） 5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 ○ロングサービス○ショートサービス（フォア・バック） ○ショートサービスに対する対応（プッシュ） ○基本的技術の復習 6　〃 7　〃 8 ○いろいろなフォーメーション ○基本的技術の復習簡単なゲーム（シングルス） 審判法の習得 9 前回までの復習 10 前回までの復習 11 前回までの復習 12 前回までの復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年令を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。 [講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。 [受講者への要望] 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。	1 グループ別でのシングルスのリーグ戦 毎回基本的技術の復習 2　〃 3　〃 4　〃 5　〃 6 シングルスの決勝リーグ戦 7　〃 8　〃 9 ダブルスのリーグ戦 10　〃 11　〃 12　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション（バドミントン a）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
学生自身が運動種目に必要なウォームアップ、クールダウンを行えるようになり、主体性、協調性を発揮し、身に付けることを目的とする。 技術的にはゲームの中で使用する基本技術を理解し、実践する。 シングルス、ダブルスのルール・進め方を理解して実践すること。 レポートを実施することで目的、問題意識を持たせる。 ○室内シューズを用意すること。基本技術の練習を中心に行う。	1. 年間授業計画の説明　実技実施上の諸注意　連絡事項の確認 2. バドミントン競技の全般的説明　クリヤーの基本 3. ハイクリヤーの基本練習　ドロップの基本 4. クリヤー、ドロップの練習　ヘアピンの基本 5. 各種ストロークの復習　サービスの基本練習 6. 半面シングルスの実施　カウント方法の確認 前後へのフットワークの基本 7. 半面シングルス　審判法の理解　審判の実施 8. ドライブの基本　正規のシングルスゲーム 9. スマッシュの基本　シングルスゲーム 10. 各種ストロークの練習　ダブルスの基本 11. ダブルスのルールの理解　試合の実施と審判 12. リーグ戦の実施
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況、参加姿勢、技能の向上、レポート等を加味して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（バドミントン b）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
学生自身が運動種目に必要なウォームアップ、クールダウンを行えるようになり、主体性、協調性を発揮し、身に付けることを目的とする。 技術的にはゲームの中で使用する基本技術を理解し、実践する。 シングルス、ダブルスのルール・進め方を理解して実践すること。 レポートを実施することで目的、問題意識を持たせる。 ○室内シューズを用意すること。基本技術の練習を中心に行う。	1. 基本的なストロークの復習　ダブルスの試合方法と審判法の確認 2. ダブルスの組み合わせの決定　いくつかのグループによるリーグ戦 3. ダブルスの基本的フォーメーションの確認をしてゲームの中に生かす。 4. ゲーム結果の分析　問題点の整理　ダブルスゲームの実施 5. ゲームの進行状況の確認　組み合わせを変えてのリーグ戦 6. ダブルスゲームの進行　課題をゲーム内で解決 7. ダブルスゲームの進行　ゲームの面白さの理解 8. ダブルスゲームの進行　高いレベルのゲーム 9. ゲームの中での課題の練習　組み合わせの変更 10. ゲームの中での課題の練習　相手のプレーヤーの動きに合わせたプレーの練習 11. ゲームの進行　ゲーム・審判とも全員が実施 12. ゲームの進行　勝敗・順位について整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況、参加姿勢、技能の向上、レポート等を加味して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法のついても理解して、進んで審判を努めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。	１．年間授業計画の説明　実技実施上の諸注意　連絡事項の確認 ２．バドミントン競技の全般的説明　クリヤーの基本 ３．ハイクリヤーの基本練習　ドロップの基本 ４．クリヤー、ドロップの練習　ヘアピンの基本 ５．各種ストロークの復習　サービスの基本練習 ６．半面シングルスの実施　カウント方法の確認 前後へのフットワークの基本 ７．半面シングルス　審判法の理解　審判の実施 ８．ドライブの基本　正規のシングルスゲーム ９．スマッシュの基本　シングルスゲーム １０．各種ストロークの練習　ダブルスの基本 １１．ダブルスのルールの理解　試合の実施と審判 １２．リーグ戦の実施
テキスト、参考文献	**評価方法**
相沢マチ子　「やさしいバドミントンレッスン」 ベースボールマガジン社	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を努めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。	１．基本的なストロークの復習　ダブルスの試合方法と審判法の確認 ２．ダブルスの組み合わせの決定　いくつかのグループによるリーグ戦 ３．ダブルスの基本的フォーメーションの確認をしてゲームの中に生かす。 ４．ゲーム結果の分析　問題点の整理　ダブルスゲームの実施 ５．ゲームの進行状況の確認　組み合わせを変えてのリーグ戦 ６．ダブルスゲームの進行　課題をゲーム内で解決 ７．ダブルスゲームの進行　ゲームの面白さの理解 ８．ダブルスゲームの進行　高いレベルのゲーム ９．ゲームの中での課題の練習　組み合わせの変更 １０．ゲームの中での課題の練習　相手のプレーヤーの動きに合わせたプレーの練習 １１．ゲームの進行　ゲーム・審判とも全員が実施 １２．ゲームの進行　勝敗・順位について整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
相沢マチ子　「やさしいバドミントンレッスン」 ベースボールマガジン社	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	小山　さなえ

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 バドミントンを楽しもう 【講義概要】 バドミントンの基本的な技術やルールを理解して、生涯にわたってバドミントンを楽しめる能力を習得する。 基本的練習や簡易ゲームで技術レベル別にグループを編成し、シングルス・ダブルスのゲームを通して、バドミントンの面白さを体験し、バドミントンの基本技術及び戦術を理解し実践する。さらに、シングルス、ダブルスの試合方法（新ルール 2006 年改正）についても理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法等の実践能力を身につける。 自己の健康管理を含めた出席を重視するので、体調を整えて授業に参加すること。バドミントンにふさわしい服装、シューズを用意すること。	１．オリエンテーション（授業内容の説明、実技実施上の諸注意、連絡事項の確認等） ２．バドミントン競技の全般的説明　グリップとシャトルに慣れるための練習 ３．各種フライトの練習　（クリア、ドロップ、ヘアピン、スマッシュ、ドライブ・・・） ４．各種フライトの練習とフットワークの基本 ５．サービスとレシーブの基本練習 ６．半面シングルスのゲーム ７．シングルスゲーム　（ルールの理解と審判法） ８．ダブルスゲーム　（ルールの理解と審判法） ９．団体戦・チーム編成 １０．チーム対抗戦① １１．チーム対抗戦② １２．チーム対抗戦③ 勝敗・順位についての整理とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
相沢マチ子　「やさしいバドミントンレッスン」 ベースボールマガジン社	出席点を重視し、授業への取り組み方、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。欠席 4 回以上の学生は、評価の対象にはならない。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	小川　又八朗

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 基本技と動き（アンダー　オーバー)、パスゲーム１。 3 レシーブとトス（ボールのつなぎ)、パスゲーム２。 4 レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム３ 5 基本技と動き（アンダー　フローターサーブ）サーブレシーブ　基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム１ 6 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム２。 7 チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション サーレシーブからの攻撃の組立、 スパイクを含んだゲーム。 8 ゲーム、６チームによるリーグ戦。 9 上記と同じ。8 ゲーム、６チームによるリーグ戦。 10 上記と同じ。 11 上記と同じ。 12 上記と同じ。まとめテスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ　ベースボール・マガジン社『人と人の間』木村敏　弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編　不昧堂出版	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	小川　又八朗

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1 チーム編成（スターティングポジションと 攻守のフォーメーション)。 2 上記と同じ。 3 サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4 上記と同じ。 5 スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム (特に攻撃スパイク　サーブ) 6 上記と同じ。 7 上記と同じ。 8 ゲーム（リーグ戦）記録、チーム (特に守りレシーブ　ブロック)。 9 上記と同じ。 10 ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、 ゲームの評価と練習課題。 11 上記と同じ 12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ　ベースボール・マガジン社『人と人の間』木村敏　弘文堂　『スポーツの倫理』体育原理分科会編　不昧堂出版	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(フットサルa)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。フットサルの試合のルールを充分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を用意すること。	1 オリエンテーション（教室） 受講票（写真添付４×３㎝）の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 グラウンドにて実技開始 受講決定の確認と受講票の完成（写真提出） 3 ボールコントロール 4 簡易のゲーム 5　〃 6 競技規則、審判法の理解 7 正規のゲーム 8　〃 9 ポジションの理解 10 正規のゲーム 11　〃 12　〃 ＊人口芝ピッチなので雨天等でも実技を行います。天候に応じた準備をして参加してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(フットサルｂ)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。レベルに応じてフットサルの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。	1 オリエンテーション（教室） 受講票（写真添付４×３㎝）の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 グラウンドにて実技開始 受講決定の確認と受講票の完成（写真提出） 3 簡易のゲーム 4 班分け・班別練習 5 リーグ戦① 6 リーグ戦② 7 リーグ戦③ 8 リーグ戦④ 9 リーグ戦⑤ 10 リーグ戦⑥ 11 リーグ戦⑦ 12 リーグ戦⑧ ＊人口芝ピッチなので雨天等でも実技を行います。天候に応じた準備をして参加してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．ボールに親しむ　簡易ゲーム 3．ボールコントロール　ボールタッチ・ドリブル 4．ボールコントロール　パス 5．1 対 1 の攻防 6．ポジションの理解 7．GK トレーニング 8．1 対 2 の攻防 9．ルールの理解とゲームの進め方 10．リーグ戦 11．リーグ戦 12．リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション(フットサル b)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．復習　基本技術の確認 2．攻撃のグループ戦術 3．守備のグループ戦術 4．セットプレーからの攻撃 5．セットプレーに対する守備 6．チームごとの練習 7．リーグ戦① 8．リーグ戦② 9．リーグ戦③ 10．リーグ戦④ 11．リーグ戦⑤ 12．リーグ戦⑥
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（フットサル a）	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。 [講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 [受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. オリエンテーション。 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. １対１の守備。 4. １対１の攻撃。 5. オフザボールの動き。 6. ボールを持っていない選手に対する守備。 7. パス＆コントロール。 8. ゴール前での守備。 9. ゴール前での攻撃。 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

	スポーツ・レクリエーション（フットサル b）	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。 [講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 [受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. 積極的にボールを奪う守備 2. ビルドアップ。 3. ピヴォを使った崩し。 4. サイドでの有効な突破 5. 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 6. カウンターアタック 7. 高い位置でのプレッシャー 8. プレッシャーの中でのフィニッシュ。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族と楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。 [講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。 学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。	1 オリエンテーション　フライングディスクとは 2 バックハンドスロウの投げ方 3 バックハンドスロウを正確に投げよう 4 バックハンドスロウを遠くへ投げよう 5 サイドアームスローの投げ方 6 サイドアームスローを正確に遠くへ投げよう 7 スローのバリエーションと競技種目の紹介 8 アルティメットのルールと楽しみ方 9 アルティメットの試合 10 アルティメットの試合 11 アルティメットの試合 12 アルティメットの試合・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度

	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス a)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ボールルームダンス（社交ダンス）とは、 　音楽にのってあるくこと。いわゆるエアロビックエクササイズの一つであり、西欧では、紳士淑女の礼儀や日常のマナーを学ぶ大切な場でありました。身体言語としての動きのルールを学び、目の前の相手と音楽を通してコミュニケーションを図るという楽しいものであります。日本人に苦手な「靴」を履いて美しく歩くことが基本であり、観ているものをも楽しくさせることが可能です。音楽にのってあるいてみませんか。 　目的 音楽にのって歩く！！　音楽を体で感じて、左右交互にあるき、音楽と一帯感をもって、その音楽の特徴をステップ（歩く）すること。日常の歩きに音楽をつけるだけなのです。ダンスを難しいとか、女性のものと思っている概念を捨さることです。現代社会の煩雑なストレスの解消法として、脳と筋肉運動を連結させ、自然に音楽にそって歩くこと＝ダンスとして、基本を学ぶ講座です。 ダンス靴を使用します。 欠席しないことが条件です。	①・ダンスとは 　　右・左・右と前後左右に歩く ②・正しく歩く 　　姿勢（足・腰・肩・頭）を正しく、二人で歩く ③・三拍子（ワルツ）のリズムで歩く ④・四拍子（タンゴ）のリズムとおとの強弱を歩く ⑤・ラテン音楽にのる。サンバのリズム ⑥・四拍子のスローリズム（ブルース・フォックストロット） ⑦・速いリズムの四拍子（クイック・ジルバ） ⑧・速いリズムの四拍子 ⑨・ラテンリズム（ルンバ） ⑩・音楽にそって踊ることとは ⑪・ダンスでのマナー ⑫・パーティとは
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリント配布	VTR による自己採点

	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンス b)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に（ボールルームダンス）を受講しているか基礎をマスターしていること。 前学期より自然に踊ることを目的とし、美しく誰とでも踊れるフィガー（ステップ）を身につける 休まないことと・諦めないこと。	①・シークエンスダンスについて ②・音楽を楽しんでダンスをする ③・誰とでも踊れるための基本 ④・覚えたフィガーを使う ⑤・回転を楽しむ（スタンダード・ラテン）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	VTR で自己採点

(春)	スポーツ・レクリエーション(アウトドア・レクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。 ［講義概要］ 学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については天候と学生の要望に応えて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。	1.授業の内容と計画についての説明 2.仲間つくりの時間：グループゲーム 3.仲間つくりの時間：グループゲーム アウトドアクッキングの計画 4.仲間つくりの時間：アウトドアクッキング 5.アウトドアレクリエーション種目 6.アウトドアレクリエーション種目 7.アウトドアレクリエーション種目 8.アウトドアレクリエーション種目 9.アウトドアレクリエーション種目 10.アウトドアレクリエーション種目 11.アウトドアレクリエーション種目 12 合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

(夏季集中)	スポーツレクリエーション(アウトドア山岳)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
上記のアウトドアレクリエーションと組み合わせて履修していただきます。 山岳高原地域で行うアウトドアレクリエーションを夏季集中合宿で体験します。 将来、家族で再び訪れることを前提にした内容で行いますので身体的にはそれほどハードではありません。 皆さんには、山に行くときの計画、持ち物、マナー、道具の使い方、自然の見方、楽しみ方を学んでいただきます。 毎日の昼食はアウトドアで作りますが、それが当たり前でたいへんなことでないという感覚を身に付けてほしいと思います。道具と技術があれば、今までの苦労も楽しみとなります。山での過ごし方全体をそのように感じてもらえる活動になればよいと思います。 合宿は、同じ大学の仲間たちと共有の時間を過ごします。積極的に関わることによって、たくさんの友人を得られるでしょう。これもこの授業の大切な目的としています。	［集中授業］　「山岳型アウトドアレクリエーション」 場所：長野県志賀高原 宿泊：志賀パレスホテル 期日：2007 年 8 月 27 日（月）～8 月 31 日（金） 4 泊 5 日 費用：35,000 円（宿泊費、傷害保険、プログラム費） 第 1 日目　横手山散策（スカイレーターとリフト） 第 2 日目　池めぐりコース登山 第 3 日目　東館山植物園観察とバーベキュー （キャンプ場泊） 第 4 日目　草津白根山登山と草津温泉探訪 第 5 日目　前山散策と絵手紙創作鑑賞会
テキスト、参考文献	**評価方法**
現地でプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（春）	スポーツ・レクリエーション（アウトドア・レクリエーション）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。 ［講義概要］ 学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ＆コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については天候と学生の要望に応えて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。	1.授業の内容と計画についての説明 2.仲間つくりの時間：グループゲーム 3.仲間つくりの時間：グループゲーム アウトドアクッキングの計画 4.仲間つくりの時間：アウトドアクッキング 5.アウトドアレクリエーション種目 6.アウトドアレクリエーション種目 7.アウトドアレクリエーション種目 8.アウトドアレクリエーション種目 9.アウトドアレクリエーション種目 10.アウトドアレクリエーション種目 11.アウトドアレクリエーション種目 12 合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
夏季集中合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの２つの合宿のうち、どちらか一つに参加してもらいます。 海浜型野外活動では、新潟県佐渡島を舞台にスキンダイビング、シーカヤック、蛍狩り、夜空の観察、釣り等、良好な自然環境と地域の利点を活かすプログラムを体験してもらいます。 ウィンドサーフィンでは、千葉県館山市の獨協学園海の家で、ウィンドサーフィン技術の習得を通して海浜環境の特徴を知ることにより、安全で楽しく過ごすためのノウハウを知ってもらいます。 どちらの活動も自然環境を背景としますので、天候により、活動内容を変えることがあります。 内容の詳細については、スポーツ・レクリエーションのホームページを見てください。 [受講者への要望] 夏季集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。	[集中授業]　「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日：2007 年 7 月 30 日（月）～8 月 3 日（金） 4 泊 5 日 費用：35,000 円（宿泊費、傷害保険、プログラム費） [集中授業]　「ウインドサーフィン」 場所：千葉県館山市 期日：2007 年 9 月 10 日(月)～14 日(金)　4 泊 5 日 費用：20,000 円（宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費）
テキスト、参考文献	**評価方法**
現地でプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バランストレーニング）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 **[講義概要]** インラインスケートその他を教材とする。滑走するスポーツとして、用具を利用し、通常では味わえない感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付けたら、インラインホッケーに挑戦する。また、冬のスノースポーツへの導入としてスラローム滑走、ジャンプ等も視野に入れる。 **[受講者への要望]** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 受講にふさわしい服装の用意。	1 オリエンテーション（教室） 受講票（写真添付４×３㎝）の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 アリーナ遊水地にて実技開始 受講決定の確認と受講票の完成（写真提出） 用具合わせ　　基本スケーティング 3 基本スケーティング フォア、バック、ターン、ストップ 4 基本スケーティング　　スラローム 5 インラインホッケー 6 インラインホッケー 7 スラローム滑走　　ジャンプ 8 インラインホッケー 9 インラインホッケー 10 スラローム競争 11 総合練習 12 テスト ＊遊水地が使用できない場合には、アリーナにてトランポリン・バランスボール等の実技を行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

（冬季集中）	スポーツ・レクリエーション（スノースポーツ）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 **[冬期集中講義]** 自然の斜面を利用することで通常では味わえない感覚を経験する。スノースポーツの基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付ける。挑戦するスノースポーツは、スノーブレード・ファンスキー・ビッグフット・カービングスキー・スノーボード・テレマークなど。 実施期間：2008 年２月に実施する予定（３泊４日） 実施場所：秋田県たざわ湖スキー場 実施費用：３８０００円（交通費別途） （宿泊・食事・リフト・用具・ウェア・保険） **[受講者への要望]** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 受講にふさわしい服装の用意	秋学期中に学内でオリエンテーションを行い、要項を配布する。 受講票（写真添付４×３㎝）の作成に伴い写真を提出する。 費用の納入など、学内授業とは異なる負担がある。 注：02 年度以前の受講生はインラインスケートとのセット履修となる。 ＊不明な点は３棟１階スポーツ・レクリエーション授業準備室にて指示を受けること
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	合宿への参加、受講態度、期間中の技術の向上などを総合して評価する。

(秋)	スポーツ・レクリエーション(スケートトレーニング)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 秋学期の毎週の授業と冬季集中授業の組み合わせですので、どちらか一つだけを受講することはできません。 スケート、カーリング初心者の方から受講できます。	1　オリエンテーション（更衣不要） 2　用具あわせ、基本動作 3　フォアストロークとバリエーション　その１ 4　フォアストロークとバリエーション　その２ 5　ホッケーにチャレンジ　その１ 6　ホッケーにチャレンジ　その２ 7　バックストロークとバリエーション　その１ 8　バックストロークとバリエーション　その２ 9　フォアクロッシング　その１ 10　フォアクロッシング　その２ 11　バッククロッシング 12　集中授業についてのオリエンテーション ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

(冬季集中)	スポーツ・レクリエーション(アイススポーツ)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講してもらいます。アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3 泊 4 日で合宿を行います。 **アイススケートとカーリング** アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進歩度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 **親しい友人をつくる** 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。また、宿泊地近隣に温泉があるので希望者は毎日の日程終了後利用することが可能です。	合宿について 時期：　2008 年 2 月中旬予定　3 泊 4 日 場所：　長野県軽井沢町　現地集合解散 宿泊：　施設に近い民宿を利用 費用：　27000 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代、プログラム費他） 1 日目　午後：　アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜　：　講義「カーリングの楽しみ方」 2 日目　午前：　カーリング 道具の扱い方と基本技術 午後：　カーリング大会 夜　：　講義「アイススケートの基本」 3 日目　午前：　アイススケート 午後：　アイススケート 夜　：　懇親会 4 日目　午前：　アイススケート 午後：　昼食後解散 天候により予定を変更することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
現地でプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

	English 111－a (Basic Reading Strategies) English 112－a (Reading Strategies)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○141/142 とともに、全学共通カリキュラム英語科目の基礎をなす重要なコア科目である。原則として通年で履修すること。 ○中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、さらに各自の専門科目への橋渡しをすることを目的とする。 ○現代社会､文化などに関する教材を用いて英語講読の力をつけることを目標とする。授業では連絡事項・配布資料が多いのできちんと目を通ししっかり学習すること。 ○教科書は担当教員の指示に従うこと。 ○TOEIC 語彙を身に付けるための統一副教材を使用。 ○教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業内で配られる資料によく目を通し、しっかり学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習し、欠席することなく受講・受験すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は担当教員の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 111－b (Basic Reading Strategies) English 112－b (Reading Strategies)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○141/142 とともに、全学共通カリキュラム英語科目の基礎をなす重要なコア科目である。原則として通年で履修すること。 ○中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、さらに各自の専門への橋渡しをすることを目的とする。 ○現代社会､文化などに関する教材を用いて英語講読の力をつけることを目標とする。授業では連絡事項・配布資料が多いのできちんと目を通ししっかり学習すること。 ○教科書は担当教員の指示に従うこと。 ○TOEIC 語彙を身に付けるための統一副教材を使用。 ○教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業内で配られる資料によく目を通し、しっかり学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習し、欠席することなく受講・受験すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は担当教員の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は春学期に引き続いて使用する。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 112－a Reading Strategies (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
English 112 Super では、アカデミックな文章を効果的かつ正確に読むためのストラテジーを訓練し、批判的な内容分析の力を伸ばします。対象学生は、入学時の TOEIC テストスコアが高かった、外国語学部（ドイツ語学科・フランス語学科）経済学部・法学部の新入生です。学部の枠を取り払った授業を行います。読みの理解を深めるため、授業では reading, speaking, writing, listening 全ての言語スキルが統合されます。授業中の使用言語は英語です。学生は、グループディスカッションなどの授業活動に、積極的に参加することが期待されます。 各学部の必修科目の時間帯を避けるために 5 限目という時間帯に入っていますが、このクラスに該当する学生はぜひ、時間帯にめげずに履修してください。 なお、この科目は English 142 Super と連動しています。この 2 科目を取ってアカデミックな英語力を伸ばしましょう。	授業計画と評価方法については、各担当者から配布される個別のコースシラバスを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを授業内で実施する。 教室外でのコンピュータ学習（ALC NetAcademy）に基づいた問題が期末テストに出題される。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当者の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 112－b Reading Strategies (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の継続として、さらにアカデミックリーディングの技術と内容分析の力を伸ばします。期待される勉強量の多い授業ですが、履修後には文章の読み方や情報の捉え方が必ず変わっているはずです。	授業計画と評価方法については、各担当者から配布される個別のコースシラバスを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを授業内で実施する。 教室外でのコンピュータ学習（ALC NetAcademy）に基づいた問題が期末テストに出題される。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当者の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は春学期に引き続いて使用する。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 121－a Basic Composition English 122－a Composition （国際関係法学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。この成果は、毎年、国際関係法学科の１年生が TOEIC スコアを１年で大きく伸ばしていることにはっきりと表れている。 ○原則として通年で履修すること。 ○アカデミック・ライティングにつながる基礎科目として位置付けられている。英語の論理構造を学び、説得力のある英語（パラグラフ・ライティング）が書けるように訓練しよう。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 121－b Basic Composition English 122－b Composition （国際関係法学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定している。この成果は、毎年、国際関係法学科の１年生が TOEIC スコアを１年で大きく伸ばしていることにはっきりと表れている。 ○春学期から引き続き、原則として通年で履修すること。 ○アカデミック・ライティングにつながる基礎科目として位置付けられている。英語の論理構造を学び、説得力のある英語（パラグラフ・ライティング）が書けるように訓練しよう。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 141－a Basic Listening Comprehension English 142－a Speech Communication (141a:ドイツ語･フランス語学科、141/142a:経済･法学部)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○111/112 とともに、全学共通カリキュラム英語科目の基礎をなす重要なコア科目である。原則として通年で履修すること。 ○中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、さらに各自の専門科目への橋渡しをすることを目標とする。 ○リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）またはCAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○統一教科書を用いる。受講するクラスによって指定教科書が異なるので注意すること。 ○教室によって、カセット、MDなどを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。 ○統一期末テストを行う。	春学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEICを念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1月)に全員TOEIC試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
独語･仏語学科全員と経済学部・法学部の142受講者：統一教科書（Quest Intro）使用。　経済学部・法学部の141受講者：統一教科書(Viva! San Francisco）使用	各担当教員の指示に従うこと。

	English 141－b Basic Listening Comprehension English 142－b Speech Communication (141b:ドイツ語･フランス語学科、141/142b:経済･法学部)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○111/112 とともに、全学共通カリキュラム英語科目の基礎をなす重要なコア科目である。原則として通年で履修すること。 ○中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、さらに各自の専門科目への橋渡しをすることを目標とする。 ○リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）またはCAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○統一教科書を用いる。受講するクラスによって指定教科書が異なるので注意すること。 ○教室によって、カセット、MDなどを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。 ○統一期末テストを行う。	秋学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEICを念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1月)に全員TOEIC試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
独語･仏語学科全員と経済学部・法学部の142受講者：統一教科書（Quest Intro）使用。　経済学部・法学部の141受講者：統一教科書(Viva! San Francisco）使用	各担当教員の指示に従うこと。

	English 142－a Speech Communication （ドイツ語学科、フランス語学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○111/112 とともに、全学共通カリキュラム英語科目の基礎をなす重要なコア科目である。原則として通年で履修すること。 ○中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、さらに各自の専門科目への橋渡しをすることを目標とする。 ○リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）またはCAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○統一教科書を用いる。受講するクラスによって指定教科書が異なるので注意すること。 ○教室によって、カセット、MDなどを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。 ○統一期末テストを行う。	春学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEICを念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1月)に全員TOEIC試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書（Quest Intro）使用。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 142－b Speech Communication （ドイツ語学科、フランス語学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○111/112 とともに、全学共通カリキュラム英語科目の基礎をなす重要なコア科目である。原則として通年で履修すること。 ○中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、さらに各自の専門科目への橋渡しをすることを目標とする。 ○リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）またはCAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○統一教科書を用いる。受講するクラスによって指定教科書が異なるので注意すること。 ○教室によって、カセット、MDなどを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。 ○統一期末テストを行う。	秋学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEICを念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1月)に全員TOEIC試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書（Quest Intro）使用。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 142a－Speech Communication(Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this course you will build academic speaking and listening skills. In the spring semester, we will use a variety of listening texts (e.g. news reports, movie clips) to practice listening strategies such as: - listening for main ideas and details - guessing the meaning of unknown words - using contextual clues - shadowing and paraphrasing We will also focus on building presentation skills. You will learn how to do a good presentation, and you will practice giving presentations first in small groups and then in front of the whole class. Some of your presentations will be recorded on video so that you can go back and watch your presentation and reflect on your good points and how you can improve. In addition to what we study in class, you will be expected to do homework regularly, and to submit a number of out-or-class listening projects.	**This is a guide. The schedule may change.** Lesson 1: Course Introduction Getting to know the teacher and classmates Lesson 2: Characteristics of Good and Bad Presentations Listening Strategy – Using Contextual Clues Lesson 3: Presentation Skills – The Physical Message Listening Strategy – Listening for Main Ideas Lesson 4: Presentation Skills – The Verbal Message Listening Strategy – Listening for Details Lesson 5: Presentation Skills – Delivery Listening Strategy – Guessing Unknown Words Lesson 6: Presentation 1 Lesson 7: Presentation Skills – Organization Listening Strategy - Shadowing Lesson 8: Presentation Skills – The Message Listening Strategy – Paraphrasing Lesson 9: Presentation Skills – Bringing It All Together Lesson 10: Presentation Practice Lesson 11: Presentation 2 Lesson 12: Wrap-Up
テキスト、参考文献	評価方法
The textbook will be announced in the first class.	Attendance and Participation 25%; Homework 20%; Quizzes 10%; Presentations 30%; Listening Project 15% **This grading scheme may change**

	English 142b－Speech Communication (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this course you will continue to build academic speaking and listening skills. In the fall semester, we will continue to use a variety of listening texts (e.g. news reports, movie clips) to improve listening skills. We will also focus on building discussion skills. You will learn what the characteristics of good and bad discussions are and you will learn how to express your opinion and how to take different roles in a discussion. For example, you will learn how to lead a discussion, how to take notes on your group's discussion, and how to report the main ideas of your discussion to the class. Some of your discussions will be recorded on video so that you can go back and watch them and reflect on your good points and how you can improve. In addition to what we study in class, you will be expected to do homework regularly, and to submit a number of out-or-class listening projects.	**This is a guide. The schedule may change.** Lesson 1: Course Introduction Lesson 2: Characteristics of Good and Bad Discussions Listening Practice Lesson 3: Discussion Skills – The Physical Message Listening Practice Lesson 4: Discussion Skills – Giving Your Opinion Listening Practice Lesson 5: Discussion Skills – Asking for Opinions Listening Practice Lesson 6: Discussion 1 Lesson 7: Discussion Skills – Agreeing/Disagreeing with Someone's Opinion; Listening Practice Lesson 8: Discussion Skills – Checking/Paraphrasing Opinions; Listening Practice Lesson 9: Discussion Skills – Interrupting Listening Practice Lesson 10: Discussion Skills – B ringing It All Together Listening Practice Lesson 11: Discussion 2 Lesson 12: Wrap-Up
テキスト、参考文献	評価方法
The textbook will be announced in the first class.	Attendance and Participation 25%; Homework 20%; Quizzes 10%; Discussions 30%; Listening Projects 15% **This grading scheme may change**

	English 211－a Basic Reading Strategies English 212－a Reading Strategies （ドイツ語学科・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○全カリ英語では、高等学校から大学英語へ、さらに専門英語への橋渡しをすることを使命として、１年次での講読科目である English 111/112 を重要なコア科目と位置付けているが、この English 211/212 はさらにその上位科目であり、原則として２年次で履修すること。原則として通年で履修すること。 ○現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 ○111/112 のレベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。 ○なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 教室外でコンピュータを用いた語彙学習が義務付けられている。これに基づき、毎週語彙小テストが実施される。きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 211－b Basic Reading Strategies English 212－b Reading Strategies （ドイツ語学科・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○全カリ英語では、高等学校から大学英語へ、さらに専門英語への橋渡しをすることを使命として、１年次での講読科目である English 111/112 を重要なコア科目と位置付けているが、この English 211/212 はさらにその上位科目であり、原則として２年次で履修すること。原則として通年で履修すること。 ○春学期に引き続き、積極的に取り組んでもらいたい。 ○現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 ○111/112 のレベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。 ○なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 教室外でコンピュータを用いた語彙学習が義務付けられている。これに基づき、毎週語彙小テストが実施される。きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 212－a Reading Strategies (Super) （ドイツ語・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○English 212 Super は、外国語学部（ドイツ語学科・フランス語学科）法学部の２年次の学生を対象としている。１年終了時の TOEIC テストスコアが高かった学生を対象に、学部の枠を取り払った授業を行う。各学部の必修科目の時間帯を避けるために 5 限目という時間帯に入っているが、このクラスに該当した学生はぜひ、履修してもらいたい。 ○原則として通年で履修すること。 ○English 112 Super に引き続き、読解力をさらにアップさせるための科目である。専攻が異なる学生がそれぞれ楽しんでもらえる教材を選び、多読・速読・精読の訓練を行う。補助題材は主に、新聞・雑誌などの記事を用る予定である。 ○3 年次以降の各自の専門分野にも生かせる英語力をつけてもらいたい。 ○効果的に読むことへのストラテジーを鍛え、さらに語彙力、文法力をつけて、内容を的確に把握し、批判的に吟味し、さらにそれに対する自分の考えを表現することができるようになってもらいたい。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当者の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 212－b Reading Strategies (Super) （ドイツ語・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春の授業の継続として、更なる語彙力、文法力をつけ、大学生にふさわしい総合的な英語運用力を身につけてもらうことを目標とする。 予習･復習の量も多く、大変な授業ではあるが、さらなる実力アップのために頑張ってもらいたい。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当者の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は春学期に引き続いて使用する。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 221－a Basic Composition English 222－a Composition (国際関係法学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定し、成果をあげている。本科目は１年次履修の English 121/122 の上位科目である。原則として通年で履修すること。 ○121/122 ではパラグラフライティングを学んだが、ここではさらにそれを進歩させて、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。国際関係法学科の学生として、説得力ある英語を書く訓練は非常に重要である。積極的に努力してもらいたい。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 221－b Basic Composition English 222－b Composition (国際関係法学科)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○国際関係法学科では、「和文英訳」ではない、自己発信・自己表現のための英作文を身につけてもらうために、この科目をクラス指定科目として設定し、成果をあげている。本科目は１年次履修の English 121/122 の上位科目である。原則として通年で履修すること。 ○121/122 ではパラグラフライティングを学んだが、ここではさらにそれを進歩させて、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。国際関係法学科の学生として、説得力ある英語を書く訓練は非常に重要である。積極的に努力してもらいたい。 ○ライティングの力を伸ばすには、文法力、語彙力はもちろんのことであるが、良い英文をたくさん読むことも重要である。講読科目との関連もあるので、「英作」と割り切らず、オールラウンドな英語力をつける重要科目ととらえて努力してもらいたい。 ○必要に応じて、添削指導が行われる。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 241－a　Basic Listening Comprehension English 242－a　Speech Communication （ドイツ語学科・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○全カリ英語では、１年次で履修する English 141/142 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 241/242 はさらにその上位科目である。 ○原則として通年で履修すること。 ○TOEIC などの資格試験に役立つリスニング力、実生活で生かせるリスニング力をつけるべく、演習を行う。 ○リスニング力をつけるには、耳の訓練とともに、文法力、語彙力が不可欠であり、さらに、たくさんの英文を読むことがリスニング力アップの秘訣でもある。オールラウンドな英語力をめざして努力してもらいたい。さらに、141/142 の自己レベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 241－b　Basic Listening Comprehension English 242－b　Speech Communication （ドイツ語学科・フランス語学科、法学部）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○全カリ英語では、１年次で履修する English 141/142 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 241/242 はさらにその上位科目である。 ○春学期から引き続いて履修すること。 ○TOEIC などの資格試験に役立つリスニング力、実生活で生かせるリスニング力をつけるべく、演習を行う。 ○リスニング力をつけるには、耳の訓練とともに、文法力、語彙力が不可欠であり、さらに、たくさんの英文を読むことがリスニング力アップの秘訣でもある。オールラウンドな英語力をめざして努力してもらいたい。さらに、141/142 の自己レベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 242a－Listening Comprehension (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this course you will continue to build on the academic speaking and listening skills you learned in the first year. We will use a variety of listening texts (e.g. news reports, movie clips) to practice listening strategies and to further improve listening skills. The listening texts will be longer and more difficult than the texts you listened to in the first year. In addition, we will focus on building basic debate skills. You will learn what a debate is (it is very different to a discussion). You will learn how to present your opinion effectively, and how to refute the opinion of your opponents. Some of your debates will be recorded on video so that you can go back and watch them and reflect on your good points and how you can improve. In order to properly prepare for your debates, you will need to do some research at home. In addition to what we study in class, you will be expected to do homework regularly, and to submit a number of out-or-class listening projects.	**This is a guide. The schedule may change.** Lesson 1: Course Introduction Getting to know the teacher and classmates Lesson 2: What is a Debate? Listening Practice Lesson 3: Debate – Giving/ Supporting Your Opinion Listening Practice Lesson 4: Debate Skills – Refuting Arguments Listening Practice Lesson 5: Debate – Making a Concluding Argument Listening Practice Lesson 6: Debate 1 Lesson 7: Debate – How to Research Your Topic Listening Practice Lesson 8: Debate – Referring to Research in Your Debate Listening Practice Lesson 9: Debate – Refuting Arguments 2 Listening Practice Lesson 10: Debating Skills – B ringing It All Together Listening Practice Lesson 11: Debate 2 Lesson 12: Wrap-Up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced in the first class.	Attendance and Participation 25%; Homework 20%; Quizzes 10%; Debates 30%; Listening Projects 15% **This grading scheme may change**

	English 242b－Listening Comprehension (Super)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this course you will continue to build on the academic speaking and listening skills you learned in the first year. We will continue to use a variety of listening texts (e.g. news reports, movie clips) to practice listening strategies and to further improve listening skills. The listening texts will be longer and more difficult than the texts you listened to in the first year. In addition, we will focus on extending your presentation skills. This semester, we will focus on group presentations. You will think about how to research and present your ideas effectively in a group. Some of your presentations will be recorded on video so that you can go back and watch them and reflect on your good points and how you can improve. In order to properly prepare for your presentations, you will need to do some research at home. In addition to what we study in class, you will be expected to do homework regularly, and to submit a number of out-or-class listening projects.	**This is a guide. The schedule may change.** Lesson 1: Course Introduction Lesson 2: Characteristics of Good Group Presentations Listening Practice Lesson 3: Presentation Skills Review – The Physical Message, The Verbal Message and Delivery Listening Practice Lesson 4: Presentation Skills – Working in a Group Listening Practice Lesson 5: Presentation Skills – Writing Your Presentation Listening Practice Lesson 6: Presentation 1 Lesson 7: Presentation Skills – Using Audio-Visual Aids Listening Practice Lesson 8: Presentation Skills – Making Handouts Listening Practice Lesson 9: Presentation Skills – Bringing It All Together Lesson 10: Presentation Practice Lesson 11: Presentation 2 Lesson 12: Wrap-Up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced in the first class.	Attendance and Participation 25%; Homework 20%; Quizzes 10%; Debates 30%; Listening Projects 15% **This grading scheme may change**

	English 311－a English for Specific Purposes （ドイツ語学科・フランス語学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ドイツ語・フランス語両学科の学生諸君にとっては、それぞれの専攻言語と英語をともに学ぶことで、専攻言語の特色、英語の特色がよくわかってきたことと思う。English 111/112 とその上位科目である 211/212 を履修し、さらにその上位科目である 311 に積極的に取り組み、英語の読解力に磨きをかけてもらいたい。 ○原則として通年で履修すること。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	評価方法
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 311－b English for Specific Purposes （ドイツ語学科・フランス語学科）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ドイツ語・フランス語両学科の学生諸君にとっては、それぞれの専攻言語と英語をともに学ぶことで、専攻言語の特色、英語の特色がよくわかってきたことと思う。English 111/112 とその上位科目である 211/212 を履修し、さらにその上位科目である 311 に積極的に取り組み、英語の読解力に磨きをかけてもらいたい。 ○春学期に続いて通年で積極的に履修してもらいたい。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	評価方法
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

	English 110－a Introductory Reading Strategies	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
英語の基礎力をつけることを第一の目標とします。文法項目を軸として、音声上の重要事項の確認およびその練習、多読による読解力の向上、グループワーク、ペアワーク等も含めて様々な活動を行う中で英語の運用能力を向上させていくように授業を組み立てていく予定です。 英語力を向上させるためには、基礎力をしっかりと身につけることが不可欠です。そのためにも、予習・復習を欠かさず積極的に授業に参加することを重視します。	文法事項、読解、発音等に関して毎時間触れる予定ですが、具体的な内容や進度については、教科書を決定後連絡します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
いくつかの候補の中から、開講後受講者と相談の上決定します。それまではハンドアウトを使用します。	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、小テスト等をもとに総合的に評価します。

	English 110－b Introductory Reading Strategies	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
基本的には春学期と同じですが、新たに秋学期で学ぶ内容のみならず、春学期に学んだことも応用・発展させてより幅広い活動を行うことによって、さらに英語の基礎的な運用能力を向上させることを目的とします。 春学期同様、予習・復習を欠かさず積極的に授業に参加することを重視します。	文法事項、読解、発音等に関して毎時間触れる予定ですが、具体的な内容や進度については、教科書を決定後連絡します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
110a の開講後決定したものを継続使用します。	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、小テスト等をもとに総合的に評価します。

	English 211－a　Basic Reading Strategies	担当者	髙木　亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
110 レベルのクラスを受講した学習者を受講対象とします。個人の英語力の差を考慮し、受講者の皆さんと相談してテキストを決定します。 受講者のレベルを考慮し、前半を共通テキスト（4 技能総合）での全員学習、後半を２つのレベルのグループに分けて、文法の演習を行う予定です。	Week １）英語レベルチェックとテキストの決定 ２）～１２）　テキストに沿って、進めていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
受講者と相談の上決定します。	出席、授業態度 小テスト 課題

	English 211－b　Basic Reading Strategies	担当者	髙木　亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
110 レベルのクラスを受講した学習者を受講対象とします。個人の英語力の差を考慮し、受講者の皆さんと相談してテキストを決定します。 受講者のレベルを考慮し、前半を共通テキスト（4 技能総合）での全員学習、後半を２つのレベルのグループに分けて、文法の演習を行う予定です。	Week 1)　英語レベルチェックとテキストの決定 ２）～１２）　テキストに沿って、進めていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
受講者と相談の上決定します。	出席、授業態度 小テスト 課題

	English 121－a　Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
文法の基礎に立ち返りながら、英作の訓練を行う。 英作は、英語講読と比べ、訓練に費やされる時間がより少ない傾向があるため、講読より習熟度の上で数段劣っているものと思われる。講読できる英語のレベルにまで、英作の英語を一歩でも近づけようというのが、この授業の目的である。 文法の項目別に、単元が組み立てられているテキストを使用するため、基本英文法のおさらいを希望する学生や、非常に単純な構造の文から再度英作に挑みたいと望む学生には、要望に沿った講義となるはずである。 講義と言ったが、実際の授業は学生による英作の実践作業が中心となる。但し、テクノロジーの急速な進歩を鑑み、手書きで英語を作るのはもはや旧式であるため、パソコンのワードにキーボードで打ち込んで英作を行ってもらうやり方を取る。それをプリントアウトして、毎回提出して頂く。	1. Be 動詞と一般動詞 2. 否定文 3. 疑問文 4. 助動詞 5. 第１文型と第２文型 6. 第３文型と第４文型 7. 進行形 8. 受動態 9. 第５文型（知覚、認識など） 10. 第５文型（使役、許可、願望など） 11. 完了形
テキスト、参考文献	**評価方法**
First Voyage　木村啓子他著　南雲堂	平常点重視（全体の３０％以上） あとは定期試験で最終成績を出す

	English 121－b　Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	12. 動名詞 13. 不定詞１ 14. 不定詞２ 15. 分詞 16. 名詞節と副詞節 17. 分詞構文 18. 関係代名詞 19. 関係副詞 20. 比較１ 21. 比較２ 22. 仮定法
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

	English 121－a Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、英語の必要不可欠な文法事項を再確認する必要性を感じている、TOEIC のスコアが３５０～５００の学生を対象としています。ただし、４５０～５００レベルの学生は、授業に物足りなさを感じるかもしれません。 授業では、 ①　「文法の復習とともに、１センテンスレベルの英文が確実に書けるように配慮した」テキストを用いて、文法事項の再確認と、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる（書く）練習をします。英文は、どれも BASIC なものばかりです。 各章の練習問題 I～III に関しては、学生に板書してもらい、添削及び解説しながら授業を進めてゆきます。練習問題の IV は、課題作文として、学生全員に提出してもらう予定です。 ②　また、学生の人数やレベル、及び、授業の進捗状況にあわせて、適宜プリントを併用して、簡単な課題作文を課すことも考えています。 詳しくは、ガイダンスで述べます。	以下の内容は、大まかな進行予定です。 英文を板書した場合、１回の授業で、１つの章を最後まで終えることは不可能だろうと思うのでので、以下の進行状況にズレが生ずるはずです。従って、３箇所空欄を入れてあります。 テストは、授業時間の一部を使って、５０点満点で、２度行う。（第１回の実施日は未定） 1　ガイダンス 2　第１章 3　第２章 4　第３章 5 6　第４章 7　第５章 8　第６章　　第１回テスト（範囲：１～４） 9 10　第７章 11　第８章 12　　第２回テスト（範囲：５～８）
テキスト、参考文献	**評価方法**
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための１５章』、英宝社	授業時の発表点 ＋ 授業時のテスト ＋ レポート点 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします： ＡＡ・Ａ：２回　　Ｂ：３回　　Ｃ：４回

	English 121－b Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
授業方針は、春学期と同じです。 テキストは、春学期の続きです。 ただし、選択授業の性格からして、学生の人数とレベルに変化が生ずる可能性があるので、授業方針に関しては、適宜若干の修正が必要になるかもしれません。 また、春学期に比べ秋学期には、プリントの併用が増えることが予想されます。	以下の内容は、大まかな進行予定です。 英文を板書した場合、１回の授業で、１つの章を最後まで終えることは不可能だろうと思うのでので、以下の進行状況にズレが生ずるはずです。従って、４箇所空欄を入れてあります。 テストは、授業時間の一部を使って、５０点満点で、２度行う。（第１回の実施日は未定） 1　ガイダンス 2　第９章 3　第 10 章 4　第 11 章 5 6　第 12 章 7　第 13 章 8　　第１回テスト（範囲：９～12） 9　第 14 章 10　第 15 章 11 12　　第２回テスト（範囲：13～15）
テキスト、参考文献	**評価方法**
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための１５章』、英宝社	授業時の発表点 ＋ 授業時のテスト＋ レポート点 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします： ＡＡ・Ａ：２回　　Ｂ：３回　　Ｃ：４回

	English 121－a Basic Composition	担当者	福田　哲哉

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　本講座は、自分の考えを英語で表現するための基礎力を養成することを目的とします。春学期における到達目標は、英語による人物の紹介です。 講義の概要 　授業の中心となるのは、英作文の演習です。文法的に合っている英文を書くだけでなく、文脈にあった語彙の選択や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 　隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師が添削をします。さまざまなトピックで実際に英文を書いて、添削を受け、復習を繰り返しましょう。 　学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。 課外活動 　授業外でも英文を書く習慣を身につけるために、このクラス用のサイトまたは掲示板で、英語によるディスカッションを行います。	テーマ　　その他の活動 1.　授業ガイダンス　作文「英語による自己紹介」 2.　パラグラフの構成　プレゼンテーションの基本 3.　人物紹介　作文「家族を紹介する」 4.　時間に対する意識　パワーポイントの使い方 5.　文のつなぎ方　作文「英語の勉強法」 6.　符号の原則　グループのテーマ決定 7.　ここまでの復習　作文「ーの方法」 8.　空間に対する意識　グループ練習 9.　形容詞と前置詞　作文「私の部屋」 10.　修飾語句の使い方　リハーサル 11.　ここまでの復習　作文「私の好きな町」 12.　プレゼンテーション「人物紹介」 　以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
First Steps in Academic Writing　Longman	平常点 50% ジャーナル（レポート）30% プレゼンテーション 20%

	English 121－b Basic Composition	担当者	福田　哲哉

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　春学期に引き続いて、英語表現の基礎力を養成することを目的とします。秋学期における到達目標は、自分の意見の表明です。 講義の概要 　授業の中心となるのは、英作文の演習です。文法的に合っている英文を書くだけでなく、文脈にあった語彙の選択や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 　隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師が添削をします。さまざまなトピックで実際に英文を書いて、添削を受け、復習を繰り返しましょう。 　学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。 課外活動 　授業外でも英文を書く習慣を身につけるために、このクラス用のサイトまたは掲示板で、英語によるディスカッションを行います。	テーマ　　その他の活動 1. 授業ガイダンス　作文「私の夏休み」 2. 論理展開　春のプレゼンテーションより 3. 文のつなぎ方　作文「性差別について」 4. 副詞と副詞句　講師の模範プレゼンテーション 5. 理由と例を述べる　作文「理想的な人物像」 6. 手紙文のルール　グループのテーマ決定 7. ここまでの復習　作文「私的書簡」 8. 事実と意見　グループ練習 9. 形容詞節の使い方　作文「死刑制度の是非」 10. ビジネスレター　リハーサル 11. ここまでの復習　作文「ビジネスレター」 12. プレゼンテーション「賛否両論のあるテーマ」 　以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
First Steps in Academic Writing　Longman	平常点 50% ジャーナル（レポート）30% プレゼンテーション 20%

	English 121－a Basic Composition	担当者	堀　いづみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、二つの点に重点を置きます。英文のつくりを文法的に基礎から見直すことと、つながりのある 3 つの英文を書くことです。パラグラフ・ライティングの準備段階にあたるこの「3 行英文ライティング」の演習により、内容的にまとまりのある複数の英文を書く力の基本を身につけることができます。	それぞれの項目で、一つの日常的な話題を扱います。進行過程は次の通りです。 ・進行形（Weather） ・未来形（The Four Seasons） ・助動詞 1（Everyday Life） ・助動詞 2（Campus Life 1） ・受動態（Campus Life 2） ・比較（Shopping） ・不定詞（Eating Out） ・現在完了（Music）
テキスト、参考文献	**評価方法**
登美博之・Curt Wold 著『日常英語ライティング入門』成美堂、2007 年	授業参加の度合と期末定期試験の結果を総合的に評価します。

	English 121－b Basic Composition	担当者	堀　いづみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、二つの点に重点を置きます。英文のつくりを文法的に基礎から見直すことと、つながりのある 3 つの英文を書くことです。パラグラフ・ライティングの準備段階にあたるこの「3 行英文ライティング」の演習により、内容的にまとまりのある複数の英文を書く力の基本を身につけることができます。	それぞれの項目で、一つの日常的な話題を扱います。進行過程は次の通りです。 ・分詞（Television and Radio） ・動名詞（Methods of Communication） ・前置詞（Methods of Transportation） ・間接疑問文（Traveling Overseas） ・接続詞（Health and Exercise） ・関係代名詞（A Stay in Hawaii） ・関係副詞（A Home Stay in Auckland, New Zealand）
テキスト、参考文献	**評価方法**
登美博之・Curt Wold 著『日常英語ライティング入門』成美堂、2007 年	授業参加の度合と期末定期試験の結果を総合的に評価します。

	English 131－a　Basic Communicative English	担当者	M.　フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for lower-level students of English to develop their communicative English skills through extensive practice. At the end of this term, students will be able to: Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics; Express their own ideas about these topics; Engage other students to elicit their ideas on these topics. This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be determined.	Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.

	English 131－b　Basic Communicative English	担当者	M.　フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for lower-level students of English to develop their communicative English skills through extensive practice. At the end of this term, students will be able to: Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics; Express their own ideas about these topics; Engage other students to elicit their ideas on these topics. This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be determined.	Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.

	English 131－a　Basic Communicative English	担当者	B. K.　カートル

講義目的、講義概要	授業計画
1. **Course Description:** This is the first half of a basic English communication course that will develop communication skills. Various topics will be discussed and students will have the opportunity to communicate and express personal opinions through fun activities. Six communication tests and six workbook assignments will be used to assess student progress. 2. **Course Objectives:** At the end of this course, students should be able to apply speaking and listening skills to communicate in English. In addition, students should have greater confidence in their English language abilities. 3. **Classroom Management:** Student attendance and participation are very important. Students more than 15 minutes late will be considered absent, except in unavoidable situations, such as train/bus delays, accidents, illness, etc. 4. **Textbooks:** Students must bring a textbook and workbook on the very first day of class. 5. **Contact:** The instructor is happy to talk with and help students outside of class at Dokkyo.	**Week 1 – Lesson 1:** Unit 1 Workbook 1 **Week 2 – Lesson 2:** Unit 1 Test **Week 3 – Lesson 3:** Unit 2 Workbook 2 **Week 4 – Lesson 4:** Unit 2 Test **Week 5 – Lesson 5:** Unit 3 Workbook 3 **Week 6 – Lesson 6:** Unit 3 Test **Week 7 – Lesson 7:** Unit 4 Workbook 4 **Week 8 – Lesson 8:** Unit 4 Test **Week 9 – Lesson 9:** Unit 5 Workbook 5 **Week 10 – Lesson 10:** Unit 5 Test **Week 11 – Lesson 11:** Unit 6 Workbook 6 **Week 12 – Lesson 12:** Unit 6 Test
テキスト、参考文献	評価方法
ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS (ISBN 9789620058141) ***ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS WORKBOOK*** (ISBN 9789620058165)	Attendance & Participation: 50% Tests: 30% Workbook Assignments: 20%

	English 131－b　Basic Communicative English	担当者	B. K.　カートル

講義目的、講義概要	授業計画
1. **Course Description:** This is the second half of a basic English communication course that will continue to develop communication skills. Various topics will be discussed and students will have the opportunity to communicate and express personal opinions through fun activities. Six communication tests and six workbook assignments will be used to assess student progress. 2. **Course Objectives:** At the end of this course, students should be able to apply speaking and listening skills to communicate in English. In addition, students should have greater confidence in their English language abilities. 3. **Classroom Management:** Student attendance and participation are very important. Students more than 15 minutes late will be considered absent, except in unavoidable situations, such as train/bus delays, accidents, illness, etc. 4. **Textbooks:** Students must bring a textbook and workbook on the very first day of class. 5. **Contact:** The instructor is happy to talk with and help students outside of class at Dokkyo.	**Week 1 – Lesson 1:** Unit 7 Workbook 7 **Week 2 – Lesson 2:** Unit 7 Test **Week 3 – Lesson 3:** Unit 8 Workbook 8 **Week 4 – Lesson 4:** Unit 8 Test **Week 5 – Lesson 5:** Unit 9 Workbook 9 **Week 6 – Lesson 6:** Unit 9 Test **Week 7 – Lesson 7:** Unit 10 Workbook 10 **Week 8 – Lesson 8:** Unit 10 Test **Week 9 – Lesson 9:** Unit 11 Workbook 11 **Week 10 – Lesson 10:** Unit 11 Test **Week 11 – Lesson 11:** Unit 12 Workbook 12 **Week 12 – Lesson 12:** Unit 12 Test
テキスト、参考文献	評価方法
ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS (ISBN 9789620058141) ***ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS WORKBOOK*** (ISBN 9789620058165)	Attendance & Participation: 50% Tests: 30% Workbook Assignments: 20%

	English 131－a Basic Communicative English	担当者	C. カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
Course Goals This course aims to build students' confidence in their listening and speaking ability while also giving them strategies to improve communication skills. **Skill Objectives** By the end of the course, students should be able to: • Talk about themselves comfortably and ask others about themselves • Respond appropriately to various situations • Ask for clarification when they don't understand • Express themselves clearly in short conversations **Activities and Coursework** Activities will include: • Role plays • Small group and class discussion • Making and viewing conversation videos	**Schedule** Below is a tentative schedule for the Spring Semester. This schedule may change according to the needs of the students or the teacher. Week 1: Orientation – Course overview, meet classmates Weeks 2-10: Examine conversation strategies and discuss various common topics including: • Self-introductions • Introducing friends and colleagues • Family • Sports and hobbies • Food • Part-time jobs Week 11: Review Week 12: Final conversations and Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced on the first day of class.	Students will be graded on class participation, homework, quizzes and a final project. ※ Attendance is required. **※出席方針: 欠席が 3 回を超えると単位を認めない。**

	English 131－b Basic Communicative English	担当者	C. カーペンター

講義目的、講義概要	授業計画
Course Goals The course will continue as begun in the Spring Semester. This course aims to build students' confidence in their listening and speaking ability while also giving them strategies to improve communication skills. **Skill Objectives** By the end of the course, students should be able to: • Talk about themselves comfortably and ask others about themselves • Respond appropriately to various situations • Ask for clarification when they don't understand • Express themselves clearly in short conversations **Activities and Coursework** Activities will include: • Role plays • Small group and class discussion • Making and viewing conversation videos	**Schedule** Below is a tentative schedule for the Fall Semester. This schedule may change according to the needs of the students or the teacher. Week 1: Orientation – Term overview, greet classmates Weeks 2-10: Examine conversation strategies and discuss various common topics including: • Friends • School • Music • Dating • Travel • Future plans Week 11: Review Week 12: Final conversations and Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced on the first day of class.	Students will be graded on class participation, homework, quizzes and a final project. ※ Attendance is required. **※出席方針: 欠席が 3 回を超えると単位を認めない。**

	English 131－a　Basic Communicative English	担当者	J．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. We will think about the techniques that good speakers and listeners use, and you will practice using some of those techniques each week. You will also learn ways that you can practice on your own to improve your speaking ability. Reflection is an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your conversations and think about what you are doing well and what areas you could improve. To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to do your best in 2 speaking tests and class quizzes.	This is a guide. The schedule may change. Lesson 1 – Course explanation and self-introductions Lessons 2-5 – Textbook and conversation practice Lesson 6 – Midterm conversation test + test journal Lessons 7-10 – Textbook and conversation practice Lesson 11 – End of term conversation test + test journal Lesson 12 – Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced in the first class.	This is a guide. This may change. Attendance 15%; Class participation 15%; Lesson reflection journals 10%; Quizzes 15%；Conversation test reflection journals 15%；Conversation tests 30%

	English 131－b　Basic Communicative English	担当者	J．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. We will think about the techniques that good speakers and listeners use, and you will practice using some of those techniques each week. You will also learn ways that you can practice on your own to improve your speaking ability. Reflection is an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your conversations and think about what you are doing well and what areas you could improve in. To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to do your best in 2 speaking tests and class quizzes.	This is a guide. The schedule may change. Lesson 1 – Course explanation and self-introductions Lessons 2-5 – Textbook and conversation practice Lesson 6 – Midterm conversation test + test journal Lessons 7-10 – Textbook and conversation practice Lesson 11 – End of term conversation test + test journal Lesson 12 – Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced in the first class.	This is a guide. This may change. Attendance 15%; Class participation 15%; Lesson reflection journals 10%; Quizzes 15%；Conversation test reflection journals 15%；Conversation tests 30%

	English 211－a Basic Reading Strategies (経済学部)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○この科目は､1 年生で English 111/112 を修得した経済学部（経済学科・経営学科）の学生（2 年生以上）がさらに読解力をつけるために選択科目として受講するものである。 ○原則として通年で履修してもらいたい。 ○この科目の特徴は教科書にあります。経済・経営の学生のために開発された「日本の企業研究」とも言える教科書を用い､読解力をつけながらも経済・経営の基礎用語を学び､さらに文法力もつけられるように工夫されている。 ○この教科書を読んでいくことが中心であるが、新聞なども生の補助教材として使用する。 ○学期の最後に、自分が選んだ企業についてのプレゼンテーションを行う。 ○熱意とやる気があれば、現在英語力があるかないかにかかわらず、履修が可能である。予習･復習も多く大変ではあるが 1 年間終わったら英語力の上昇を必ず実感する。 ○なお、教室外でコンピュータを用いての語彙学習が義務付けられているので積極的に取り組むこと。	１　オリエンテーション ２　Chapter 1 キユーピー ３　Chapter 1 キユーピー ４　Chapter 2 島津製作所 ５　Chapter 2 島津製作所 ６　Chapter 3 光岡自動車 ７　Chapter 3 光岡自動車 ８　Chapter 4 ワコール ９　Chapter 4 ワコール １０ Chapter 5 ヤイリギター １１ Chapter 5 ヤイリギター １２ 学生プレゼンテーション (上記は予定なので、多少変更の可能性がある) 毎週、コンピュータ語彙学習を範囲とする語彙小テストが実施される。
テキスト、参考文献	評価方法
Front-runners in the 21st Century (松柏社) 補助教材は担当者が準備する	出席、期末テスト､語彙小テスト、プレゼンテーションなどを合計して総合的に評価する。詳しくは授業の１回目に配布される予定表を参考のこと。

	English 211－b Basic Reading Strategies (経済学部)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○春と同じ教科書で継続的に英語読解力をつける訓練を行う。また同時に、日本の企業について知り､就職への意識も高めて行きたい。 ○なるべく、春学期から継続して受講してもらいたい。 ○なお、教室外でコンピュータを用いての語彙学習が義務付けられている。積極的に取り組むこと。	１　Orientation ２　Chapter 6　KGS ３　Chapter 6　KGS ４　Chapter 7　カシオ計算機 ５　Chapter 7　カシオ計算機 ６　Chapter 8　三和酒類 ７　Chapter 9　三和酒類 ８　Chapter 10　京セラ ９　Chapter 11　サンリオ １０ Chapter 12　サンリオ １１ Chapter 12　モスフードサービス １２ 学生プレゼンテーション (上記は予定なので、多少変更の可能性がある) 毎週、コンピュータ語彙学習を範囲とする語彙小テストが実施される。
テキスト、参考文献	評価方法
Front-runners in the 21st Century (松柏社) 補助教材は担当者が準備する	出席、期末テスト､語彙小テスト、プレゼンテーションなどを合計して総合的に評価する。詳しくは授業の１回目に配布される予定表を参考のこと。

	English 221－a Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
英語を書く訓練を積んでもらう授業です。英語を書くことに慣れていない人がほとんどだと思いますが、そのような学生のための授業です。「書ける」ということは、本当にその言語の本質をつかんでいて始めて出来ることですから、「書く」という作業は、実は「読む」・「読める」ということと密接な関係があります。読むためには書けなければいけないし、書くためにはよく読めなければいけません。 難しい理屈はさて置いて、実践を中心とするこの英作の講義は、単純な構造の英語から始まって、徐々に少しづつ複雑な英語を作れるようになることを目指す講義です。 皆さんに実際に英語を作ってもらうことが授業の大部分を占めますが、手書きではなく、パソコンのワードを使用してキーボードで入力して頂く手法を取ります。 単純な文章であってもともかく英語での自己表現の願望を持つ方、読む力をもう一歩前進させたいと思っている方、忘れた英文法の知識を蘇らせたい方、歓迎いたします。	１．単語・品詞 ２．文の成分 ３．名詞・代名詞 ４．動詞 ５．時制 ６．形容詞１．副詞１ ７．形容詞２・副詞２・感嘆文 ８．比較 ９．接続詞・前置詞 １０．　助動詞
テキスト、参考文献	**評価方法**
Fundamental Grammar and Vocabulary 角岡賢一他著　成美堂	平常点を重視します（全体の３０％以上） それと定期試験の結果で最終成績を出します

	English 221－b Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	１１．否定文・疑問文 １２．不定詞 １３．分詞 １４．動名詞 １５．現在完了・過去完了 １６．受動態 １７．関係代名詞１ １８．関係代名詞２・関係副詞 １９．話法・仮定法 ２０．構文
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

	English 231－a Basic Communicative English	担当者	M.　フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for intermediate-level students of English to develop their communicative English skills through extensive practice. At the end of this term, students will be able to: Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics; Express their own ideas about these topics; Engage other students to elicit their ideas on these topics. This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be determined.	Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.

	English 231－b Basic Communicative English	担当者	M.　フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed for intermediate-level students of English to develop their communicative English skills through extensive practice. At the end of this term, students will be able to: Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics; Express their own ideas about these topics; Engage other students to elicit their ideas on these topics. This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be determined.	Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.

	English 241－a Basic Listening Comprehension	担当者	長坂　達彦

講義目的、講義概要	授業計画
○2 年次に English 141/142 を履修した、経済学部 3 年次の学生の選択科目である。原則として通年で履修すること。 ○どうすればリスニング力が上がるか､ストラテジーを中心に、アカデミックで非常に興味深い内容で授業を行うので、積極的に受講してもらいたい。就職試験対策の一環ともなる、TOEIC 対策も行う。 ○教室によって、カセット、MD などを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC 試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。	春学期は教科書の前半部分を行う予定である。 詳しくは､授業で配られる授業計画表を参考にすること。 その他、TOEIC を念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Quest Intro (McGraw Hill)	担当教員の指示に従うこと。

	English 241－b Basic Listening Comprehension	担当者	長坂　達彦

講義目的、講義概要	授業計画
○2 年次に English 141/142 を履修した、経済学部 3 年次の学生の選択科目である。春学期に引き続き､原則として通年で履修すること。 ○どうすればリスニング力が上がるか､ストラテジーを中心に、アカデミックで非常に興味深い内容で授業を行うので、積極的に受講してもらいたい。就職試験対策の一環ともなる、TOEIC 対策も行う。 ○教室によって、カセット、MD などを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC 試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。	秋学期は教科書の後半部分を行う予定である。 詳しくは､授業で配られる授業計画表を参考にすること。 その他、TOEIC を念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Quest Intro (McGraw Hill)	担当教員の指示に従うこと。

	English 311－a Reading English for Specific Purposes	担当者	J．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
This goal of this class is to help you **become better readers**. In order to do this, we will focus on these things: 1. Practicing **reading strategies** (e.g. skimming to understand the main point, scanning for details) 2. Increasing **reading speed** 3. Increasing **vocabulary,** through vocabulary and dictionary exercises and vocabulary quizzes 4. **Reading Project** – each student will choose something that they want to read (for example: a book, newspaper article, etc) and write a short report. To get a good grade in this class, you need to attend class regularly and **actively** participate in class. You also need to submit a reflection journal each week, complete four reading projects, and study for class quizzes.	This is a guide. The schedule may change. Lesson 1 –Course explanation, discussion about textbooks Lessons 2-5 – Reading and discussion Lesson 6 – Quiz Lessons 7-10 Reading and discussion Lesson 11 – Quiz Lesson 12 – Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced in the first class.	This is a guide. This may change. 25% Attendance + participation; 15% Reflection journal; 30% Reading project; 30% Quizzes

	English 311－b Reading English for Specific Purposes	担当者	J．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
This goal of this class is to help you **become better readers**. In order to do this, we will focus on these things: 1. Practicing **reading strategies** (e.g. skimming to understand the main point, scanning for details) 2. Increasing **reading speed** 3. Increasing **vocabulary,** through vocabulary and dictionary exercises and vocabulary quizzes 4. **Reading Project** – each student will choose something that they want to read (for example: a book, newspaper article, etc) and write a short report. To get a good grade in this class, you need to attend class regularly and **actively** participate in class. You also need to submit a reflection journal each week, complete four reading projects, and study for class quizzes.	This is a guide. The schedule may change. Lesson 1 –Course explanation, discussion about textbooks Lessons 2-5 – Reading and discussion Lesson 6 – Quiz Lessons 7-10 Reading and discussion Lesson 11 – Quiz Lesson 12 – Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook will be announced in the first class.	This is a guide. This may change. 25% Attendance + participation; 15% Reflection journal; 30% Free reading project; 30% Quizzes

	English 311－a Reading English for Specific Purposes	担当者	佐々木　恵理

講義目的、講義概要	授業計画
この授業ではさまざまな社会問題について学びながら、「何を感じ、考え、それを自分のことばでどう表現するか」に重点を置きたいと思います。どのようにすれば問題を解決できるのかについて、自分の意見をもてるようになることが最終的な目標です。もちろん英語の授業なので、語彙を増やし、文法の確認をしながら読解力をつけてゆきます。 毎回テキストを精読し、適宜、練習問題を解いてゆきます。春学期でテキストの前半６項目（右の授業計画の仮訳を参照のこと）を読み終える予定です。テーマごとに具体的な説明を加え、新聞記事を読んだりビデオを見たりして理解を深めたいと思います。受講人数にもよりますが、レポートや発表も考えています。	1 初回のガイダンス Chapter 1: Peeping on the Royal Family (イギリスの王室を覗き見する) 2 Exercise 3 Chapter 2: America’s Gun Culture (アメリカの銃社会) 4 Exercise 5 Chapter 3: Sexual Harassment (セクシュアル・ハラスメント) 6 Exercise 7 Chapter 4: Magic’s Fight Against AIDS (エイズと闘うマジック・ジョンソン) 8 Exercise 9 Chapter 5: Racism and Rodney King (人種差別とロドニー・キング事件) 10 Exercise 11 Chapter 6: Murder or Mercy Killing? (殺人、それとも安楽死？) 12 Exercise
テキスト、参考文献	**評価方法**
Freedom, Rights and Responsibility Norma Reveler、根間弘海著（金星堂）	定期試験、レポートや発表、および出席を総合評価するが、総授業数の３分の１を欠席すると自動的にＦの評価となる。遅刻は 30 分しか認めないのですぐに申し出ること。

	English 311－b Reading English for Specific Purposes	担当者	佐々木　恵理

講義目的、講義概要	授業計画
この授業ではさまざまな社会問題について学びながら、「何を感じ、考え、それを自分のことばでどう表現するか」に重点を置きたいと思います。どのようにすれば問題を解決できるのかについて、自分の意見をもてるようになることが最終的な目標です。もちろん英語の授業なので、語彙を増やし、文法の確認をしながら読解力をつけてゆきます。 毎回テキストを精読し、適宜、練習問題を解いてゆきます。秋学期でテキストの後半６項目（右の授業計画の仮訳を参照のこと）を読み終える予定です。テーマごとに具体的な説明を加え、新聞記事を読んだりビデオを見たりして理解を深めたいと思います。受講人数にもよりますが、レポートや発表も考えています。	1 初回のガイダンス Chapter 7: Dealing Drugs (麻薬取引) 2 Exercise 3 Chapter 8: Steroids in Sports (スポーツ界のステロイド使用) 4 Exercise 5 Chapter 9 :Violence on Television (テレビの中の暴力シーン) 6 Exercise 7 Chapter 10: The Abortion Debate (中絶問題) 8 Exercise 9 Chapter 11: Greenpeace Protests (グリーンピースの抗議行動) 10 Exercise 11 Chapter 12: A Fight for Human Rights (人権獲得への闘い) 12 Exercise
テキスト、参考文献	**評価方法**
Freedom, Rights and Responsibility Norma Reveler、根間弘海著（金星堂）	定期試験、レポートや発表、および出席を総合評価するが、総授業数の３分の１を欠席すると自動的にＦの評価となる。遅刻は 30 分しか認めないのですぐに申し出ること。

	English 311－a Reading English for Specific Purposes	担当者	佐藤　保

講義目的、講義概要	授業計画
情報処理に関する技術英文の読解力を養うことを目的とする。課外指導として、希望者には、FAX 等を使用して、英文実務翻訳の添削指導を予定している。また、就職相談にも応ずるつもり（昼休み（1-308 教室）か、居酒屋を利用して)。	1. オリエンテーション 2. コンピューターに関する英文 3. コンピューターに関する英文 4. コンピューターに関する英文 5. コンピューターに関する英文 6. コンピューターに関する英文 7. コンピューターに関する英文 8. コンピューターに関する英文 9. コンピューターに関する英文 10. コンピューターに関する英文 11. コンピューターに関する英文 12. コンピューターに関する英文
テキスト、参考文献	**評価方法**
『英文テクニカルライティング集中練習講座』 （明日香出版社）	定期試験（15 点×6（問）＝90 点） 平常点（5 点×□（回）＝□点）

	English 311－b Reading English for Specific Purposes	担当者	佐藤　保

講義目的、講義概要	授業計画
情報処理に関する技術英文の読解力を養うことを目的とする。課外指導として、希望者には、FAX 等を使用して、英文実務翻訳の添削指導を予定している。また、就職相談にも応ずるつもり（昼休み（1-308 教室）か、居酒屋を利用して)。	1. オリエンテーション 2. マニュアル英文 3. マニュアル英文 4. マニュアル英文 5. マニュアル英文 6. マニュアル英文 7. マニュアル英文 8. マニュアル英文 9. マニュアル英文 10. マニュアル英文 11. マニュアル英文 12. マニュアル英文
テキスト、参考文献	**評価方法**
『英文テクニカルライティング集中練習講座』 （明日香出版社）	定期試験（15 点×6（問）＝90 点） 平常点（5 点×□（回）＝□点）

	English 321－a Writing English for Specific Purposes	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
アカデミックライティングの基礎となるパラグラフライティングについての基本的な概念を、できるだけ多くの英文にふれたり、実際に書く練習を積むことにより体得するようにします。また、アイディアをまとめること、下書き、改訂、校正といった英文を書くために必要とされる一連の過程についても、活動を行ったり、実際に英文を書いていく中で身につけていくようにします。クラスメートがお互いに書いた英文の下書きを読み合う中で、自分のパラグラフのみならず、他のクラスメートのパラグラフを評価する視点も学ぶようにします。	1. Introduction 2. Paragraph Format 3. Narrative Paragraphs 4. Paragraph Structure 5. Review I 6. Descriptive Paragraphs 7. Logical Division of Ideas 8. Process Paragraphs 9. Review II 10. Comparison/Contrast Paragraphs 11. Definition Paragraphs 12. Review III
テキスト、参考文献	**評価方法**
Introduction to Academic Writing (Longman)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、小テスト等をもとに総合的に評価します。

	English 321－b Writing English for Specific Purposes	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学んだパラグラフライティングの知識をもとに、エッセイライティングへと発展させていくことを目標とします。基本的な概念を学んだ後に、テーマを決め、クラスプロジェクトとしてエッセイにまとめていきます。ペアワーク、グループディスカッション、基本図書の読解等、直接書くことと異なる活動も含まれることもありますが、書くまでにいたる過程の活動として重視します。 また、学期の半ばと終わりに各学生が独自にテーマを決めてリサーチを行い、その結果をエッセイにまとめ、それに関するパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うことにより、発表能力の向上を図ります。	1. Introduction 2. Essay Organization I 3. Essay Organization II 4. Opinion Essays I 5. Opinion Essays II 6. Class Project I 7. Presentation I 8. Class Project II 9. Class Project III 10. Class Project IV 11. Class Project V 12. Presentation II
テキスト、参考文献	**評価方法**
Introduction to Academic Writing (Longman)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、小テスト等をもとに総合的に評価します。

	English 331 a－Speech Communication	担当者	M. ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
Welcome Everyone, In this class we are going to do a variety of activities throughout the Term (Year). All the activities are going to be based on the idea of exploring varies Topics and using all four skills. **Course Outline** In this class there are few rules that you must follow they are very simple. They are as follows: - If you are 15 minutes late you are considered absent ■ When you come in late do not make a noise or speak to your Friends. If you do then you will have to leave. ■ No Telephones. ■ When Homework is given, you must do it, as it is part of your final mark. It also necessary for an activity in the class. ■ During the Year there are going to be various activities that have to be completed by a specific dated. **Don't be late** in handing them to me. The course involves a comprehensive look at the skills and approaches that help a listener tackle a passage. In the course we will tackle the various approaches to listening.	Lesson 1: Classroom English Students complete introduce themselves Semester outline Lesson 2: Personal information Classroom Expressions Lesson 3:Unit 7 Make predictions about visual prompts Infer word meaning from context Connect actions with behaviour Lesson 4:Unit 7 Taking notes from a lecture Integrate information and personal values Group discussion about what is intelligence Lesson 5: Unit 9 Compare cultural norms and how they differ in different countries Advantages and Disadvatages of certain customs in new countries Lesson 6: Unit 9 Listening for Opinions and identifying different views Give impromptu presentation using own ideas,support. Propose solutions to cultural problems Lesson 7: Unit 8 Make predictions Identify speaker's tone and emotions Note taking Lesson 8:Unit 8 Using Tansitions and sequences Explaining Cause and Effect of actions of present generation Provide solutions to problems Lesson 9:Unit 10 Identifying opionions and supporting ideas Express and defend opinions(with facts,statistics) Lesson 10:Unit 10 Relate other's view to personal opinion Conducte a debate about present problem with technology Summarize observations on how to handle different situations Lesson 11: Review Choose theme for mid-term Presentation Lesson 12 Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
NorthStar-High IntetmediateListening and Speaking Longman- Ferre/Sanabria	**Grading** The students will be graded on four criteria These be 1)Attendance 25% 2) Homework 20% 3) A test on the skills of at the end of the Term/Year 30% 4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom 25%

	English 331 b－Speech Communication	担当者	M. ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
Welcome Everyone, In this class we are going to do a variety of activities throughout the Term (Year). All the activities are going to be based on the idea of exploring varies Topics and using all four skills. **Course Outline** In this class there are few rules that you must follow they are very simple. They are as follows: - If you are 15 minutes late you are considered absent ■ When you come in late do not make a noise or speak to your Friends. If you do then you will have to leave. ■ No Telephones. ■ When Homework is given, you must do it, as it is part of your final mark. It also necessary for an activity in the class. ■ During the Year there are going to be various activities that have to be completed by a specific dated. **Don't be late** in handing them to me. The course involves a comprehensive look at the skills and approaches that help a listener tackle a passage. In the course we will tackle the various approaches to listening.	Lesson 1: Classroom English Students complete introduce themselves Semester outline Lesson 2: Personal information Classroom Expressions Lesson 3:Unit 7 Make predictions about visual prompts Infer word meaning from context Connect actions with behaviour Lesson 4:Unit 7 Taking notes from a lecture Integrate information and personal values Group discussion about what is intelligence Lesson 5: Unit 9 Compare cultural norms and how they differ in different countries Advantages and Disadvatages of certain customs in new countries Lesson 6: Unit 9 Listening for Opinions and identifying different views Give impromptu presentation using own ideas,support. Propose solutions to cultural problems Lesson 7: Unit 8 Make predictions Identify speaker's tone and emotions Note taking Lesson 8:Unit 8 Using Tansitions and sequences Explaining Cause and Effect of actions of present generation Provide solutions to problems Lesson 9:Unit 10 Identifying opionions and supporting ideas Express and defend opinions(with facts,statistics) Lesson 10:Unit 10 Relate other's view to personal opinion Conducte a debate about present problem with technology Summarize observations on how to handle different situations Lesson 11: Review Choose theme for mid-term Presentation Lesson 12 Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
NorthStar-High IntetmediateListening and Speaking Longman- Ferre/Sanabria	**Grading** The students will be graded on four criteria These be 1)Attendance 25% 2) Homework 20% 3) A test on the skills of at the end of the Term/Year 30% 4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom 25%

	English－351 Computer-Assisted English Learning	担当者	髙木　亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっとｅというコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。 受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。 受講条件： ・TOEIC スコアが 350～600 点 （プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上の学習者には適していません。） ・初回の授業に必ず出席すること 本授業で求められる事項： ・20 時間以上のぎゅっとｅの学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 ・実力診断テストの受験 ・小テスト(4 回程度)	Week: 1.　シラバスとプログラムの説明 2.　実力診断テスト・学習プランの作成 3.　自主学習 4.　自主学習 5.　小テスト 6.　自主学習 7.　小テスト 8.　自主学習 9.　小テスト 10.　自主学習 11.　小テスト 12.　実力診断テスト （変更する場合もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
ぎゅっとｅプログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっとｅホームページ(体験版あり)http://gyuto-e.jp/	出席　　20%　　学習プランと記録　30% 小テスト　40%　　学習自己評価　　5% 実力診断テスト　5%

	English 351－Computer-Assisted English Learning	担当者	髙木　亜希子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっとｅというコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。 受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。 受講条件： ・TOEIC スコアが 350～600 点 （プログラムの性質上、350 点以下、または 600 点以上の学習者には適していません。） ・初回の授業に必ず出席すること 本授業で求められる事項： ・20 時間以上のぎゅっとｅの学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 ・実力診断テストの受験 ・小テスト(4 回程度)	Week: 1.　シラバスとプログラムの説明 2.　実力診断テスト・学習プランの作成 3.　自主学習 4.　自主学習 5.　小テスト 6.　自主学習 7.　小テスト 8.　自主学習 9.　小テスト 10.　自主学習 11.　小テスト 12.　実力診断テスト （変更する場合もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
ぎゅっとｅプログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっとｅホームページ(体験版あり)http://gyuto-e.jp/	出席　　20%　　学習プランと記録　30% 小テスト　40%　　学習自己評価　　5% 実力診断テスト　5%

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅰa(基礎) ドイツ語ⅠAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を２つも勉強しなければならないなんて大変だ、と思いますか？　いや実は、大変なんです。しかもドイツ語はほとんどの語が変化するとも言ってよい、やっかいなことばですから、当然です。時間もかかり、手間もかかり、頭も使わなければなりません。しかしドイツ語を勉強すると英語がより一層出来るようになるかもしれません。２つの言葉を学ぶということは、お互いの言葉の違いを知ることを意味します。(英語ではこう言うのに、ドイツ語では違う言い方をするんだナ、と言う具合です。)その違いを理解すると、それぞれの言葉の本質に迫る第一歩を踏み出したことになります。そしてそれは、それぞれの言葉の理解を深めることになるのです。ましてドイツ語と英語は言語系統的に見て、互いにとても近い関係にあります。語源的に同一の語も数多くあります。(例えば、father と Vater、brother と Bruder、water と Wasser というように。) そしてドイツ語には独特の音と研ぎ澄まされたような美しさがあります。ドイツ語の世界にちょっと踏み込んでみませんか？	使用テクストの前半を学習します。ドイツ語の発音から日常必要最低限の基礎的文法の一部と会話調の文章を学んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅰb(基礎) ドイツ語ⅠAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を２つも勉強しなければならないなんて大変だ、と思いますか？　いや実は、大変なんです。しかもドイツ語はほとんどの語が変化するとも言ってよい、やっかいなことばですから、当然です。時間もかかり、手間もかかり、頭も使わなければなりません。しかしドイツ語を勉強すると英語がより一層出来るようになるかもしれません。２つの言葉を学ぶということは、お互いの言葉の違いを知ることを意味します。(英語ではこう言うのに、ドイツ語では違う言い方をするんだナ、と言う具合です。)その違いを理解すると、それぞれの言葉の本質に迫る第一歩を踏み出したことになります。そしてそれは、それぞれの言葉の理解を深めることになるのです。ましてドイツ語と英語は言語系統的に見て、互いにとても近い関係にあります。語源的に同一の語も数多くあります。(例えば、father と Vater、brother と Bruder、water と Wasser というように。) そしてドイツ語には独特の音と研ぎ澄まされたような美しさがあります。ドイツ語の世界にちょっと踏み込んでみませんか？	使用テクストの後半を学習します。日常必要最低限の基礎的文法と会話調の文章を学んでいきます。終了時には簡単なドイツ語が話せるようになるとよいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅰa(基礎) ドイツ語ⅠBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を２つも勉強しなければならないなんて大変だ、と思いますか？　いや実は、大変なんです。しかもドイツ語はほとんどの語が変化するとも言ってよい、やっかいなことばですから、当然です。時間もかかり、手間もかかり、頭も使わなければなりません。しかしドイツ語を勉強すると英語がより一層出来るようになるかもしれません。２つの言葉を学ぶということは、お互いの言葉の違いを知ることを意味します。(英語ではこう言うのに、ドイツ語では違う言い方をするんだナ、と言う具合です。)その違いを理解すると、それぞれの言葉の本質に迫る第一歩を踏み出したことになります。そしてそれは、それぞれの言葉の理解を深めることになるのです。ましてドイツ語と英語は言語系統的に見て、互いにとても近い関係にあります。語源的に同一の語も数多くあります。(例えば、father と Vater、brother と Bruder、water と Wasser というように。) そしてドイツ語には独特の音と研ぎ澄まされたような美しさがあります。ドイツ語の世界にちょっと踏み込んでみませんか？	使用テクストの前半を学習します。ドイツ語の発音から日常必要最低限の基礎的文法の一部と会話調の文章を学んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅰb(基礎) ドイツ語ⅠBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を２つも勉強しなければならないなんて大変だ、と思いますか？　いや実は、大変なんです。しかもドイツ語はほとんどの語が変化するとも言ってよい、やっかいなことばですから、当然です。時間もかかり、手間もかかり、頭も使わなければなりません。しかしドイツ語を勉強すると英語がより一層出来るようになるかもしれません。２つの言葉を学ぶということは、お互いの言葉の違いを知ることを意味します。(英語ではこう言うのに、ドイツ語では違う言い方をするんだナ、と言う具合です。)その違いを理解すると、それぞれの言葉の本質に迫る第一歩を踏み出したことになります。そしてそれは、それぞれの言葉の理解を深めることになるのです。ましてドイツ語と英語は言語系統的に見て、互いにとても近い関係にあります。語源的に同一の語も数多くあります。(例えば、father と Vater、brother と Bruder、water と Wasser というように。) そしてドイツ語には独特の音と研ぎ澄まされたような美しさがあります。ドイツ語の世界にちょっと踏み込んでみませんか？	使用テクストの後半を学習します。日常必要最低限の基礎的文法と会話調の文章を学んでいきます。終了時には簡単なドイツ語が話せるようになるとよいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05年度以降 04年度以前	ドイツ語Ⅰa(会話) ドイツ語ⅠCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。	使用テクストの前半を使って、会話の勉強をします。
テキスト、参考文献	評価方法
佐藤修子＋伊藤祐紀子:『CD付・スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』(三修社) 2007年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05年度以降 04年度以前	ドイツ語Ⅰb(会話) ドイツ語ⅠCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。	使用テクストの前半を使って、会話の勉強をします。
テキスト、参考文献	評価方法
佐藤修子＋伊藤祐紀子:『CD付・スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』(三修社) 2007年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅱa(基礎) ドイツ語ⅡAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語を一年間勉強して見て、いかがだったでしょうか？ドイツ語ということばの何と面倒なことでしょうか。でも、ちょっと面白いことばではありませんか？また２カ国語が分かるなんて、ちょっとカッコよくないですか？もう少しドイツ語を続けてみませんか？ ここでは一年間に学んだことを基礎にして、復習しながら更にドイツ語の使い方を学んでいきます。この２年間でほぼドイツ語の日常的な知識は身につけられると思います。出来ればその知識を使って、ドイツ語圏の人たちと会話が出来るとすばらしいと思います。	使用テクストの前半を使って、より一歩踏み出したドイツ語を学んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅱb(基礎) ドイツ語ⅡAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語を一年間勉強して見て、いかがだったでしょうか？ドイツ語ということばの何と面倒なことでしょうか。でも、ちょっと面白いことばではありませんか？また２カ国語が分かるなんて、ちょっとカッコよくないですか？もう少しドイツ語を続けてみませんか？ ここでは一年間に学んだことを基礎にして、復習しながら更にドイツ語の使い方を学んでいきます。この２年間でほぼドイツ語の日常的な知識は身につけられると思います。出来ればその知識を使って、ドイツ語圏の人たちと会話が出来るとすばらしいと思います。	使用テクストの後半を使って、ドイツ語の基礎のまとめをします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅱa(基礎) ドイツ語ⅡBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語を一年間勉強して見て、いかがだったでしょうか？ドイツ語ということばの何と面倒なことでしょうか。でも、ちょっと面白いことばではありませんか？また２カ国語が分かるなんて、ちょっとカッコよくないですか？もう少しドイツ語を続けてみませんか？ ここでは一年間に学んだことを基礎にして、復習しながら更にドイツ語の使い方を学んでいきます。この２年間でほぼドイツ語の日常的な知識は身につけられると思います。出来ればその知識を使って、ドイツ語圏の人たちと会話が出来るとすばらしいと思います。	テクスト前半を使用して、更に進んだドイツ語を学習します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅱb(基礎) ドイツ語ⅡBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語を一年間勉強して見て、いかがだったでしょうか？ドイツ語ということばの何と面倒なことでしょうか。でも、ちょっと面白いことばではありませんか？また２カ国語が分かるなんて、ちょっとカッコよくないですか？もう少しドイツ語を続けてみませんか？ ここでは一年間に学んだことを基礎にして、復習しながら更にドイツ語の使い方を学んでいきます。この２年間でほぼドイツ語の日常的な知識は身につけられると思います。出来ればその知識を使って、ドイツ語圏の人たちと会話が出来るとすばらしいと思います。	テクストを使用して、基礎ドイツ語のまとめをします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅱa(会話) ドイツ語ⅡCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
一年間の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。二年時では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。	使用テクストの後半を使って、会話の勉強をします。
テキスト、参考文献	評価方法
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver：『CD 付き・スツェーネン 1　場面で学ぶドイツ語　（三修社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以降 04 年度以前	ドイツ語Ⅱb(会話) ドイツ語ⅡCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
一年間の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。二年時では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。	使用テクストの後半を使って、会話の勉強をします。
テキスト、参考文献	評価方法
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver：『CD 付き・スツェーネン 1　場面で学ぶドイツ語　（三修社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

05 年度以前 04 年度以降	ドイツ語Ⅲa(基礎) ドイツ語ⅢＢa	担当者	永岡　敦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は平易なテキストを媒介にして、 1. 文法知識の徹底と強化、 2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成 を図ります。併せてドイツ語検定２級合格を視野に入れて，種々の注意を喚起します（従って，すでに２級を取得している人は初回の講義の様子を見て履修するかどうか決めて下さい)。 春セメスターにおいては上述の 1. に重きを置きます。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態の変換等を反復的に徹底演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭（ないしは板書）での解答を求めることとなりますから，受講者の皆さんは突然の指名にも応えられるよう常に緊張感をもって出席して下さい。	受講者の人数と，前年度までの文法知識の集積度に左右されるため，シラバスの執筆段階でペースを定めることはできません。 数回，経験則に基づく標準的な進度で講義を行い，受講者の「レベル」を把握した上で改めて講義時に告知します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントにて配布。 独和辞典及び文法の資料（手持ちの参考書等）必携。	出席重視。最終講義時にペーパーテスト実施。正当な理由無く，連続して３回以上欠席した場合は名簿から削除することがあるので注意。

05 年度以前 04 年度以降	ドイツ語Ⅲb(基礎) ドイツ語ⅢＢb	担当者	永岡　敦

講義目的、講義概要	授業計画
秋セメスターでは引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は上述の 2. に移行させます。というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これを「もともと日本語で書かれていた。」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。授業ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」からの脱却を図ります。	春セメスター中の受講者の有りよう（＝ 受講態度や，私の発した設問に対する正答率)，また春セメスター終了時に実施したペーパーテストの結果を踏まえ，適切に対処します。受講者の希望を聴取した上で，配布するテキストの難度を上げる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春セメスターに同じ。	春セメスターに同じ。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 Ia(基礎) フランス語 IAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは週 1 回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 春学期では Tome 1 の第 5 課まで進みます。授業では CD を使うことがあります。 右におおよその進み方を示しますが、実際の進度は先生により異なります。	1. 発音とつづり字の読み方 2. 発音とつづり字の読み方 3. 第 1 課 4. 第 2 課 5. 第 2 課 6. 第 3 課 7. 第 3 課 8. 第 4 課 9. 第 4 課 10. 第 5 課 11. 第 5 課 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：Tome 1（第三書房） 辞書、参考書については担当の先生より指示があります。	担当の先生より指示があります。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 Ib(基礎) フランス語 IAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは週 1 回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 秋学期では Tome 1 の第 6 課から第 10 課まで進みます。授業では CD を使うことがあります。 右におおよその進み方を示しますが、実際の進度は先生により異なります。	13. 第 6 課 14. 第 6 課 15. 第 7 課 16. 第 7 課 17. 第 8 課 18. 第 8 課 19. 第 9 課 20. 第 9 課 21. 第 10 課 22. 第 10 課 23. annexe 24 総合問題（bilan）
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：Tome 1（第三書房） 辞書、参考書については担当の先生より指示があります。	担当の先生より指示があります。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 I a（総合 J） フランス語 I Ba	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。I（総合 J）は日本人、I（総合 F）はフランス人講師が担当します（再履修クラスを除く）。 I（総合 J）ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取ってもらいたい授業です。 右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。 なおこの講座はフランス語 I（総合 F）とのペアでしか取れません。	1. 発音（1） 2. 発音（2） 3. unité 1　leçon 1 4. unité 1　leçon 2 5. unité 1　leçon 3 6. unité 1　leçon 4 7. unité 2　leçon 5 8. unité 2　leçon 6 9. unité 2　leçon 7 10. unité 2　leçon 8 11. unité 3　leçon 9 12. unité 3　leçon 10
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 I b（総合 J） フランス語 I Bb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。I（総合 J）は日本人、I（総合 F）はフランス人講師が担当します（再履修クラスを除く）。 I（総合 J）ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取ってもらいたい授業です。 右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。 なおこの講座はフランス語 I（総合 F）とのペアでしか取れません。	1. unité 3　leçon 11 2. unité 3　leçon 12 3. unité 4　leçon 13 4. unité 4　leçon 14 5. unité 4　leçon 15 6. unité 4　leçon 16 7. unité 5　leçon 17 8. unité 5　leçon 18 9. unité 5　leçon 19 10. unité 5　leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 I a（総合 F） フランス語 I Ca	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。 フランス語 I（総合 J）とペアになる授業ですが、このI（総合 F）はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し（expressions）を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I（総合 J）とともにぜひ取ってもらいたい授業です。 右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。 なおこの講座はフランス語 I（総合 J）とのペアでしか取れません。	1. 発音（1） 2. 発音（2） 3. unité 1　leçon 1 4. unité 1　leçon 2 5. unité 1　leçon 3 6. unité 1　leçon 4 7. unité 2　leçon 5 8. unité 2　leçon 6 9. unité 2　leçon 7 10. unité 2　leçon 8 11. unité 3　leçon 9 12. unité 3　leçon 10
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語 I b（総合 F） フランス語 I Cb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。 フランス語 I（総合 J）とペアになる授業ですが、このI（総合 F）はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し（expressions）を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I（総合 J）とともにぜひ取ってもらいたい授業です。 右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。 なおこの講座はフランス語 I（総合 J）とのペアでしか取れません。	1. unité 3　leçon 11 2. unité 3　leçon 12 3. unité 4　leçon 13 4. unité 4　leçon 14 5. unité 4　leçon 15 6. unité 4　leçon 16 7. unité 5　leçon 17 8. unité 5　leçon 18 9. unité 5　leçon 19 10. unité 5　leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

０５年度以降 ０４年度以前	フランス語Ⅱa(基礎) フランス語ⅡAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは週１回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座の 2 年目です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 使用する教科書は< Salut !> <Bis,amicalement>の 2 種類のうちのいずれかになります（担当の先生によって異なります)。 １年間学んだことを発展させていきます。	担当の先生および教科書によって異なります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Salut !（駿河台出版社） Bis,amicalement（駿河台出版社） のうちのひとつ。辞書等は先生より指示があります。	先生より指示があります。

０５年度以降 ０４年度以前	フランス語Ⅱb(基礎) フランス語ⅡAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは週１回の授業で、2 年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座の 2 年目です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。 春学期の続きです。	担当の先生および教科書によって異なります
テキスト、参考文献	**評価方法**
Salut !（駿河台出版社） Bis,amicalement（駿河台出版社） のうちのひとつ。辞書等は先生より指示があります。	先生より指示があります。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅱa（総合 J） フランス語ⅡBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 J）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 J）では文法と語彙の学習が中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. INITIAL vol.1 unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. INITIAL vol.2 unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の各先生より指示があります。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅱb（総合 J） フランス語ⅡBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 J）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 J）では文法と語彙の学習が中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の各先生より指示があります。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅱa（総合 F） フランス語ⅡCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語 I （総合 F）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 F）では決まった言い回しと会話がが中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. INITIAL vol.1 unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. INITIAL vol.2 unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の先生より指示されます。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅱb（総合 F） フランス語ⅡCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語 I （総合 F）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 F）では決まった言い回しと会話が中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. INITIAL vol.2 unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の先生より指示されます。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅲa フランス語ⅢAa	担当者	H.　ドリエップ

講義目的、講義概要	授業計画
初級レベルで学んだ事柄を基礎にして、フランス人の教師を相手に、実際にフランス語で会話をしながら、基礎的な表現力を身につけ、発音やイントネーションをより完全なものにするためのクラスです。 新たな言語学ぶ場合、基礎文法の理解が何よりも大切になりますが、覚えた文法事項を実際に使うこと、つまり、ヒアリングやスピーキングといった実践を並行して行うことで、より確実な語学習得が可能となります。 この授業では、基本的な日常表現からはじめて、ゆっくりと、しかし確実に、フランス語の口頭表現能力を体得出来るようにします。具体的には、簡単な表現の反復練習、教師との対話練習、聞き取り練習を通じて、発音矯正、即答能力の向上、正確な聞き取りによる文法事項の再確認を行います。授業での積極的な参加が必要となります。 確実にフランス語が上達します。	教科書の基に沿って、授業を進めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時指示します。	試験と平常点をもとに総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅲb フランス語ⅢAb	担当者	H.　ドリエップ

講義目的、講義概要	授業計画
同じ教師が担当する後期のフランス語Ⅲb では、前期授業内容をさらに発展させた授業を行います。	教科書の基に沿って、授業を進めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時指示します。	試験と平常点をもとに総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅲa フランス語ⅢAa	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
「国境なき医師団（MSF)」の活動理念や活動事例が書かれたテキストを講読する予定である。毎時間、学生各自が予習したものを発表する形をとる。学生のレヴェルを見ながら、適宜文法説明を交えて進めていく。また学生の興味の対象についても話し合い、テキストを再考する場合もある。 世界で何が起こり、人々がそれにどのように対応しているかに目を向けるきっかけにしたい。	1.はじめに 2.～12：左記による。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Rony Brauman／Sachiko Sakurai:“MSF, un combat humanitaire”, Editions　ASAHI （ロニー・ブローマン／櫻井幸子：ボランティアとその体験から（朝日出版))	出席・試験（原則として出席が 1/3 以下の学生には受験を認めない)

05 年度以降 04 年度以前	フランス語Ⅲb フランス語ⅢAｂ	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
同　上	1.はじめに 2.～12：同　上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同　上	出席・試験（原則として出席が 1/3 以下の学生には受験を認めない)

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅰa(文法) スペイン語ⅠAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。	①　ガイダンス ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar 動詞の使い方 ⑧　ser, estar 動詞の使い方 ⑨　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の使い方 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。および、担当者が随時プリントを配布。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅰｂ(文法) スペイン語ⅠAｂ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰa, IAa に引き続き、**基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。	①　ガイダンス ②　代名詞の使い方 ③　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑦　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑧　動詞の活用 --- 再帰動詞とその諸用法 ⑨　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑩　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑪　現在時制の復習と練習 ⑫　現在時制の復習と練習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 また、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ｉa(文法) スペイン語ＩＢ a	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 基本的には、スペイン語 Ia(会話)，ＩCa とのペア履修を要望する。	①　ガイダンス ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser，estar 動詞の使い方 ⑧　ser，estar 動詞の使い方 ⑨　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の使い方 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版” 朝日出版社 、および、担当者が随時プリントを配布。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ｉ b (文法) スペイン語ＩＢb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ia(文法)，ＩBa に引き続き、基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 基本的には、会話コースのスペイン語 Ib(会話)，ＩCb とのペア履修を要望する。	①　代名詞の使い方 ②　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ③　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑥　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑦　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑧　動詞の活用 --- 再帰動詞とその諸用法 ⑨　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑩　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑪　現在時制の復習と練習 ⑫　現在時制の復習と練習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版” 朝日出版社 また、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅰa(会話) スペイン語ⅠCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語 Ⅰ（会話），C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語 Ia（文法），ⅠBa とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ia（文法），ⅠBa の項目と同じであるが、スペイン語 Ia（会話），ⅠCa ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 Ia（文法），ⅠBa の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ ソフト版” 朝日出版社 および、担当者が随時プリント等を配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅰb(会話) スペイン語ⅠCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ia（会話），ⅠCa に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語Ⅰ（会話），C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には､文法コースであるスペイン語 Ib（文法），ⅠBb とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ib（文法），ⅠBb の項目と同じであるが、スペイン語 Ib（会話），ⅠCb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 Ib（文法），ⅠBb の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ ソフト版” 朝日出版社 また、担当者が随時プリント等を配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅱa(文法) スペイン語ⅡAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語IAabおよびⅠab(文法) の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。	① ガイダンス ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅱb(文法) スペイン語ⅡAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
上記のスペイン語ⅡAa, Ⅱa(文法) に引き続き、**基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。	①. ガイダンス ②. 比較表現と過去時制の復習 ③. 動詞の活用 --- 未来形 ④. 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑤. 未来形と過去未来形の対比 ⑥. 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑦. 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑧. 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑨. 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑩. 命令表現 ⑪. 命令表現 ⑫. 接続法を使った表現の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅱa(文法) スペイン語ⅡBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語 IBab, Ⅰab(文法)の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 基本的には、スペイン語Ⅱa（会話), ⅡCa とのペア履修を要望する。	① ガイダンス ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅱb(文法) スペイン語ⅡBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語ⅡBa, Ⅱa(文法) に引き続き、基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 基本的には、会話コースのスペイン語Ⅱb（会話), ⅡCb とのペア履修を要望する。	①. ガイダンス ②. 比較表現と過去時制の復習 ③. 動詞の活用 --- 未来形 ④. 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑤. 未来形と過去未来形の対比 ⑥. 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑦. 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑧. 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑨. 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑩. 命令表現 ⑪. 命令表現 ⑫. 接続法を使った表現の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅱa(会話) スペイン語ⅡCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語Ⅱa（文法），ⅡBa とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語ⅡBa,Ⅱa（文法）の項目と同じであるが、スペイン語ⅡCa，Ⅱa（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語ⅡBa，Ⅱa（文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅱb(会話) スペイン語ⅡCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語ⅡCa，Ⅱa(会話）に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語Ⅱb（文法），ⅡBb とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語ⅡBb，Ⅱb（文法）の項目と同じであるが、スペイン語ⅡCb，Ⅱb（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語ⅡBb，Ⅱb（文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅲa(講読) スペイン語ⅢAa	担当者	北岸　団

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。 授業では、スペインで発行されているスペイン語学習者向け短編小説、「探偵ペペ・レイ」シリーズを読んでいきます。初級文法で得られた知識で十分楽しみながら読んでいけるレベルのものです。ただ、日本人向けに編集されている物ではないので、一部初級文法では対応できない箇所（命令形、接続法など）がでてきますが、こうした点については必要に応じて文法的解説を加えていきます。 初回授業でプリントを配布します。 履修者は、次回授業までに下調べをし、授業時に発表（読み、訳出）することになります。	第１回　　授業の進め方、プリント配布 第２回以降　同プリント購読 最終回　　試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：プリント	試験と出席・発表状況（授業回数３分の１以上欠席で不可）を加味して評価する。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅲb(講読) スペイン語ⅢAb	担当者	北岸　団

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。 メキシコで発行されている教科書を使い、メキシコと他のラテンアメリカ地域の歴史を読み、スペイン語で知識を得ることを目標とします。 購読対象が歴史であるため、過去形(点過去、線過去、大過去など)が中心となります。 必要に応じて、文法的解説と内容の解説を行う予定です。 初回授業でプリントを配布します。 受講者は、次回授業までに特定された範囲まで下調べをし、授業時に発表（読み、訳出）することになります。	第１回　　授業の進め方、プリント配布 第２回以降　同プリント購読 最終回　　試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：プリント	試験と出席・発表状況（授業回数３分の１以上欠席で不可）を加味

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅲa(会話) スペイン語ⅢBa	担当者	J．フェレーラス

講義目的、講義概要	授業計画
日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人にくりかえさせて、スペイン語らしい発音ができるようにするとともに聞き取り能力を養成する。 スペイン語とともにボディーランゲェジになれること。 ビデオを用いながら会話、文化（世界遺産、生活、習慣など）を紹介。	季節ごとのスペイン語圏の国々の祝日、記念日、行事、慣習（イースター、学生の日、死者の日、など）をビデオや写真によって学ぶこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
本を使わず、その都度担当者が作成。	出席、授業への積極的な参加、小テストによる。

05 年度以降 04 年度以前	スペイン語Ⅲb(会話) スペイン語ⅢBb	担当者	J．フェレーラス

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ｉa(会話) 中国語ＩAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 漢字は表音文字ではなく表意文字ですから、漢字を見ただけでは中国語の発音は分かりません。英語で発音記号を用いて発音を表すように、中国語では中国式のローマ字“ピンイン”を用いて発音を表します。 まず、ピンインの発音のしかた、表記法から練習していきます。この段階で自らの耳を使って聞き取り、自らの口で発音することが大切です。「頭」より「体」で覚えるのです。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを習慣づけるようにしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。	第１回～第３回　：テキスト発音篇 第４回～第 12 回　：テキスト第１課～第８課 （内容） 人称代名詞、指示詞、場所を表す指示詞、親族呼称、数詞と量詞、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、疑問文のパタン、連動文、動詞「在」と「有」、基本的な前置詞とその用法、基本的語気助詞とその用法、氏名の言い表し方と尋ね方、日にち・曜日・時間の表し方と尋ね方、時点と時間量表現、連体修飾と「的」の省略、など。 各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、　上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語へのアプローチ』朝日出版社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ｉb（会話） 中国語ＩAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 漢字は表音文字ではなく表意文字ですから、漢字を見ただけでは中国語の発音は分かりません。英語で発音記号を用いて発音を表すように、中国語では中国式のローマ字“ピンイン”を用いて発音を表します。 まず、ピンインの発音のしかた、表記法から練習していきます。この段階で自らの耳を使って聞き取り、自らの口で発音することが大切です。「頭」より「体」で覚えるのです。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを習慣づけるようにしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。	第１回～第 12 回　：テキスト第９課～第１６課 （内容） 主述述語文、動作行為の経験・持続・進行を表す文型、比較を表す文型、「是‥‥的」構文、兼語文、存現文、「把」構文、「被」構文、基本的な助動詞とその用法、前置詞の「給」、動詞の重ね型、結果補語、様態補語、方向補語、可能補語、金額の表し方と尋ね方、など。 各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、　上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語へのアプローチ』朝日出版社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ｉa(会話) 中国語ＩBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業のうち「会話」に重点を置きます。もう一方の「講読・文法」に重点を置く中国語ＩＣ と歩調をあわせて進んでいきます。 中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 漢字は表音文字ではなく表意文字ですから、漢字を見ただけでは中国語の発音は分かりません。英語で発音記号を用いて発音を表すように、中国語では中国式のローマ字“ピンイン”を用いて発音を表します。 まず、ピンインの発音のしかた、表記法から練習していきます。この段階で自らの耳を使って聞き取り、自らの口で発音することが大切です。「頭」より「体」で覚えるのです。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを恥習慣づけるようにしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。	第１回～第３回　：テキスト発音篇 第４回～第 12 回　：テキスト第１課～第８課 （内容） 人称代名詞、指示詞、場所を表す指示詞、親族呼称、数詞と量詞、動詞述語文、形容詞述語文、名詞述語文、疑問文のパタン、連動文、動詞「在」と「有」、基本的な前置詞とその用法、基本的語気助詞とその用法、氏名の言い表し方と尋ね方、日にち・曜日・時間の表し方と尋ね方、時点と時間量表現、連体修飾と「的」の省略、など。 各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、　上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語へのアプローチ』朝日出版社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ｉb(会話) 中国語ＩBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続いて、中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 会話の基本は発音です。ピンインを見てその発音ができ、発音を聞いてピンインが頭に浮かんでくるように、くり返し継続してトレーニングします。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを習慣づけるようにしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。	第１回～第 12 回　：テキスト第９課～第１６課 （内容） 主述述語文、動作行為の経験・持続・進行を表す文型、比較を表す文型、「是‥‥的」構文、兼語文、存現文、「把」構文、「被」構文、基本的な助動詞とその用法、前置詞の「給」、動詞の重ね型、結果補語、様態補語、方向補語、可能補語、金額の表し方と尋ね方、など。 各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、　上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語へのアプローチ』朝日出版社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ｉａ(講読・文法) 中国語ＩCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業のうち中国語ＩＣは「講読・文法」に重点を置きます。他方の「会話」に重点を置いた中国語ＩＢと歩調をあわせて進んでいきます。ＩＢは発音や会話の練習・習熟を目指し、ＩＣは文法事項の理解・定着を目指します。 中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 漢字は表音文字ではなく表意文字ですから、漢字を見ただけでは中国語の発音は分かりません。英語で発音記号を用いて発音を表すように、中国語では中国式のローマ字“ピンイン”を用いて発音を表します。 まず、ピンインの発音のしかた、表記法から練習していきます。この段階で自らの耳を使って聞き取り、自らの口で発音することが大切です。「頭」より「体」で覚えるのです。また、学んだ文型はそのままくり返し口の端に上せて発音練習し、覚えてしまうことが大切です。授業中に大きな声で発音し、自身の発音を確かめることを習慣づけるようにしてほしいと思います。 また、授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。授業は双方向の作用があってはじめて有益になります。	第１回～第３回 ：テキスト　中国語とは　中国語の発音 第４回～第 12 回：テキスト第１課～第８課 （内容） 人称代名詞、指示代名詞、場所を表す代名詞、数詞と量詞、基本的な助動詞、基本的な介詞、動詞述語文、形容詞述語文、連動文、疑問文の各パタン、「完了」・「経験」を表す文型、動詞「有」と「在」、動詞の重ね型、姓名の言い方・尋ね方、月日・曜日・時刻の言い方と尋ね方、時間量や動作の回数の表し方など。 各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語ポイント５５』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ｉｂ(講読・文法) 中国語ＩCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の基礎力をつけるために、発音練習を重ねながら、会話文の基本文型および初級文法事項を学びます。 春学期に学んだ事項を随時復習しつつ、新たな文型を練習し、新たな文法事項を学んでいきます。発音練習の重要さは変わりません。授業中音読する、あるいは暗唱することなどを求めることがあるでしょう。文法事項にしても発音にしても、各自時に応じてテキストの前頁に立ち戻って復習することが大切です。 また、授業中に感じた疑問点はその日のうちに担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員は質問を歓迎します。授業は双方向の作用があってはじめて有益になります。	第１回～第 12 回：テキスト第 9 課～第 16 課 （内容） 春学期に学んだ以外の基本的な助動詞、基本的な介詞、「動作・行為の進行」・「動作・状態の持続」を表す文型、「把」構文、比較の表現、「是‥‥的」構文、主述述語文、受身文、兼語文、存現文、疑問詞の呼応、結果補語、様態補語、方向補語、可能補語、春学期に学んだ以外の疑問文－選択式疑問文、など。 各クラスの学習状況および習熟度に応じて進度を調整しつつ、上記の内容について学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語ポイント５５』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ⅱ a （会話） 中国語ⅡAa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
1 年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらに新たな語彙や文型・文法事項の知識を積み重ねていきます。 1 年次のテキストは一文単位の例文や短い会話文が主でしたが、このテキストは一通り初級コースを学んだ人向けの場面・機能別の会話テキストです。いろいろな場面における基本会話を学び、さらに発展させて会話練習を行うという構成になっています。 したがって授業ではパタン・プラクティスやヒアリング練習をする機会が多くなります 1 年次に学んだ発音ルールを再確認し、くり返し練習することになります。 会話の練習をしていく中で日本語と中国語の発想法の違いや言語習慣の違いなどにも気づくことがありましょう。日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 授業時には辞書は必携です。	第 1 回～第 12 回：テキスト第 1 課～第 10 課 （内容） 第 1 課　機内で 第 2 課　両替する 第 3 課　ホテルで（1） 第 4 課　ホテルで（2） 第 5 課　タクシーを拾う 第 6 課　道を尋ねる 第 7 課　バスに乗る 第 8 課　レストランで 第 9 課　電話をする 第 10 課　買い物をする 各課に基本会話があり、語句の概説、機能別表現の例文がのっています。次いで関連した置換練習・トレーニング・ヒアリングがあります。 予習をして授業に臨み、臆せず口を開くことが肝要です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『場面別・機能別　実用中国語会話』郁文堂 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ⅱ b（会話） 中国語ⅡAb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容を踏まえさらに習熟を目指します。 1 年次のテキストは一文単位の例文や短い会話文が主でしたが、このテキストは一通り初級コースを学んだ人向けの場面・機能別の会話テキストです。いろいろな場面における基本会話を学び、さらに発展させて会話練習を行うという構成になっています。 したがって授業ではパタン・プラクティスやヒアリング練習をする機会が多くなります 1 年次に学んだ発音ルールを再確認し、くり返し練習することになります。 会話の練習をしていく中で日本語と中国語の発想法の違いや言語習慣の違いなどにも気づくことがありましょう。日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 さらに、授業時には辞書は必携です。	第 1 回～第 12 回：テキスト第 11 課～第 20 課 （内容） 第 11 課　写真をとる 第 12 課　天気について 第 13 課　長城を登る 第 14 課　故宮遊覧 第 15 課　天壇を遊ぶ 第 16 課　京劇を観る 第 17 課　ギョーザを作る 第 18 課　汽車に乗る 第 19 課　兵馬俑 第 20 課　美人の謎 各課に基本会話があり、語句の概説、機能別表現の例文がのっています。次いで関連した置換練習・トレーニング・ヒアリングがあります。 予習をして授業に臨み、臆せず口を開くことが肝要です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『場面別・機能別　実用中国語会話』郁文堂 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ⅱ a（会話） 中国語ⅡBa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業のうち、　中国語ⅡB は「会話」に重点をⅡC は「講読・文法」に重点を置きます。 1 年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらに新たな語彙や文型・文法事項の知識を積み重ねていきます。 1 年次のテキストは一文単位の例文や短い会話文が主でしたが、このテキストは一通り初級コースを学んだ人向けの場面・機能別の会話テキストです。いろいろな場面における基本会話を学び、さらに発展させて会話練習を行うという構成になっています。 したがって授業ではパタン・プラクティスやヒアリング練習をする機会が多くなります 1 年次に学んだ発音ルールを再確認し、くり返し練習することになります。 会話の練習をしていく中で日本語と中国語の発想法の違いや言語習慣の違いなどにも気づくことがありましょう。日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 授業時に辞書は必携です。	第 1 回～第 12 回：テキスト第 1 課～第 10 課 （内容） 第 1 課　機内で 第 2 課　両替する 第 3 課　ホテルで（1） 第 4 課　ホテルで（2） 第 5 課　タクシーを拾う 第 6 課　道を尋ねる 第 7 課　バスに乗る 第 8 課　レストランで 第 9 課　電話をする 第 10 課　買い物をする 各課に基本会話があり、語句の概説、機能別表現の例文がのっています。次いで関連した置換練習・トレーニング・ヒアリングがあります。 予習をして授業に臨み、臆せず口を開くことが肝要です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『場面別・機能別　実用中国語会話』郁文堂 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ⅱ b（会話） 中国語ⅡBb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容を踏まえさらに習熟を目指します。 このテキストは一通り初級コースを学んだ人向けの場面・機能別の会話テキストです。いろいろな場面における基本会話を学び、さらに発展させて会話練習を行うという構成になっています。授業ではパタン・プラクティスやヒアリング練習をする機会が多くなります。くり返し練習することによって、単語の発音だけではなく文全体の自然なイントネーションが身につくことを目指してほしいと思います。 会話の練習をしていく中で日本語と中国語の発想法の違いや言語習慣の違いなどにも気づくことがありましょう。日本にとってもっとも古くからの隣人である中国を理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 授業時に辞書は必携です。	第 1 回～第 12 回：テキスト第 11 課～第 20 課 （内容） 第 11 課　写真をとる 第 12 課　天気について 第 13 課　長城を登る 第 14 課　故宮遊覧 第 15 課　天壇を遊ぶ 第 16 課　京劇を観る 第 17 課　ギョーザを作る 第 18 課　汽車に乗る 第 19 課　兵馬俑 第 20 課　美人の謎 各課に基本会話があり、語句の概説、機能別表現の例文がのっています。次いで関連した置換練習・トレーニング・ヒアリングがあります。 予習をして授業に臨み、臆せず口を開くことが肝要です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『場面別・機能別　実用中国語会話』郁文堂 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ⅱ a（講読・文法） 中国語ⅡCa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業の中で、「講読・文法」に重きを置きます。 1 年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらに新たな語彙や文型・文法事項の知識を積み重ねていきます。 1 年次のテキストでは一文単位のものや短い会話文が主でしたが、このテキストの題材はは現代中国に暮らす人々の生活やめまぐるしく移り変わり行く中国の社会状況および底に流れる変わらぬ部分などを取り上げています。内容的にもやや難しい、量的にも比較的長い文章です。文法事項を理解したうえで文章の内容を読解し、練習問題によって知識の定着を図ります。 「講読・文法」と表記してあっても音読の重要性は変わりません。したがって授業では音読を重視します。1 年次に学んだ発音ルールを再確認し、日本人学習者が間違いやすい発音のいろいろをくり返し練習することになります。 文章の読解・理解を通じて、日本にとってもっとも古くからの隣人である中国の今の姿の一端を知り理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 授業時に辞書は必携です。	第 1 回～第 2 回：テキスト第 1 課～第 6 課 （内容） 第 1 課　問候語（挨拶ことば） 第 2 課　飲食 第 3 課　自由市場 第 4 課　討価還価（値段の交渉） 第 5 課　請客（客を招待する） 第 6 課　餐卓礼儀（食卓のマナー） 各課にテキスト本文の理解を助けるためのポイントとして文法事項の提示と例文が付してあり、テキスト本文とポイント､そして練習問題という 3 部構成になっています。 授業に臨むには、各自であらかじめポイントを読んで例文の単語の意味調べをすること、テキスト本文を音読し新出単語の意味を調べ内容を理解しておく必要があります。練習問題は原則として各自の課題として解いておくことが必要です。授業次には正解を確認・補足することになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『中国って　どんな国？－生活風景点描－』白水社 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

05 年度以降 04 年度以前	中国語Ⅱb(講読・文法) 中国語ⅡCb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続いて､1 年次において学んだ語彙･文型･文法事項を復習・確認しながら、さらに新たな語彙や文型・文法事項の知識を積み重ねていきます。 語学において発音は基本ですから、授業では音読を重視します。1 年次に学んだ発音ルールを再確認し、日本人学習者が間違いやすい発音のいろいろをくり返し練習することになります。 文章の読解・理解を通じて、日本にとってもっとも古くからの隣人である中国の今の姿の一端を知り理解するきっかけとしてほしいと思います。 授業中に感じた疑問点は些細なことであっても担当教員に質問して明かにしてほしいと思います。教員サイドは質問を歓迎しています。 授業時には辞書は必携です。	第 1 回～第 2 回：テキスト第 7 課～第 12 課 （内容） 第 7 課　打工仔（出稼ぎ労働者） 第 8 課　感謝和道歉（感謝と陳謝） 第 9 課　子女的教育（子女の教育） 第 10 課　過年（新年を迎える） 第 11 課　父母和子女的交流（親子の交流） 第 12 課　中国的農民（中国の農民） 各課にテキスト本文の理解を助けるためのポイントとして文法事項の提示と例文が付してあり、テキスト本文とポイント､そして練習問題という 3 部構成になっています。 授業に臨むには、各自であらかじめポイントを読んで例文の単語の意味調べをすること、テキスト本文を音読し新出単語の意味を調べ内容を理解しておく必要があります。練習問題は原則として各自の課題として解いておくことが必要です。授業次には正解を確認・補足することになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　:『中国って　どんな国？－生活風景点描－』白水社 推薦辞書　:『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席状況、課題の実行度、授業に対する姿勢など）によって総合的に評価します。

	中国語Ⅲa(会話)	担当者	劉　岸麗

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業は、Ⅰ、Ⅱ、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つの話題をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。	第１回～第１２回：テキスト Unit１～Unit５ (内　容) 各 Unit の話題ごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：新版　『トーク・トピックス』白帝社	期末試験と平常点（小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

	中国語Ⅲb(会話)	担当者	劉　岸麗

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業は、Ⅰ、Ⅱ、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つの話題をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。	第１回～第１２回：テキスト Unit６～Unit10 (内　容) 各 Unit のテーマごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：新版　『トーク・トピックス』白帝社	期末試験と平常点（小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

	中国語Ⅲa(講読・文法)	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な豊かな基礎力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として、新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、その読解力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）を並行して行います。	１．第１課　読解 ２．第２課　読解 ３．第１課、第２課　練習 ４．第３課　読解 ５．第４課　読解 ６．第３課、第４課　練習 ７．第５課　読解 ８．第６課　読解 ９．第５課、第６課　練習 １０．第７課　読解 １１．第８課　読解 １２．第７課、第８課　練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:『中文新世紀』白帝社	期末試験と平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）によって評価します。

	中国語Ⅲb(講読・文法)	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な豊かな基礎力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として、新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、その読解力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）を並行して行います。	１．第９課　読解 ２．第１０課　読解 ３．第９課、第１０課　練習 ４．第１１課　読解 ５．第１２課　読解 ６．第１１課、第１２課　練習 ７．第１３課　読解 ８．第１４課　読解 ９．第１３課、第１４課　練習 １０．第１５課　読解 １１．第１６課　読解 １２．第１５課、第１６課　練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:『中文新世紀』白帝社	期末試験と平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）によって評価します。

	イタリア語Ｉａ	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。随時小テストを行い、習熟度の確認を行う。	1　ガイダンスと導入（イタリア語のアルファベット） 2　イタリア語の発音について 3　名詞と冠詞（1） 4　名詞と冠詞（2） 5　挨拶の表現、形容詞 6　イタリア語の be 動詞と have 動詞：essere と avere 7　規則動詞の現在形（1） 8　規則動詞の現在形（2） 9　前置詞（1） 10　前置詞（2） 11　不規則で重要な動詞（1） 12　不規則で重要な動詞（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	授業内に行う小テストおよび学期末試験の成績による。

	イタリア語Ｉｂ	担当者	園田　みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語Ｉａに引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。随時小テストを行い、習熟度の確認を行う。	1　前期に学習した内容の復習 2　様態動詞（～できる、～しなくてはならない、～したい） 3　所有形容詞（1） 4　所有形容詞（2） 5　再帰動詞（1） 6　再帰動詞（2） 7　比較級 8　最上級 9　近過去（1） 10　近過去（2） 11　近過去（3） 12　総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	授業内に行う小テストおよび学期末試験の成績による。

	イタリア語Ⅰa	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） Ⅰの段階ではとりわけ伊語に慣れ親しむことが重要です．この観点からして次のような練習が主軸になります. １）グループ毎による基本会話練習. ２）文字を見ずに聞き取りに徹する．ネイティヴの発話を繰り返す練習. ３）要となる文法事項習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習.	1）簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 2）簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 3）-are 型規則動詞の練習(1) 4）-are 型規則動詞の練習(2) 5）-ere, -ire 型規則動詞の練習(1) 6）-ere, -ire 型規則動詞の練習(2) 7）-ere, -ire 型規則動詞の練習(3) 8）不規則動詞 andare の練習 9）不規則動詞 avere の練習 10）不規則動詞 essere の練習(1) 11）不規則動詞 essere の練習(2) 12）不規則動詞 essere の練習(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
（教科書） 杉本裕之『基礎イタリア語講座』朝日出版社 2007 年	平常点、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

	イタリア語Ⅰb	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） Ⅰの段階ではとりわけ伊語に慣れ親しむことが重要です．この観点からして次のような練習が主軸になります. １）グループ毎による基本会話練習. ２）文字を見ずに聞き取りに徹する．ネイティヴの発話を繰り返す練習. ３）要となる文法事項習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習.	1）冠詞(1) 2）冠詞(2) 3）所有形容詞 4）不規則動詞 dovere, potere の練習 5）不規則動詞 volere, sapere の練習 6）人称代名詞対格形の練習 7）人称代名詞与格対格形の練習 8）頻出不規則動詞の練習 9）規則動詞 piacere の練習 10）近過去形の練習(1) 11）近過去形の練習(2) 12）近過去形の練習(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
（教科書） 杉本裕之『基礎イタリア語講座』朝日出版社 2007 年	平常点、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

	イタリア語Ⅱa	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります.	1）近過去形の練習(1) 2）近過去形の練習(2) 3）近過去形の練習(3) 4）近過去形の練習(4) 5）再帰動詞の練習(1) 6）再帰動詞の練習(2) 7）再帰動詞の練習(3) 8）再帰動詞の練習(4) 9）半過去形の練習(1) 10）半過去形の練習(2) 11）半過去形の練習(3) 12）半過去形の練習(4)
テキスト、参考文献	**評価方法**
（教科書） 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（ＣＤ付)』朝日出版社 2006 年	平常点、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

	イタリア語Ⅱb	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法の完成を目指します．また文学作品等の購読、映画鑑賞なども行う予定です.	1）未来形の練習(1) 2）未来形の練習(2) 3）条件法の練習(1) 4）条件法の練習(2) 5）命令形の練習(1) 6）命令形の練習(2) 7）接続法の練習(1) 8）接続法の練習(2) 9）購読(1) 10）購読(2) 11）購読(3) 12）映画鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
（教科書） 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（ＣＤ付)』朝日出版社 2006 年	平常点、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

	ポルトガル語Ⅰa	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語Ⅰbに続く形でポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、主として対話形式のテキストを用いながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、必要に応じて英語などと対照させながら説明することもあります。 授業で使用する音声教材は、講師が用意するサイトから各自ダウンロードが可能です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行うときや文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』(白水社) がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません)。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 文字と発音 2. 文字と発音、挨拶表現、不規則動詞 ser と属詞 3. 名詞の性、否定文、真偽疑問文 4. 主格人称代名詞と不規則動詞 ser の直説法現在形、名詞の数 5. 確認疑問文、待遇形式、定冠詞 6. 不規則動詞 ter の現在形、基数詞(1)、不定冠詞 7. -ar 規則動詞の現在形、指示詞と指示副詞 8. 不規則動詞 estar の現在形、ser と estar の意味の違い 9. 形容詞、位置関係を示す(句)前置詞、所有詞 10. 基数詞(2)、曜日・日付表現、存在を表す há 11. -er 規則動詞の現在形、現在進行形 12. 復習と補遺
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については上記を参照のこと。 他の参考書については授業中に適宜紹介します。	出席・授業態度・定期試験による総合評価です。

	ポルトガル語Ⅰb	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期のポルトガル語Ⅰa に引き続いてポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、主として対話形式のテキストを用いながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、必要に応じて英語などと対照させながら説明することもあります。 授業で使用する音声教材は、講師が用意するサイトから各自ダウンロードが可能です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行うときや文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』(白水社) がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません)。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. -er 不規則動詞の現在形、時刻表現、再帰代名詞と代名動詞 2. -ir 規則動詞の現在形、基数詞(3)、序数詞、目的格人称代名詞 3. 不規則動詞 ir, vir の現在形、近接未来形、優等比較級 4. 不規則動詞 dar, pôr の現在形、絶対最上級、不定語、命令形 5. 不規則な命令形、待遇形式の体系、法動詞 dever と ter que/de 6. 不規則動詞の直説法単純完了過去形(1)、劣等・同等比較級 7. -ar 規則動詞の単純完了過去形、相対最上級、単人称文 8. -er/-ir 規則動詞の単純完了過去形、tão/tanto を用いた程度表現 9. 不規則動詞の単純完了過去形(2)、電話表現 10. 不規則動詞の単純完了過去形(3)、感嘆文、不定主語文 11. 不規則動詞の単純完了過去形(4)、単純完了過去と未完了過去 12. 復習と補遺
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については上記を参照のこと。 他の参考書については授業中に適宜紹介します。	出席・授業態度・定期試験による総合評価です。

	ポルトガル語Ⅱa	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、前年度の「ポルトガル語Ⅰ」を受け、主として対話形式のテキストを用いながら基本的な文法項目と定型表現を確実に習得することを目指します。文法項目は、学習の便を考え、必要に応じて英語などと対照させながら説明することもあります。 授業で使用する音声教材は、講師が用意するサイトから各自ダウンロードが可能です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』(白水社) がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません)。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 劣等比較級と同等比較級、規則動詞の直説法単純過去形、不規則動詞の直説法単純完了過去形(1)、tão/tanto による程度表現 2. 不規則動詞の単純過去形(2)、感嘆文、不定主語文、haver de + 不定詞 3. 不規則動詞の直説法単純完了過去形(3)、過去の存在を表すhouve 4. 直説法未完了過去形(1)、acabar de + 不定詞、costumar + 不定詞 5. 直説法未完了過去形(2)、人称不定詞 6. 直説法複合大過去形、過去分詞規則形・不規則形、受動文 7. 再帰代名詞 se と再帰受動文、直説法複合完了過去形 8. 法動詞 dever と poder、連結動詞＋形容詞 9. 直説法未来形、不変化関係詞と変化関係詞 10. 条件法現在形、非人称不定詞、目的格人称代名詞の縮約形 11. 二重過去分詞、現在分詞、ir + 現在分詞 12. 復習と補遺
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については上記を参照のこと。 他の参考書については適宜紹介します。	出席・授業態度・定期試験による総合評価です。

	ポルトガル語Ⅱb	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は前期のポルトガル語Ⅱa を引き継ぐものです。文法項目については、ポルトガル語Ⅱa で習得できなかった接続法の諸時制とその用法を中心に学習します。 授業で使用する音声教材は、講師が用意するサイトから各自ダウンロードが可能です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』(白水社) がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません)。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 接続法現在形、ir の直説法単純完了過去形＋不定詞 2. 接続法未完了過去形、目的格人称代名詞の強調用法 3. 接続法未完了過去形と条件文、動詞 ser による強調構文 4. 接続法未来形、(句)接続詞と接続法未来形 5. 直接話法から間接話法へ、間接疑問文 6. 直説法単純大過去形、直説法未来・条件法現在と目的格人称代名詞の位置 7. 直説法複合大過去形、接続法大過去形、条件法過去形 8. 直説法前未来形、条件法過去形 9. 接続法前未来形と完了人称不定詞 10. 比例文、序数詞 11. ir の直説法未完了過去形＋現在分詞、完了現在分詞 12. 復習と補遺
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師が用意します。 辞書については上記を参照のこと。 他の参考書については適宜紹介します。	出席・授業態度・定期試験による総合評価です。

05 年度以降 04 年度以前	ロシア語Ⅰa(総合) ロシア語Ⅰ Aa	担当者	齋藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
独特の風土を持つ国ロシアは、芸術、学問、スポーツなど多くの分野ですぐれた文化を生みだしてきました。ロシア語を知ることにより、その豊饒な世界にアクセスすることが可能になります。また、近年では日本との経済交流も進み、ビジネスの世界ではロシア語ができる人材が求められるようになってきています。、 この授業はまったくの初心者を対象とし、アルファベット（キリル文字）の読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語文法の初歩をマスターすることを目指します 会話を中心とした「ロシア語ⅠBa」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。	全体で教科書の第 9 課まで進むことを目標とします。 主な学習事項は以下の通りです。 1-6 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、 基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 7 名詞の性、形容詞類の変化 8 動詞の現在変化（1） 9 場所の表現（1）（前置詞、名詞の格変化の導入） ロシアの歴史・文化・政治などについての基礎知識も、随時とりあげてゆきます。

テキスト、参考文献	評価方法
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席・授業態度などの平常点。

05 年度以降 04 年度以前	ロシア語Ⅰb(総合) ロシア語Ⅰ Ab	担当者	齋藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅰ Aa」の続編の授業です。「Aa」と同じ教科書をもちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。	全体で教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 10 場所の表現（2）（前置詞） 11 動詞の現在変化（2） 12 不規則動詞の現在変化 13 形容詞の変化 14 名詞の複数形 15 名詞の格変化（1）生格 16 名詞の格変化（2）対格 17 動詞の過去変化 18 運動の動詞、方向の表現

テキスト、参考文献	評価方法
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席・授業態度などの平常点。

05 年度以降 04 年度以前	ロシア語Ⅰa（会話） ロシア語ⅠBa	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
はじめてロシア語を学ぶ人を対象とします。 BRICs（ブリックス）の１つとして著しい経済成長を遂げ、政治的にも、再び世界における主要な位置を占めるようになったロシア。エネルギー産業、自動車産業、金融・経済、そして政治や文化・芸術のレベルで日本との交流も年々拡大しています。またロシア語は、６つある国連公用語の１つですし、使用人口はあらゆる言語の中で世界第５位です。実は、とても重要な言語と言えますね。 その上、ロシア語そのものが、美しいかたち（キリル文字）と音声を兼ね備え、文法の体系も整った、美の結晶のような言語です。この授業では、発音、イントネーションを正しく身につけ、ロシア語で挨拶や自己紹介をしたり、実際のモスクワのスーパーマーケットの広告を使って買い物のやりとりができるようにします。 また毎回、映像をとおして、ロシアの文化や日常に触れる時間ももちます。深くて美しいロシアの芸術（バレエ、音楽、映画、美術）の伝統、そしてテニスのシャラポワ、格闘技のヒョードル、フィギュアスケートのプルシェンコ、世界的歌姫のネトレプコ、カリスマ指揮者ゲルギエフ、アニメのパイロット・スタジオなどの活躍にうかがえる新たなロシアのエネルギーに触れてほしいと思います。	1　ガイダンス（ロシア語とロシアについて）。 2　文字と発音。あいさつ。アニメ『チェブラーシカ』を見る。 3　文字と発音。名前の尋ね方。お詫びとお礼。『チェブラーシカ』を見る。 4　「これは誰？」「これは何？」名詞の性。『チェブラーシカ』を見る。 5　国の名前と国民の呼称。形容詞と名詞の関係。『チェブラーシカ』を見る。ロシア国歌を聴く。 6　家族の紹介。ロシア人の名前のしくみ。名前の愛称形。数をかぞえよう。『チェブラーシカ』を見る。 7　「ーは、どう？」所有代名詞と名詞の関係。ロシア語で足し算と引き算。「バレエ学校の記録」を見る。 8　「何をしているの？」動詞の人称変化。「ロシア・バレエ」を見る。 9　「ーが好き」名詞の格について。対格。「ロシアの民族舞踊とロシア民謡」を楽しむ。 10　「ーしたい」「ーが欲しい」「ーをください」買い物をしてみよう。「モスクワの街や商店」を見る。 11　まとめと補足。映画『ナイト・ウォッチ』（一部）。 12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社、2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配付します。	学期末に試験（ディクテーションと文法筆記）を行いますが、もっとも重視するのは出席率と授業への取り組みです。

05 年度以降 04 年度以前	ロシア語Ⅰb（会話） ロシア語ⅠBb	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅰa」で習得したことを活かして、買い物をしたり、道をたずねたり、時間を訊いたり、ファーストフードやカフェ・レストランで注文をしたりと、ロシア語の日常的な会話表現を身につけていきます。 地下鉄宮殿の名で知られるモスクワの美しい地下鉄は、駅の一つ一つが個性的で芸術的。地下鉄巡りだけでも楽しめるほどです。交通手段も、路面電車、トロリーバスなど種類が多いので、交通手段を使い、地図を用いてモスクワ巡りをしてみましょう。もちろん、ロシア語を使って。私たちにはなじみのない、車内でのマナーにも触れます。 近年、ロシアでは健康志向とグルメ熱が高まっていて日本食が人気ですが、私たちはロシアの食材やロシア料理について情報を得ながら、前菜からデザート、飲み物までロシア語で注文できるようにします。 この授業で使用するテキストには CD が付いていますので、自宅で好きな時にロシア語の音声を繰り返し聴いて耳を慣らしたり復唱したりすることができます。自主的に CD を聴き、ロシア語の美しい音になじんでください。 Говорим по-русски! Желаю вам успехов в учёбе!	1　春学期の復習。辞書の紹介。アニメ『霧の中のハリネズミ』を見る。 2　「どこへー？」「どこでー？」方向と場所の区別。「シャラポワ・インタヴュー」を見る。 3　「いま、何時？」「何歳ですか？」数詞と名詞の関係。「ゲルギエフ・インタヴュー」を見る。 4　「どこへ行くの？」定動詞と不定動詞。「ガガーリン・宇宙飛行の記録」を見る。 5　「ーはありますか？」「ーを持ってる？」生格。アニメ『きつねとウサギ』を見る。 6　カフェで料理を注文する。メニューの見方。「ロシア料理、モスクワのレストラン」を見る。 7　カフェで料理を注文する。「ロシア料理、モスクワのレストラン」を見る。 8　カフェで料理を注文する。「ロシア料理、ボルシチの作り方」」を見る。 9　「ーへはどう行くの？」交通手段の表現。映画『イワン雷帝』（一部）を見る。 10　モスクワの地図を使って道案内。映画『戦艦ポチョムキン』（一部）を観る。 11　まとめと補足。　12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社、2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配布します。	学期末に試験（簡単な会話と文法筆記）を行いますが、もっとも重視するのは出席率と授業への取り組みです。

05 年度以降 04 年度以前	ロシア語Ⅱa(総合) ロシア語ⅡAa	担当者	齋藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度の「ロシア語Ⅰ A」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期のうちにこの教科書を終え、ロシア語文法の基礎をマスターすることを目標にします。ここまでくると、簡単な会話や、文章の読解を行なうことが出来るようになり、学ぶ楽しみもぐんと増すことと思います。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ B」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 大学を卒業してしまうと、ロシア語を学ぶ機会も少なくなります。迷っている人は、とにかく最初の授業に足を運んでみてください。ロシア語検定 4 級の合格を目指して頑張りましょう。	教科書の第 16 課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法の要めである「名詞の格変化」が中心になります。さらに、アルファベットの筆記体、および辞書の引き方を練習します。 その他、ロシアの映画を何本か見る予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席・授業態度などの平常点。

05 年度以降 04 年度以前	ロシア語Ⅱb(総合) ロシア語ⅡAb	担当者	齋藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱ　Aa」の続編の授業です。春学期に終えられなかった文法事項を習得したあと、プリント教材をもちいて、簡単な文章読解の練習を行なってゆきます。最終的に、辞書を引きながら、自力でロシア語の文章を読めるだけの力をつけることを目標にします。	春学期に教科書を終えられなかった場合は、その続きをやり、その後、プリント教材をもちいて、読解の練習を行ないます。これまで学んだ文法事項の復習や、基本単語の習得にも力を入れます。 さらに、受講者の皆さんの関心に応じて、ロシアの文化についても話してゆきたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席・授業態度などの平常点。

05 年度以降 04 年度以前	ロシア語Ⅱa（会話） ロシア語ⅡBa	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅰ」の既修者、あるいはロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも履修できます。 この授業は、すでに学習したロシア語を活かして、買い物をしたり、趣味を尋ねたり、簡単なメールやお祝いカードを書いたりできるようにします。 教科書は第 11 課から始め、「読む・話す・書く」の総合的な力をバランスよく身につけるのがこの授業の目的です。できれば、毎年 10 月に行われるロシア語能力検定試験(50 年の歴史をもつ公開制試験)にも挑戦してほしい。昨年度も、この授業を受けた先輩たちが検定に挑戦し、3 級と 4 級にみごと合格しました。要望があれば、検定試験対策として毎回 15 分程度、過去問を解く時間をもちます。せっかく学ぶロシア語。口語表現や文法事項を一つ一つ着実に積み重ねながら、結実させたいですね。 また、ロシアの美しい芸術や最近のロシア事情に触れるため、毎回、映像を見る時間ももちます。コミュニケーションの手段としてばかりでなく、その背景にある文化や自然や慣習、思想に支えられたロシア語に親しみ、ロシアに興味を持ってほしいと思います。	1　ガイダンス（授業について。みなさんの要望も訊く） 2　ロシア語会話の復習。「ーはありますか？」「ーを持ってる？」「ーが痛い」生格。アニメ『隣人たち』 3　１週間のスケジュールをたてよう。未来形。「スポーツの表現」「ヤグディン・インタビュー」 4　「ーはどこ？」場所と方向。映画『こねこ』(一部) 5　「誰に手紙を書くの？」「誰と住んでるの？」「誕生日おめでとう！」与格と造格。映画『こねこ』(一部) 6　「ーおめでとう！」「ーをお祈りします」祝辞を述べる。映画『運命の皮肉』(一部) 7　お祝いカードを書く。／検定試験対策。映画『運命の皮肉』(一部) 8　お祝いカードを書く。形容詞＋名詞の格変化。／検定試験対策。映画『アンナ・カレーニナ』(一部) 9　クロスワードパズルを解こう。形容詞＋名詞の格変化。／検定試験対策。映画『テルミン』(一部) 10　「何月生まれなの？」形容詞＋名詞の格変化。／検定試験対策。映画『テルミン』(一部) 11　「暑い」「楽しい」「ーすべきだ」「ーしてはだめ」無人称文／検定試験対策。映画『両棲人間』(一部) 12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』(改訂版) 白水社、2005 年 (CD 付き) [ロシア語ＩB (2006 年度) と同じ教科書]。プリントを適宜配付します。	学期末にレポートを提出してもらいますが、もっとも重視するのは出席率と授業への取り組みです。

05 年度以降 04 年度以前	ロシア語Ⅱb（会話） ロシア語ⅡBb	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱa」の続きとなります。好きな音楽、好きな本、趣味、スポーツ、家族のことを伝える表現、そして演劇や映画、コンサートのチケットを購入する時の表現を身につけ、会話の幅を拡げていきましょう。電話番号を伝えたり聴きとったりする練習もします。 また、ロシアの祝日（ロシア正教や農耕儀礼に基づく祭日やソ連時代からの祝日など）について情報を得、お祝いの決まり文句を身につけましょう。欧米とも日本とも異なる、ロシアの独特なクリスマスや新年、イースターの祝い方について紹介します。 教科書を最後まで終えたら、ロシア語でロシアに関するクイズを解きます。さまざまなかたちの疑問文とこれに対する応え方を習得したり、ばらばらに並べられた電話での会話文をコンテクストを考えながら組み立て直したりします。口語的表現はもちろんのこと、ロシアに関する情報や雑学を知ることができ、楽しいと思います。 映画やインタヴューなど、映像・音声資料も楽しみますが、聴きとれる表現が徐々に増えて、さらに面白くなるといいですね。	1　前置詞のまとめ。動詞の接頭辞／検定試験対策。 2　「ーするのが好き」「ーにはまってる」趣味の言い方。完了体と不完了体。ドキュメンタリー「幻の肋骨レコード」を見る。 3　自分の趣味を語る。完了体と不完了体。「幻の肋骨レコード」 4　自分の趣味を語る。関係代名詞「幻の肋骨レコード」 5　電話番号を伝える。観劇のチケットを買う。関係代名詞「幻の肋骨レコード」 6　観劇のチケットを買う。関係代名詞「ロシアの劇場」 7　「何月何日生まれなの？」。順序数詞。「ピアニスト、リフシッツ・インタヴュー」 8　ロシアの祝日について。順序数詞。映画『シベリアの理髪師』(一部) 9　ロシアの祝日について。順序数詞。映画『モスクワは涙を信じない』(一部) 10　ロシア語でロシアに関するクイズ（４択)。会話文を組み立てる。映画『惑星ソラリス』(一部) 11　ロシア語でロシアに関するクイズ（４択)。会話文を組み立てる。映画『エルミタージュ幻想』(一部) 12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』(改訂版) 白水社、2005 年 (CD 付き) [ロシア語ＩB (2006 年度) と同じ教科書です]。プリントを適宜配付します。	学期末にレポートを提出してもらいますが、もっとも重視するのは出席率と授業への取り組みです。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅰa(総合) 朝鮮語ⅠAa	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎を、文字の読み書きを中心に習得し、基礎的な表現力を高める。授業中に、音読、暗誦、会話などの練習を行う。 前期の授業目標は、韓国語で簡単な自己紹介ができるようにすること。また、韓国・朝鮮の歴史や文化、最近の映画などについても紹介する。初級の人にもわかり安く説明する。	●授業の進め方 ４月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 ５月：ハングルの習得と文法の基礎 ６月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 ７月：前期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語レッスン初級Ⅰ』スリーエーネットワーク他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅰb(総合) 朝鮮語ⅠAb	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、韓国語の基礎を勉強しながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。 韓国・朝鮮の歴史や日常文化、最近の映画などを紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。	●授業の進め方 ９月：ハングルの習得と文法の基礎、前期の復習 １０月：文法の基礎と日常会話の練習 １１月：総合的な表現力を高める １２月：後期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語レッスン初級Ⅰ』スリーエーネットワーク他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅰa(総合) 朝鮮語ⅠAa	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では、読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	1 回　本講義に対する紹介、概要説明 ２～５回　韓国語の文字・文章の理解と解読 ６～11 回　次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「自己紹介」 「あいさつ」 「学校生活①」 「学校生活②」 「家族①」 「家族②」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅰb（総合） 朝鮮語ⅠAb	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では、読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	１～11 回　次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「友人①」 「友人②」 「買い物①」 「買い物②」 「趣味①」 「趣味②」 「海外旅行①」 「海外旅行②」 「伝統文化」 「衣食住①」 「衣食住②」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅰa(講読・会話) 朝鮮語ⅠBa	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎を、文字の読み書きを中心に習得し、基礎的な表現力を高める。授業中に、音読、暗誦、会話などの練習を行う。 前期の授業目標は、韓国語で簡単な自己紹介ができるようにすること。そのためには多くの慣用表現を習得する必要がある。	●授業の進め方 ４月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 ５月：ハングルの習得と文法の基礎 ６月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 ７月：前期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語レッスン初級Ⅰ』スリーエーネットワーク他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅰb(講読・会話) 朝鮮語ⅠBb	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、韓国語の基礎を勉強しながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。 韓国・朝鮮の歴史や日常文化、最近の映画などを紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。講読・会話に重点をおく。	●授業の進め方 ９月：ハングルの習得と文法の基礎、前期の復習 １０月：文法の基礎と日常会話の練習 １１月：講読の練習 １２月：後期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語レッスン初級Ⅰ』スリーエーネットワーク他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅰa(講読・会話) 朝鮮語ⅠBa	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では日常生活に必要な実用会話の習得を目的とする。韓国語は日本語と語順や構文が非常に似ているので、きわめて学びやすい言語である。特に日常用語での表現や比喩も共通する点が多い。講義では日本語と韓国語の共通点・類似点を対比・活用し、「すぐ使える」韓国語を目指して学習を進める。 講義内容：　本授業では、はじめて韓国語を学ぶ人を対象に、韓国語の文字であるハングルの読み方、書き方、発音規則について詳しく解説する。また、自己紹介、ショッピング、週末、天気などの基本会話を中心に学習を進める。	1回　ガイダンス：韓国語の概観 2～5回　韓国語の文字と発音の解説 「基本母音と基本子音」 「複合母音と終声」 6～11回　韓国語の基本会話の学習 「自己紹介」 「韓国文化－首都ソウル」 「これは何ですか」 「大学生ではありません」 12回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
長谷川由起子　著 『コミュニケーション韓国語－会話編1－』白帝社	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅰb(講読・会話) 朝鮮語ⅠBb	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では日常生活に必要な実用会話の習得を目的とする。韓国語は日本語と語順や構文が非常に似ているので、きわめて学びやすい言語である。特に日常用語での表現や比喩も共通する点が多い。講義では日本語と韓国語の共通点・類似点を対比・活用し、「すぐ使える」韓国語を目指して学習を進める。 講義内容：　本授業では、はじめて韓国語を学ぶ人を対象に、韓国語の文字であるハングルの読み方、書き方、発音規則について詳しく解説する。また、自己紹介、ショッピング、週末、天気などの基本会話を中心に学習を進める。	1回　ガイダンス：本講義の概要説明 2～11回　韓国語の基本会話の学習 「あれ一つとこれ二つください」 「韓国文化－韓国の食文化」 「誕生日はいつですか」 「韓国語の授業があります」 「週末は何をしますか」 「何が一番好きですか」 「韓国に行ってきました」 12回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
長谷川由起子　著 『コミュニケーション韓国語－会話編1－』白帝社	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅱa(総合) 朝鮮語ⅡAa	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では実用会話能力を高めるために、日常生活において考えられる様々な場面を設定し、反復練習を行い、多様かつ実用的な表現の習得を目標とする。その際、基本文型を中心とするテキストを用いる一方で、韓国の映画やドラマなどを取り上げ、聴く練習および話す練習を重点的に行う。 講義内容：　本授業では日常生活において意思疎通が可能な水準の会話力習得を目指して、約束時間、招待、家族、職業、趣味などの場面を取り上げ、韓国語の学習を進める。	1 回　　ガイダンス：授業の概要紹介 2～11 回　多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着を目指す。 「一個いくらですか」 「私の部屋は二階にあります」 「昨日は何をしましたか」 「約束時間に遅れそうです」 「韓国文化－韓国国宝の旅」 「地下鉄に乗りましょう」 12 回　　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森勇俊（プリント）	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅱb(総合) 朝鮮語ⅡAb	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では実用会話能力を高めるために、日常生活において考えられる様々な場面を設定し、反復練習を行い、多様かつ実用的な表現の習得を目標とする。その際、基本文型を中心とするテキストを用いる一方で、韓国の映画やドラマなどを取り上げ、聴く練習および話す練習を重点的に行う。 講義内容：　本授業では日常生活において意思疎通が可能な水準の会話力習得を目指して、約束時間、招待、家族、職業、趣味などの場面を取り上げ、韓国語の学習を進める。	1 回　　ガイダンス：授業の概要紹介 2～11 回　多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着を目指す。 「最近忙しいですか」 「何時に行きましょうか」 「私の家族は 5 人です」 「弟は何歳ですか」 「趣味は何ですか」 「東大門市場に行きましょう」 12 回　　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森勇俊（プリント）	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅱa(講読・会話) 朝鮮語ⅡBa	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	1 回　本講義に対する紹介、概要説明 2～11 回　次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。 「入国審査」 「外国人登録」 「両替」 「国際電話」 「地下鉄」 「ホテル」 「観光」 「名刺交換」 「伝統的行事」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

05 年度以降 04 年度以前	朝鮮語Ⅱb(講読・会話) 朝鮮語ⅡBb	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	1～11 回　以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。 「出身地」 「伝言」 「ビザの延長」 「健康管理」 「演劇」 「予約」 「病状」 「余暇」 「韓国料理」 「忘れ物」 「観光地」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

	タイ語Ⅰa	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
入門レベルの標準タイ語会話を発音記号で学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 さらに、ディクテーションによって発音記号による表記の能力を高め、作文練習によって表現能力をつける。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 文字は基礎タイ語Ⅱ（タイ語Ⅱa）で学ぶ。時間に余裕のある人は両方履修してもよい。	1　導入：現代タイの状況、タイ語を学ぶ意義について 1　発音練習（声調・数字・子音・母音） 2　会話1（挨拶、所在に関する表現）、タイ語を聞いて発音記号で表記する 3　会話2（ものの性質などに関する表現）、タイ語を聞いて発音記号で表記する 4　会話3（家族に関する表現）、タイ語を聞いて書く 5　会話4（所有、存在に関する表現）、タイ語を聞いて書く 6　会話5（職業、国名に関する表現）タイ語を聞いて書く 7　会話6（可能、不可能に関する表現）、タイ語を聞いて書く 8　会話7（名前、所在、手段などに関する表現） 9　会話6（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く １０　会話7（類別詞の用法１）、タイ語を聞いて書く １１タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞） １２タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	定期試験の成績および出席状況

	タイ語Ⅰb	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ⅰa に引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。	1　会話1（類別詞の用法２）、タイ語を聞いて書く 2　会話2（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く 3　会話3（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く 4　会話4（年・月などの表し方）、タイ語を聞いて書く 5　会話5（レストランでの注文）、タイ語を聞いて書く 6　会話6（自己紹介など）、タイ語を聞いて書く 7　会話7（類別詞の用法3）、タイ語を聞いて書く 8　会話8（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く 9　会話9（電話をかける）、タイ語を聞いて書く １０ 会話10（受身の表現）、タイ語を聞いて書く １１ タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）－ １２ タイ事情(映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説)
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	定期試験の成績および出席状況

	タイ語Ⅱa	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要

1、文字の表記と発音 を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができることである。そのためには文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。

具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。

授業計画

1　導入；今タイ語を学ぶ意義は？
2　タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音
3　文字の読み書き１（中子音・高子音）
4　文字の読み書き２（低子音と長母音）
5　文字の読み書き３（真正二重子音・平音節・促音節）
6　文字の読み書き４（声調符号、短母音）
7　文字の読み書き５（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音）
8　文字の読み書き６（一字再読字）
9　文字の読み書き７（タイ数字、年月日に関する表記、例外）、
10　タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定）
11　タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定）
12　講読１　（読み方、文章のつながり方など）

テキスト、参考文献

「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント

評価方法

定期試験の成績および出席状況

	タイ語Ⅱb	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要

Ⅱa で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。

なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。

授業計画

１、　講読１　（読み方、文章のつながり方など）
２、　講読２　（平易な物語など）
３、　文法１　（指示詞の用法）
４、　文法２　（一般動詞の用法）
５、　文法３　（形容詞の用法）
６、　講読３　（平易な物語など）
７、　文法４　（類別詞の用法・比較）
８、　講読４　（タイの文化・祭り）
９、　講読５　（首都バンコクについて）
１０、文法６　（出家式）
１１、タイ事情（現代映画の鑑賞）
１２、タイ事情（現代映画の鑑賞）

テキスト、参考文献

「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント

評価方法

定期試験の成績および出席状況

	アラビア語 Ia	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は、総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連の公用語の一つに指定されています。またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、10 億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界で最も誤解された宗教」と言われていますが、アラブ世界もまた、世界で最も誤解された文化圏の一つだといえるでしょう。 本講義では、アラビア語を通じて、その背後にある豊かな文化に親しんでもらうことを目指しています。 文法に片寄らず、「まずは言いたいことをアラビア語で言う」ことを目標に会話にも重点を置きつつ、様々なメディアを通じて、自然にアラビア語を呼吸してもらいたいと考えています。	1． Introduction 2． （会話）挨拶をする 3． （会話）自己紹介をする 4． （文法）アラビア文字に挑戦　1 5． （文法）アラビア文字に挑戦　2 6． （文法）アラビア文字に挑戦　3 7． （文法）アラビア文字に挑戦　4 8． （会話）アラブ人と友達になろう 9． （文法）アラビア語を読む！　1 １０． （文法）自分の名前を書く　1 １１． （文法）自分の名前を書く　2 １２． 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『アラビア語の入門（改訂版）（本田孝一著、白水社』 参考文献『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー）（白水社）	簡単な会話・筆記試験を行います。

	アラビア語 Ib	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深め、会話を楽しむ感覚でつかんでもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、楽しみながら文法や会話を学び、音楽やビデオを通じて自然にアラビア語を吸収してもらいたいと考えています。	1． （会話）「これは何ですか？」 2． （会話）「私は日本人です。」 3． （文法）アラビア語を読む　2 4． （文法）「これは日本のお茶です」 5． （文法）「このお茶は日本のものです」 6． （文法）アラビア語を読む！　3 7． （会話）「駅はどこですか？」 8． （文法）動詞は過去形から　1 9． （文法）動詞は過去形から　2 １０． 復習 １１． 期末テスト １２． アラビア語の映画鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『アラビア語の入門（改訂版）（本田孝一著、白水社』 参考文献『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー）（白水社）	簡単な会話・筆記試験を行います。

	アラビア語Ⅱa	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前年度に基礎アラビア語Ⅰを受講し、よりアラビア語の知識を深めることを希望する人を対象にしています。 テキストから会話や文法を学ぶと同時に、音楽やインターネット探検、詩、言葉遊びなど、文化の様々な側面を通じた変化に富んだ学習内容になるでしょう。	１．　復習 ２．　復習 ３．　(会話)「私は～を持っています」　１ ４．　(文法)「私は～を持っています」　２ ５．　(文法)「僕は彼女を知った」はひとことで ６．　(文法) 未完了形動詞 ７．　(文法) 名詞は動詞から派生する ８．　(文法) 語根って何？辞書を引く！　１ ９．　(文法) 辞書を引く！ １０．　(会話) アラビア語で買い物を　１ １１．　(会話) アラビア語で買い物を　２ １２．　復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『アラビア語の入門（改訂版）(本田孝一著、白水社』 参考文献『アラビア語のかたち』(師岡カリーマ・エルサムニー)（白水社）	簡単な会話・筆記試験を行います。

	アラビア語Ⅱb	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、様々なメディアを通じて、アラビア語を楽しく勉強したいと考えています。 一言に「アラブ」と言っても、それぞれの国の「お国柄」があり、ヴァラエティ豊かな文化を構成しています。この講義では、語学力を伸ばすだけでなく、そのようなアラブ世界の素顔に触れること、また受講生一人一人が、それぞれの興味の対象を自ら追求する手助けをすることも目標としています。	１．　(文法)「日本の首都」ってどういうの？ ２．　(文法) 双数と複数　１ ３．　(文法) 双数と複数　２ ４．　(文法) 数の表し方　１ ５．　(文法) 数の表し方　２ ６．　(応用) 絵本を読んでみよう ７．　(応用) 手紙を書いてみよう ８．　(応用) 電話で話そう ９．　(応用) クルアーンを読んでみよう １０．　復習 １１．　期末テスト １２．　アラビア語の映画鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト『アラビア語の入門（改訂版）(本田孝一著、白水社』 参考文献『アラビア語のかたち』(師岡カリーマ・エルサムニー)（白水社）	簡単な会話・筆記試験を行います。

	古典ギリシア語Ｉａ	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 春・秋一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきたいと思います。 ＜講義概要＞ 授業は毎回各単元１～２つずつ学習するペースで進みますが、途中１０分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの情勢を映像などを交えて紹介しながら、アト・ホームな雰囲気で行いたいと考えています。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。希少で貴重な古典ギリシア語を知的遺産として自分のものにしてみませんか。	１　字母・発音・音韻などの分類 （この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける） ２　音節・アクセント・句読点 （この時点で、古典ギリシア語の単語が読める） ３　動詞の変化・直説法能動相現在 （この時点で、単文が理解できる） ４　名詞の第一変化 （この時点で、名詞の規則変化が理解できる） ５　動詞の変化・直説法能動相未来 （この時点で、未来形の文章が読める） ６　同士の変化・直説法能動相未完了過去 （この時点で、動詞の三時制がマスターできる） ７　名詞の第二変化 （この時点で、スペルがすらすら書けるようになる） ８　形容詞の変化（第一・第二変化） （この時点で、語順が不要であることがわかる） ９　前置詞（この時点で、ヨーロッパ近代諸語の前置詞との対比によって、その類似性が理解できる） １０　動詞の変化・直説法能動相アオリスト １１　動詞の変化・現在完了と過去完了 １２　指示代名詞と強意代名詞（新約聖書が読める） ＊（　）内は到達度チェックの際の目安です。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』（岩波全書、１６４８円） ＜参考文献＞なし。時々、プリントを配布します。	出席による練習問題の解答を繰り返して行ない、テストや試験はしません（つまり、平常点評価）。

	古典ギリシア語Ｉｂ	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１　ε ι μ ι 動詞とφ η μ ι 動詞 （この時点で、動詞の人称変化の基本形が理解できる） ２　疑問代名詞と不定代名詞（この時点で、アクセントの有無で意味が変わることが理解できる） ３　動詞の変化・直説法中動相の各時制（１） （この時点で、中動相独特の用法が理解できる） ４　動詞の変化・中動相の各時制（２） （この時点で、微妙な文章表現が理解できる） ５　人称代名詞（この時点で、人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる） ６　再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞（この時点で、文章上のつながりが理解しやすくなる） ７　第二アオリストの用法（この時点で、動詞のいわゆる不規則変化が理解できる） ８　動詞の変化・直説法受動相 （この時点で、受身の文章表現が理解できる） ９　名詞の第三変化（１）（この時点で、名詞の不規則変化の「変化の規則性」が理解できる） １０　名詞の第三変化（２） １１　能相欠如動詞と約音動詞（ここまでくると、辞書を片手にスムースに文章が理解できるようになる） １２　まとめ（古典ギリシア語習得の意義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

	ラテン語 Ia	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語とは今から 2,000 年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行います。	I. 文字と発音、アクセント II. 規則動詞の現在形 III. 第一・第二変化名詞 IV. 第一・第二変化形容詞 V. 第一・第二変化名詞および形容詞 ---その 2 --- VI. 未完了過去形 VII. 未来形 VIII. 不定詞 IX. 第三変化名詞および形容詞 X. 第三変化名詞および形容詞 ---その 2 --- XI. 過去完了形および未来完了形 XII. 規則動詞の受動態
テキスト、参考文献	**評価方法**
『ラテン語初歩』改訂版　田中利光著　岩波書店	毎回、添削を 20 点満点で評価し、平均して 6 割（12 点）を合格の最低ラインとします。

	ラテン語 Ib	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
上記のとおりです。	I. 受動態の未完了過去形および未来形 II. 動詞の過去形 III. 過去形の受動態 IV. 過去完了形および未来完了形の受動態 V. 第四および第五変化名詞 VI. デポネンティア VII. 代名詞 VIII. 疑問代名詞および不定代名詞 IX. 非人称動詞および分詞 X. 比較級 XI. 動名詞 XII. 動形容詞
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記の通りです。	上記の通りです。

	ラテン語Ⅱa	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そこで、せっかく「完走」しても、「あれをまたやるのは…」と、続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。文法を学んだだけで終わらせてしまうのは、辛いところしか知らずにやめてしまうのに等しいといえるでしょう。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。	左記のような方針なので、輪読の形式をとることになります。いわゆる古典期と呼ばれる時代の作品を考えていますが、最初の授業で決めたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
原典はプリントを配布します。また、辞書は『羅和辞典』（田中秀央著、研究者）を用意して下さい。また、ラテン語Ⅰで使った教科書を参考書とします。	平常点で評価します。毎回の予習と、授業への意欲的な参加を望みます。

	ラテン語Ⅱb	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
上記のとおりです。	上記の通りです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記の通りです。	上記の通りです。

シラバス 全学共通授業科目

2007年４月１日発行

獨協大学教務部

〒340－0042 埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048－946－1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	